

# 既存橋梁の修景実態調査

#### § 4. 既存橋梁の修景実態調査票

既存橋梁の修景は、どのような背景で、どのような手段で行われているであろうか？

Cグループは、既存橋梁の修景について、橋梁設計実務者が日頃疑問を感じている問題点について「既存橋梁の修景実態調査票」を作成し、それを基に調査・分析・討議という形で研究活動を行ってきた。

本調査票は、現場調査を主体に約50橋を収集したもので、今後橋の修景にたずさわる者にとって、参考資料となれば幸いである。

既存橋梁の修景実態調査票

鋼橋技術研究会：鋼橋の景観設計研究部会

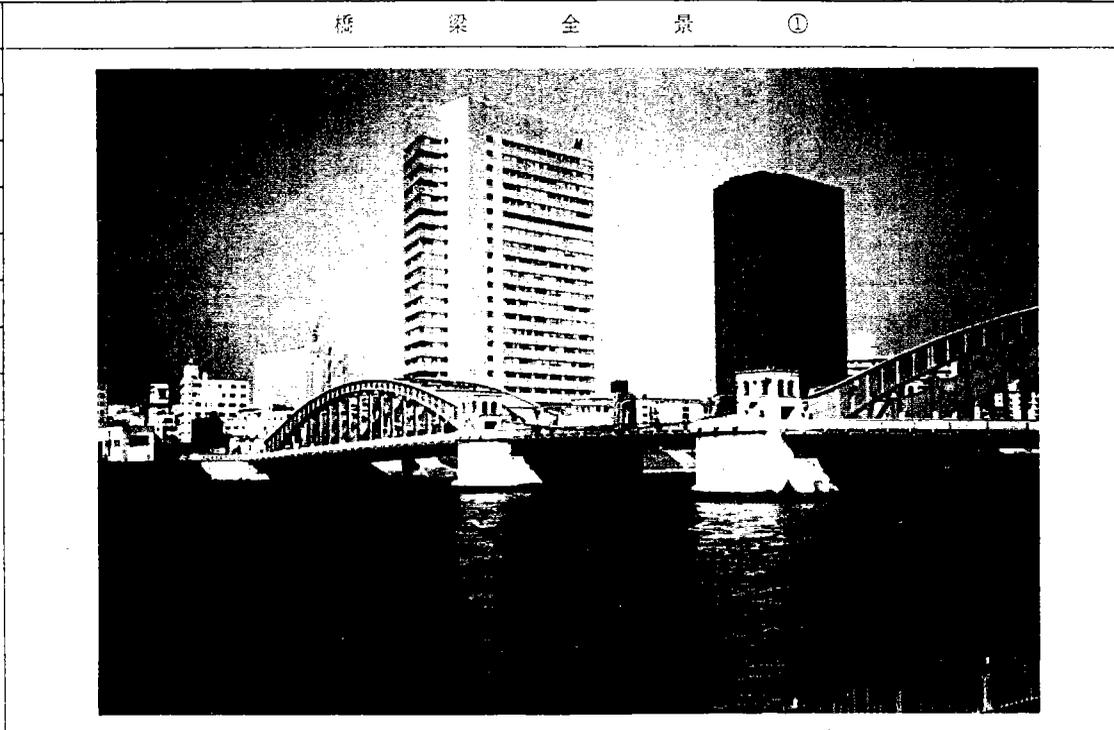
ワーキング C グループ

第1章 文化財的橋梁	( 1)	27 桜宮橋	( 83)
1 勝鬨橋	( 2)	28 十三橋	( 86)
2 永代橋	( 5)	第2章 都市内高架橋	( 89)
3 清洲橋	( 10)	29 首都高速1号上野線上野駅前高架橋	( 90)
4 両国橋	( 13)	30 首都高速1号羽田線浜松町高架橋	( 94)
5 蔵前橋	( 16)	31 首都高速2号目黒線天現寺ランプ	( 97)
6 厩橋	( 19)	32 首都高速2号目黒線一の橋交差点	(100)
7 駒形橋	( 22)	33 首都高速3号渋谷線六本木6丁目交差点	(103)
8 吾妻橋	( 25)	34 首都高速3号渋谷線六本木交差点	(106)
9 言問橋	( 28)	35 首都高速3号渋谷線渋谷駅前高架橋	(109)
10 白髭橋	( 31)	36 首都高速環状線日本橋高架橋	(112)
11 千住大橋	( 34)	37 首都高速4号新宿線初台高架橋	(116)
12 豊海橋	( 37)	38 首都高速5号池袋線板橋本町高架橋	(119)
13 千登世橋	( 40)	39 首都高速6号向島線吾妻橋付近高架橋	(122)
14 南高橋	( 44)	40 首都高速9号深川線辰巳高架橋	(125)
15 田端ふれあい橋 (旧田端大橋)	( 47)	41 首都高速神奈川1号横羽線金港IC	(128)
16 御茶の水橋	( 50)	42 首都高速神奈川2号三ツ沢線横浜駅前	(131)
17 八幡橋 (旧弾正橋)	( 53)	43 兵庫県道高速神戸西宮線(その1)	(134)
18 打越橋	( 56)	44 兵庫県道高速神戸西宮線(その2)	(136)
19 鶴川橋	( 59)	第3章 一般橋梁他	(138)
20 十綱橋	( 62)	45 第三京浜国道多摩川橋	(139)
21 松齡橋	( 65)	46 川崎駅前東西連絡歩道橋	(142)
22 本町橋	( 68)		
23 天満橋	( 71)		
24 天神橋	( 74)		
25 難波橋	( 77)		
26 水晶橋 (堂島川可動堰)	( 80)		

# 第 1 章 文 化 財 的 橋 梁

# 文化財的橋梁調査票

整理番号	- 1	
橋名	勝鬨橋	
所在地	東京都中央区築地6丁目～中央区勝鬨1丁目	
河川名	隅田川	
橋梁形式	双葉跳開式鋼板桁（主径間）＋鋼タイドアーチ（側径間）	
橋長（最大支間長）	246.000m（86.000m）	
竣工年	昭和15年	
管理者	東京都（連絡先）	
文化財橋梁とする理由	改良の履歴	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「隅田川著名橋の整備事業」に取り上げられた橋梁である。</li> <li>・特徴としては中央径間が双葉式跳開橋であることと、戦前の日本でつくられた最後の本格的な橋梁であることが挙げられる。</li> </ul>	年月	改良の内容
		<ul style="list-style-type: none"> <li>勝鬨橋整備工事</li> <li>・塗装（銀系）</li> <li>・歩道部の舗装に自然石を使用（白系と赤系）</li> <li>・石製高欄</li> <li>・橋灯</li> <li>・橋台数</li> <li>・リフト</li> </ul>
	整備の考え方	保全型と思われる。
周辺状況	<p>橋梁下を遊覧船が通る。</p> <p>親水護岸となっている。</p> <p>オフィス街</p>	



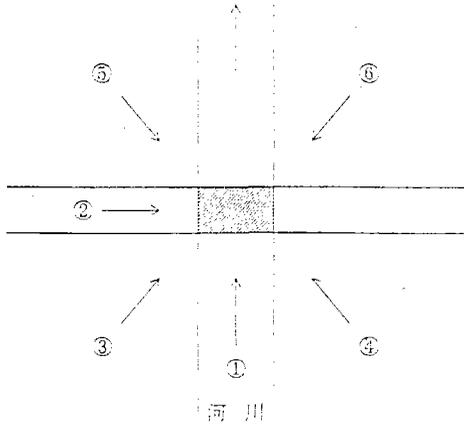
位 置 図	現 在 の 用 途
	<p>道路橋（晴海通り）</p>
	参 考 文 献
	<p>「日本の橋～鉄の橋百年のあゆみ～」                  (社)日本橋梁建設協会編 朝倉書店                  (昭和59年6月)</p> <p>「特集・橋梁技術者が語る我が郷土の橋」                  橋梁と基礎 建設図書 (昭和62年8月)</p>

# 文化財的橋梁調査票

整理番号 - 2

橋梁全景写真

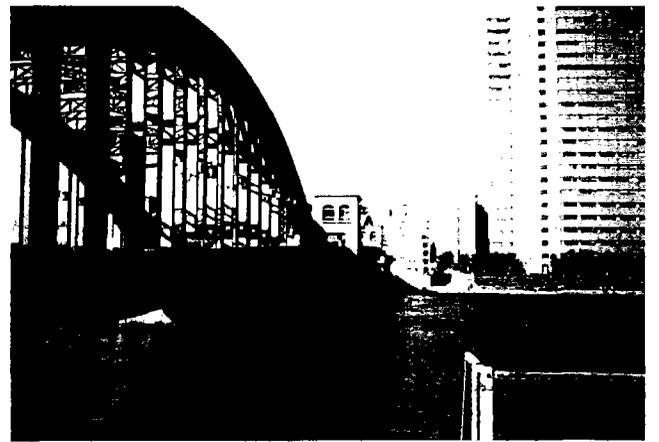
凡例



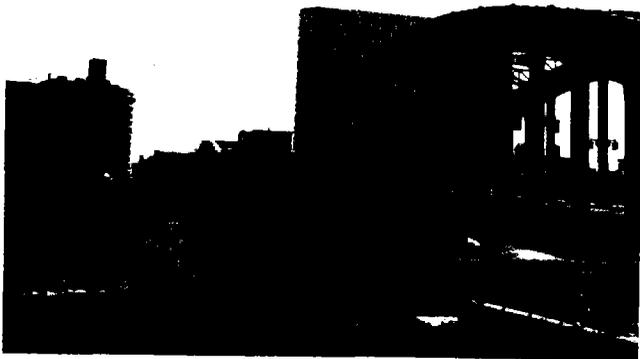
②



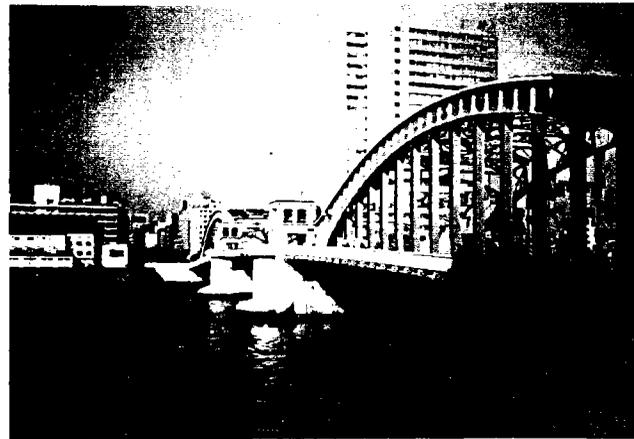
③



④



⑤



⑥

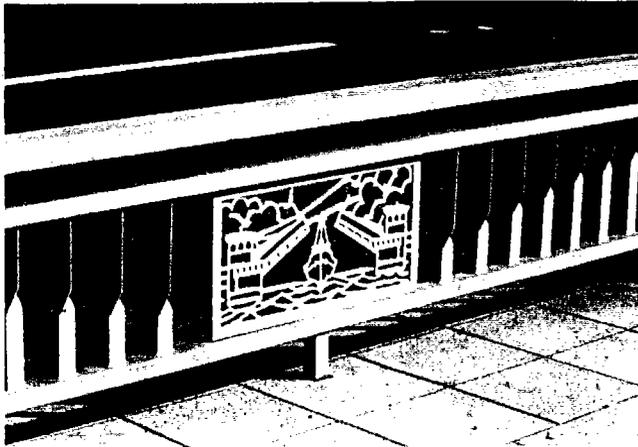


# 文化財的橋梁調査票

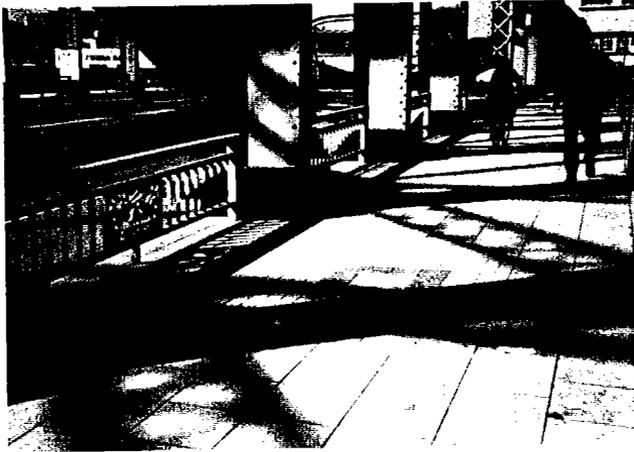
ページ	4
調査者	田谷 光

整理番号 - 3

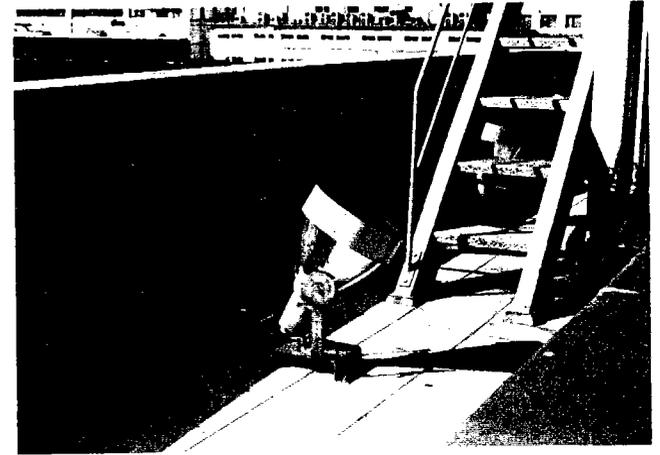
ディテール



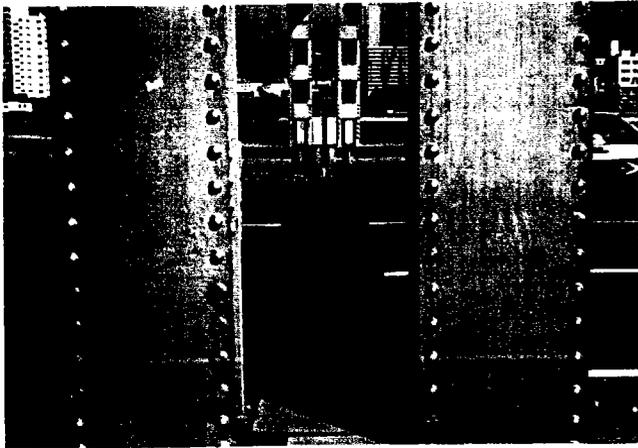
歩車道分離柵



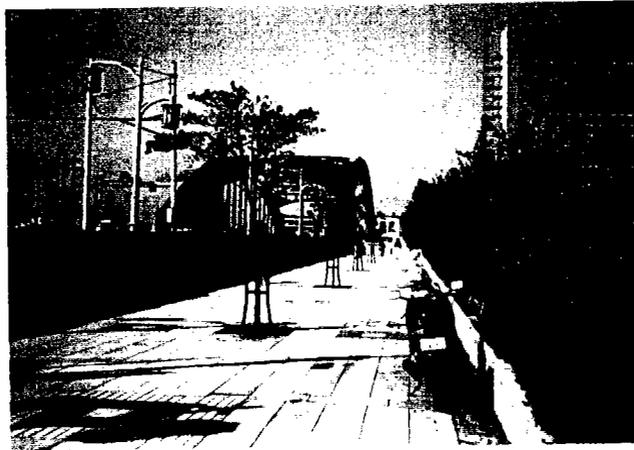
橋面舗装



ライトアップ用照明



中央径間の伸縮装置（跳開橋）



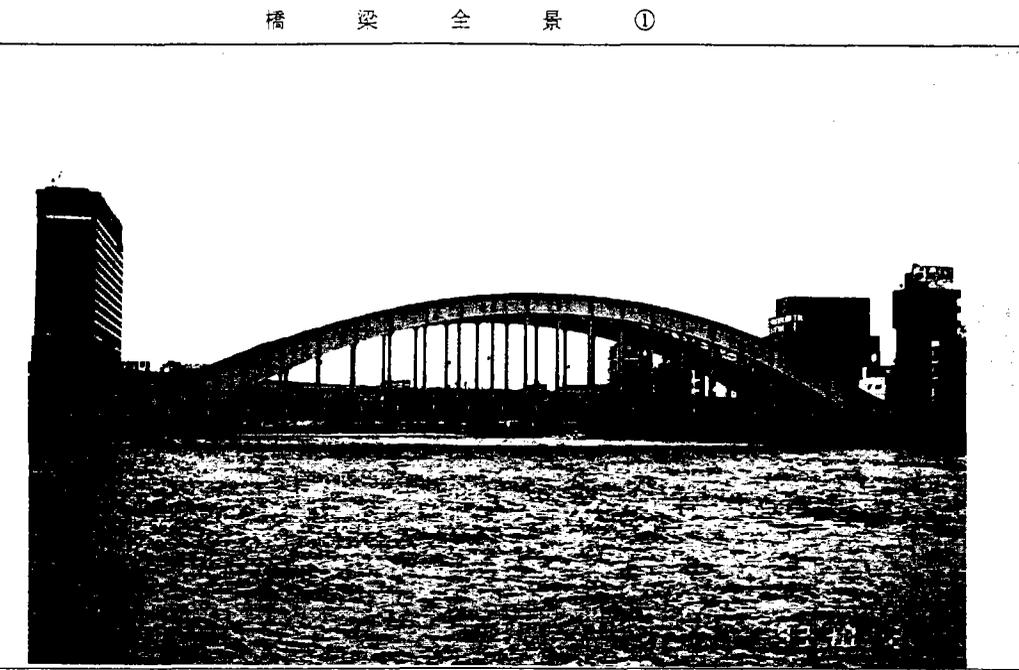
橋詰広場



親水護岸

# 文化財的橋梁調査票

整理番号	-1
橋名	永代橋
所在地	東京都中央区新川一丁目～江東区佐賀一丁目
河川名	隅田川
橋梁形式	下路アーチ
橋長(最大支間長)	185.2m
竣工年	昭和3年(1928)
管理者	東京都保全課橋梁保全係(03-5320-5295)



文化財橋梁とする理由		改良の履歴	
		年月	改良の内容
1. 吊橋以外で、日本で初めて支間が100m越えた橋。 2. 都民に広く親しまれている。		昭和42年7月	地盤沈下、自動車交通の激増等により両側の橋台が沈下し、変形が生じたため、補修。
		昭和43年3月	
		整備パターン	
		修復型	



現在の用途	道路橋(永代通り)
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>橋梁と基礎 1987年8月</li> <li>東京の橋と景観「昭和62年12月」東京都建設局編</li> </ul>

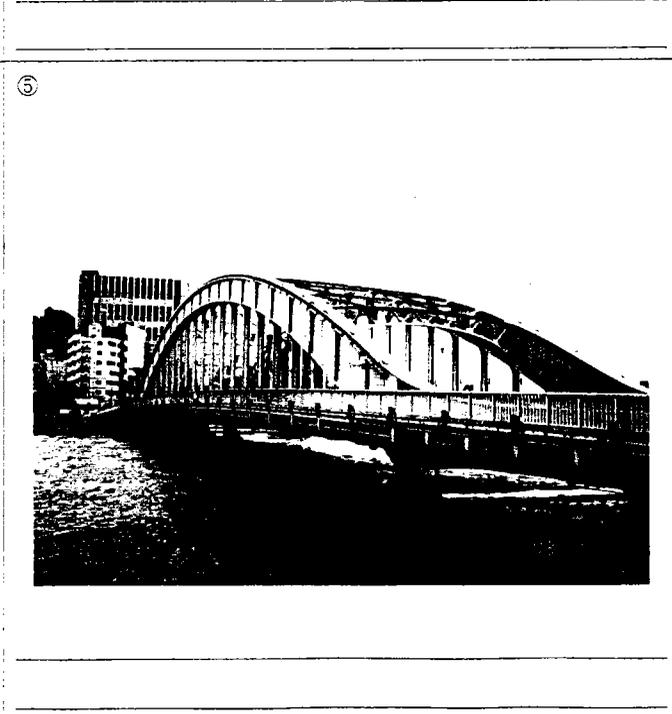
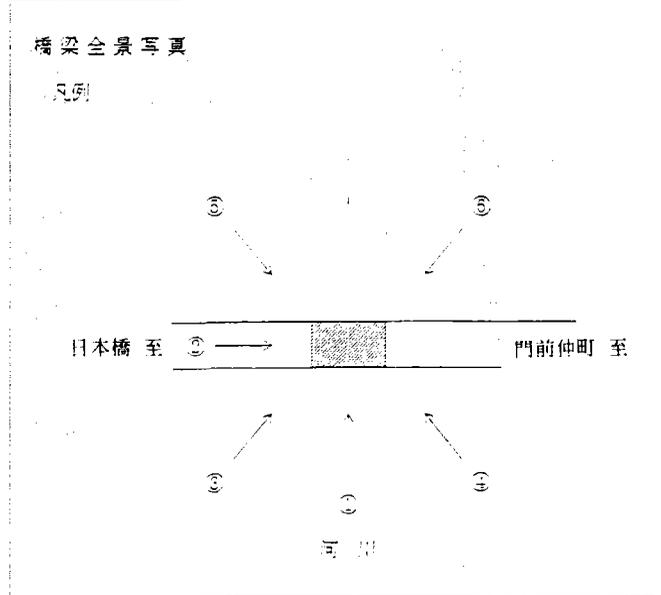
周辺状況

元は、日本橋新堀町から佐賀3丁目に架かっていた。(現在より上流物150mに位置)

元禄11年(1698)に上野寛永寺の中堂建築の余材を使って、「深川の大渡し」に代わって架けられたのが初めての橋である。その後、数度架け換えられたが明治30年(1897)に我が国初めての鋼材を使用した3連のトラス橋に架け換えられ震災で木製の橋床が焼け落ち、このため現橋に架け換えられた。

# 文化財的橋梁調査票

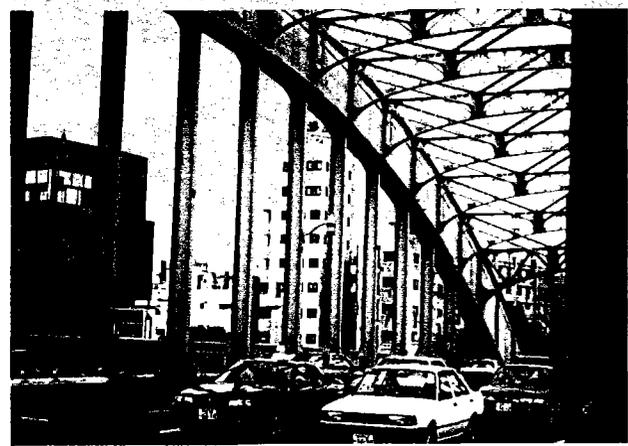
整理番号 -2



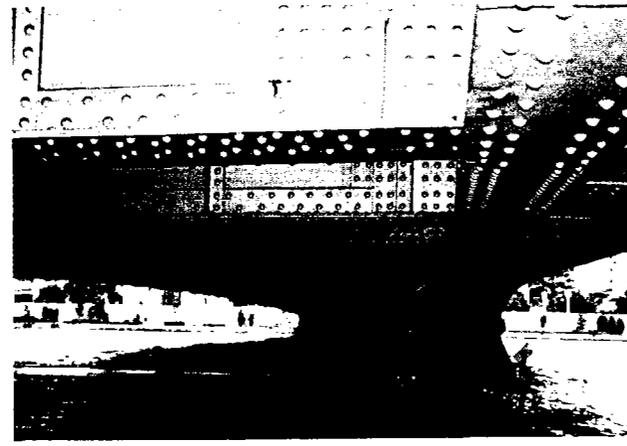
# 文化財的橋梁調査票

整理番号 -3

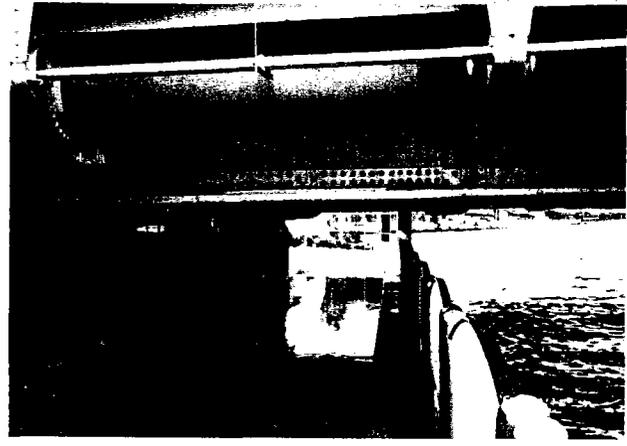
ディテール



街路照明



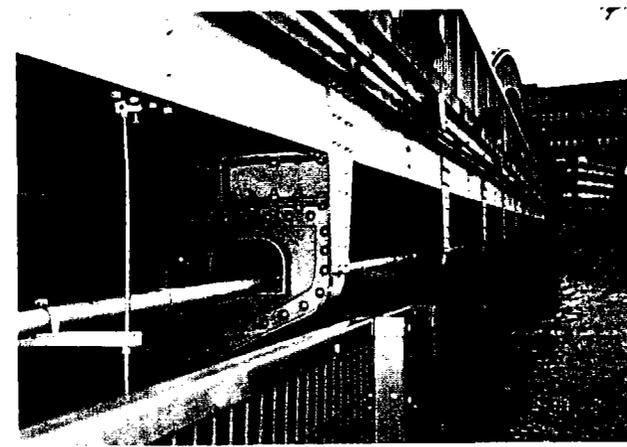
桁下空間



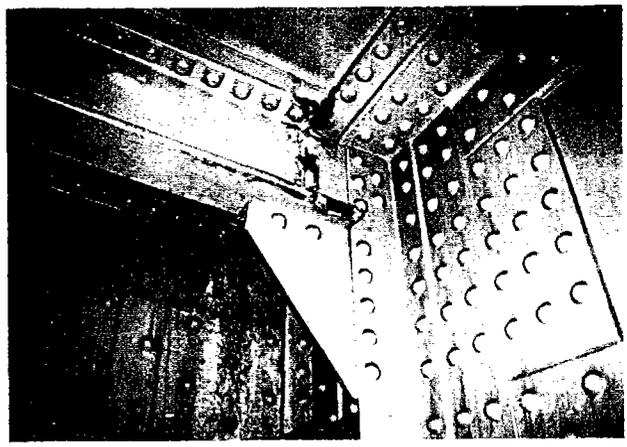
桁下空間、河川の歩道部、添加物



支承

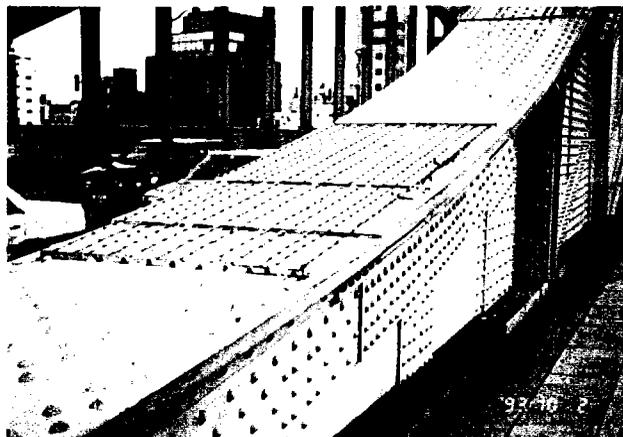


桁下添加物

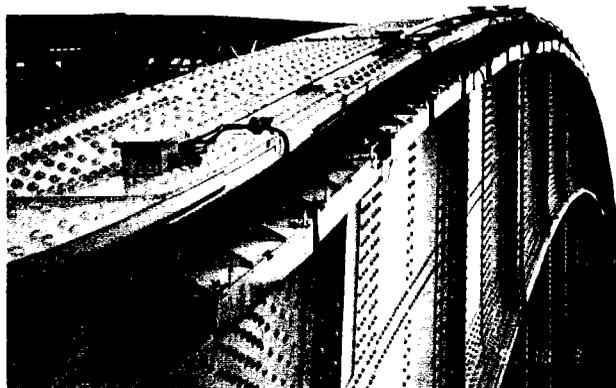


桁下

# 文化財的橋梁調査票



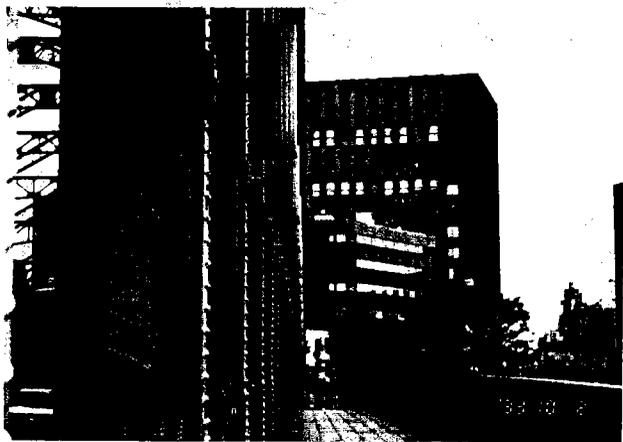
人がえし



夜間アーチリブをうきあがらせる照明



地覆部照明



歩道部照明



街路照明

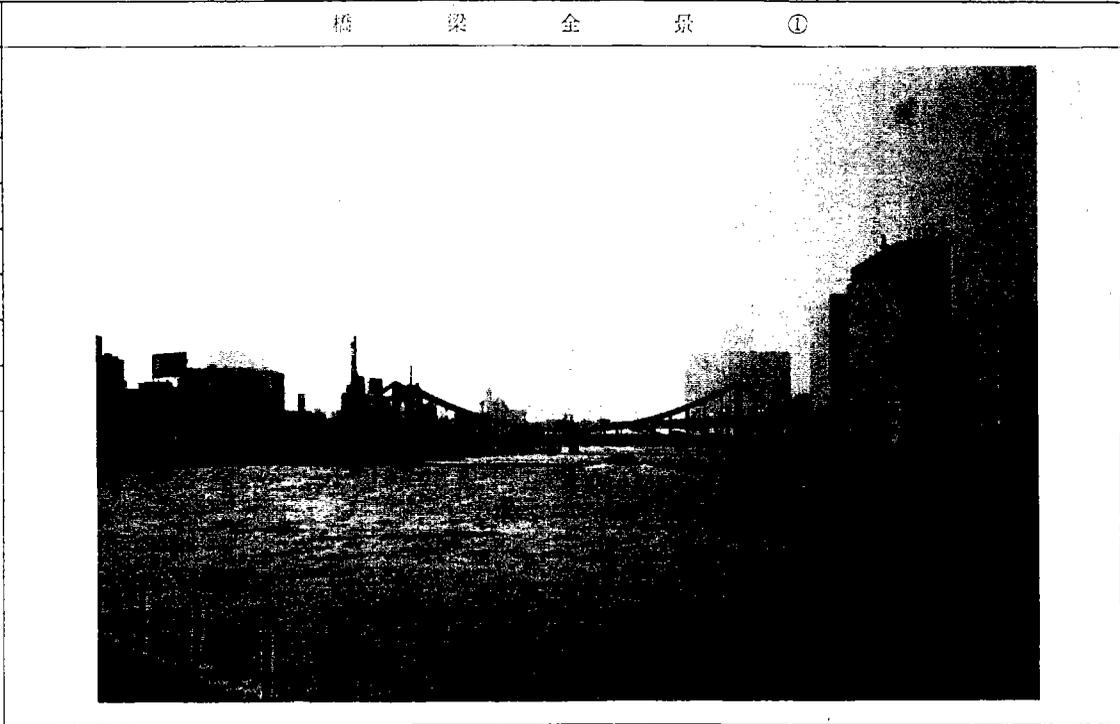


橋名板

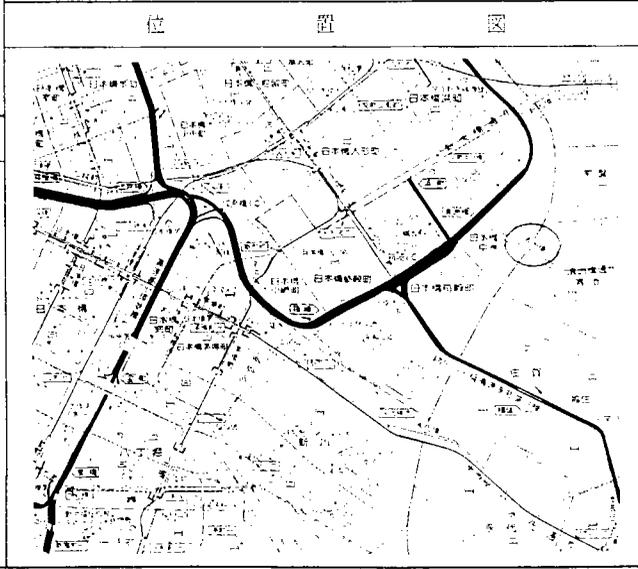


# 文化財的橋梁調査票

整理番号	- 1
橋名	清洲橋
所在地	東京都江東区清澄1丁目～中央区日本橋中洲
河川名	隅田川
橋梁形式	3径間連続吊橋
橋長(最大支間長)	186.220m (91.440m)
竣工年	昭和3年
管理者	東京都 (連絡先)



文化財橋梁とする理由	改良の履歴	
	年月	改良の内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>「隅田川著名橋の整備事業」に取り上げられた橋梁である。</li> <li>特徴としてはわが国初の自定式吊橋であることと、設計において橋の美観に特に留意されたことが挙げられる。</li> </ul>		清洲橋整備工事 ・塗装(青系) ・歩道部の舗装に自然石を使用(白系) ・高橋 ・橋灯 ・橋台敷 ・橋名板リフトアップ ・全体照明(ケーブル部)
	整備の考え方	
	保全型と思われる。	



現在の用途	道路橋(清洲橋通り)
参考文献	「東京の橋～水辺の都市景観～」：伊東孝著 鹿島出版会(昭和61年9月)  「日本の橋～鉄の橋百年のあゆみ～」 (社)日本橋梁建設協会編 朝倉書店 (昭和59年6月)  「特集・橋梁技術者が語る我が郷土の橋」 橋梁と基礎 建設図書(昭和62年8月)

周辺状況	橋梁下を遊覧船が通る。  倉庫街  清澄庭園
------	------------------------------------

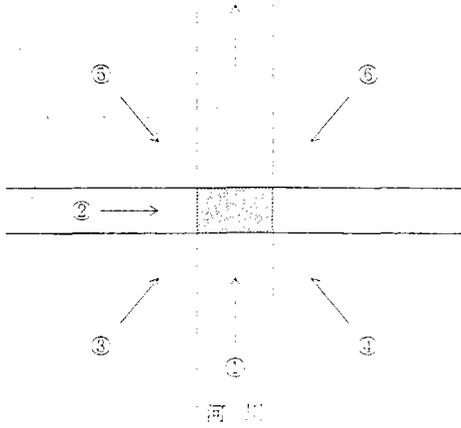
# 文化財的橋梁調査票

ページ	11
調査者	田谷 光

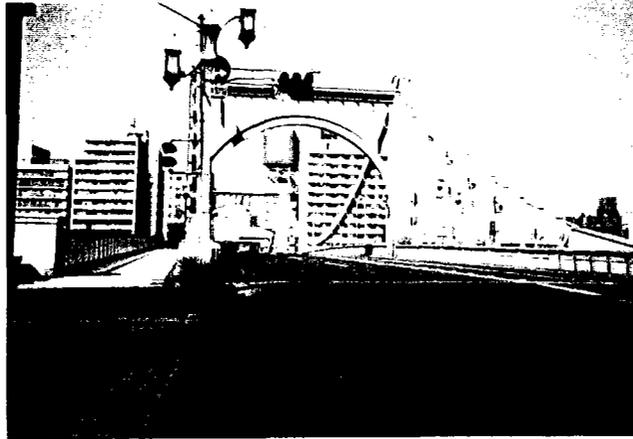
整理番号 - 2

橋梁全景写真

凡例



②



③



④



⑤



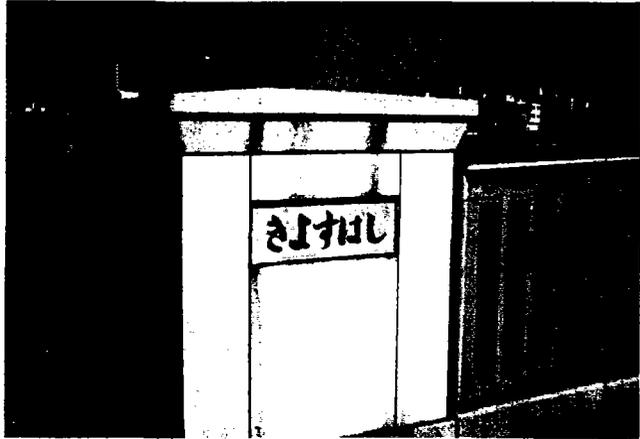
⑥



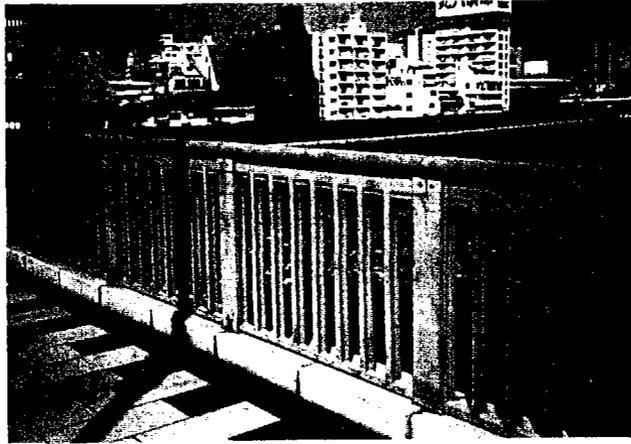
文化財的橋梁調査票

整理番号 - 3

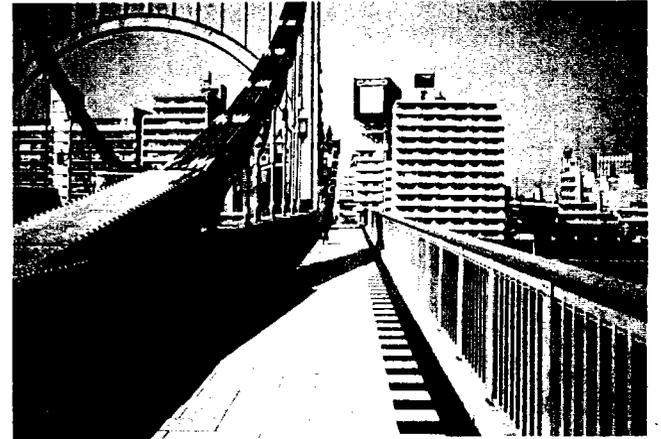
ディテール



親柱・橋名板



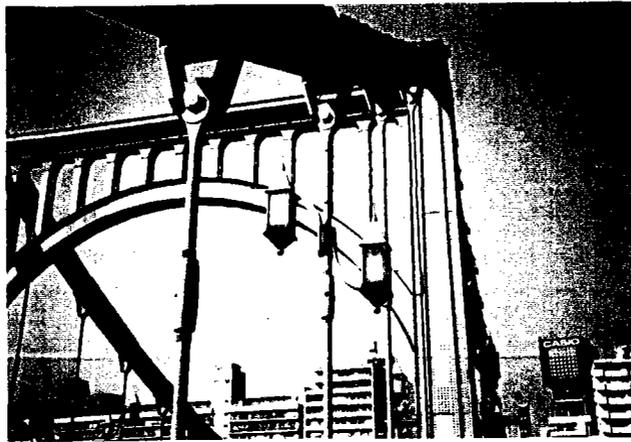
高欄



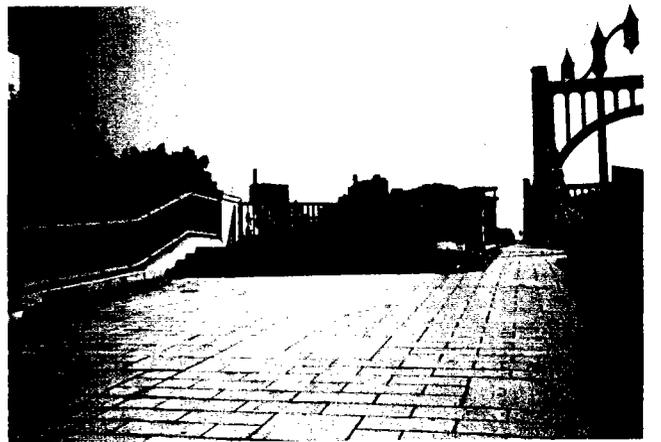
橋面舗装



ライトアップ用照明



橋灯



橋詰広場

# 文化財的橋梁調査票

ページ	13
調査者	島居丈裕

整理番号	- 1
橋名	両国橋
所在地	中央区東日本橋二丁目～墨田区両国一丁目
河川名	隅田川
橋梁形式	三径間ゲルバー式鋼钣桁
橋長(最大支間長)	164.5 m
竣工年	昭和7年11月
管理者	建設省 (連絡先)

## 橋梁全景 ①

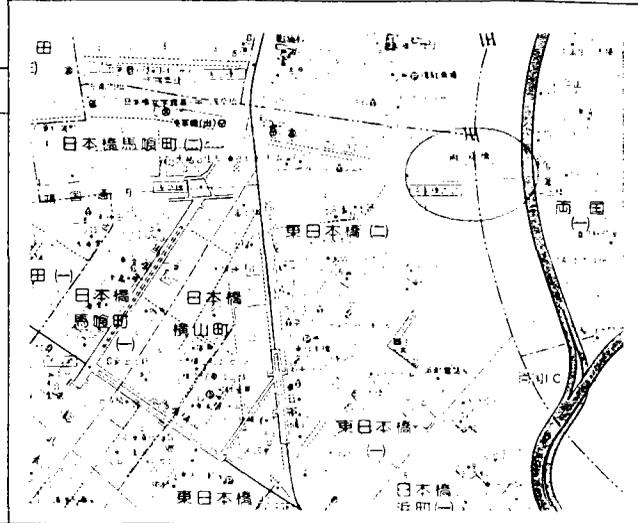


文化財橋梁とする理由

・架設当時、言問橋とともに、長大な鋼ゲルバー橋としてその威容を誇った。

改良の履歴	
年月	改良の内容
	バルコニー 高欄 橋面舗装 照明柱 横断防止柵・パネルリーフ

## 位置図



現在の用途

道路橋(靖国通り)

周辺状況

近くには、国技館があり”相撲の町”と言った印象が両国橋にも感じられる。

参考文献

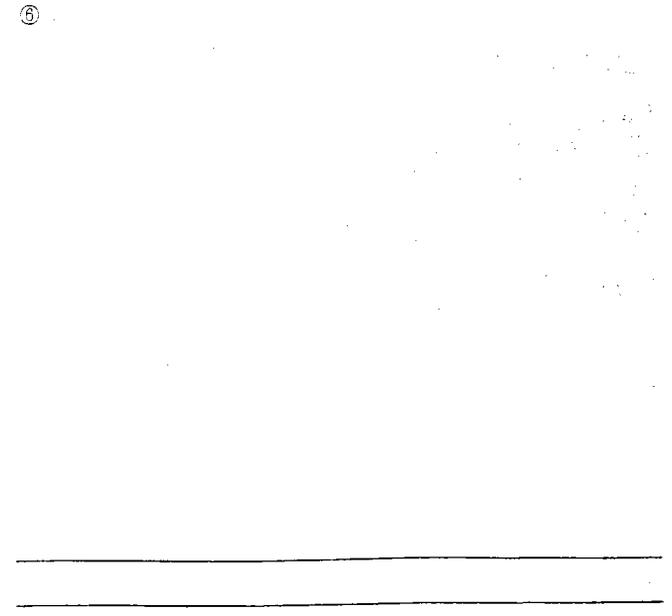
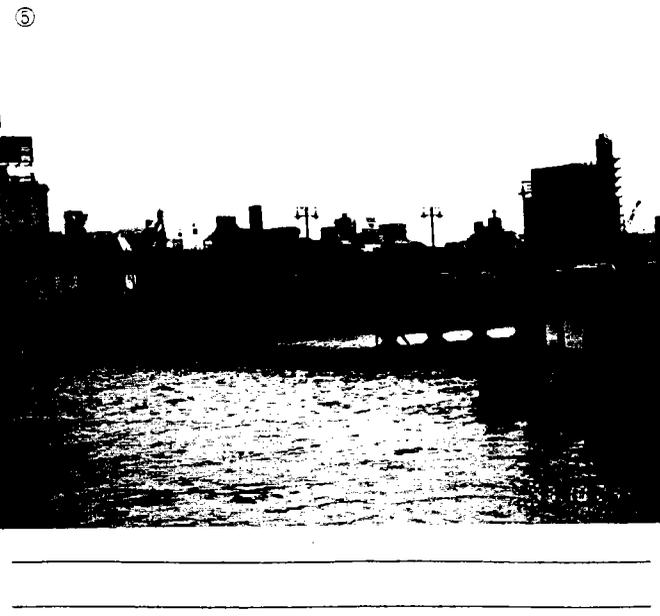
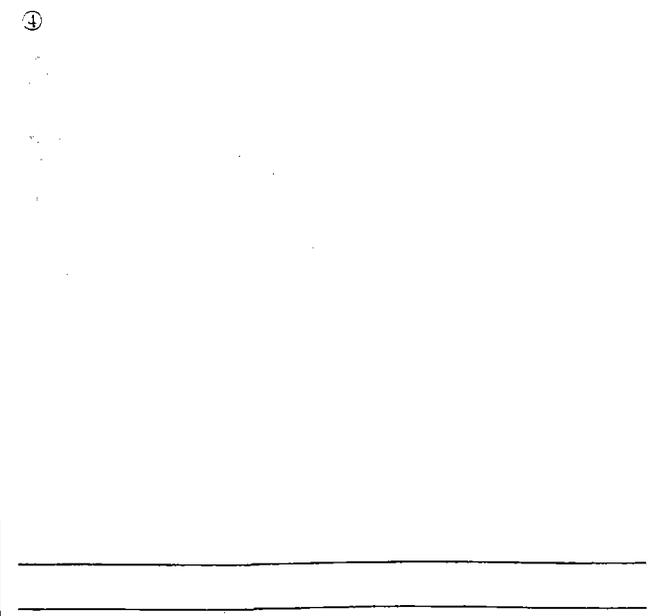
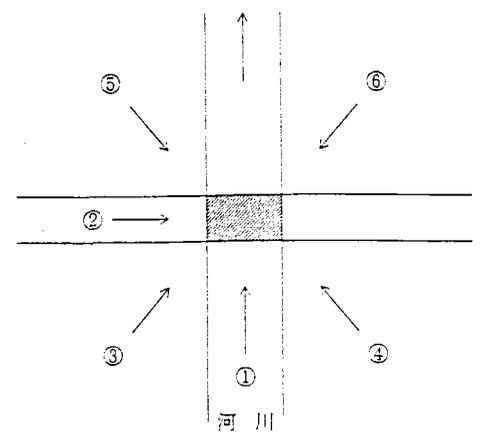
「東京の橋 - 水辺の都市景観」  
 伊藤孝 著 鹿島出版会 (昭和61年)  
 特集・橋梁技術者が語る我が郷土の橋  
 雑誌: 「橋梁と基礎」 (昭和62年8月)

# 文化財的橋梁調査票

整理番号 - 2

橋梁全景写真

凡例



文化財的橋梁調査票

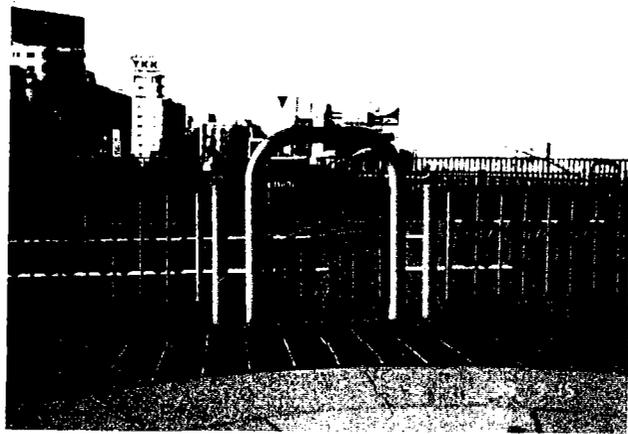
ページ	15
調査者	島居大裕

整理番号 - 3

ディテール



親柱



横断防止柵・パネルリーフ



横断防止柵・パネルリーフ



照明柱



バルコニー

# 文化財的橋梁調査票

整理番号	- 1
橋名	蔵前橋
所在地	東京都台東区蔵前2丁目～墨田区横綱2丁目
河川名	隅田川
橋梁形式	上路式3径間2ヒンジリブアーチ
橋長(最大支間長)	173.170m (50.900m)
竣工年	昭和2年
管理者	東京都 (連絡先)

橋 梁 全 景 ①



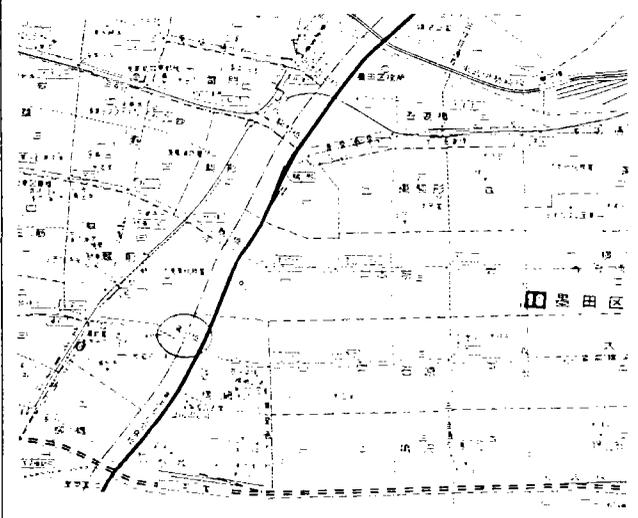
文化財橋梁とする理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「隅田川著名橋の整備事業」に取り上げられた橋梁である。</li> <li>・特徴としては橋脚上の四角いバルコニーと半円球の水切りが挙げられる。</li> </ul>

改 良 の 履 歴	
年 月	改 良 の 内 容
	蔵前橋整備工事 ・塗装(黄系) ・歩道部の舗装に自然石を使用(赤系) ・高欄 ・橋灯 ・橋台敷

整備の考え方

保全型と思われる。

位 置 図



現 在 の 用 途

道路橋(蔵前橋通り)

周 辺 状 況

橋梁下を遊覧船が通る。

親水護岸となっている。

参 考 文 献

「東京の橋～水辺の都市景観～」：伊東孝著  
鹿島出版会(昭和61年9月)

「特集・橋梁技術者が語る我が郷土の橋」  
橋梁と基礎 建設図書(昭和62年8月)

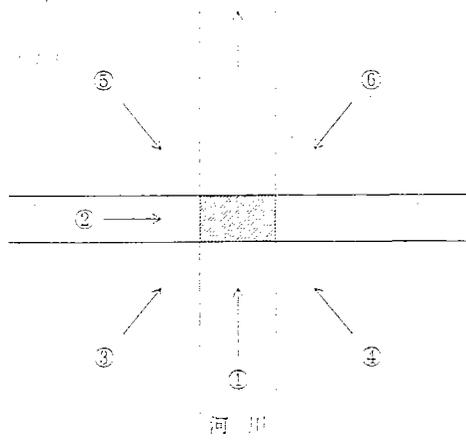
# 文化財的橋梁調査票

ページ	17
調査者	田谷 光

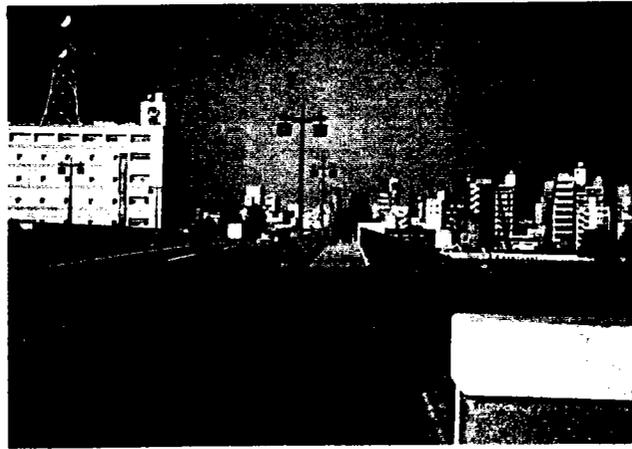
整理番号: - 2

## 橋梁全景写真

凡例



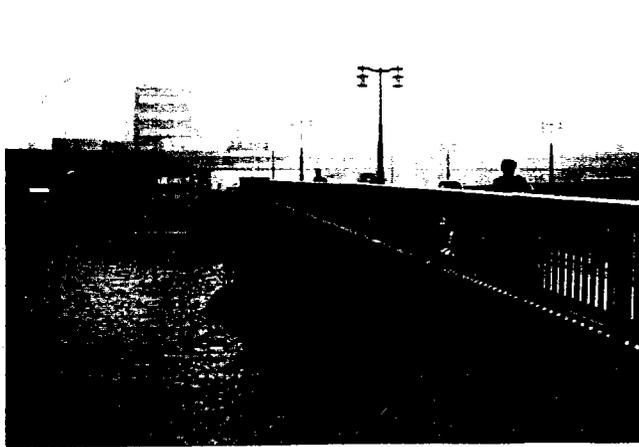
②



③



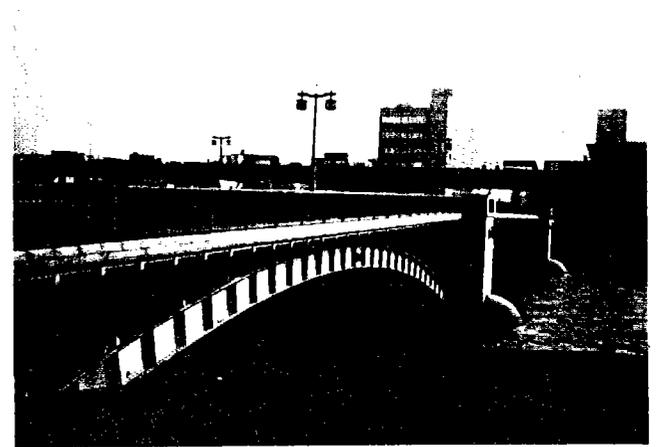
④



⑤

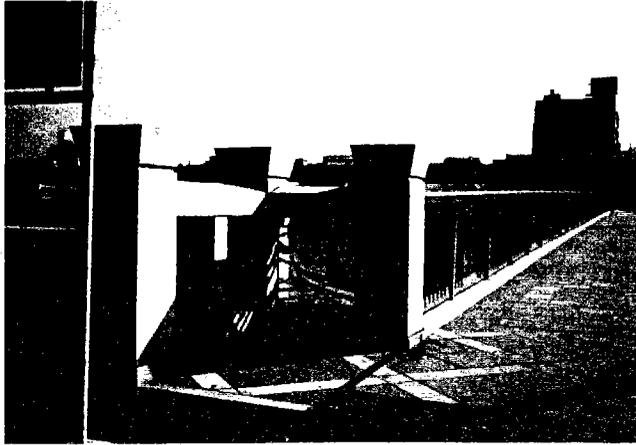


⑥



整理番号 - 3

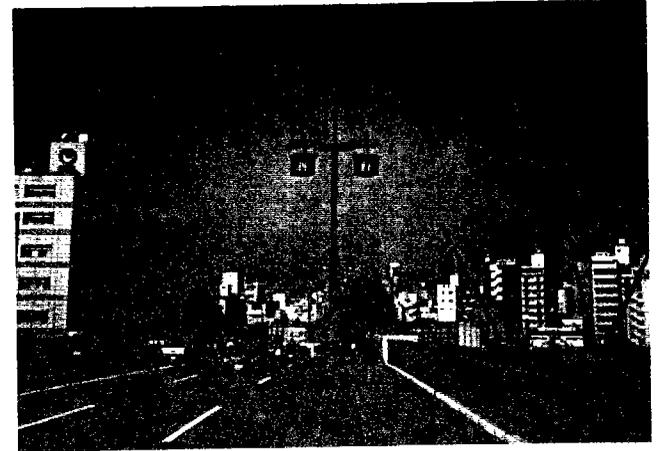
ディテール



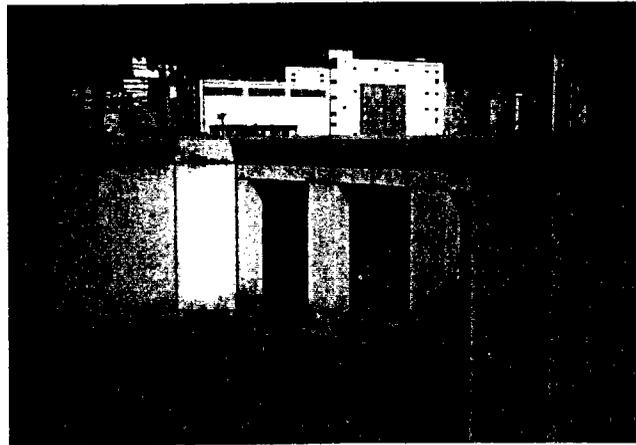
親柱・橋名板



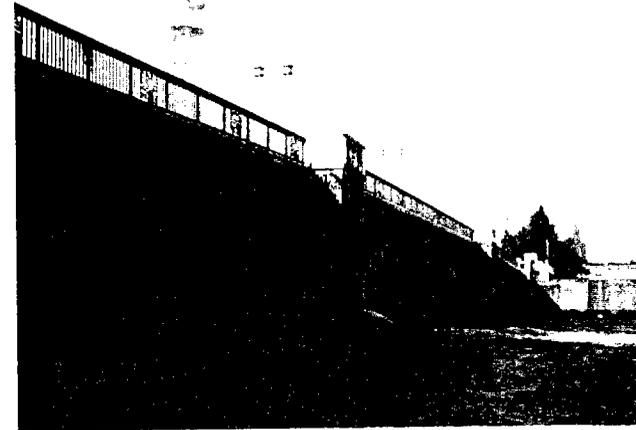
高欄



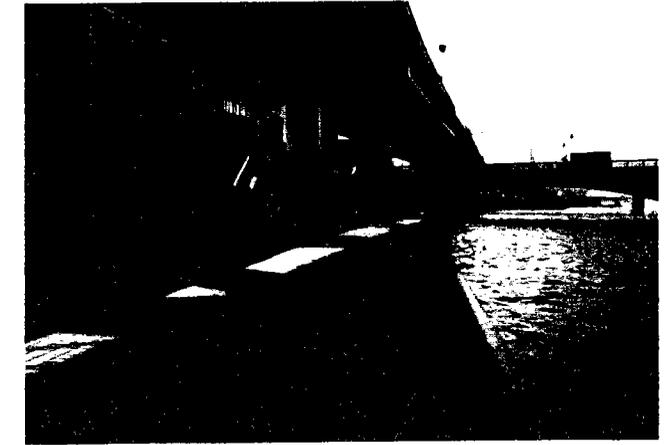
照明柱



橋脚上の四角いバルコニー



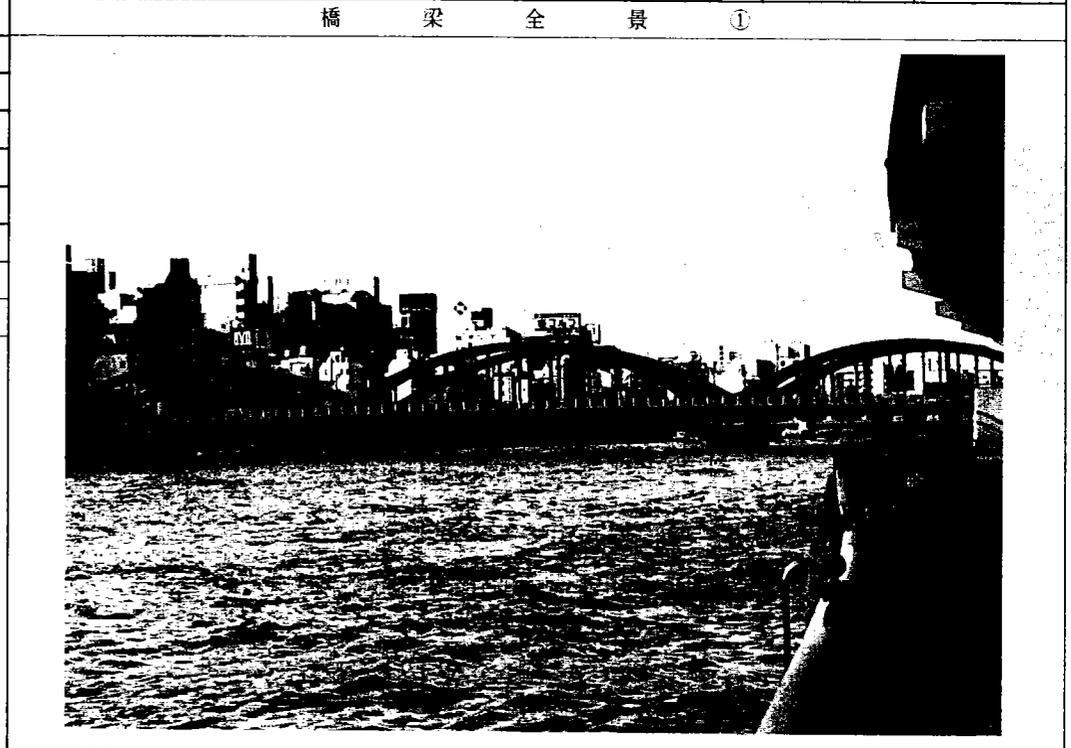
半円球の水切り



親水護岸

# 文化財的橋梁調査票

整理番号	- 1
橋名	既橋
所在地	東京都台東区蔵前2丁目 ~ 墨田区本所1丁目
河川名	隅田川
橋梁形式	下路式2ヒンジアーチ 3連
橋長(最大支間長)	152.0m (52.6m)
竣工年	昭和4年9月
管理者	東京都建設局 (連絡先)



文化財橋梁とする理由

3連アーチの曲線が優美な美しいラインを描いている。  
東京の著名橋の中の一つ。

①アーチ : 重厚なタイドアーチ

②橋脚 : 石張り

③親柱 : アーチと一体の鋼製親柱

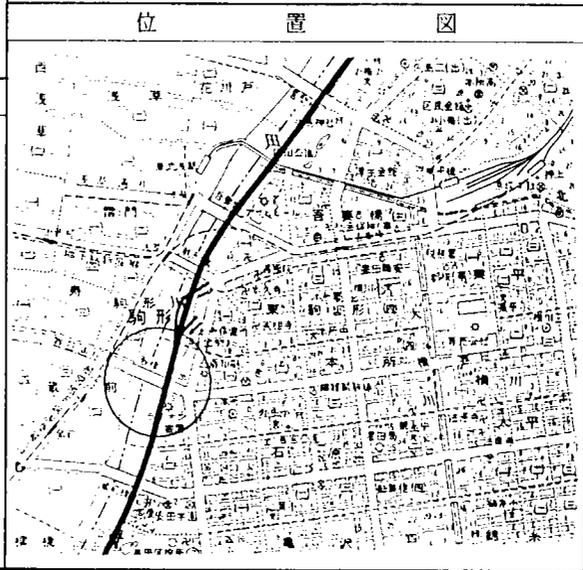
改良の履歴	
年月	改良の理由
H 1. 3	橋詰広場整備、歩道舗装、歩車道分離柵、高欄塗装改修、照明灯改修
H 2. 2	塗装塗替

整備パターン

保全型

周辺状況

オフィス街に位置し、親水護岸が整備され、河川、橋の眺望が可能である。



現在の用途

道路橋 (春日通り)

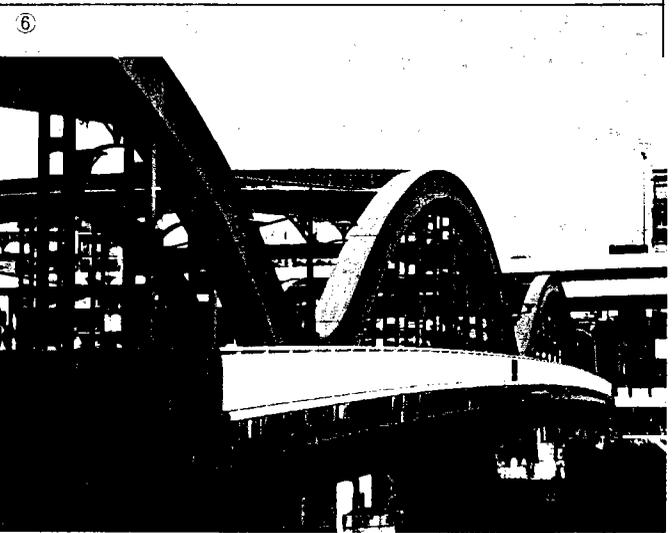
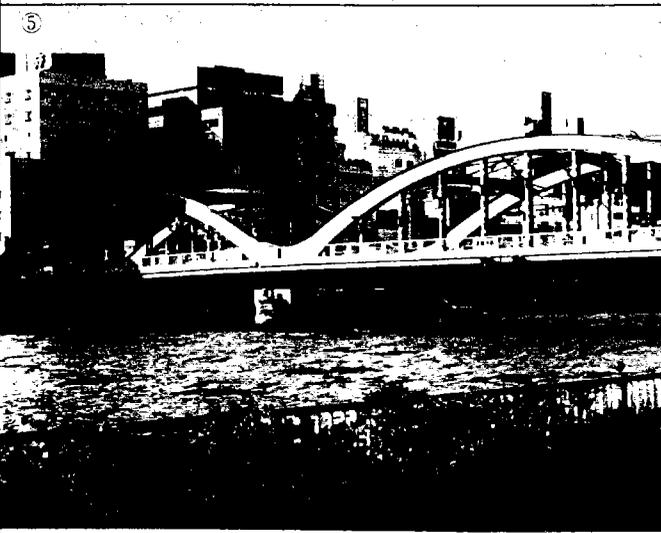
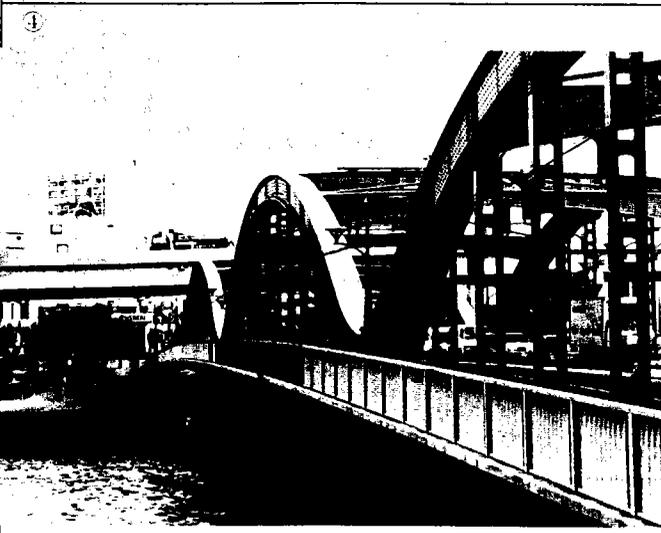
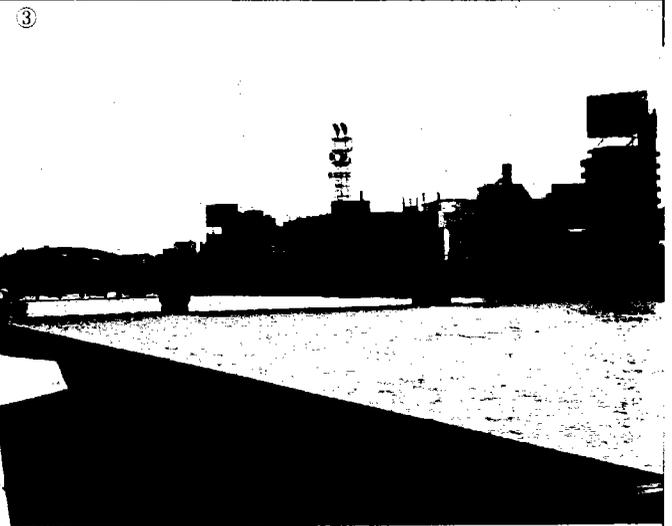
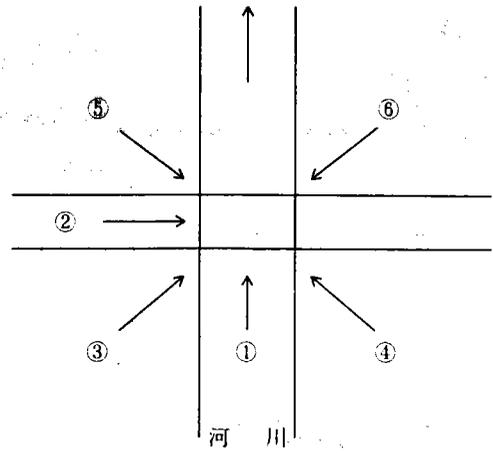
参考文献

- ・「東京の橋-水辺の都市景観」: 伊東孝 著 鹿島出版会 (昭和61年)
- ・「絵葉書に見る日本の橋」: 土木図書館 編 拓植書房 (平成4年4月)
- ・「特集・橋梁技術者が語る我が郷土の橋」 雑誌「橋梁と基礎」 (昭和62年8月)

# 文化財的橋梁調査票

整理番号 - 2

橋梁全景写真  
凡例

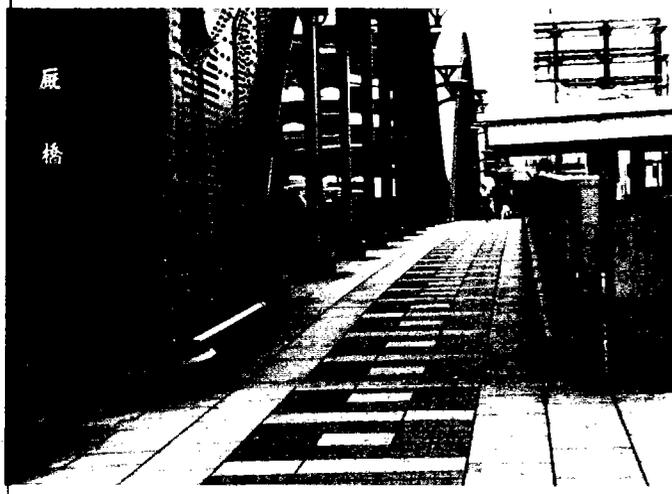


# 文化財的橋梁調査票

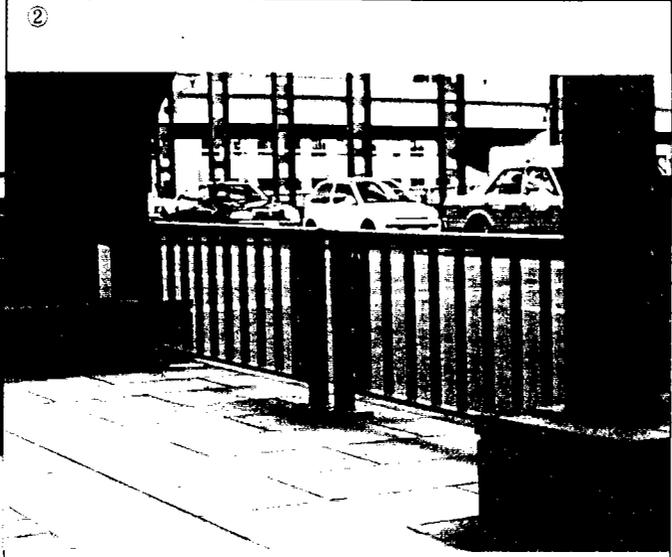
ページ	21
調査者	保坂和夫

整理番号 - 3

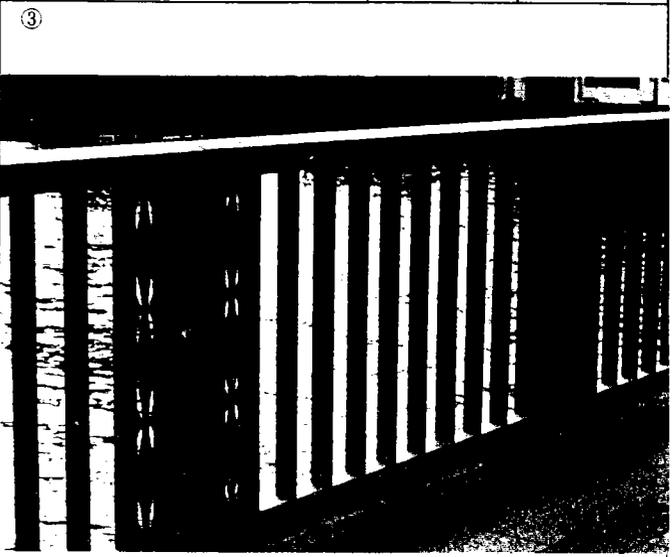
ディテール



歩道舗装 : 天然石、白と赤のパターン配列



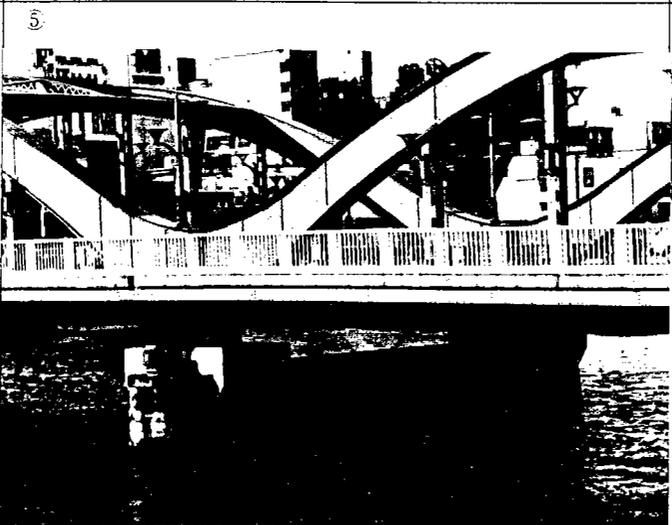
歩車道分離柵 : アルミ鋳物製 高欄と同デザイン  
付根 : 御影石



高欄 : 鋼製、白色



親柱 : 上部に馬のステンドグラス



照明灯 : 柱基部に馬のレリーフ

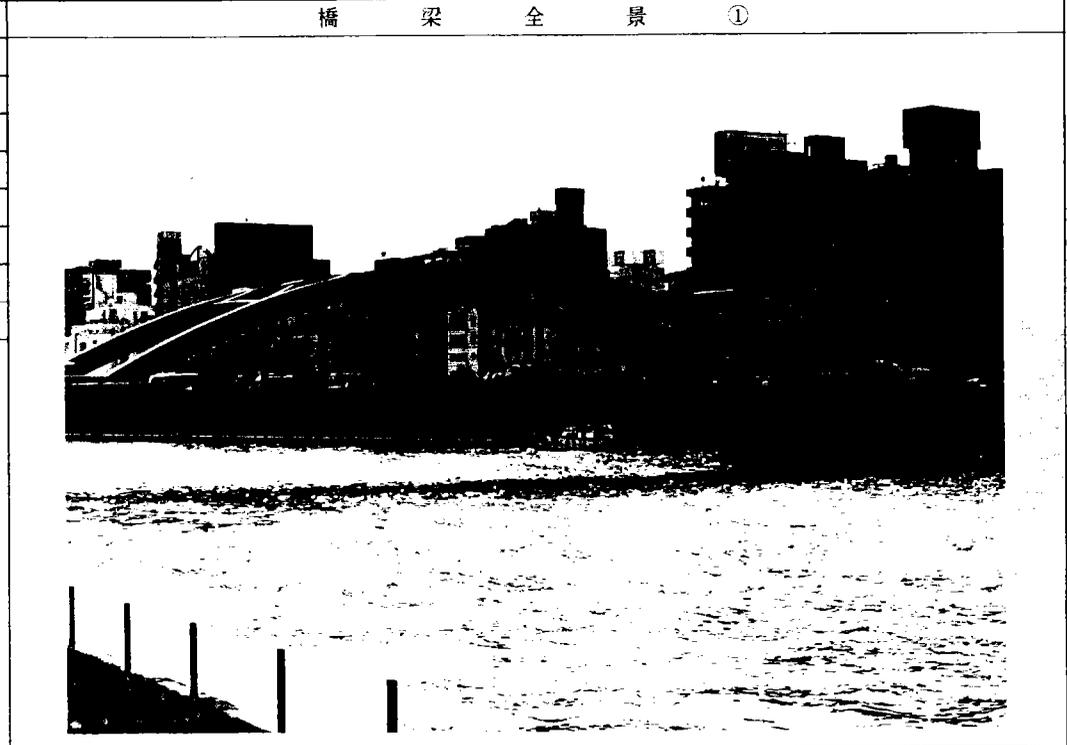


橋詰 : 石張り  
高欄 : アルミ鋳物製 (馬のデザインハネル)

# 文化財的橋梁調査票

整理番号 - 1

橋名 駒形橋  
 所在地 東京都台東区駒形2丁目 ~ 墨田区吾妻橋1丁目  
 河川名 隅田川  
 橋梁形式 中央径間：下路式2ヒンジアーチ、側径間：上路式2ヒンジアーチ  
 橋長(最大支間長) 149.1m (74.7m)  
 竣工年 昭和2年5月  
 管理者 東京都建設局 (連絡先)

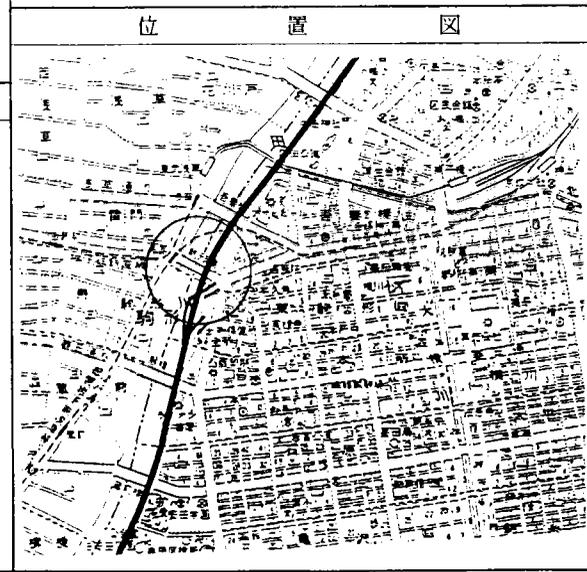


文化財橋梁とする理由  
 中央径間が下路式、側径間が上路式の3連のアーチ橋で、中央径間のアーチが際立っている。東京の著名橋の中の一つ。  
 ①アーチ：中央径間の雄大なタイドアーチ  
 中央径間下路式、側径間上路式との対比  
 ②橋脚：バルコニーと同断面の円柱形の石張り

改良の履歴  
 年月 改良の理由  
 S 63. 7 橋詰広場整備、歩道舗装、高欄塗装改修、大型橋灯復元

整備パターン  
 保全型

周辺状況  
 橋の両岸に幹線道路の広い交差点があり、橋詰広場と共に開放的な橋、川の眺望の場として整備されている。



現在の用途  
 道路橋 (浅草通り)

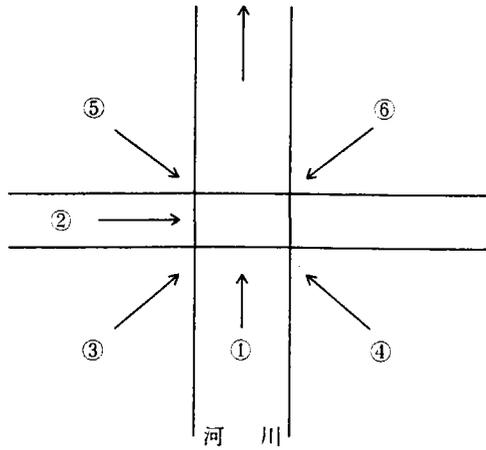
参考文献  
 ・「東京の橋-水辺の都市景観」：伊東孝著 鹿島出版会 (昭和61年)  
 ・「絵葉書に見る日本の橋」：土木図書館編 拓植書房 (平成4年4月)  
 ・「特集・橋梁技術者が語る我が郷土の橋」 雑誌「橋梁と基礎」 (昭和62年8月)

# 文化財的橋梁調査票

整理番号 - 2

橋梁全景写真

凡例



②

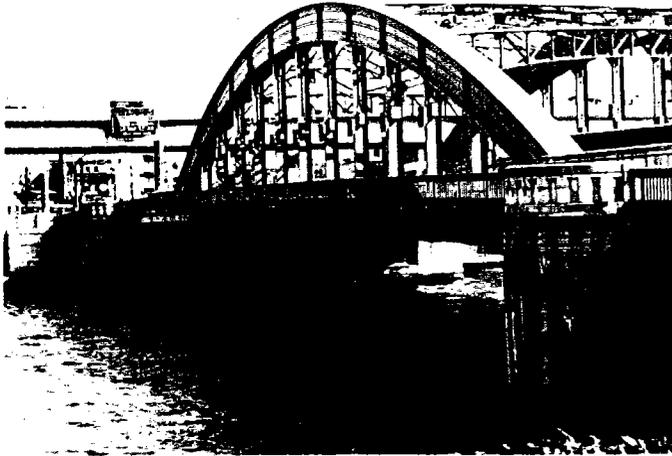


③

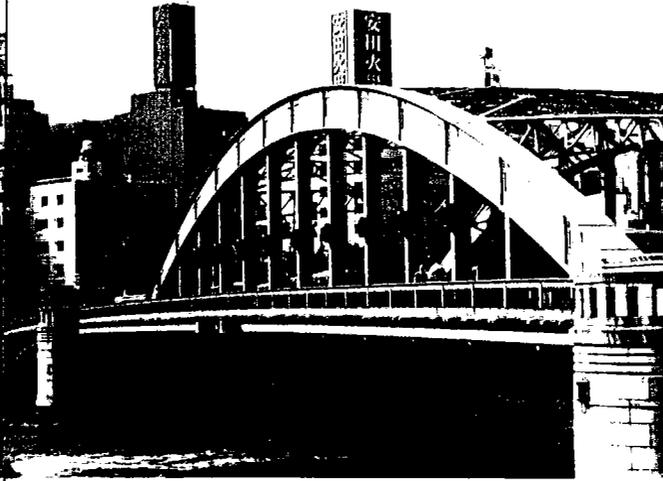


橋詰広場、ブロンズ像

④



⑤



⑥

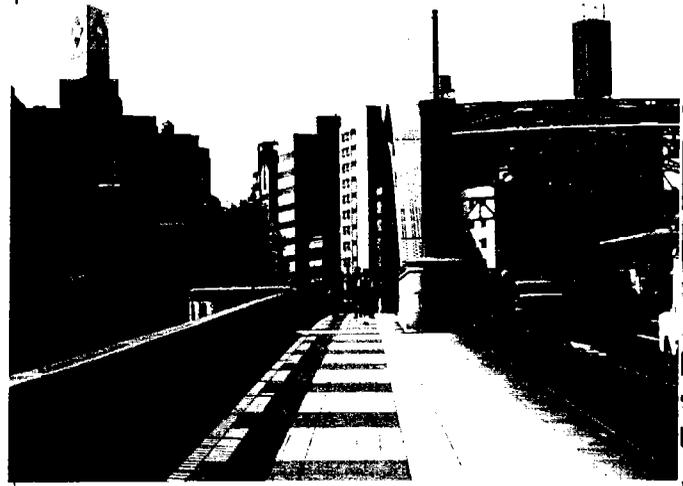


# 文化財的橋梁調査票

ページ	24
調査者	保坂和夫

整理番号 - 3

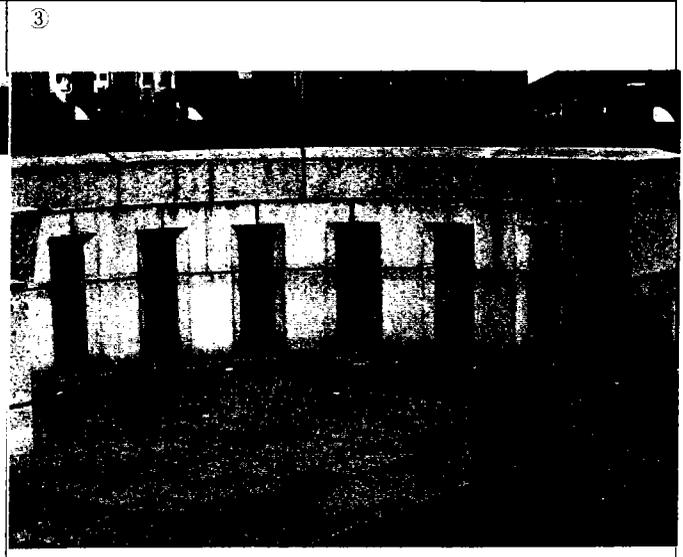
ディテール



歩道舗装 : 天然石、白と黒のパターン配列、大型橋灯

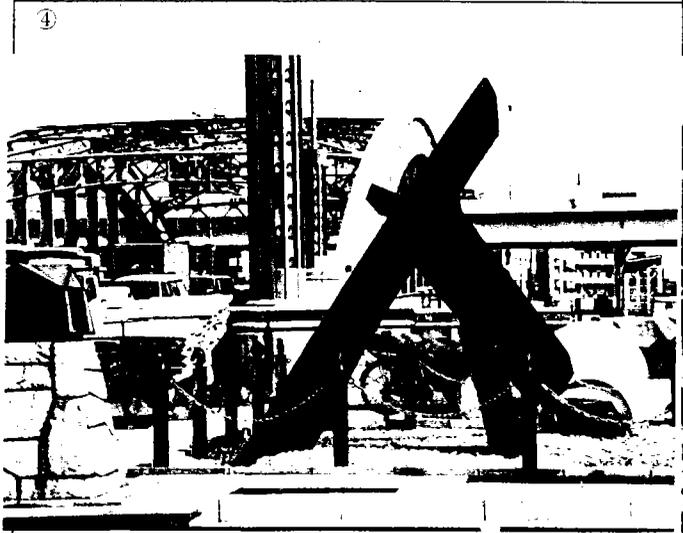


歩車道分離柵 : 鋳鉄製、柵  
鉛直材付根 : 御影石

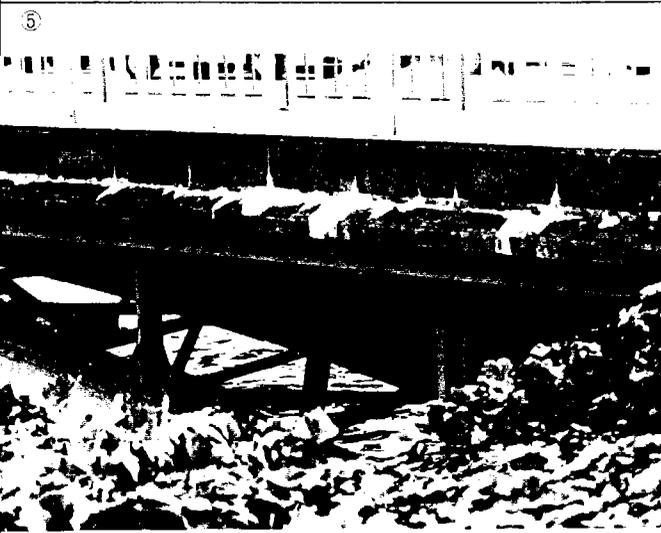


バルコニー : 石張り

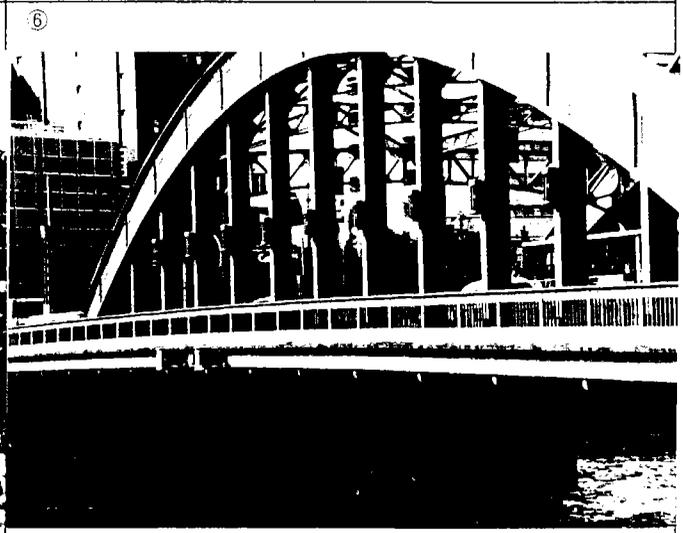
91



右岸側橋詰 : モニュメント



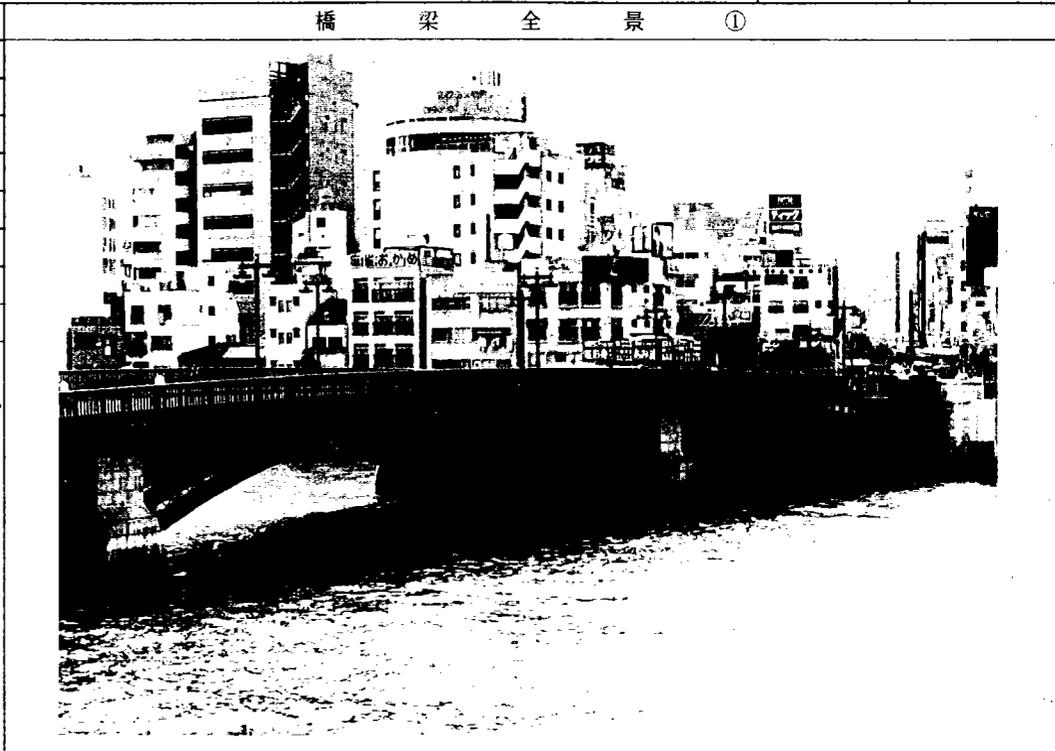
添加物パイプ : 橋体と同系色に塗装



照明灯、橋名板 : 河川、船上よりの視点を意識している

# 文化財的橋梁調査票

整理番号	- 1
橋名	吾妻橋
所在地	東京都台東区花川戸1丁目 ~ 墨田区吾妻橋1丁目
河川名	隅田川
橋梁形式	上路式2ヒンジアーチ 3連
橋長(最大支間長)	150.1m (44.8m)
竣工年	昭和6年6月
管理者	東京都建設局 (連絡先)



文化財橋梁とする理由	改良の履歴	
	年月	改良の理由
江戸時代(1774年)に最初の橋が架けられてより、人々に親しまれている。東京の著名橋の中の一つ。	H 5.3	橋体塗装、橋詰広場整備、歩道舗装、高欄塗装改修、照明灯改修
①アーチ：ライズの小さな偏平アーチ 3連は優雅さを現す		
②橋台、橋脚：石張り		
	整備パターン	
	保全型	

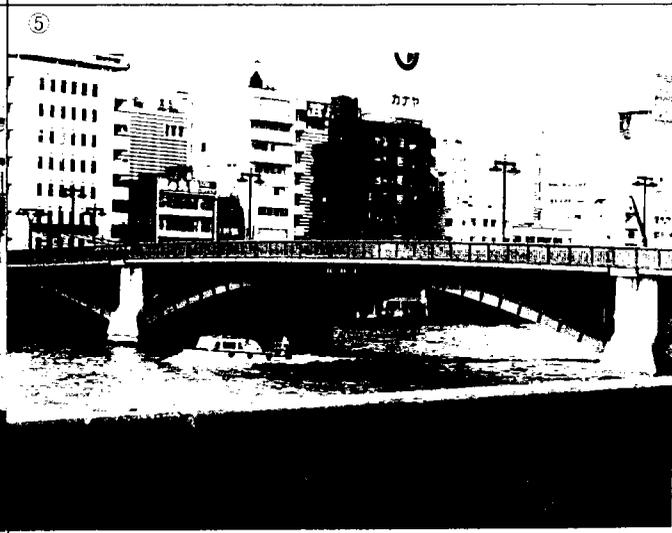
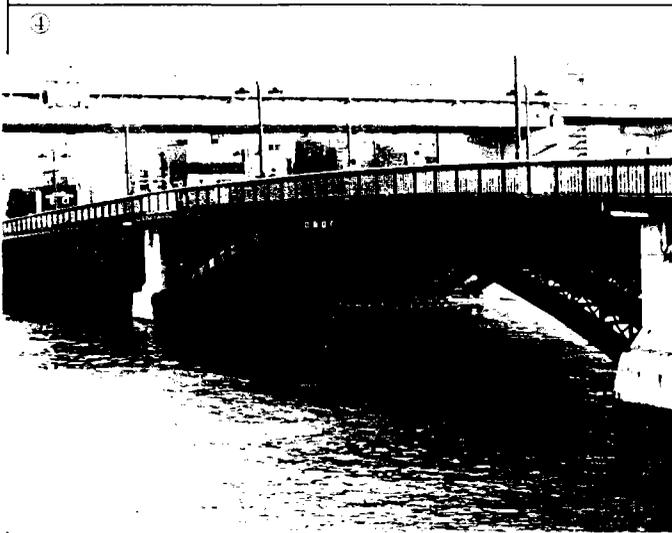
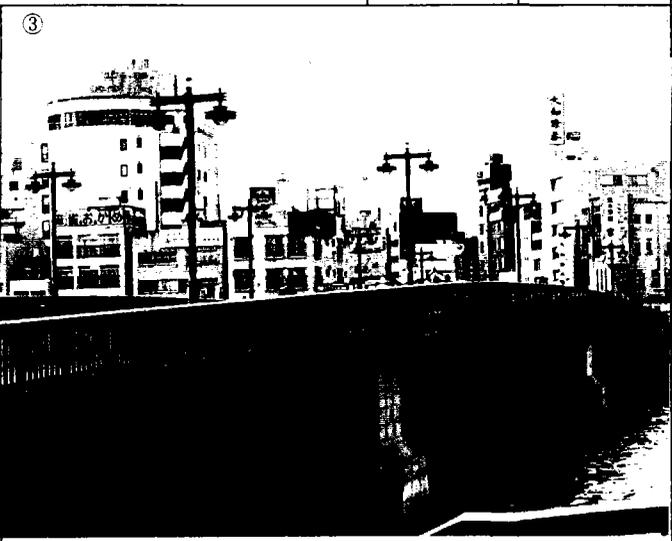
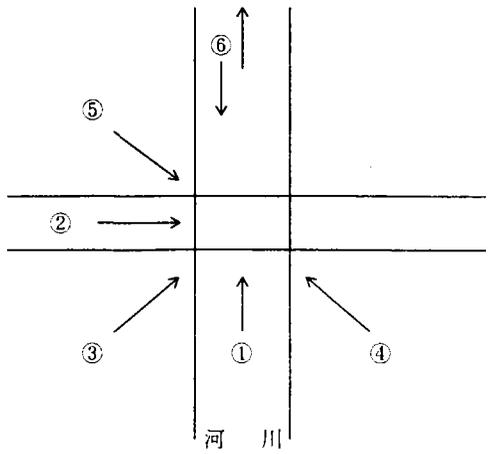
位置図	現在の用途
	道路橋 (浅草通り)
	参考文献
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本の橋」：日本橋梁建設協会 編 朝倉書店(昭和59年)</li> <li>・「東京の橋-水辺の都市景観」：伊東孝 著 鹿島出版会(昭和61年)</li> <li>・「絵葉書に見る日本の橋」：土木図書館 編 拓植書房(平成4年4月)</li> <li>・「特集・橋梁技術者が語る我が郷土の橋」 雑誌「橋梁と基礎」(昭和62年8月)</li> </ul>

周辺状況
浅草駅前に位置し、水上バスの発着地となっている。また、墨田公園(親水護岸)の入口となっている。

# 文化財的橋梁調査票

整理番号 - 2

橋梁全景写真  
凡例



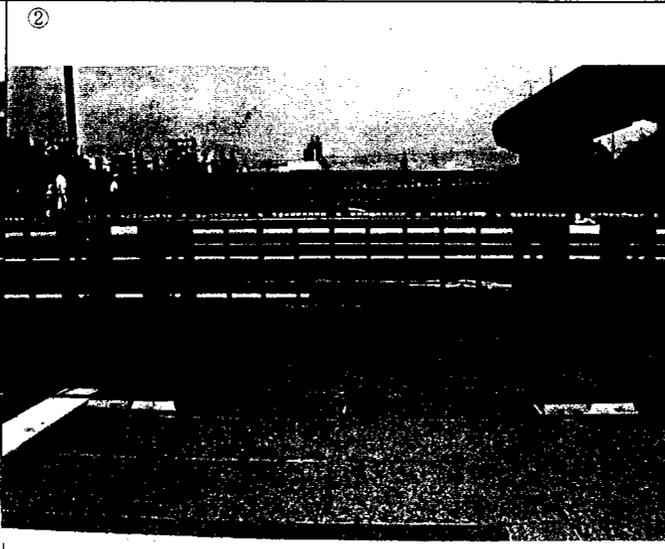
# 文化財的橋梁調査票

ページ	27
調査者	保坂和夫

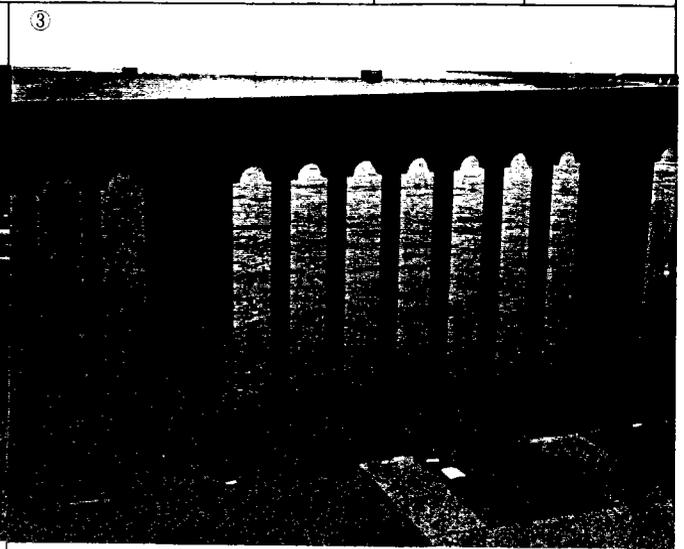
整理番号 - 3



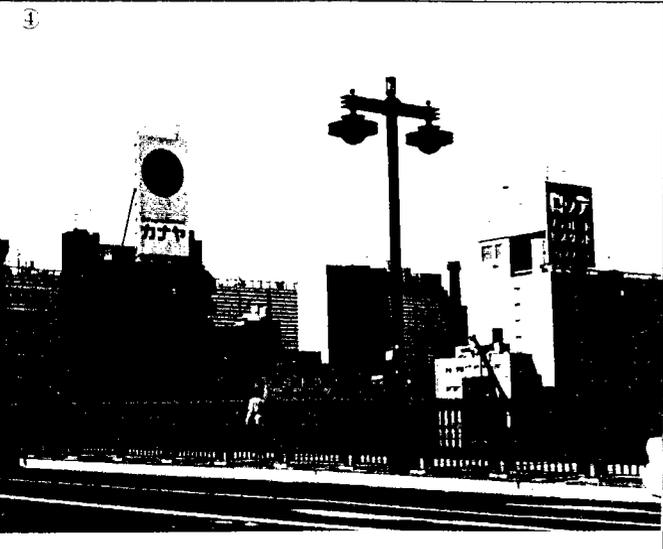
歩道舗装 : 天然石、白と黒のパターン配列



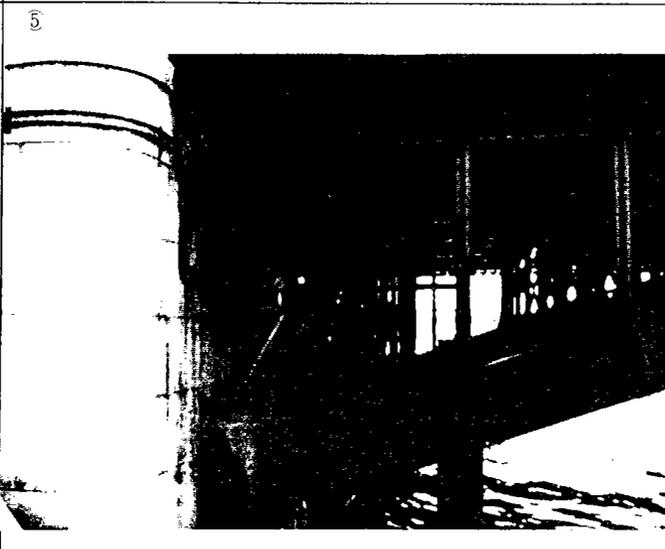
歩車道分離柵 : 鋳鉄製 (雷門よりイメージされる巴マーク)  
付根 : 御影石



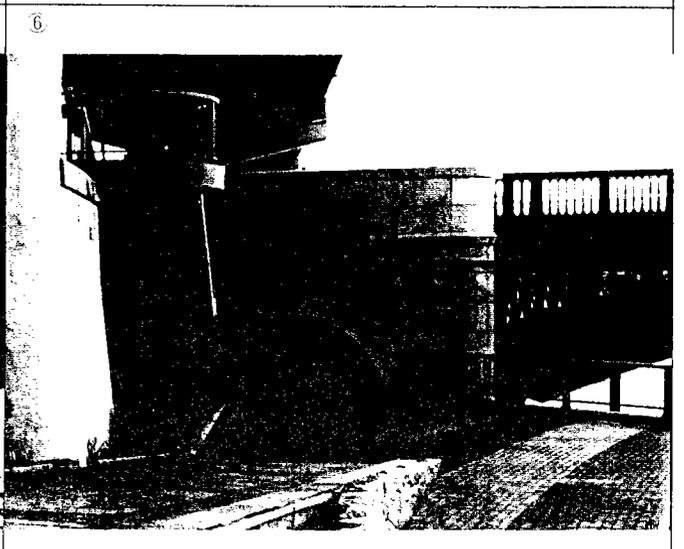
高付柵 : 鋳鉄製 (アクリル透明板付)  
付根 : 御影石



照明灯



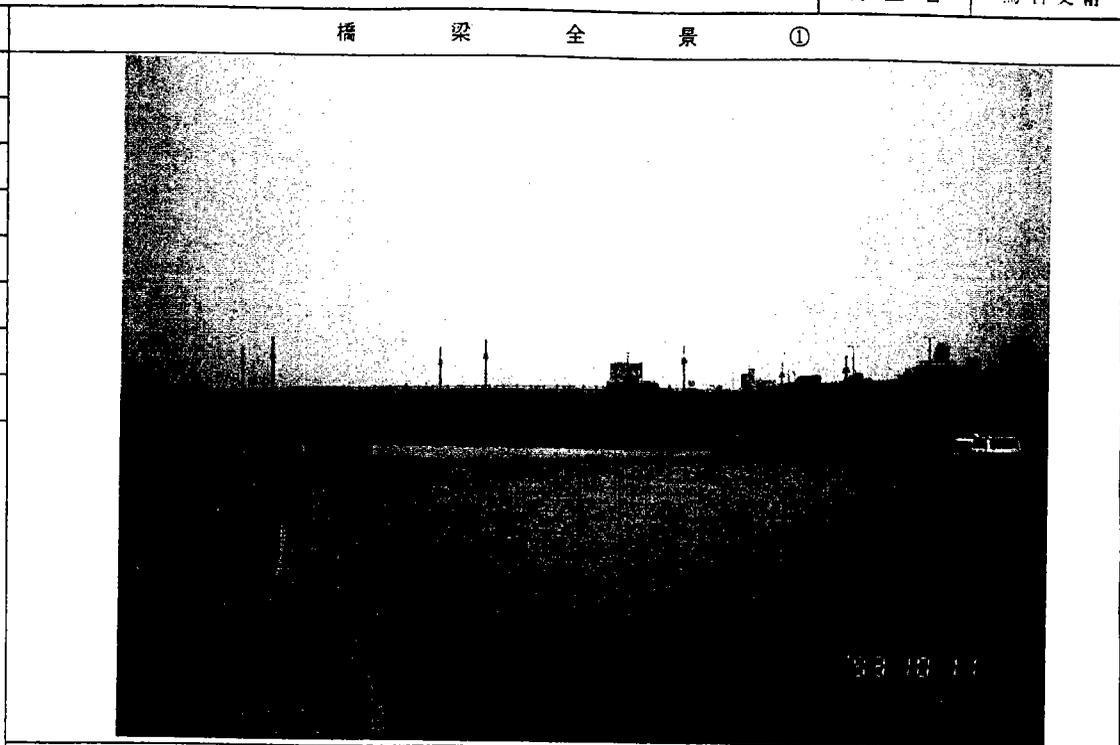
ライトアップ照明



左岸側橋台 : 石張り、右岸側と対象となるアーチ風デザイン

# 文化財的橋梁調査票

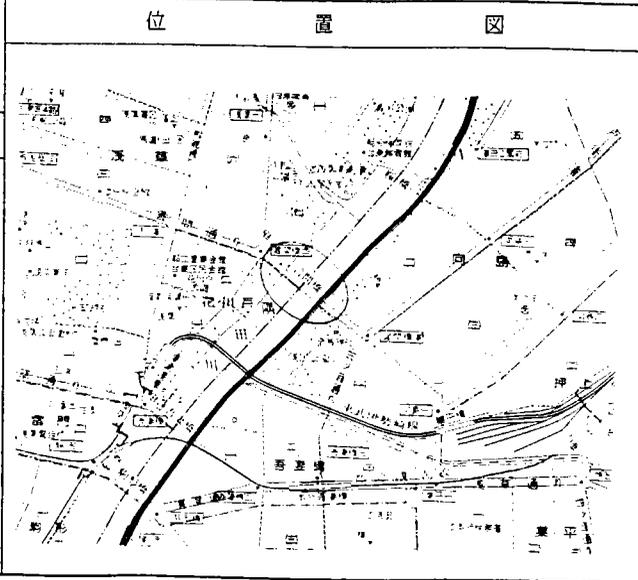
整理番号	- 1
橋名	言問橋
所在地	台東区浅草七丁目～墨田区向島一丁目
河川名	隅田川
橋梁形式	三径間ゲルバー式鋼钣桁
橋長(最大支間長)	237.7 m
竣工年	昭和3年2月
管理者	建設省 (連絡先)



**文化財橋梁とする理由**

・震災復興事業で新しく架設された橋で両国橋とともに、長大な鋼ゲルバー橋として知られた。

改良の履歴	
年月	改良の内容
	高欄 橋面舗装 照明柱 横断防止柵



**現在の用途**

道路橋(言問通り)

**周辺状況**

両岸は震災復興の目玉事業の一つである隅田臨川公園が続く。言問橋はその真ん中を横断する橋である。

**整備パターン**

保全型

**参考文献**

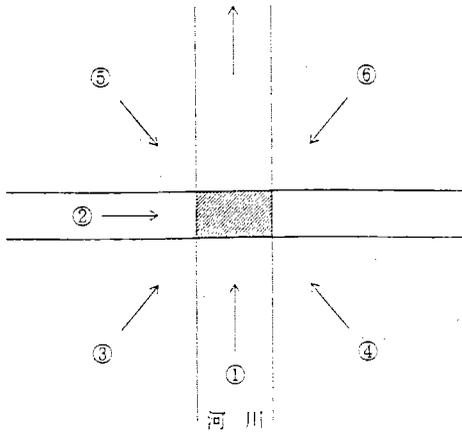
「東京の橋－水辺の都市景観」  
伊藤 孝 著 鹿島出版会(昭和61年)  
「特集・橋梁技術者が語る我が郷土の橋」  
雑誌:「橋梁と基礎」(昭和62年8月)

# 文化財的橋梁調査票

整理番号 - 2

橋梁全景写真

凡例



②



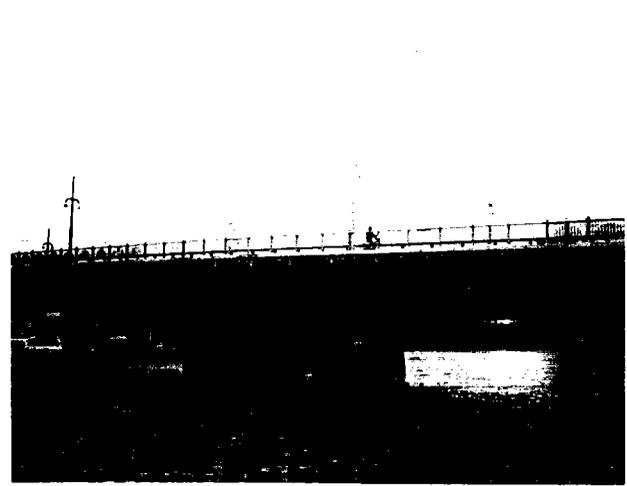
③



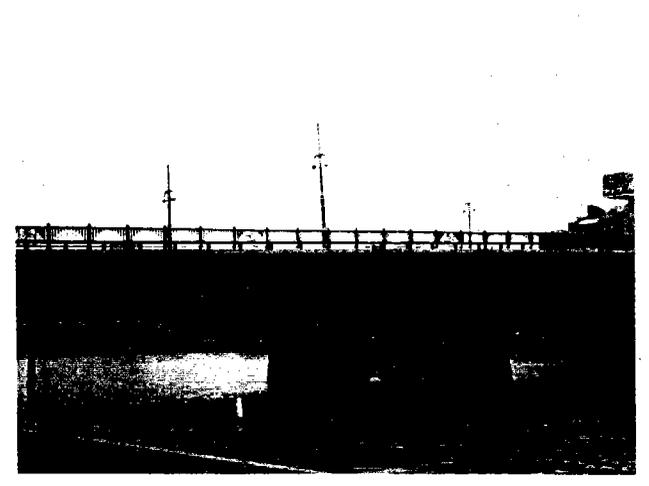
④



⑤



⑥



文化財的橋梁調査票

ページ	30
調査者	島居大裕

整理番号	- 3
------	-----

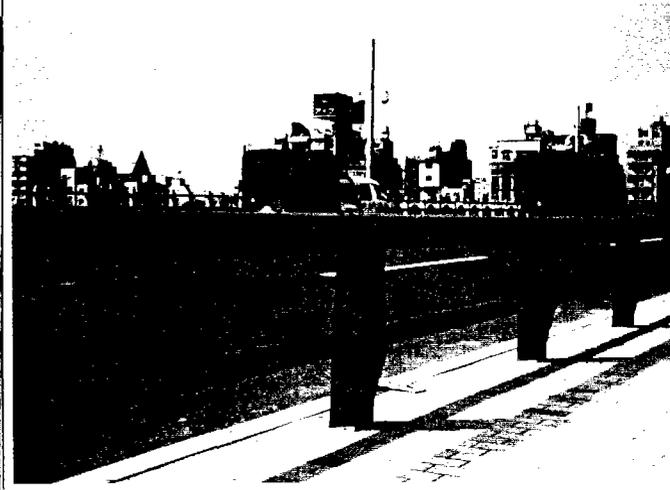
ディテール



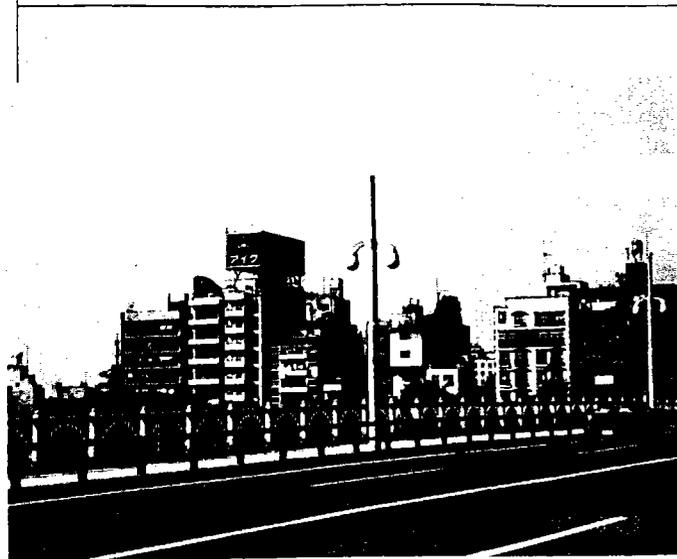
高欄



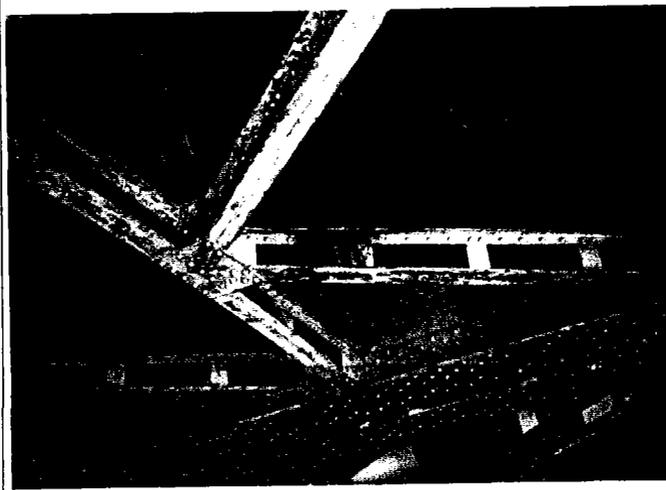
橋面舗装



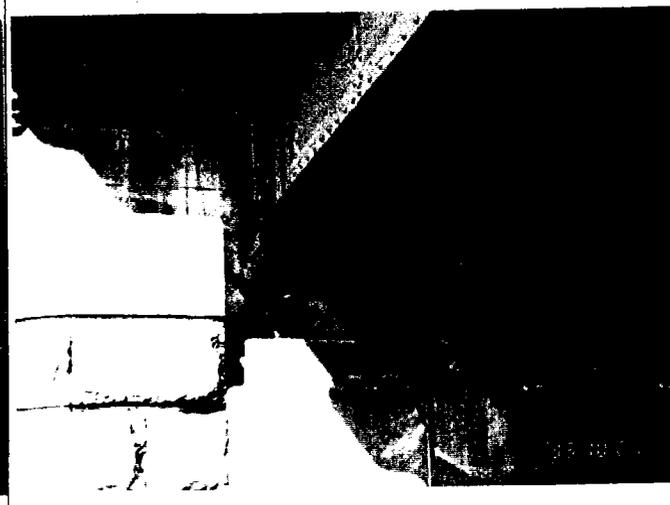
横断防止柵



照明柱



横構



支承

# 文化財的橋梁調査票

整理番号	- 1
橋名	白鬚橋
所在地	東京都台東区橋場2丁目～墨田区堤通1丁目
河川名	隅田川
橋梁形式	下路トラスドリブ・バランスドタイドアーチ
橋長(最大支間長)	168.8m (44.04m+79.553m+44.04m)
竣工年	昭和6年6月
管理者	東京都建設局 (連絡先 )

橋梁全景 ①



文化財橋梁とする理由

昭和戦前期(昭和5年～昭和20年)に震災復興橋梁の経験から、隅田川に架けられた下路トラスドリブ・バランスドタイドアーチ。震災復興事業の一環として計画された環状道路(明治通り)の中のひとつで、中央径間と側径間とを逆反りの曲線で柔らかくつなぐ上弦材により、アーチが両翼に伸びた姿で川を跨ぐ姿は美しい。

「陸路の帝都の門」と呼ばれていた上流側の千住大橋に対して、「水路の帝都の門」(第一北門)と呼ばれていた。

改良の履歴	
年月	改良の内容

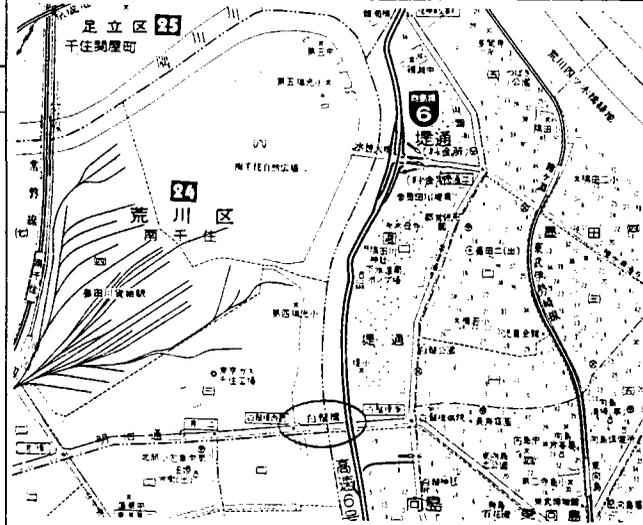
整備の考え方

保存型

周辺状況

東京の典型的な下町の一つである南千住に近く、住宅地と商業地が混在している。橋上を首都高速6号線の高架橋が横切り、隅田川の右岸側下流は親水護岸が整備されている。

位置図



現在の用途

道路橋(明治通り)

参考文献

「日本の橋」 日本橋梁建設協会 編  
朝倉書店 (昭和59年)

「絵葉書に見る日本の橋」 土木図書館 編  
拓植書房 (平成4年4月)

「東京の橋と景観」 東京都建設局 編  
東京都情報連絡室 (昭和63年7月)

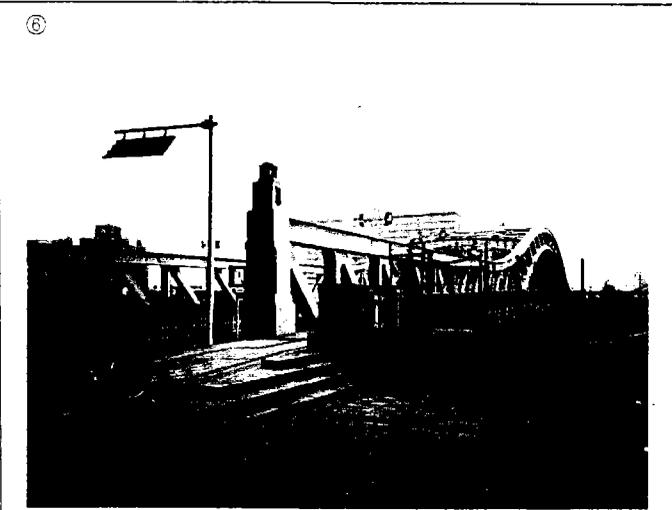
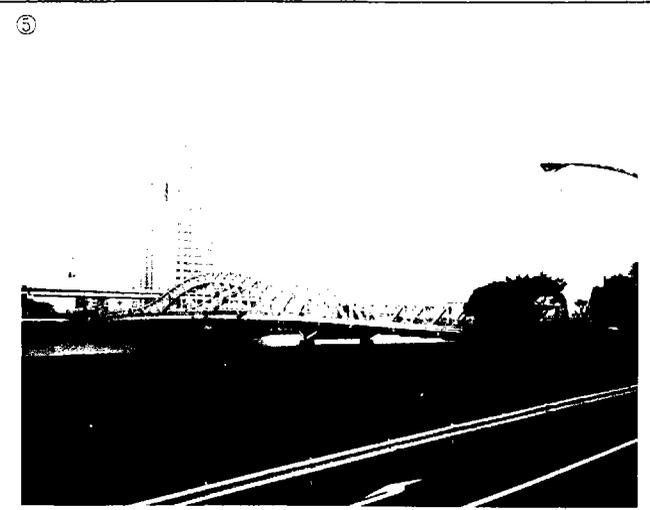
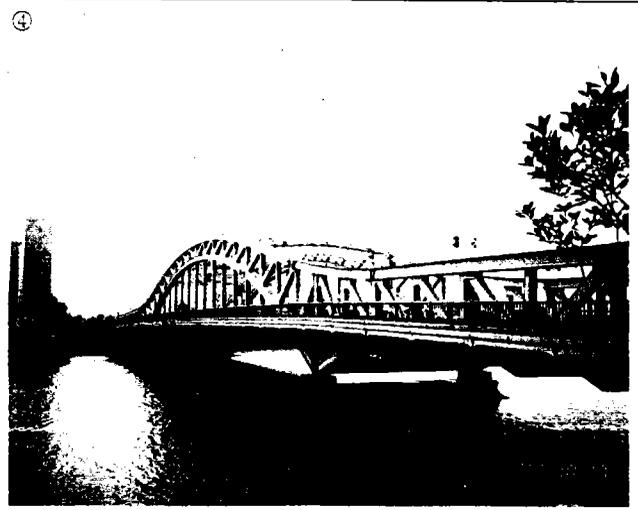
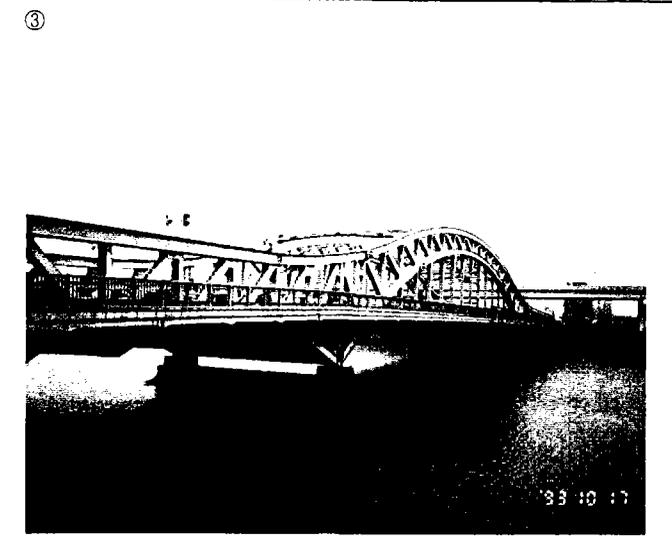
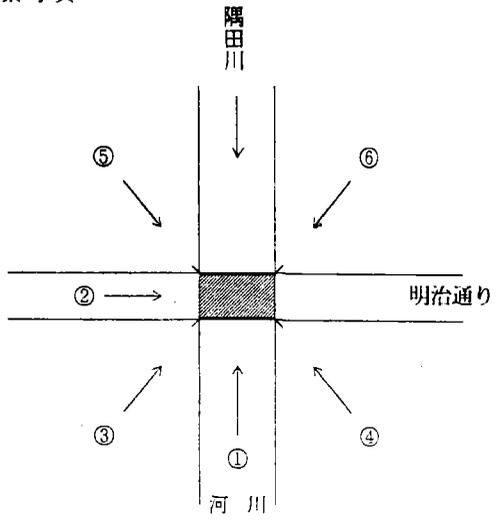
雑誌: 「橋梁と基礎」 (昭和62年8月)

# 文化財的橋梁調査票

整理番号 - 2

橋梁全景写真

凡例

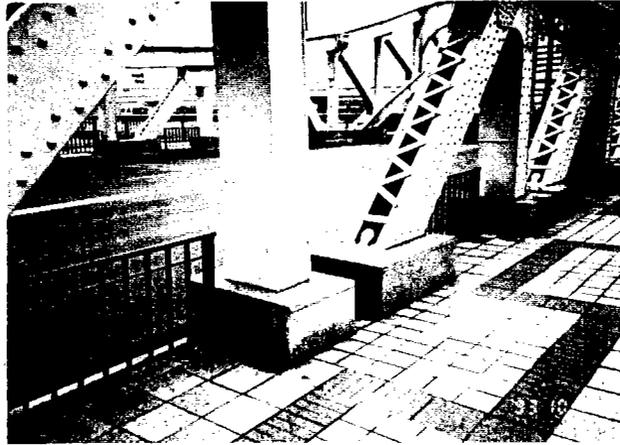


整理番号 - 3

ディテール



重厚だがすっきりした歩道部高欄



石張で化粧された歩・車道境界部の腹材



上弦材上の照明灯とゲルバーヒンジ部



パターン配列の歩道部橋面工と端柱



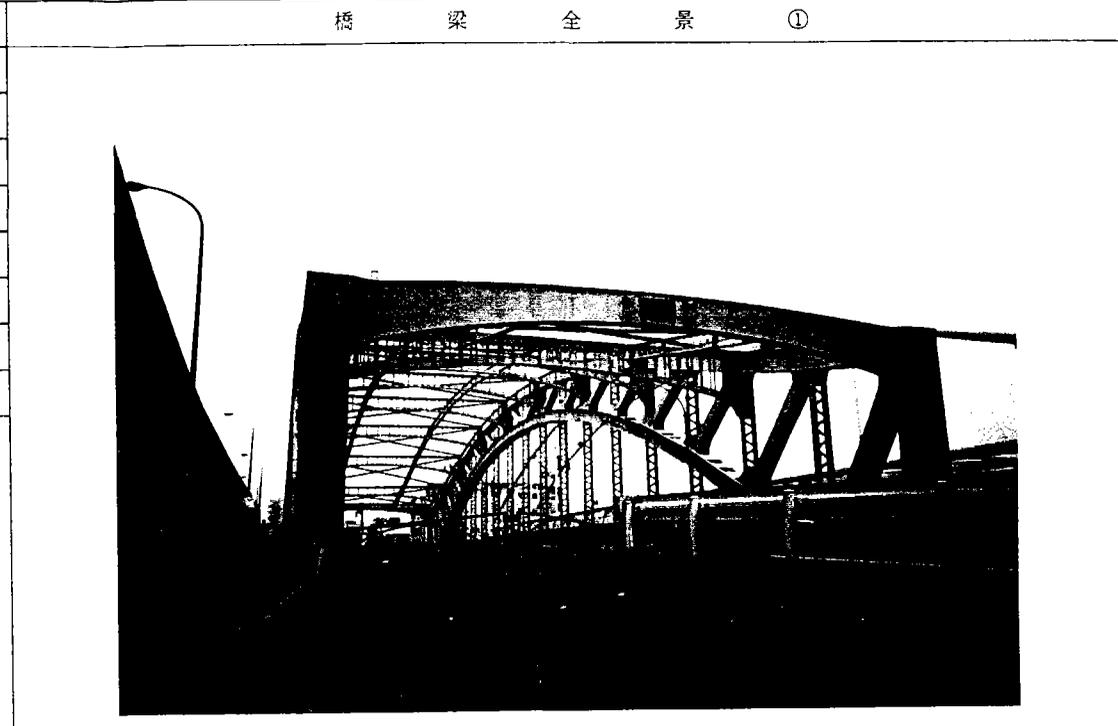
意匠に凝った上横構



橋詰広場

# 文化財的橋梁調査票

整理番号	- 1
橋名	千住大橋
所在地	東京都荒川区千住6丁目～足立区千住橋戸町
河川名	隅田川
橋梁形式	下路トラスドリブ・タイドアーチ
橋長(最大支間長)	93.0m (88.0m)
竣工年	昭和2年12月
管理者	建設省 (連絡先)



**文化財橋梁とする理由**

“帝都”復興期(大正12年～昭和5年)に隅田川に架けられた下路トラスドリブ・タイドアーチ。  
 その堂々たる風格によって地域のシンボリック存在となったうえ、幹線道路(奥州街道)にかかるため「陸路の帝都の門」(第一北門)とも呼ばれていた。  
 現存する同タイプの橋梁では、最も古い橋のひとつ。

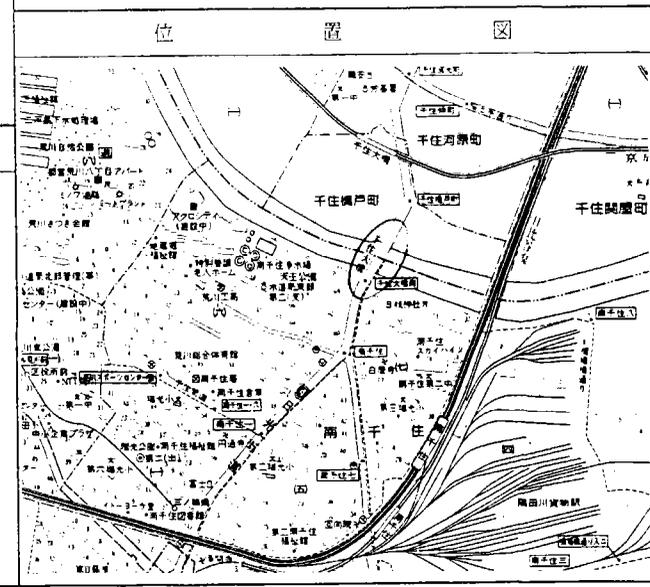
改良の履歴	
年月	改良の内容

**整備の考え方**

保存型

**周辺状況**

東京の典型的な下町の一つである南千住に近く、橋下の隅田川の両岸には、市場・浄水場・工場・倉庫等が並ぶ。昭和48年には、国道4号線の交通量増加のため、下流側に新しい橋(プレートガーダ橋)が副橋として架設されている。上流側にも、パイプランガー形式の水筒橋が近接している。



**現在の用途**

道路橋(国道4号)

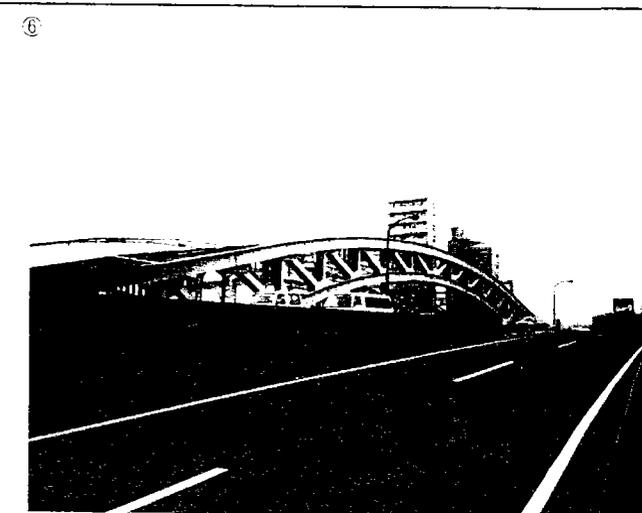
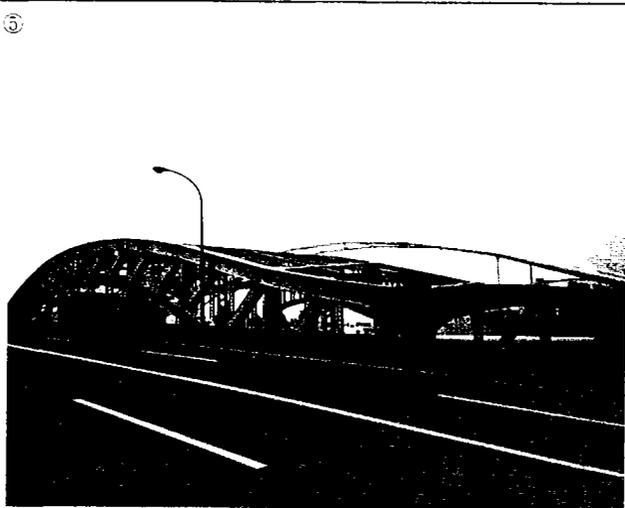
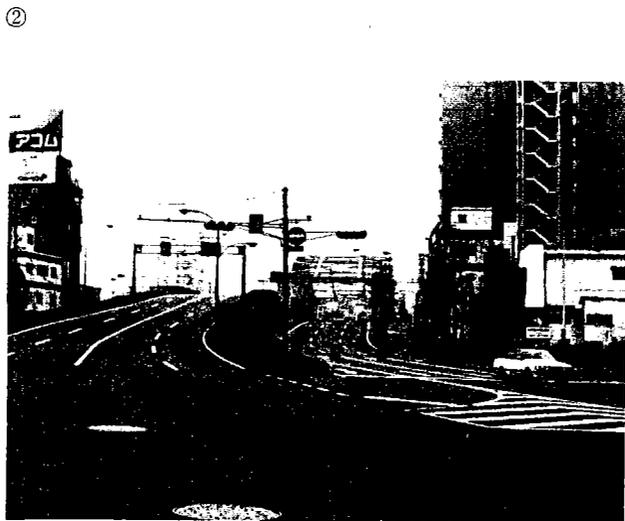
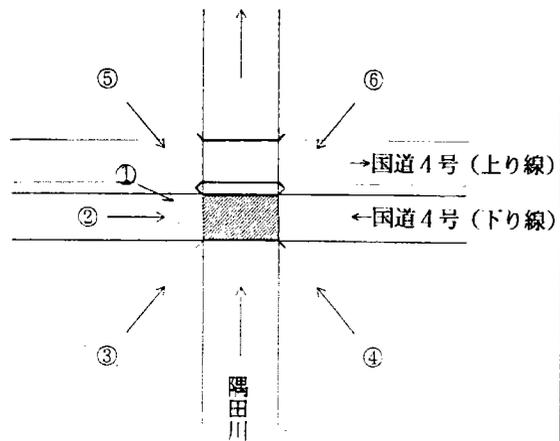
**参考文献**

「日本の橋」 日本橋梁建設協会 編  
 朝倉書店 (昭和59年)  
 「絵葉書に見る日本の橋」 土木図書館 編  
 拓植書房 (平成4年4月)  
 「東京の橋と景観」 東京都建設局 編  
 東京都情報連絡室 (昭和63年7月)  
 雑誌: 「橋梁と基礎」 (昭和62年8月)

整理番号 - 2

橋梁全景写真

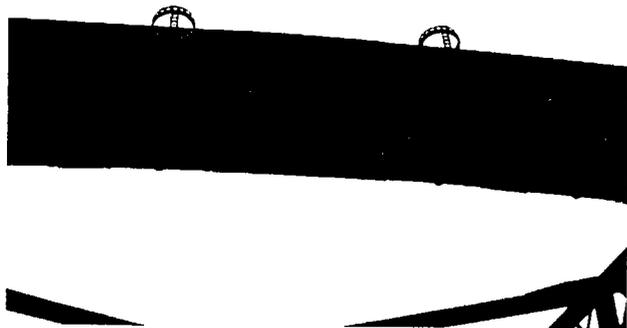
凡例



整理番号

- 3

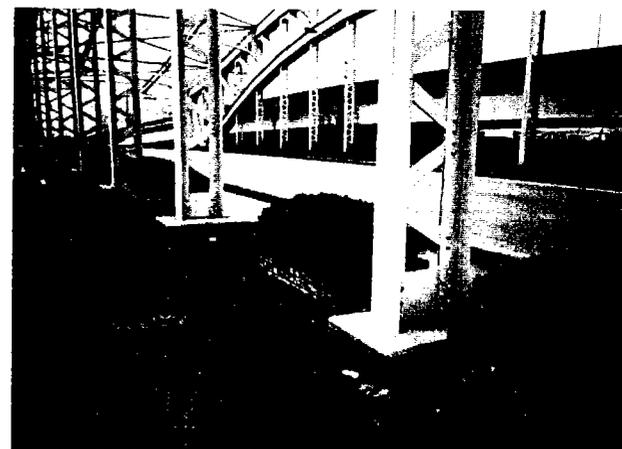
ディテール



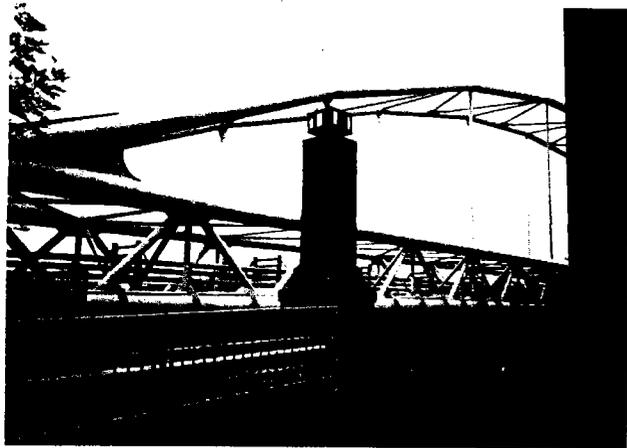
“橋大”と刻まれた橋名板と橋灯のブラケット  
(橋門構中央部)



歩道部の高欄



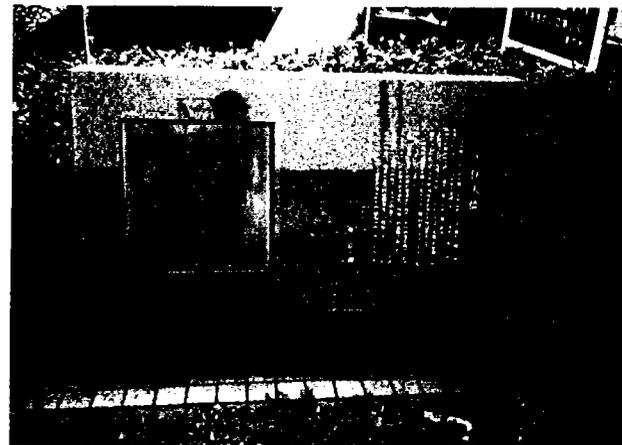
歩・車道境界に設けられた植栽



石張りの親柱



意匠に凝った上横構



橋詰にある千住大橋の由来碑

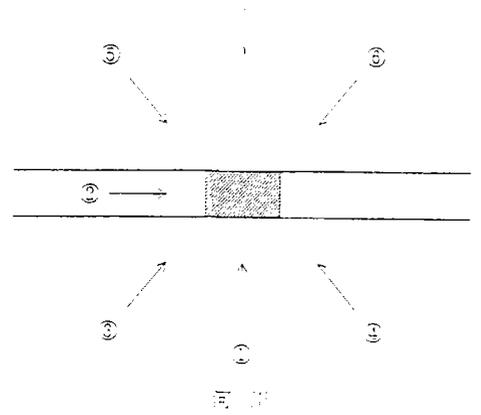


# 文化財的橋梁調査票

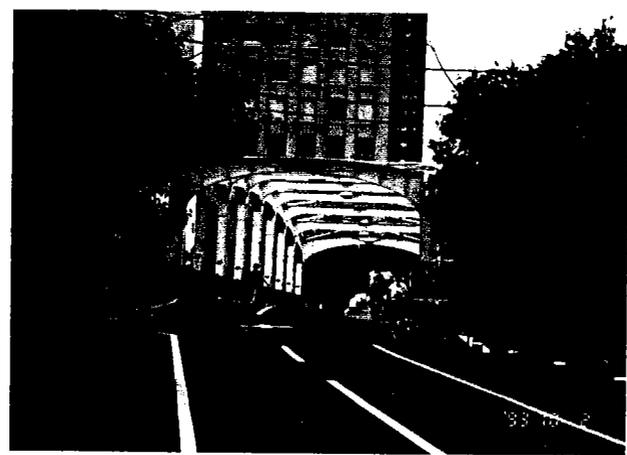
整理番号 -2

橋梁合景写真

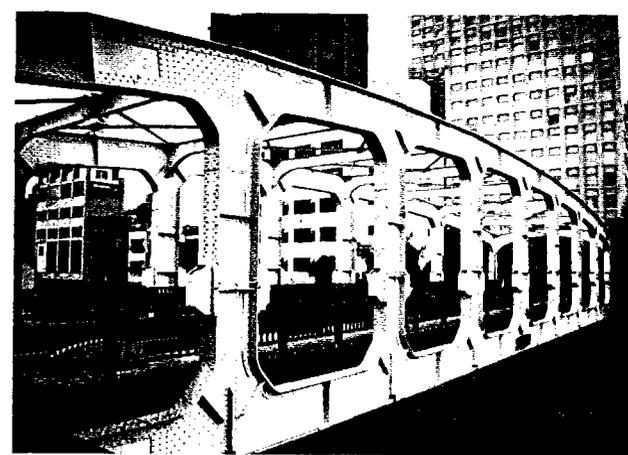
2例



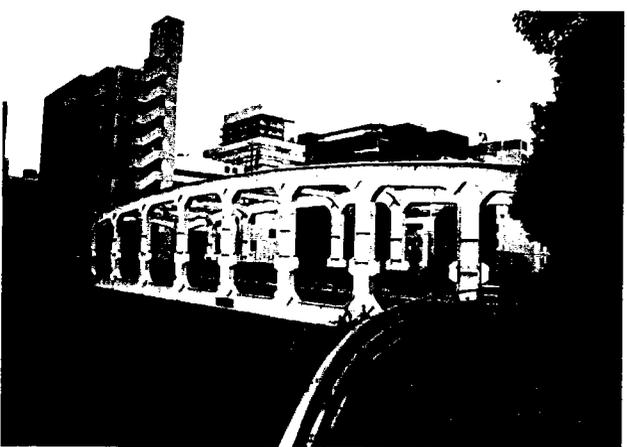
②



③



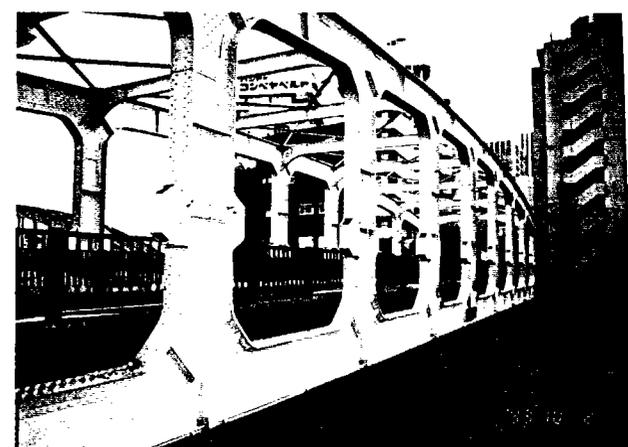
④



⑤



⑥

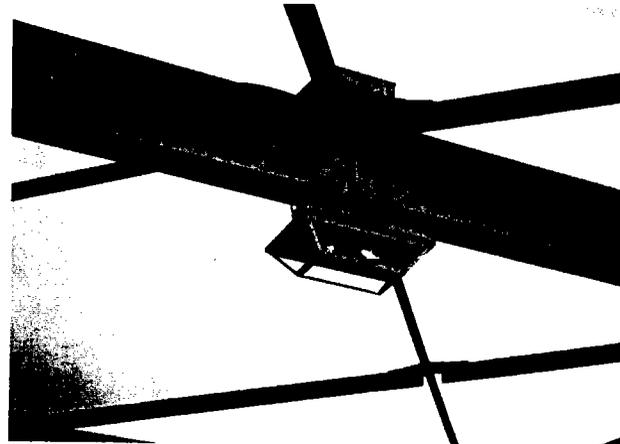


# 文化財的橋梁調査票

ディテール



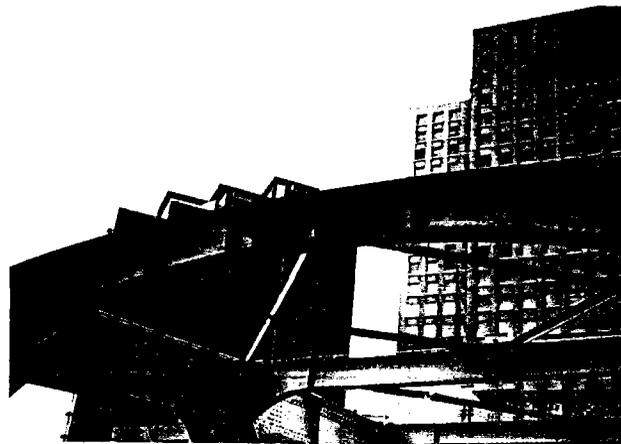
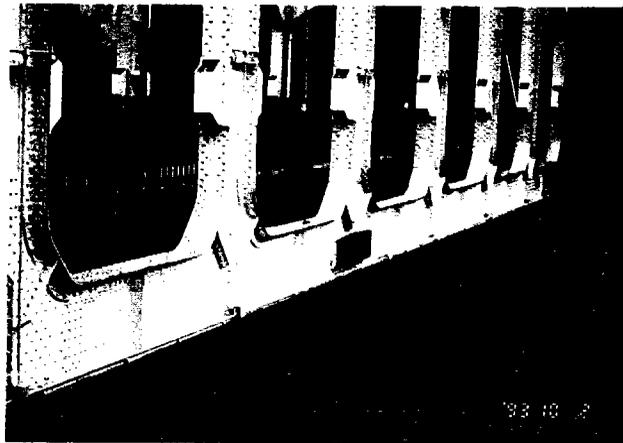
垂直材付照明



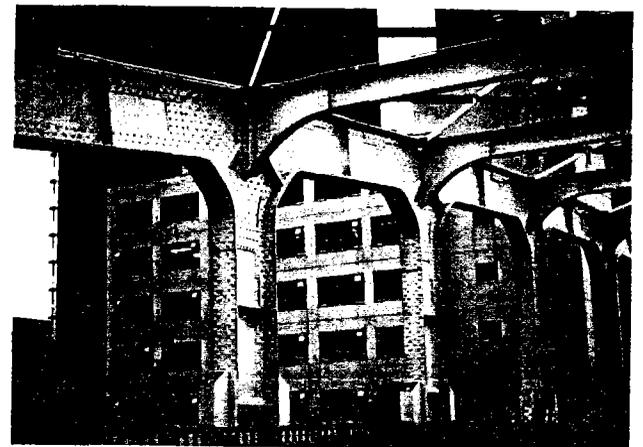
上横フレーム付照明



高欄 歩道



橋名板



# 文化財的橋梁調査票

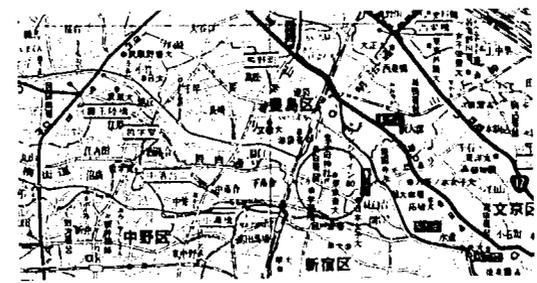
整理番号	- 1
橋名	千登世橋
所在地	東京都豊島区目白1丁目6番地～雑司が谷2丁目6番地
河川名	目白通り（明治通り）
橋梁形式	鋼上路式 2ヒンジアーチ橋
橋長（最大支間長）	27.963m
竣工年	昭和7年
管理者	東京都建設局第四建設事務所（連絡先 03-3947-3141）

## 橋梁全景 ①



文化財橋梁とする理由	改良の履歴	
1. 昭和初期に架けられた幹線道路の立体交差橋である。 2. 橋梁形式は個性的で、景観的に優れた鋼上路式2ヒンジアーチ橋である。	年月	改良の内容
		平成3年
	整備の考え方	
	・保全型	

## 位置図



## 現在の用途

・道路橋（目白通り・明治通り）

周辺状況
千登世橋に接続する千登世小橋の下を都電が走る。

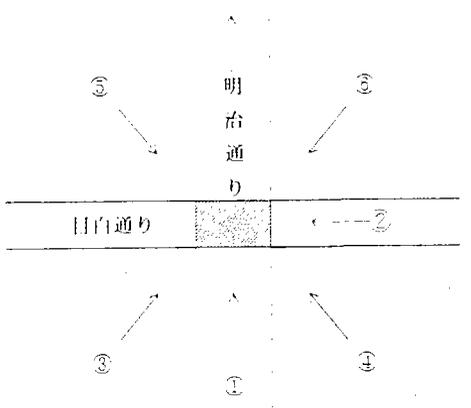
## 参考文献

- ・ふるさと東京の橋  
（平成元年1月東京都）
- ・著名橋整備工事（千登世橋）  
（平成3年3月  
東京都第四建設事務所）

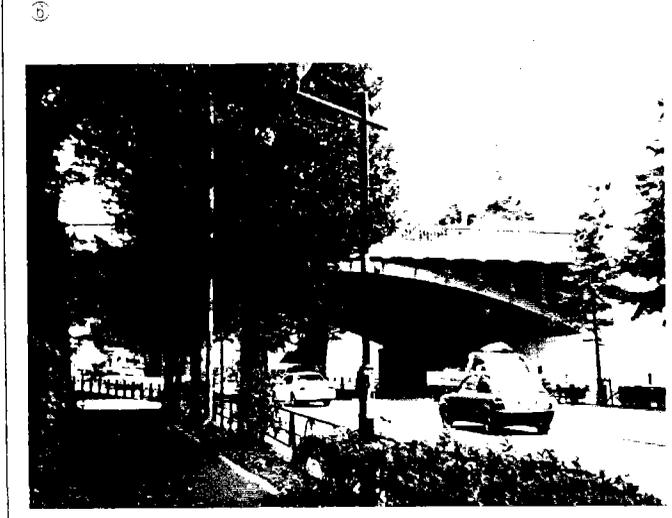
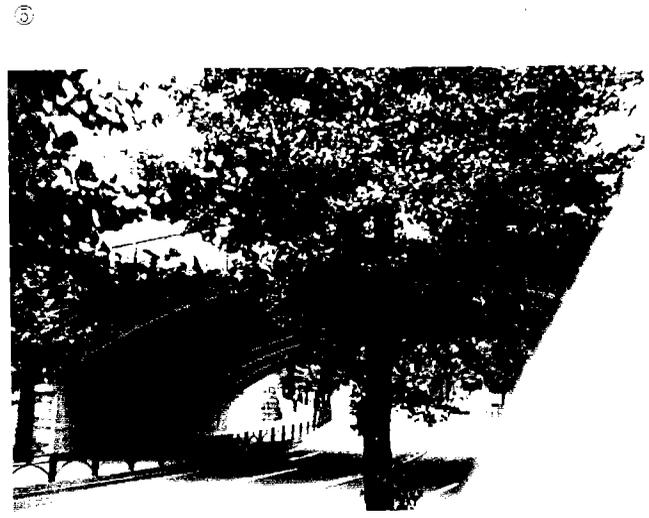
整理番号 - 2

橋梁全景写真

凡例



JR目白駅側より早稲田方面を見る



整理番号 - 3

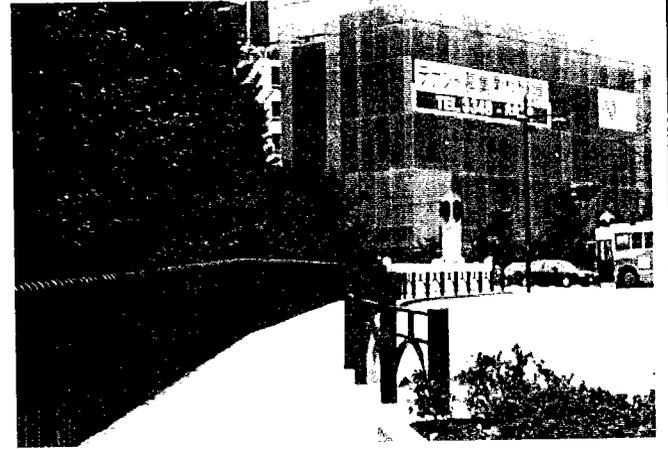
ディテール



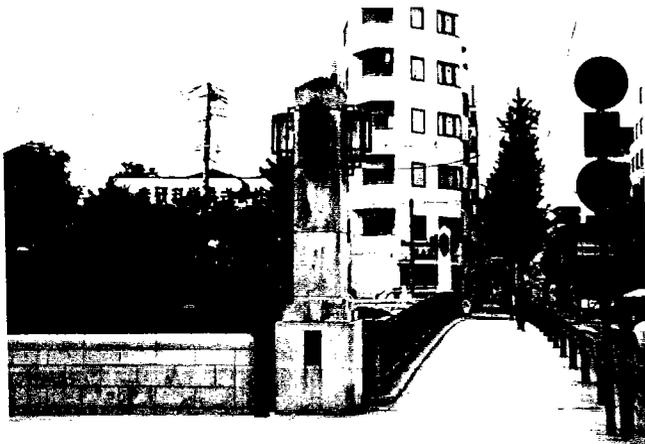
横断防止柵（アーチをモチーフ）



高欄



取付け道路部の高欄



親柱



親柱と照明灯

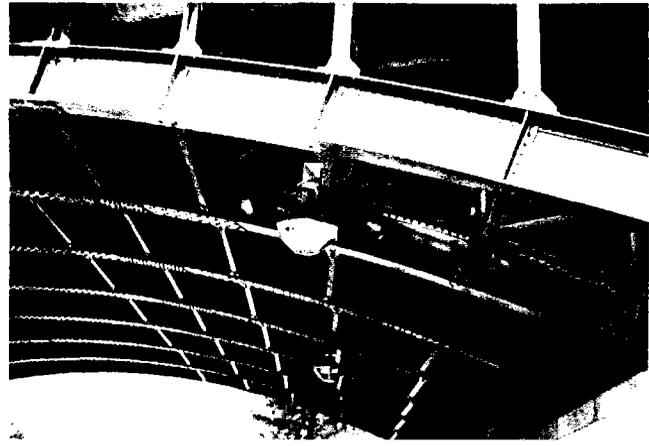


橋詰広場

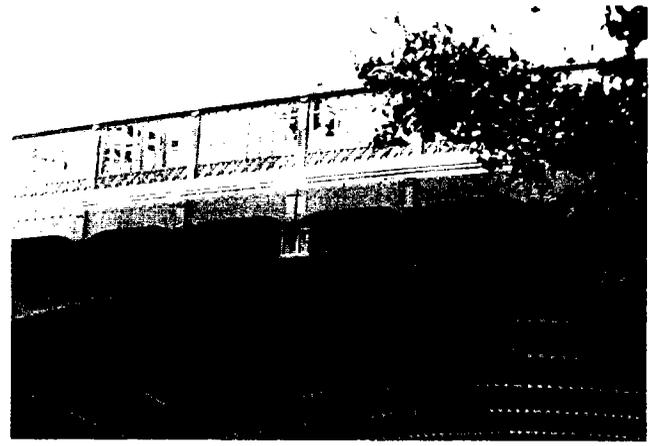
文化財的橋梁調査票

整理番号

ディテール



桁下照明の復元



橋側燈の復元



照明灯

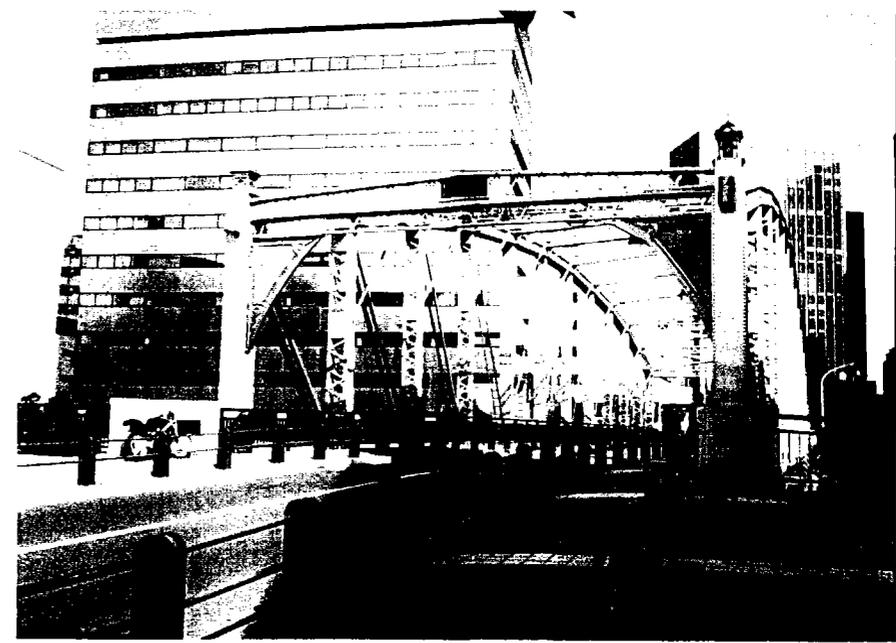


排水管のカバー

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	- 1
橋名(路線名)	南高橋
所在地	東京都中央区湊1丁目～中央区新川2丁目
橋梁形式	プラットラス (高架橋・河川橋・他)
竣工年月	昭和7年3月
施主	概算工事費
設計業者名	
施工業者名	
修景プロジェクト名	

## 橋 梁 全 景



修景が行われた理由	特 徴
	<p>本橋は、亀島橋の河口に位置し関東大震災の復興事業の一つとして昭和7年に架けられた。橋体部は、明治37年に架けられた旧両国橋の中央径間を利用したものであり、道路橋として利用されている橋梁で、都内最古である。</p>

## 修 景 内 容

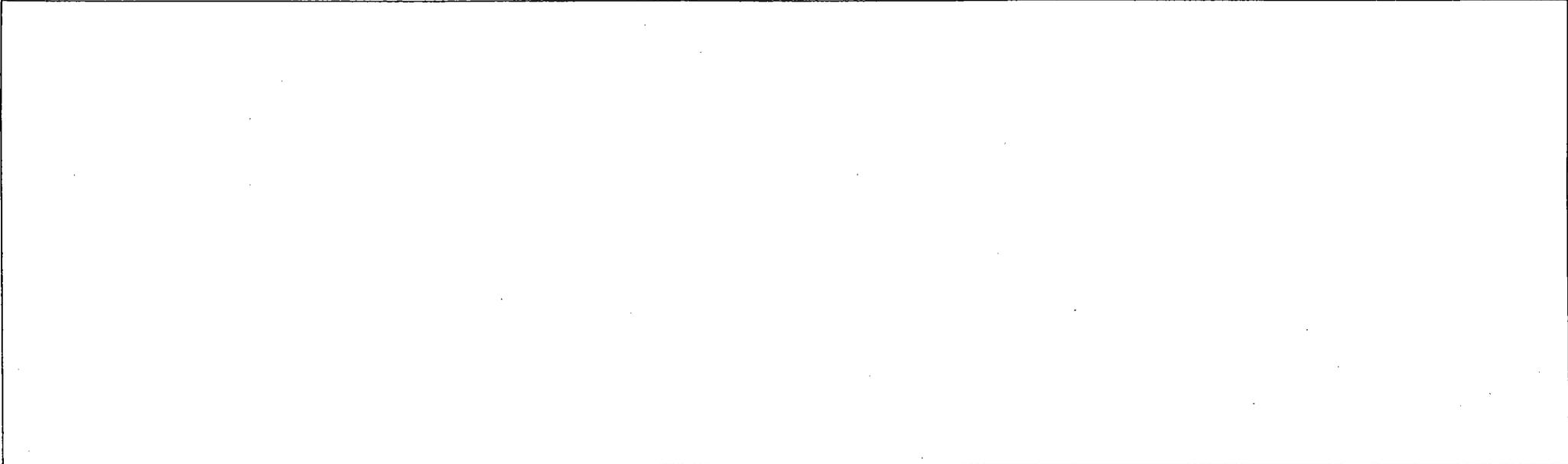
項 目	内 容	写真番号
橋詰広場	自然石を敷き、石のベンチを設けてある。	1
高 欄	鋳物支柱。	2
案内板	南高橋の由来が名記されている。	3

# 既存橋梁の修景実態調査票

ページ	45
調査者	仲村 誠

整理番号 - 2

全 体 一 般 図



位 置 図

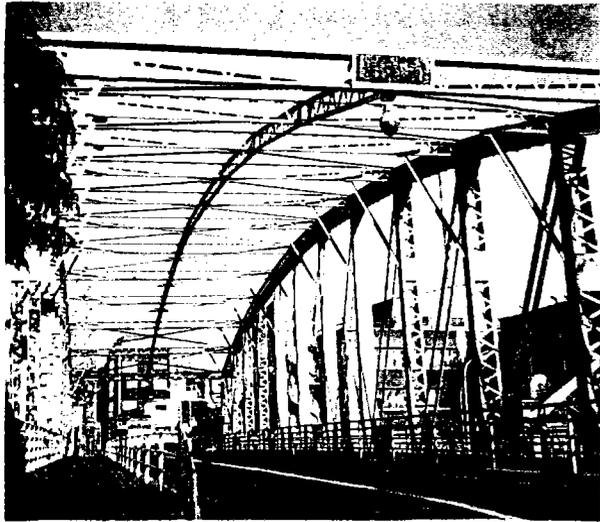
周 辺 状 況



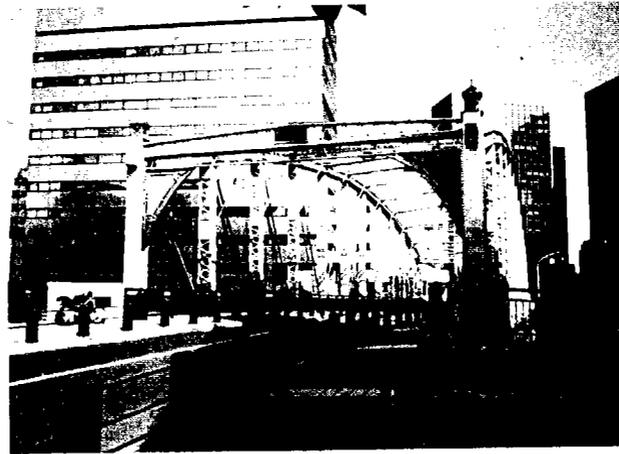
・本橋付近は、オフィスビルが多く、近くには鉄砲州神社がある。

整理番号 - 3

修景前全景

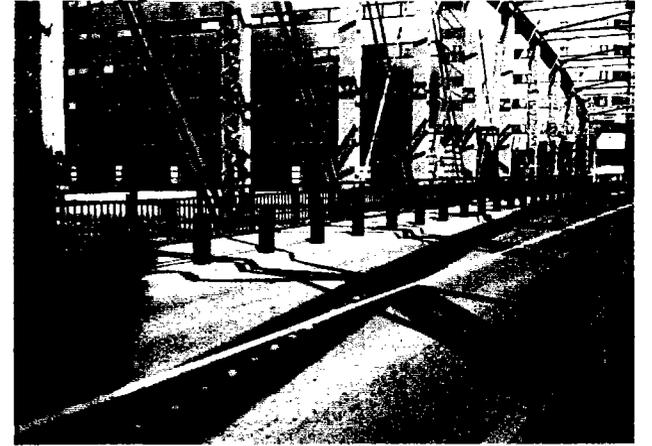


①



橋詰広場

②



高欄・横断防止さく

③



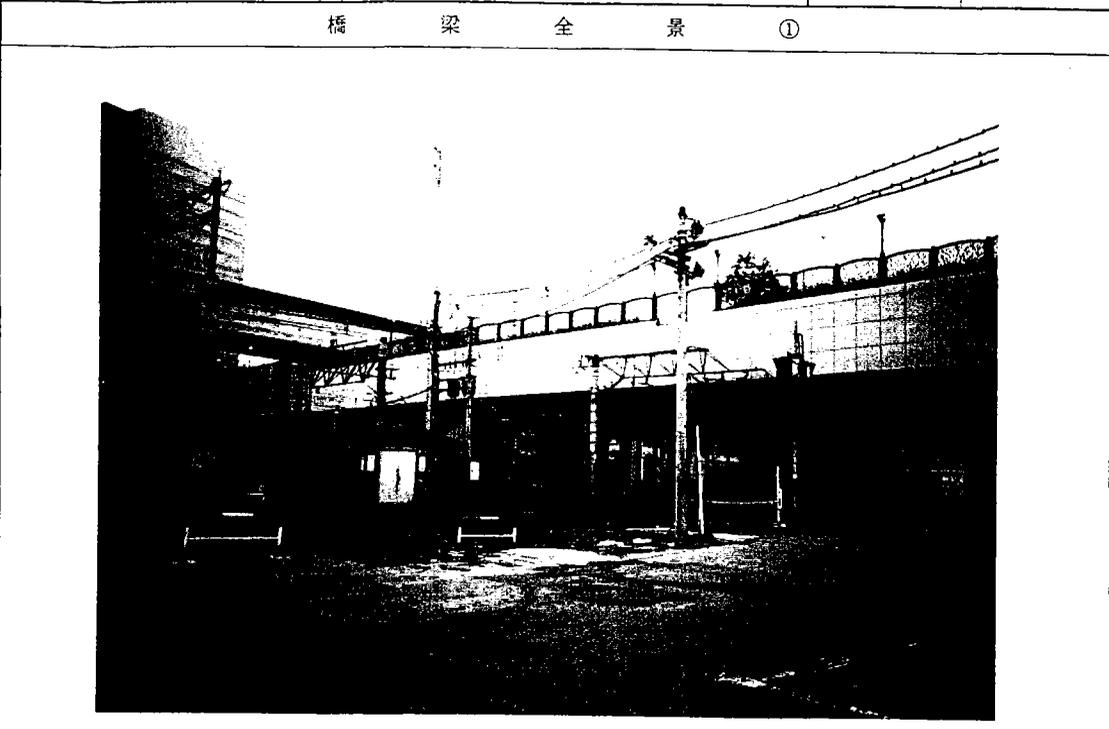
案内板

④

⑤

# 文化財的橋梁調査票

整理番号	- 1
橋名	田端ふれあい橋 (旧田端大橋)
所在地	東京都 北区田端1丁目～東田端1丁目
河川名	JR山手線・京浜東北線・操車場
橋梁形式	3径間ゲルバー式ラーメン
橋長(最大支間長)	135.0m (40.5m+53.0m+40.5m)
竣工年	昭和10年12月
管理者	東京都北区 (連絡先)



文化財橋梁とする理由

日本初の本格的な全溶接橋梁で、現場継手を含めすべてを溶接構造としている。継手の溶接は、当時の軍艦の溶接技術に応用したものである。

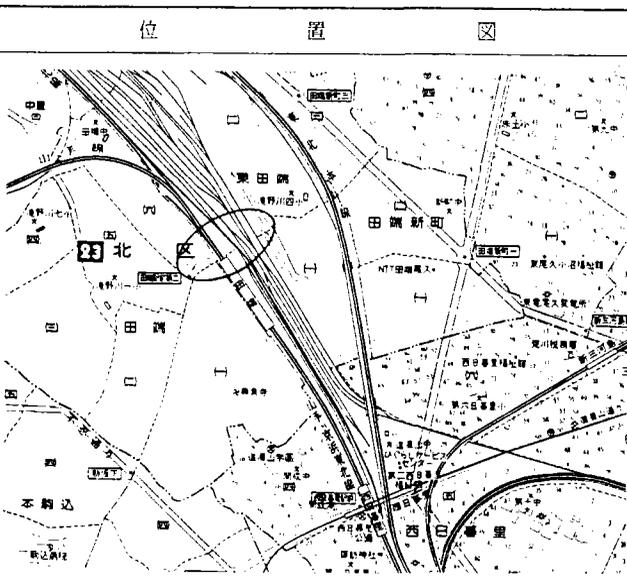
改良の履歴	
年月	改良の内容
平成4年3月	中路式の道路橋から上路式の歩道橋に全面変更。 ・旧RC床版の撤去 ・橋体塗装 ・床組新設 ・側面化粧板 ・植栽 ・街路灯 ・高欄

周辺状況

東京都北区の南東部、JR田端駅北口に面し新田端大橋(3径間連続箱桁橋)が併設されている。橋下をJR山手線・京浜東北線が通り操車場もある、一方橋上にはJR東北・上越新幹線の高架橋が走る。

整備の考え方

改良型  
 新田端大橋の完成と同時に取り壊す計画だったが、歴史的な価値があり整備すればまだまだ使えると判断した北区が再整備に乗り出し1993年3月に東京都から北区へ移管された。田端大橋はもともと中路形式で、車道と歩道が主桁で仕切られていたが、橋面を出来だけ広くしてもらうことを住民が望んでいたのものでそれまで使っていた床版を撤去し、主桁の上に新しい床版を載せ、幅員をいっばいに使った橋面整備を行うこととなった。歴史的な価値にも注目しているものの、利用形態の方をより重視した改良型の整備と言える。



現在の用途

歩行者専用橋

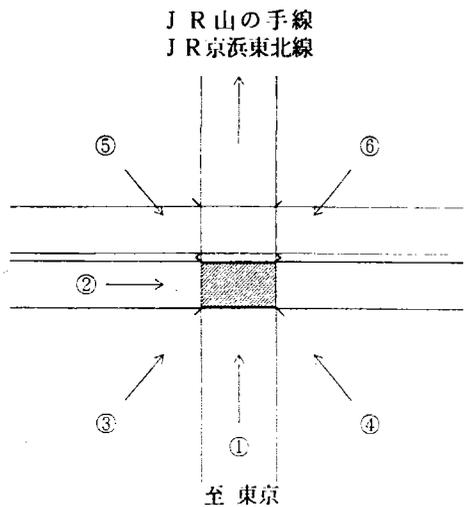
参考文献

「日本の橋」 日本橋梁建設協会 編  
 朝倉書店 (昭和59年)  
 雑誌: 「日経コンストラクション」  
 (1992年6月26日号)

整理番号 - 2

橋梁全景写真

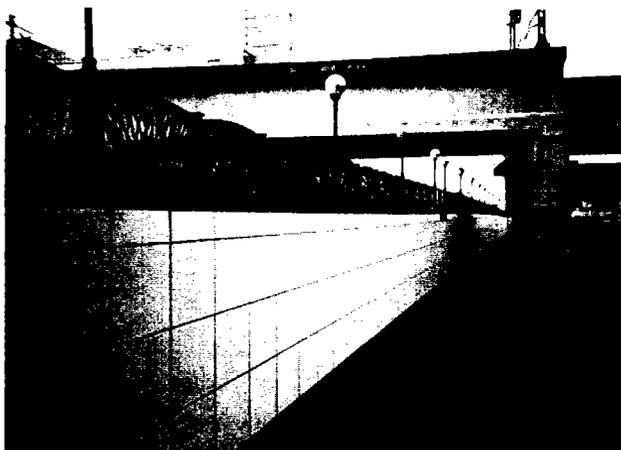
凡例



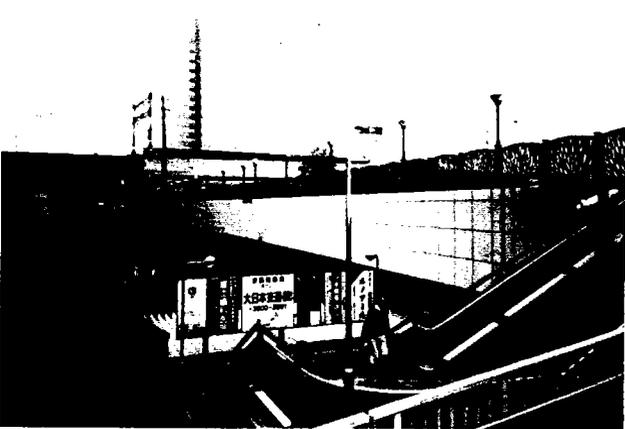
②



③



④



⑤

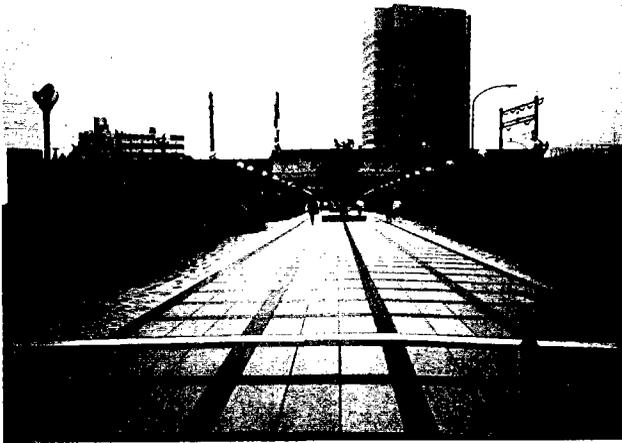


⑥



整理番号	- 3
------	-----

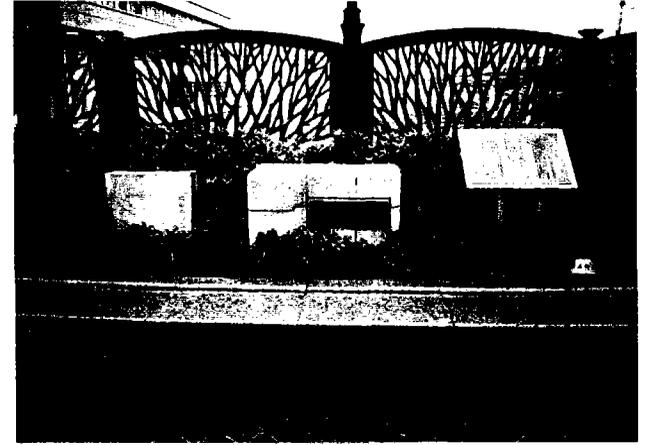
ディテール



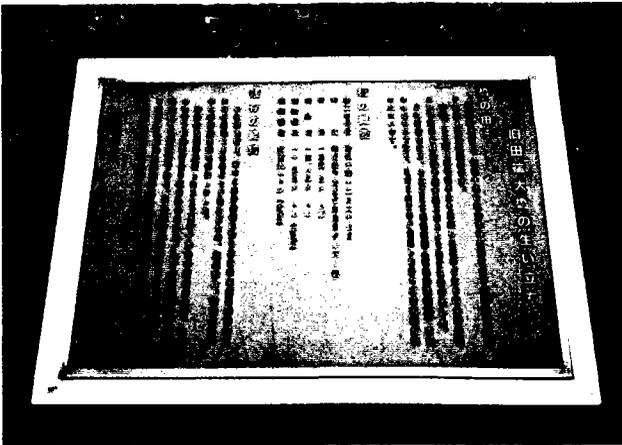
化粧タイルを使用した橋面舗装



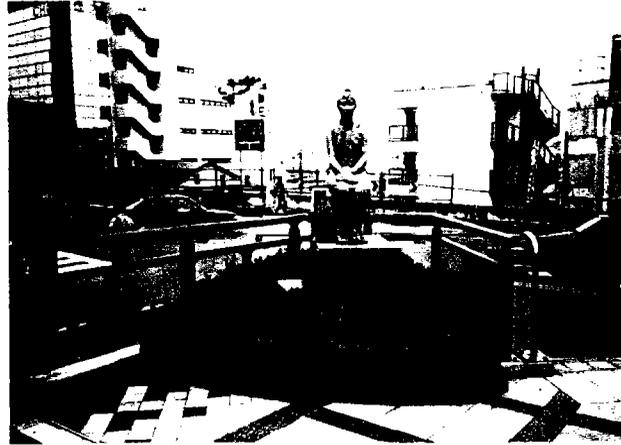
透明板のはめ込まれた高欄と街路灯



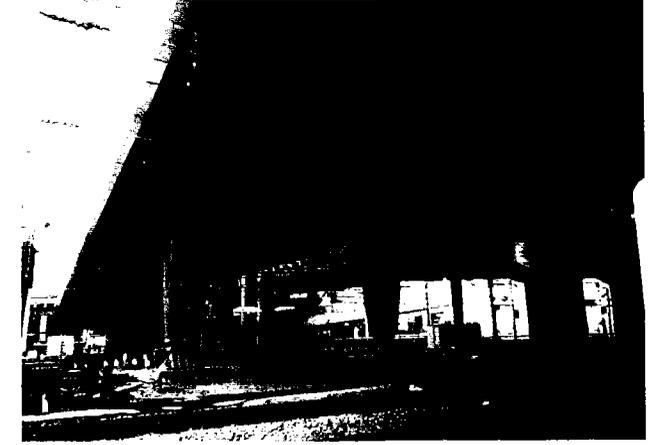
ベンチを兼ねた植栽と橋名板



橋の由来板



植栽とブロンズ像

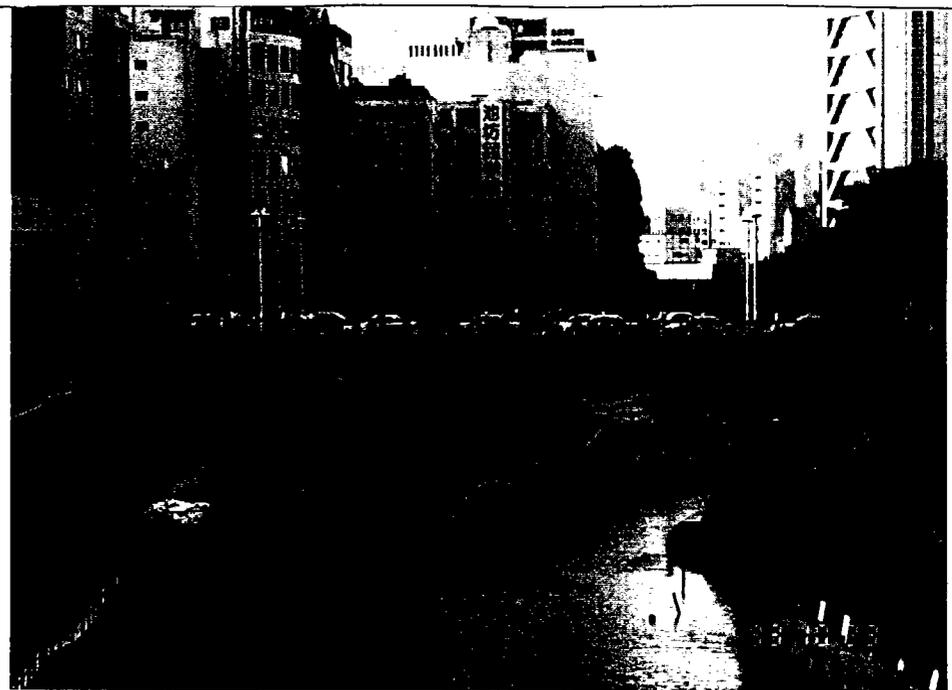


旧田端大橋の面影がわかる桁裏

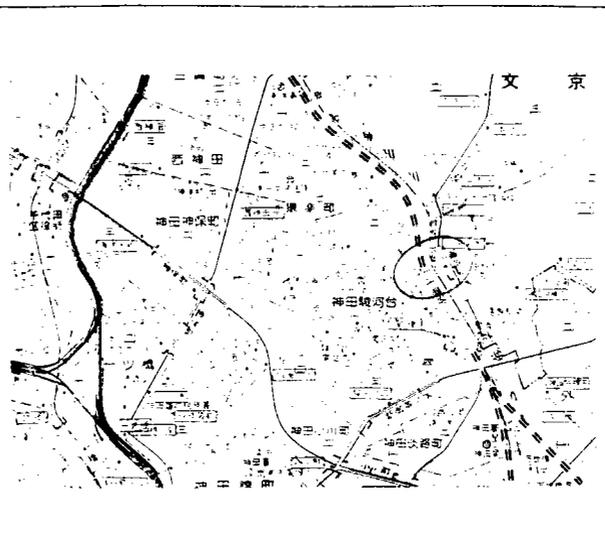
# 文化財的橋梁調査票

整理番号	- 1
橋名	御茶の水橋
所在地	御茶の水一丁目
河川名	神田川
橋梁形式	ラーメン
橋長(最大支間長)	
竣工年	昭和7年
管理者	(連絡先 )

橋 梁 全 景 ①



位 置 図



現 在 の 用 途

道 路 橋

参 考 文 献

「絵葉書に見る日本の橋」  
土木図書館 編 柘植書店

文化財橋梁とする理由

明治24年に最初の橋が架けられ、橋上から神田川を望む景観は、東京を代表する景観である。

改 良 の 履 歴

年月	改良の内容
	高欄

整 備 パ タ ー ン

保 全 型

周 辺 状 況

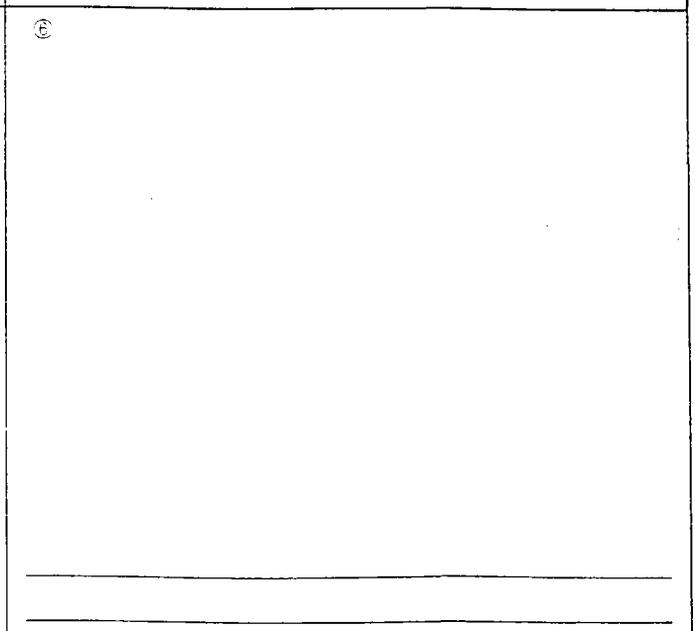
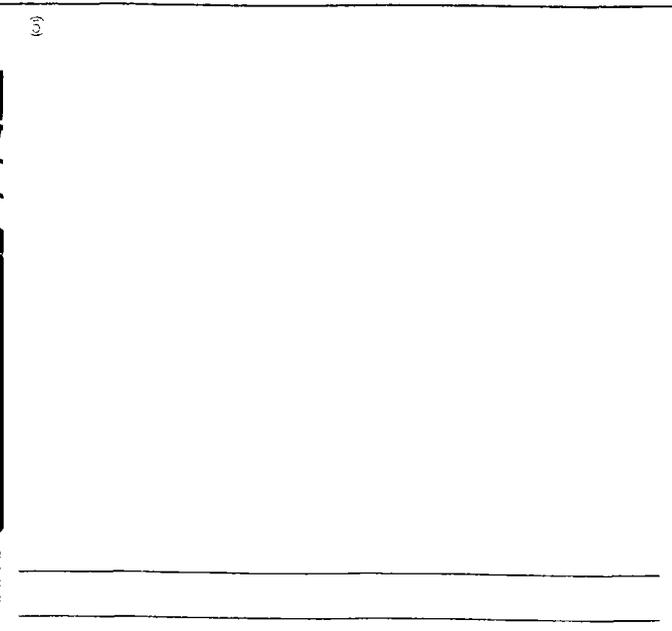
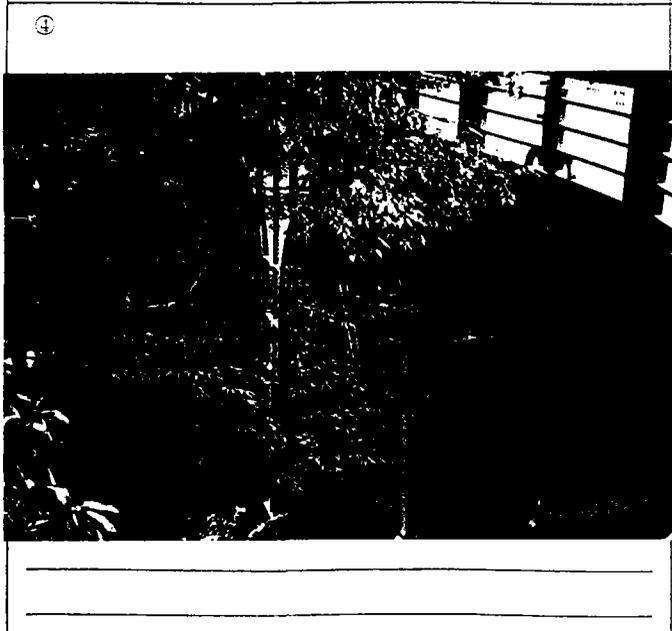
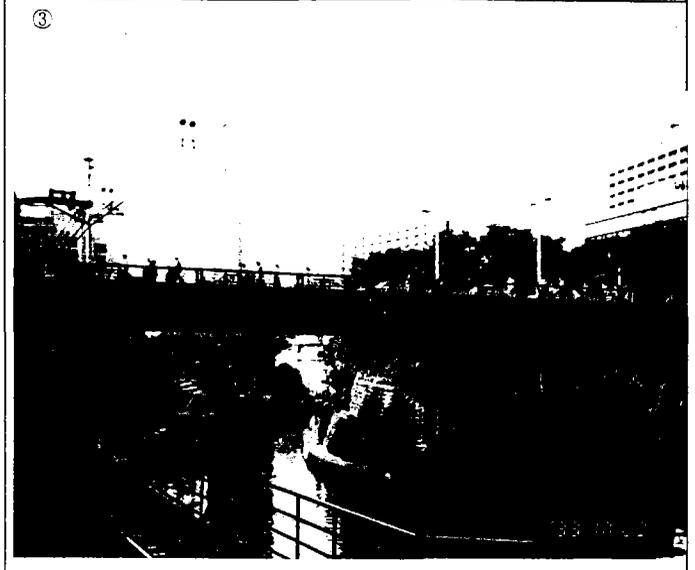
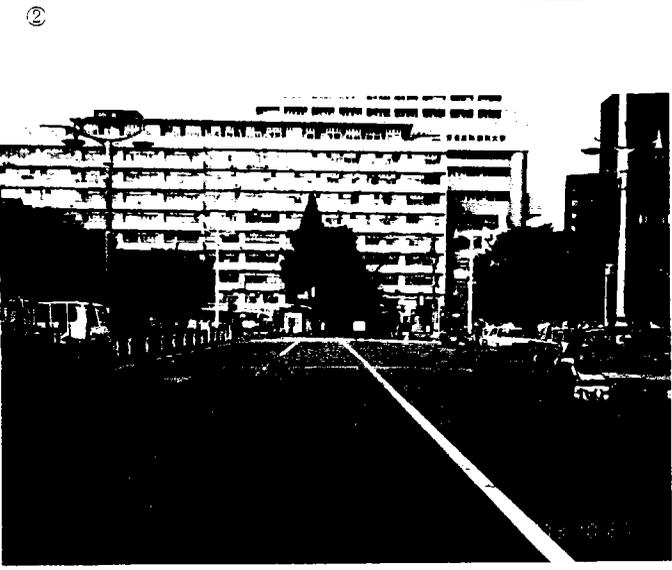
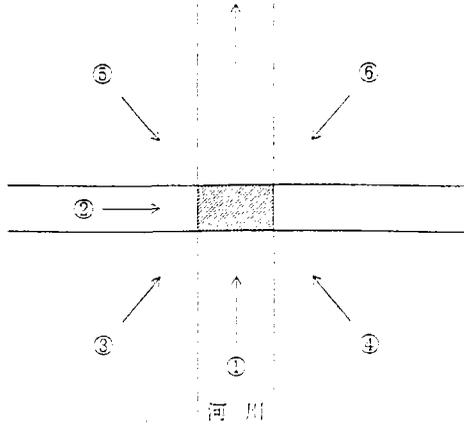
すぐ隣には聖橋があり、どちらかと言えばそちらの方が目立っている。

# 文化財的橋梁調査票

整理番号 - 2

橋梁全景写真

凡例



文化財的橋梁調査票

ページ	52
調査者	石原大裕

整理番号	- 3
------	-----

ディテール



高欄

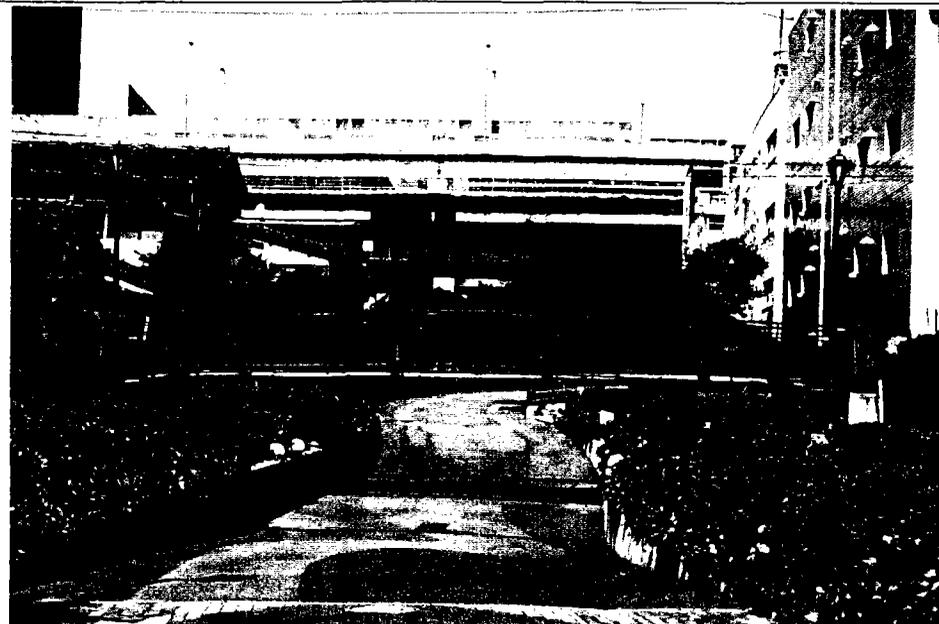


# 文化財的橋梁調査票

調査者 駒井鉄工株式会社  
石川貴雄

整理番号	-1
橋名	八幡橋 (旧弾正橋)
所在地	東京都江東区富岡二丁目
河川名	公園をまたぐ橋
橋梁形式	トランスアーチ
橋長(最大支間長)	15.2m
竣工年	明治11年(昭和4年に富岡八幡の東隣りに移設後八幡橋となる。)
管理者	東京都江東区

## 橋梁全景 ①



### 文化財橋梁とする理由

1. 重要文化財(建築物)
2. 日本最初の鉄橋(鉄鋼混合橋)
3. 現存する鉄橋では最古に属するもの。
4. 鉄鋼橋から煉鉄橋に至る過渡期の鉄橋として近代橋梁史上貴重なもの。  
直材(鉄鋼製)引張材(煉鉄製)

### 改良の履歴

年月	改良の内容

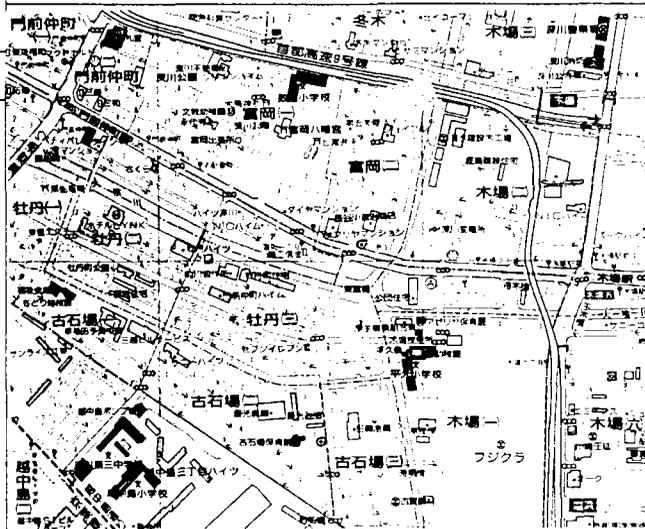
### 整備パターン

保全型

### 周辺状況

富岡八幡宮の東隣りの公園をまたぐ形で架けられている。  
もともとこの公園は油堀川東支川であったが埋められて公園となった。

### 位置図



### 現在の用途

歩道橋

### 参考文献

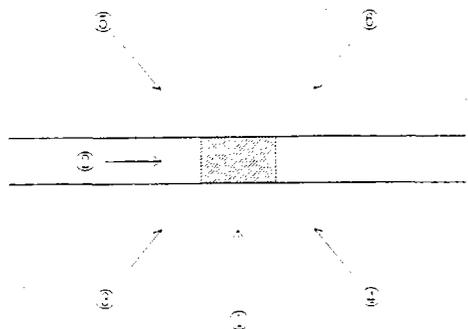
橋梁と基礎 1987年8月

# 文化財的橋梁調査票

整理番号 -2

橋梁全景写真

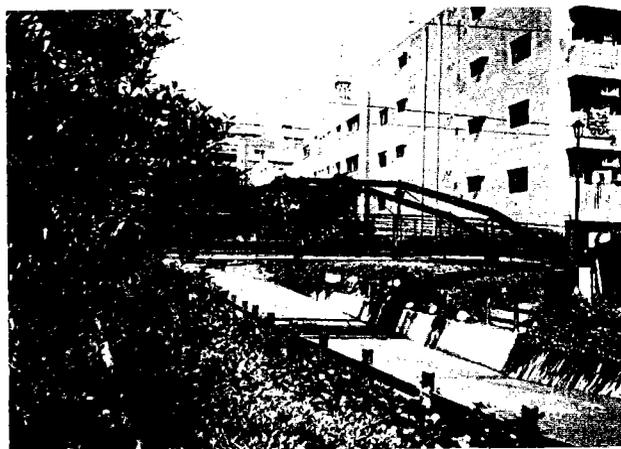
凡例



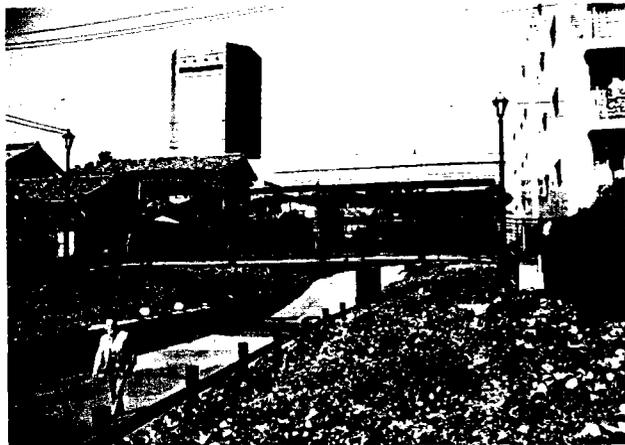
②



③



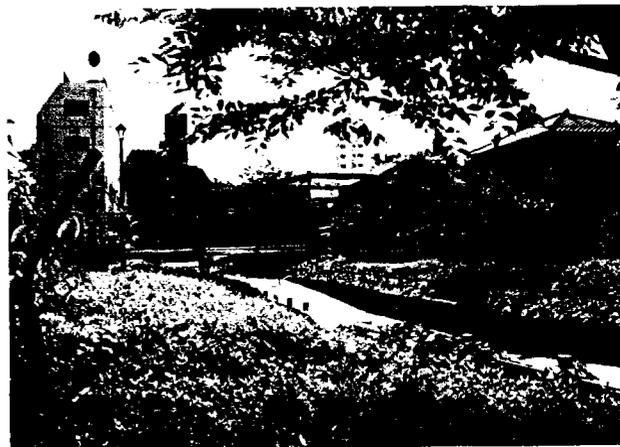
④



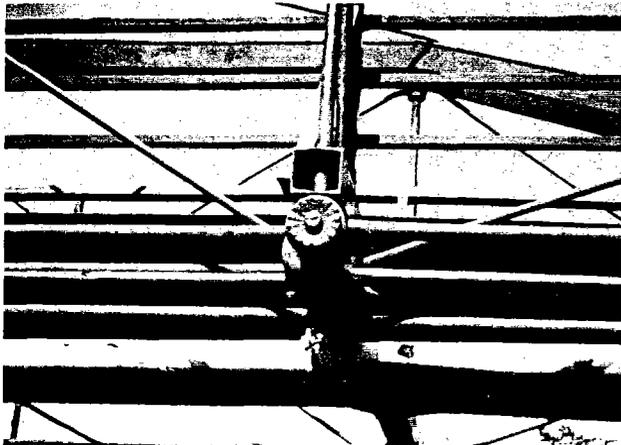
⑤



⑥



ディテール



菊の紋



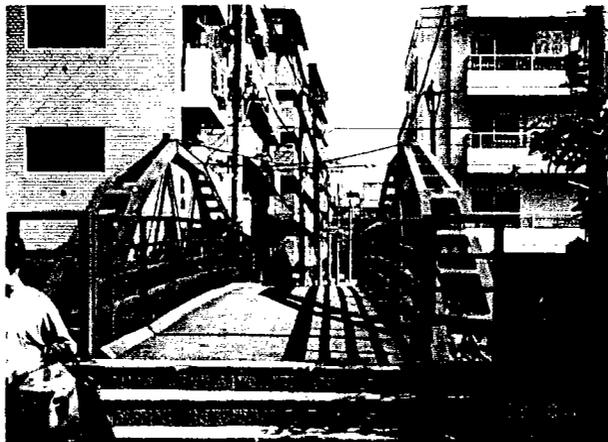
下弦材及びデッキを下からみて



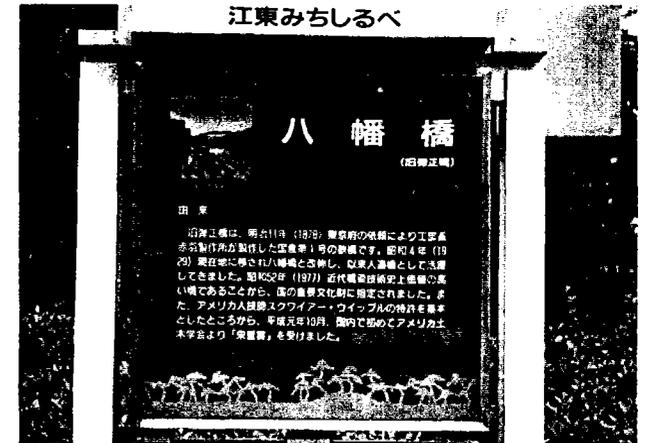
支承



デッキ下面



上横構がついていて通行に不便



江東みちしるべ

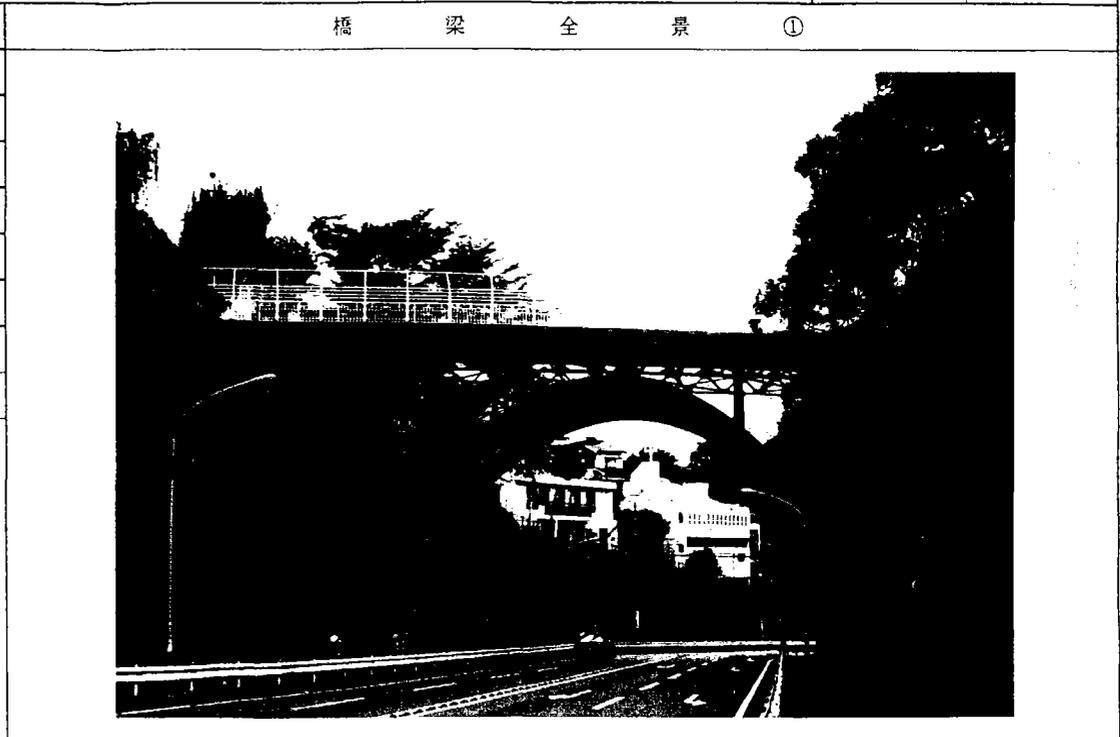
八幡橋

(旧橋正橋)

田 原  
沼津工場は、明治11年(1878)東京府の地盤により工寮を  
築き製作所が製作した型車1号の製橋です。昭和4年(19  
29)現在地に移され八幡橋と改称し、以来八幡橋として活躍  
してきました。昭和27年(1977)近代橋梁技術史上最高の美  
し味であることから、国の重要文化財に指定されました。ま  
た、アメリカ人建築士ウィリアム・ワイルの設計を基本  
としたところから、平成元年10月、国内で初めてアメリカ工  
本字会より「名誉賞」を受けました。

# 文化財的橋梁調査票

整理番号	- 1
橋名	打越橋
所在地	横浜市中区山手町
河川名	(横浜駅根岸道路)
橋梁形式	上路アーチ
橋長(最大支間長)	38.1m (21.3m)
竣工年	昭和3年
管理者	(連絡先)



文化財橋梁とする理由	改良の履歴	
	年月	改良の内容
<p>小さい支間のアーチ橋ながら、側面形状には意匠的なくふうが施されている。神奈川の橋100選の中の1つ。</p> <p>①アーチ……桁高変化 ②床桁……ワーレントラス形式でガセットに曲線を使用し、なめらかさを演出している。 ④側縦桁……横桁(ブラケット)との交点に曲線を使用 ⑤橋台……石張り</p>		
	整備の考え方	
	保存型	

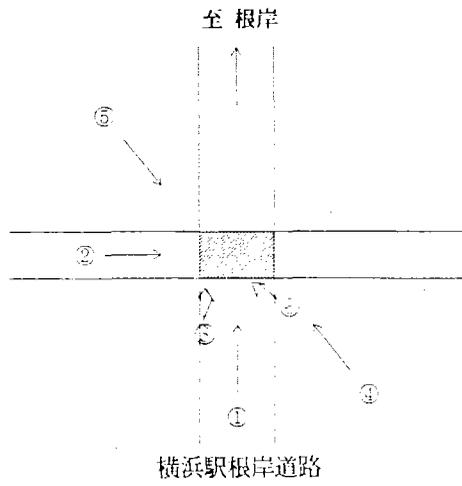
位置図	現在の用途
	道路橋
	参考文献
	「日本の橋」：日本橋梁建設協会 編 朝倉書店 (昭和59年)

周辺状況
<p>横浜市山手の閑静な住宅街だが、山手商店街も近い。 橋下は、伊勢佐木町から根岸森林公園方面への道路(横浜駅根岸道路)が通っている。</p>

整理番号 - 2

橋梁全景写真

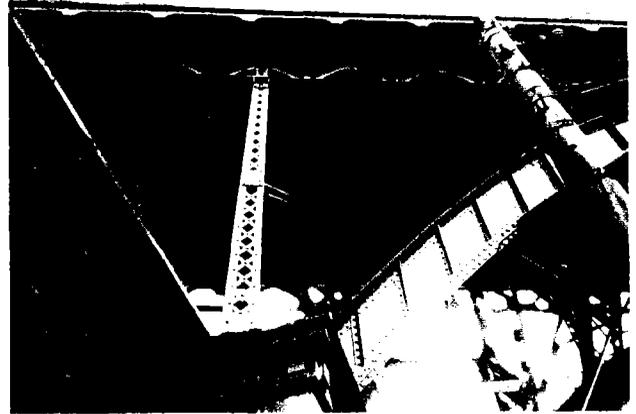
凡例



②



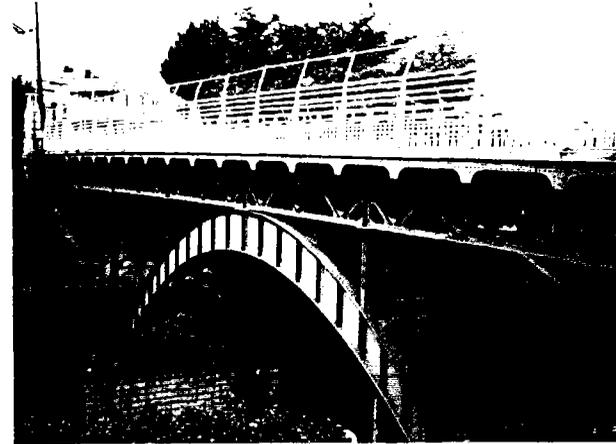
③



④



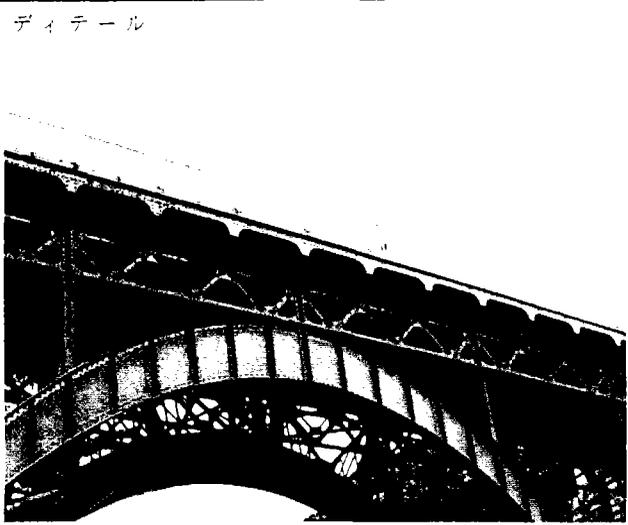
⑤



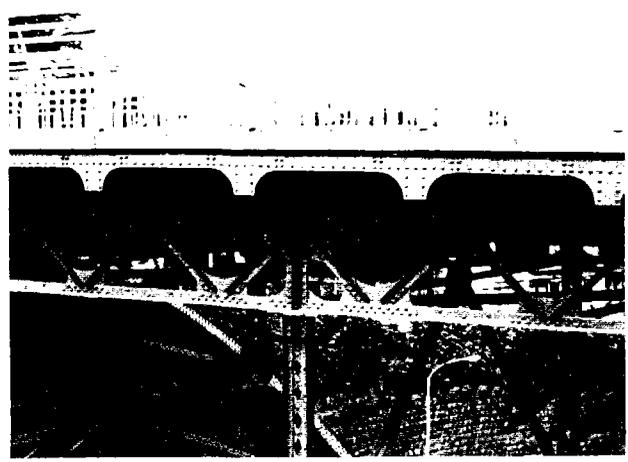
⑥



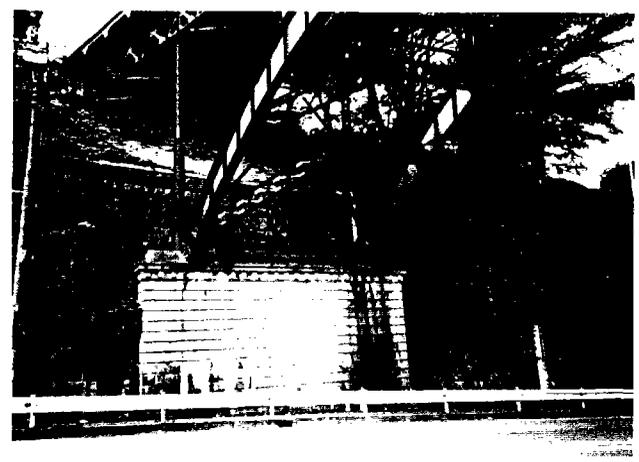
整理番号 - 3



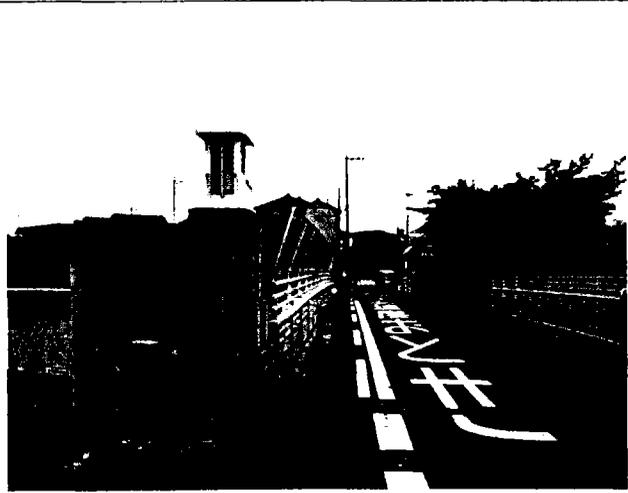
アーチクラウン部



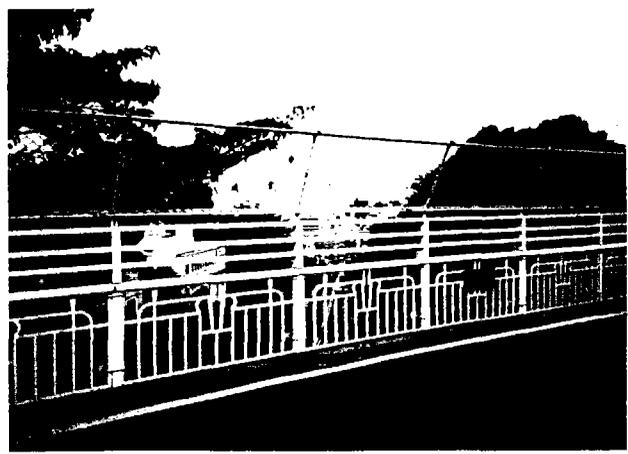
ワーレントラスの補剛桁（床桁）と側縦桁



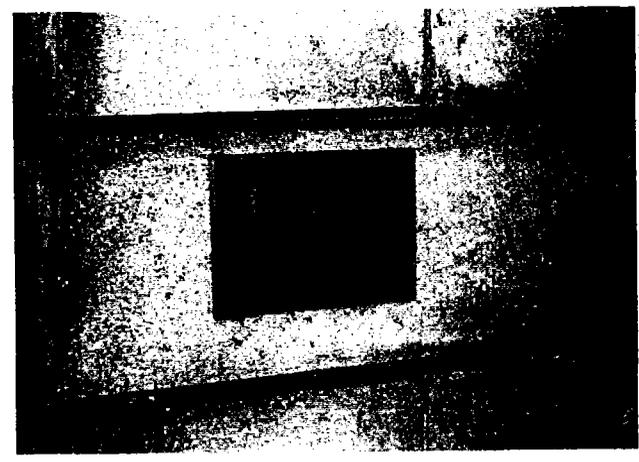
石張りの橋台



石張りの親柱



铸铁製の高欄と落下防止ネット



橋台に埋め込まれた神奈川の橋100選の銘板

# 文化財的橋梁調査票

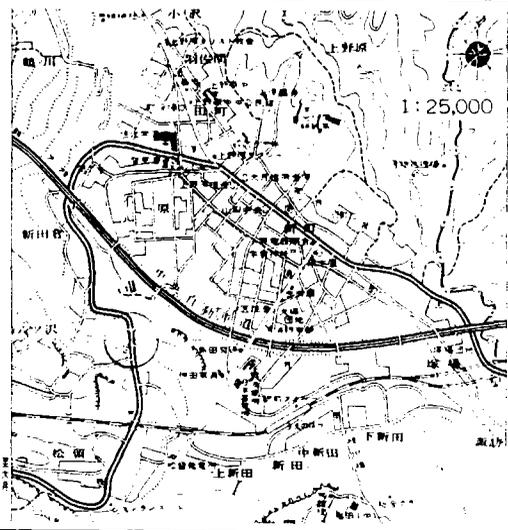
整理番号	- 1
橋名	鶴川橋
所在地	山梨県上野原市 (国道20号線)
河川名	鶴川
橋梁形式	3径間連続钣桁
橋長(最大支間長)	70.9m (27.0m)
竣工年	昭和12年
管理者	(連絡先)

## 橋梁全景 ①



文化財橋梁とする理由	改良の履歴	
現場継手も含め、全ての連結に溶接が用いられた橋梁の極めて初期のもの。	年月	改良の内容
	不明	床版張り替え
	整備パターン	
	「保全型」と思われる。	

## 位置図



## 現在の用途

道路橋(国道20号線)

## 周辺状況

山陰  
上野原町は元宿場町

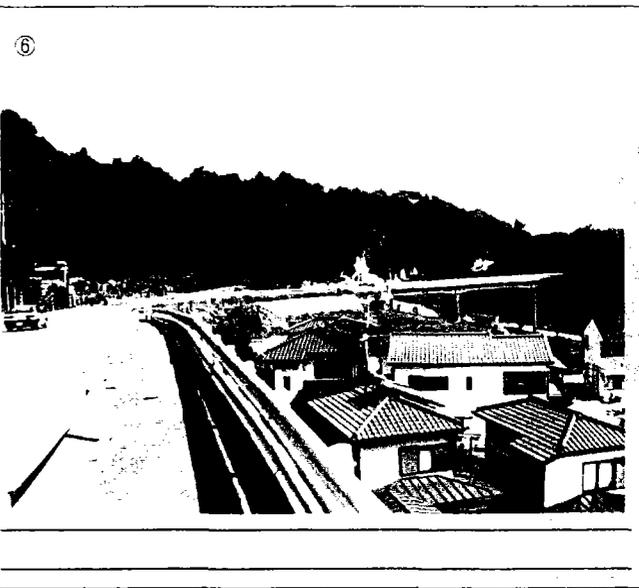
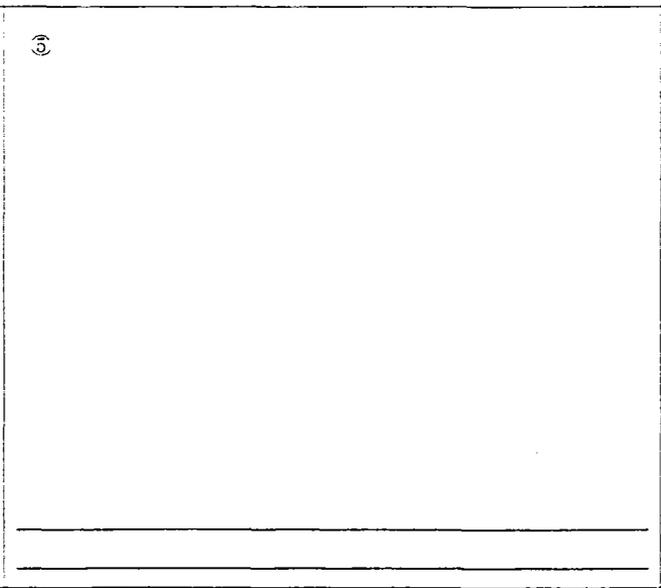
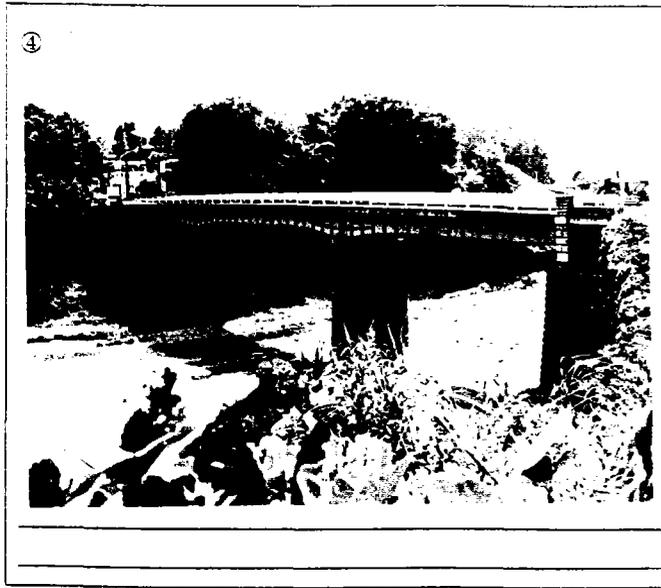
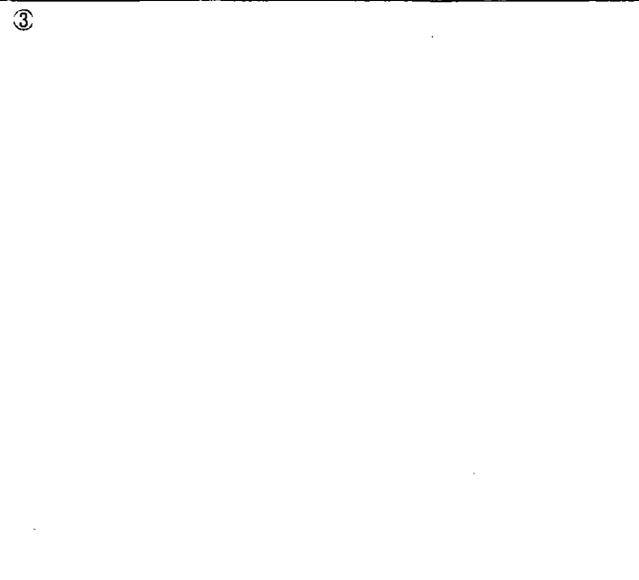
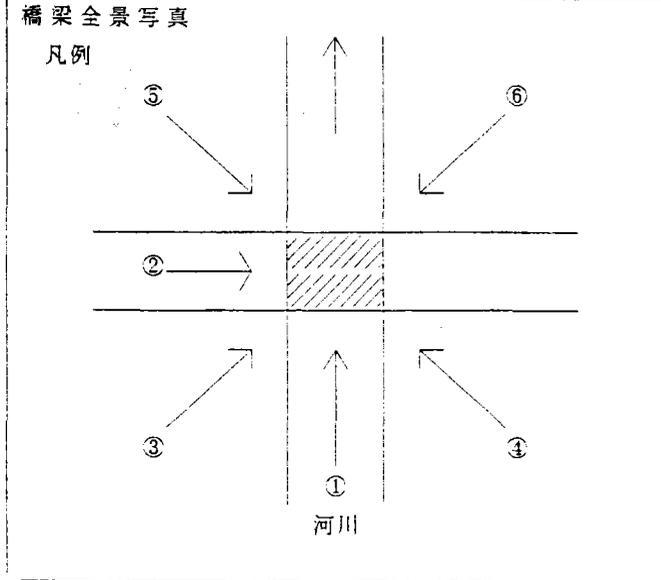
## 参考文献

「日本の橋」(社)橋建協編, 朝倉書店

# 文化財的橋梁調査票

ページ	60
調査者	石井

整理番号 - 2

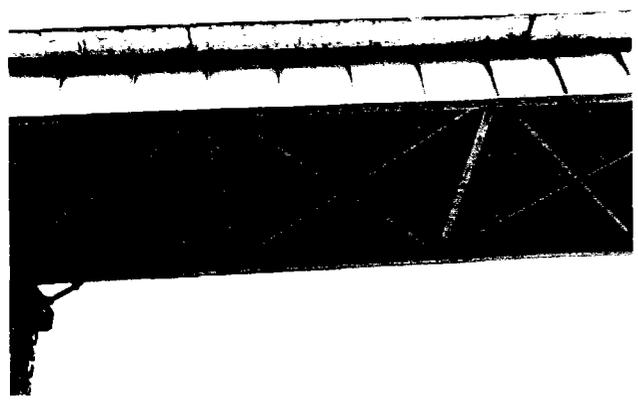


# 文化財的橋梁調査票

ページ	61
調査者	石井

整理番号 - 3

ディテール



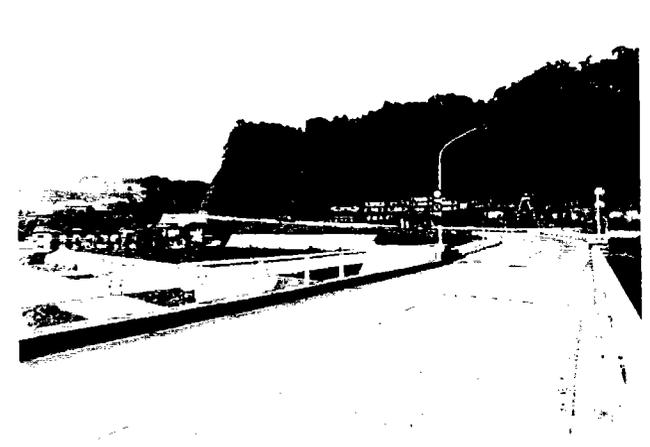
桁側面・橋裏：主桁の現場溶接は、スプライスPLを当てる埋肉溶接が採用されている。

②



橋脚：原形には、橋脚に落とす排水管はない。

③



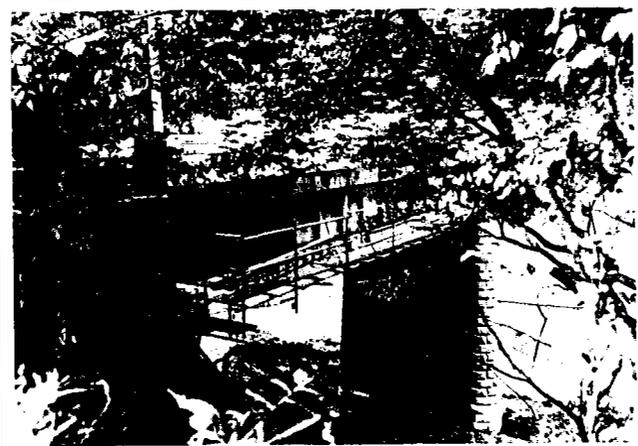
橋面：高欄は、ガードレールタイプ。歩道はない。

④



桁端・橋台部

⑤



何らかの作業中

⑥





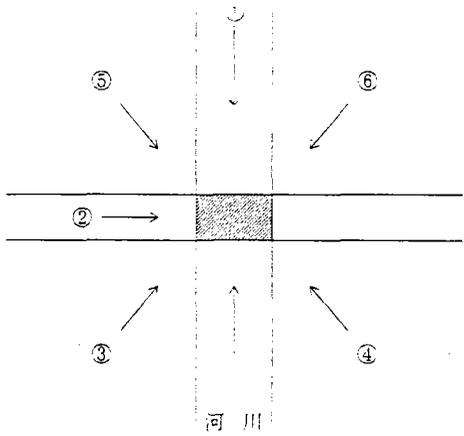
文化財的橋梁調査票

ページ 63  
調査者 仲村 誠

整理番号 - 2

橋梁全景写真

凡例



②



③

撮影不可能

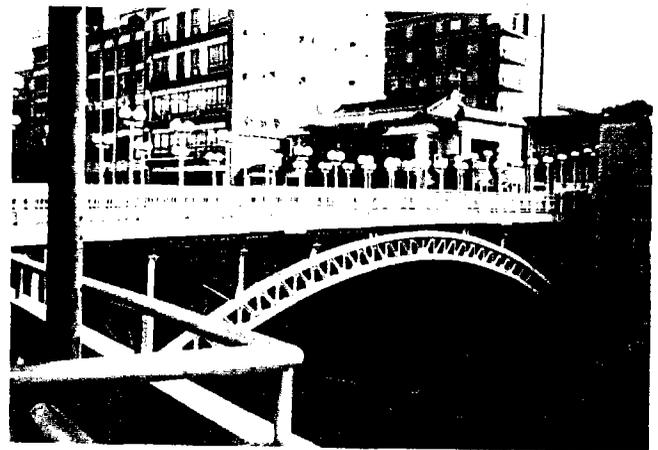
④



⑤



⑥



文化財的橋梁調査票

ページ	64
調査者	仲村 誠

整理番号 ー 3

ディテール



橋詰広場

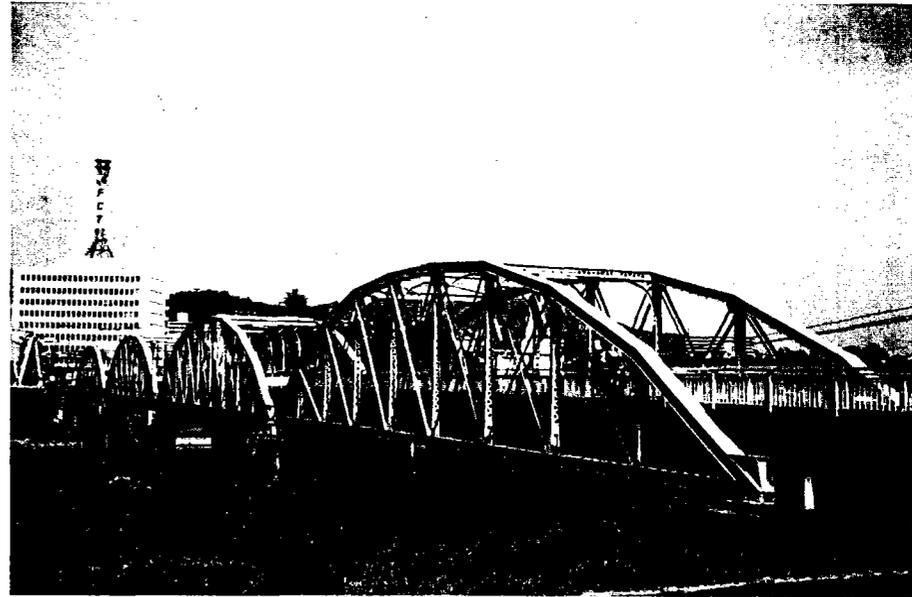


高欄 (既製の高欄)

# 文化財的橋梁調査票

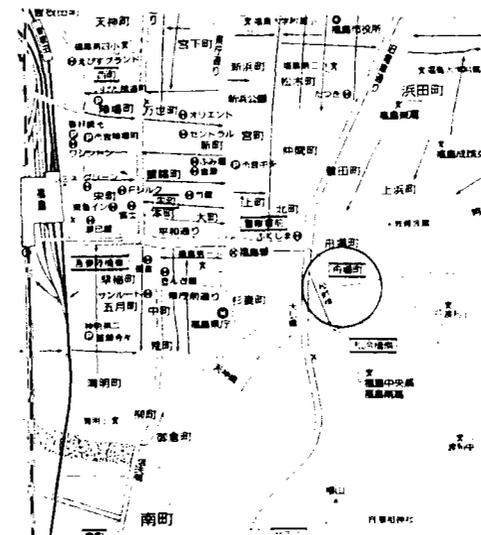
整理番号	- 1
橋名	松 齡 橋
所在地	福島県福島市渡利
河川名	阿 武 隈 川
橋梁形式	下路式 ランガー桁橋
橋長(最大支間長)	175.8m
竣工年	大正14年
管理者	福島県福島建設事務所 (連絡先)

## 橋 梁 全 景 ①



文化財橋梁とする理由	改 良 の 履 歴	
	年 月	改 良 の 内 容
1. 松齡橋は、大正末期に架けられた比較的古い下路式ランガー桁橋である。	昭和13年	・橋梁照明柱が、地震の影響により破損したため修繕。
	昭和59年	・橋梁全体の補修が行われ、損傷した部分を補強した。

## 位 置 図



## 現 在 の 用 途

・道路橋

## 参 考 文 献

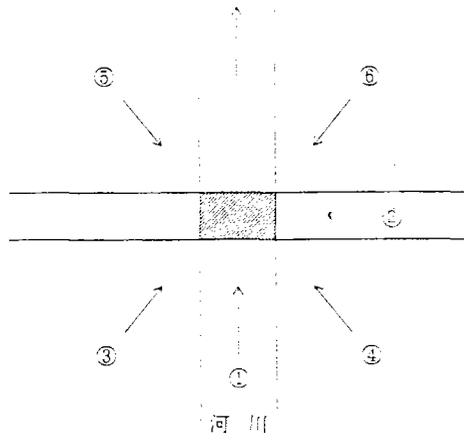
・福島県土木史  
(平成2年3月福島県建設技術協会)

## 周 辺 状 況

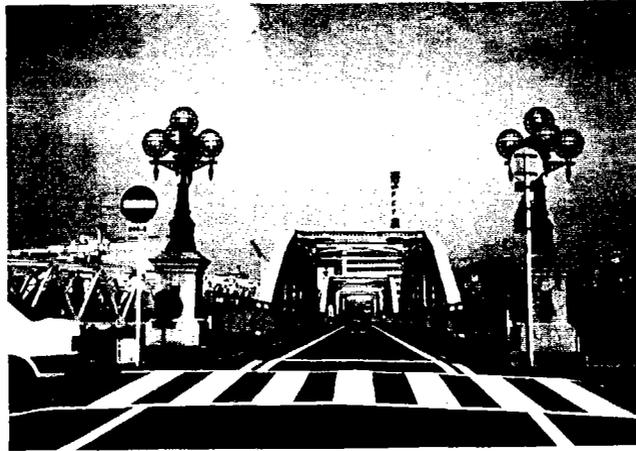
整理番号 - 2

橋梁全景写真

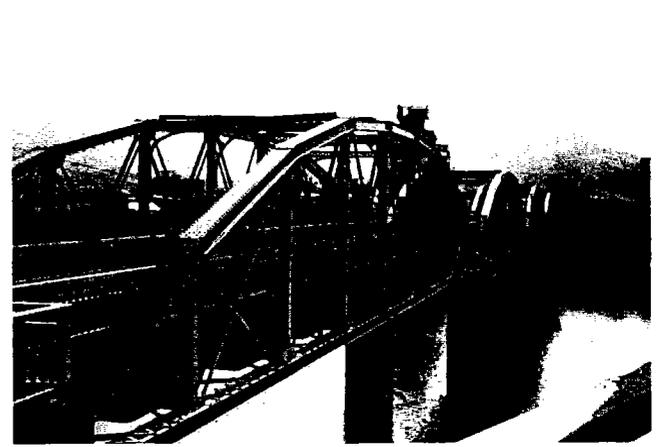
凡例



2



3



4



5



6



文化財的橋梁調査票

ページ 67

調査者 仲村 誠

整理番号 - 3

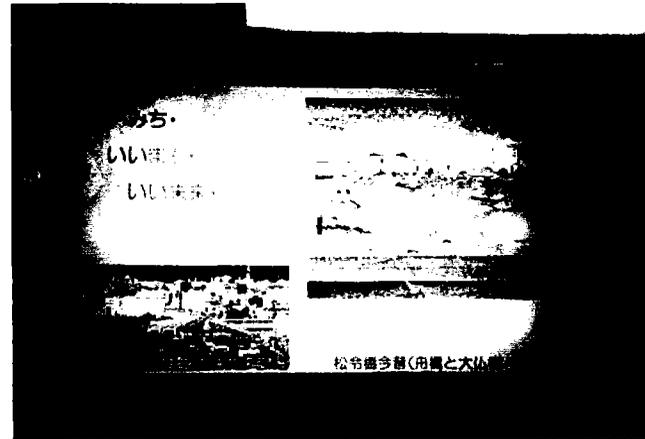
ディテール



高欄（工場製作高欄）



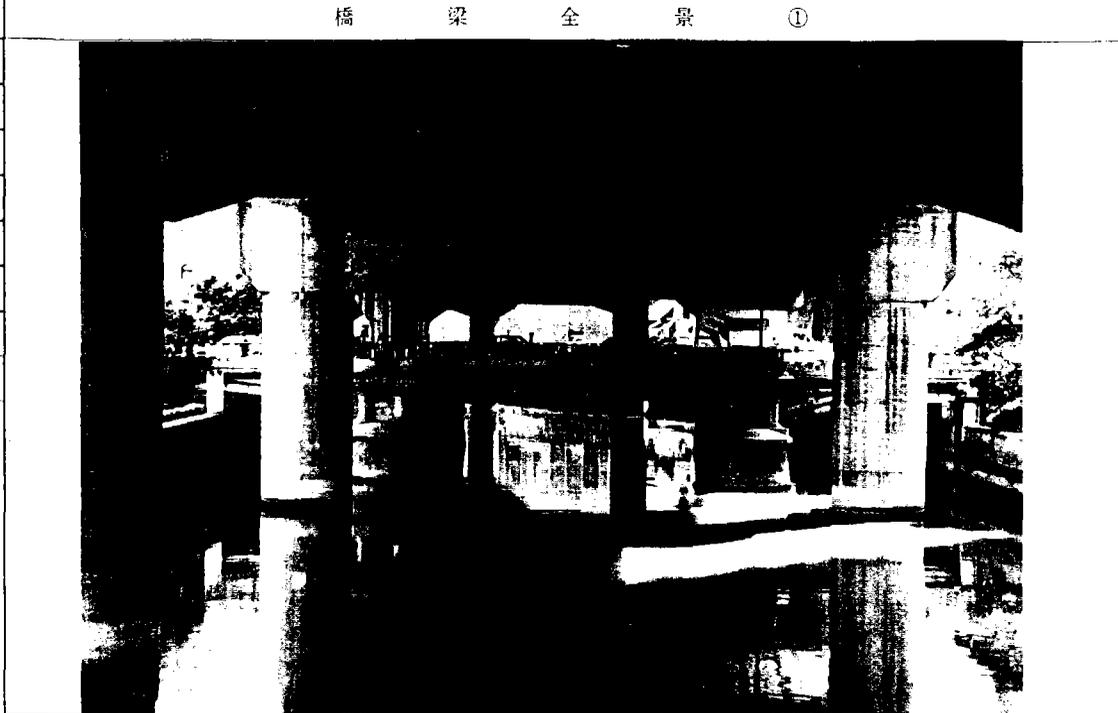
橋詰の横断地下道（アーチ形状のイメージ）



パネル（横断地下道内に展示されている）

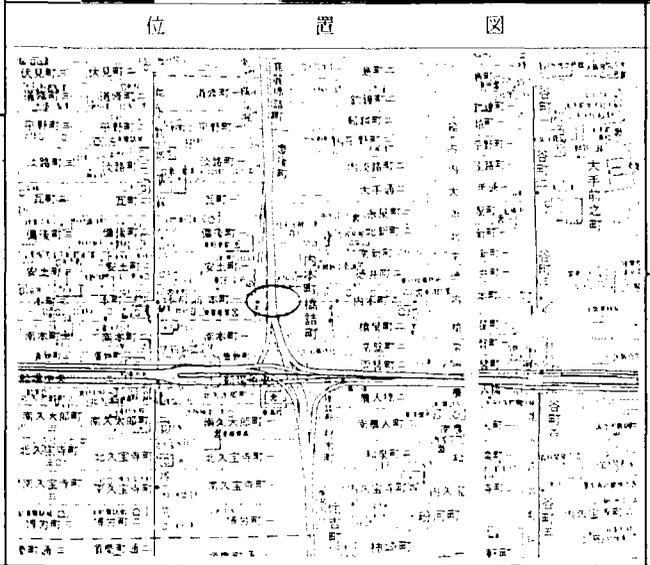
# 文化財的橋梁調査票

整理番号	—
橋名	本町橋
所在地	大阪市東区本町1～東区内本町橋詰町
河川名	東横堀川
橋梁形式	鋼2ヒンジアーチ橋
橋長(最大支間長)	46.5m(15.5m)
竣工年	大正2年
管理者	大阪市 (連絡先)



文化財橋梁とする理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>東横堀川に架けられた本町橋はこの船場のメインストリートと大阪城を直結する重要な橋で公儀橋十二橋のうちの一つであった。</li> <li>市電事業によって現在の橋が架け換えられたが、機能本位の橋が多かった中で、意匠に特別の配慮が払われた。</li> <li>下部工に太いエンタンスの石柱模様。</li> <li>橋脚上にバルコニーの設置。</li> </ul>

改良の履歴	
年月	改良の内容
S57.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>高欄の新装(鑄鉄製)</li> <li>歩道に擬石平板。</li> <li>歩車道境界に万成石張りの壁。</li> <li>歩道用の照明灯。</li> <li>橋台、橋脚、親柱、袖高欄の洗浄。</li> </ul>



現在の用途
道路橋(本町通)

周辺状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>オフィス街。</li> <li>橋梁上に阪神公園(現在、ルーバーの設置工事中)。</li> <li>桁下に小公園。</li> </ul>

参考文献
<ul style="list-style-type: none"> <li>「大阪の橋」: 松村博著, 松籟社 (昭和62年)</li> </ul>

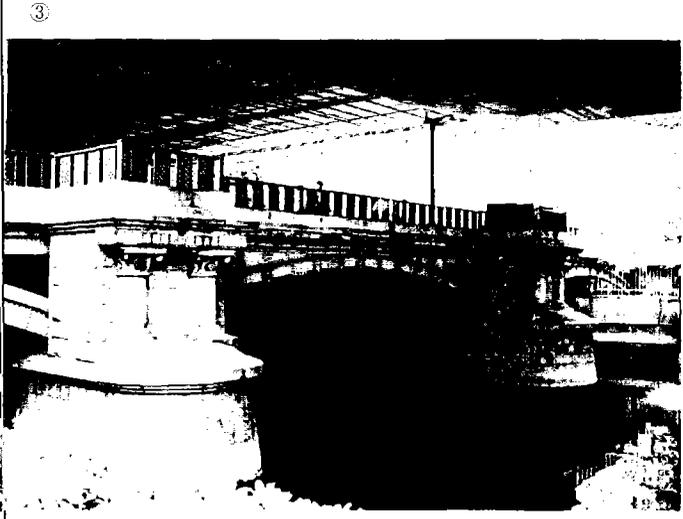
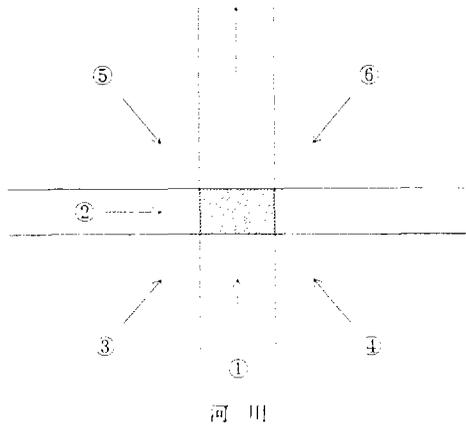
# 文化財的橋梁調査票

ページ	69
調査者	田中(建技)

整理番号 - 2

橋梁全景写真

凡例



1

5

6

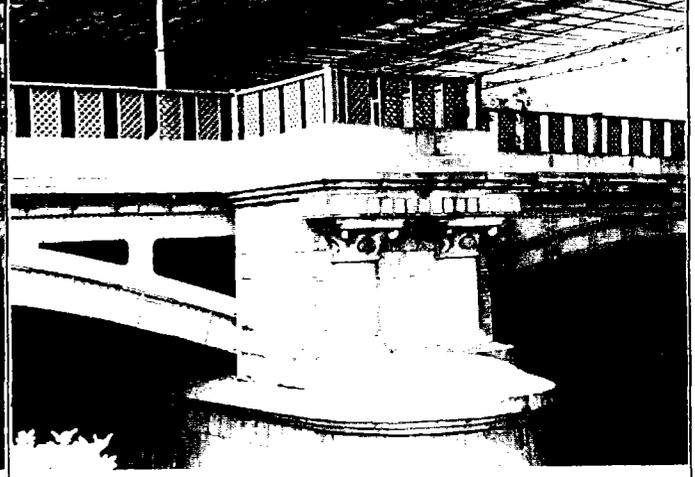
文化財的橋梁調査票

ページ 70

調査者 田中(建技)

整理番号 - 3

ディテール



エンタシスの石柱を模した飾り。その上はバルコニーになっている。



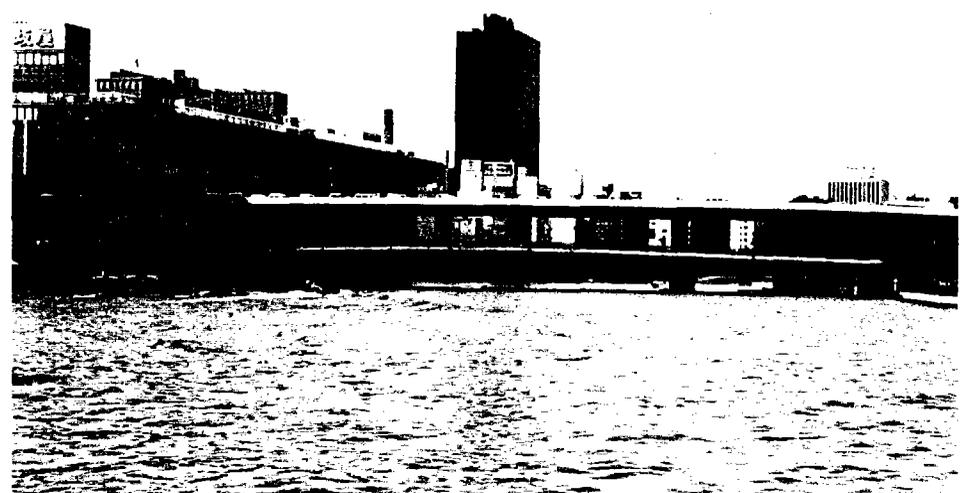
# 文化財的橋梁調査票

ページ 71

調査者 田中(建技)

整理番号	-
橋名	天満橋
所在地	大阪市北区天満1～東区京橋1
河川名	旧淀川(大川)
橋梁形式	ゲルバー式鋼板桁
橋長(最大支間長)	151.0m(61.0m)
竣工年	昭和10年
管理者	大阪市 (連絡先)

橋梁全景 ①



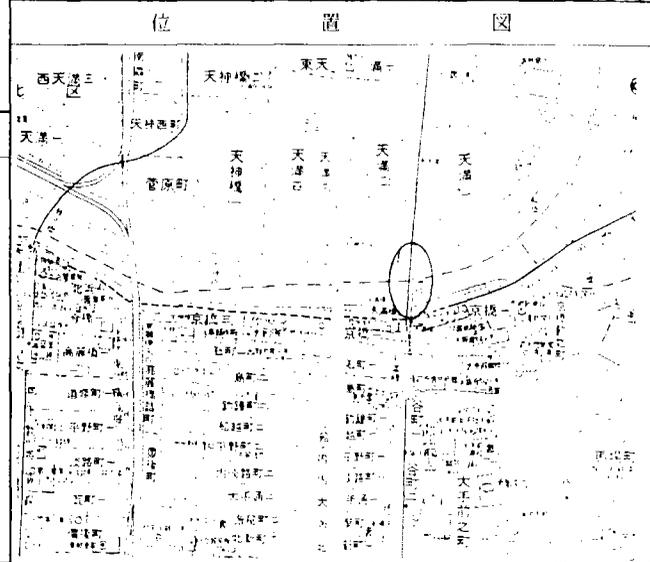
文化財橋梁とする理由

- 天満橋、天神橋、難波橋は江戸時代以来、大阪の町にとって最も重要で最も親しまれてきており、浪華の三大橋と呼ばれている。
- ゲルバー式鋼板桁としては支間が大阪最大である。
- 桁橋のデザインの到達点であると言われる。
- 昭和15年に在来の天満橋の上に景観を損なわない様立休ラーメン構造の橋が架けられ、天満重ね橋と呼ばれている。

改良の履歴	
年月	改良の内容
?	高欄、緑石、歩道に張ブロック、照明の新設。

整備パターン

保全型



現在の用途

道路橋(府道大阪和泉南線)

周辺状況

- オフィス街、橋詰(右岸)は京阪電車及び地下鉄の天満橋駅である。
- 桁下を遊覧船が通る。右岸桁下に遊覧船の発着場がある。
- 両岸は河川沿いの公園となっている。

参考文献

- 大阪の橋 : 松村博著, 松籟社, (昭和62年)

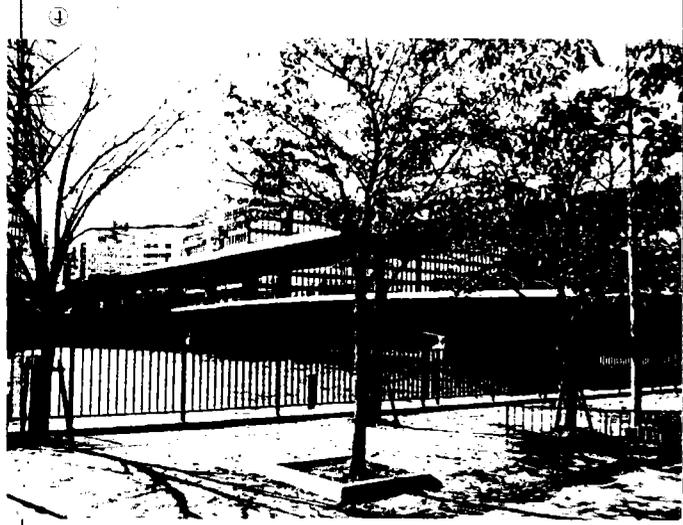
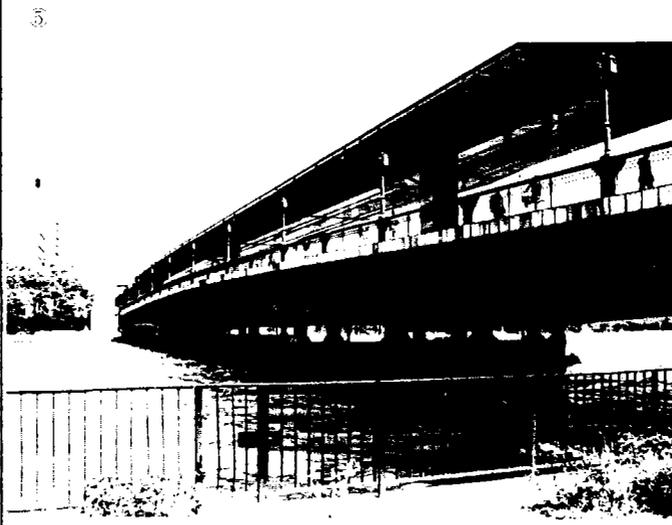
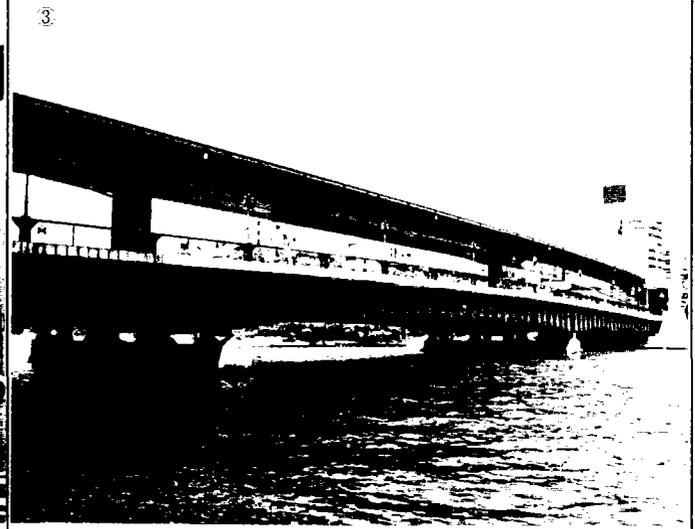
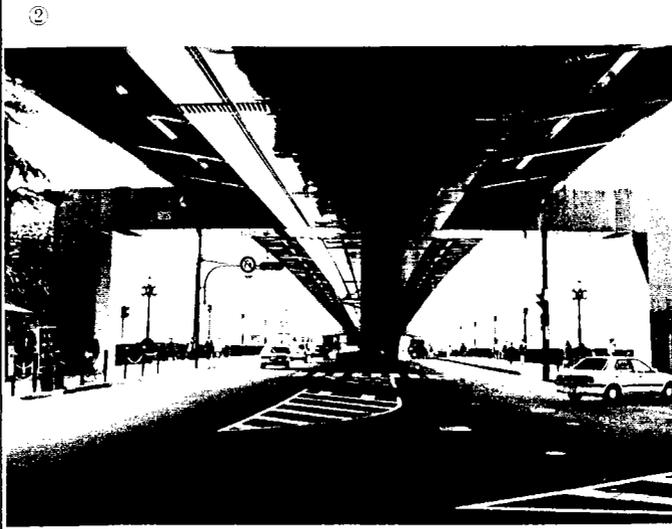
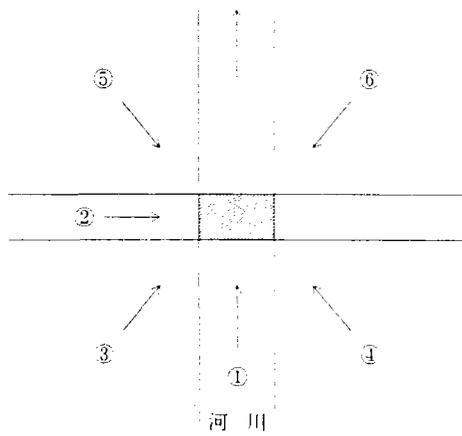
# 文化財的橋梁調査票

ページ	72
調査者	田中(建枝)

整理番号 | - 2

橋梁全景写真

凡例



文化財的橋梁調査票

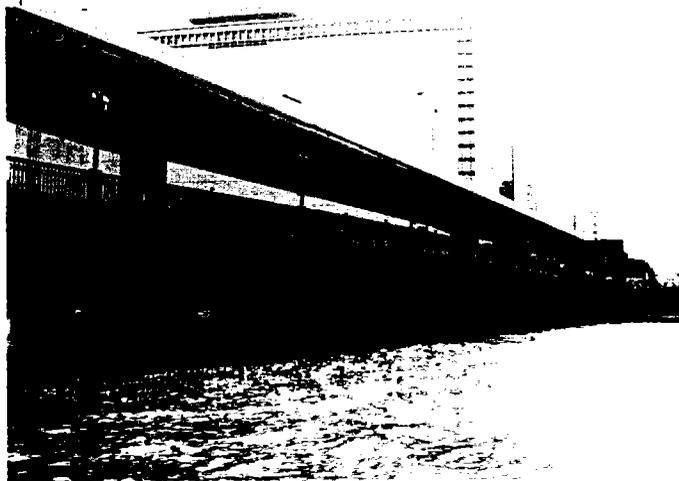
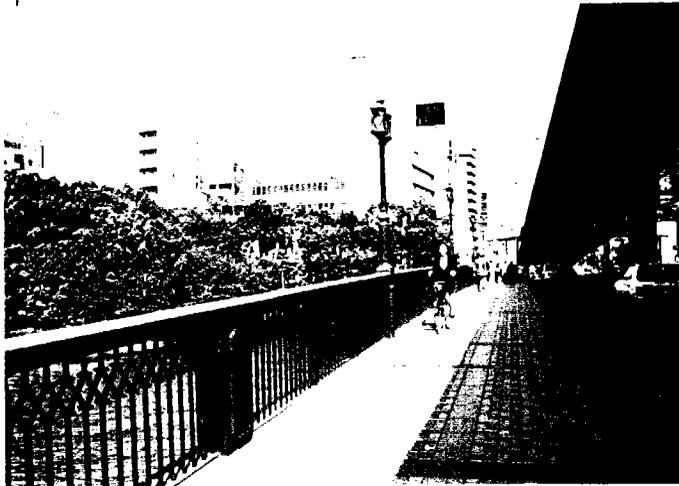
ページ 73

調査者 田中(建技)

整理番号

- 3

ディテール

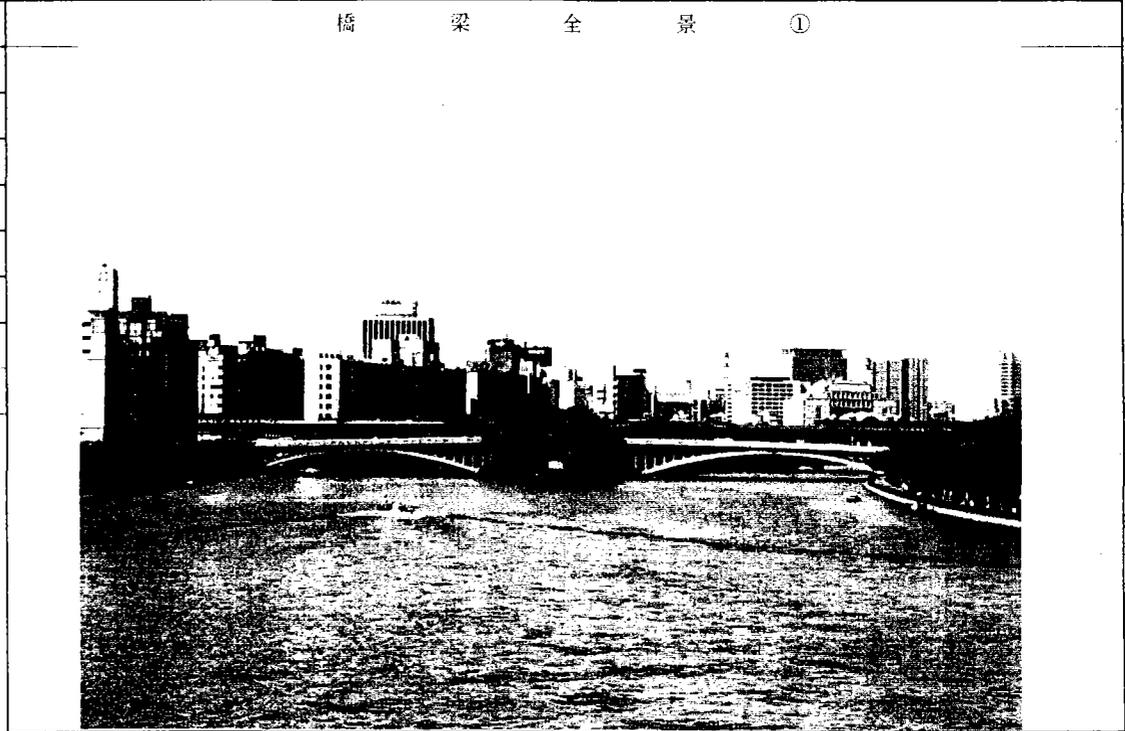


重ね橋の様子。

# 文化財的橋梁調査票

整理番号: - 1

橋名	天神橋
所在地	大阪市北区天神橋～東区京橋3
河川名	堂島川
橋梁形式	2ヒンジ鋼アーチ及びRCアーチ橋
橋長(最大支間長)	210.7m(62.0m)
竣工年	昭和9年
管理者	大阪市 (連絡先 )

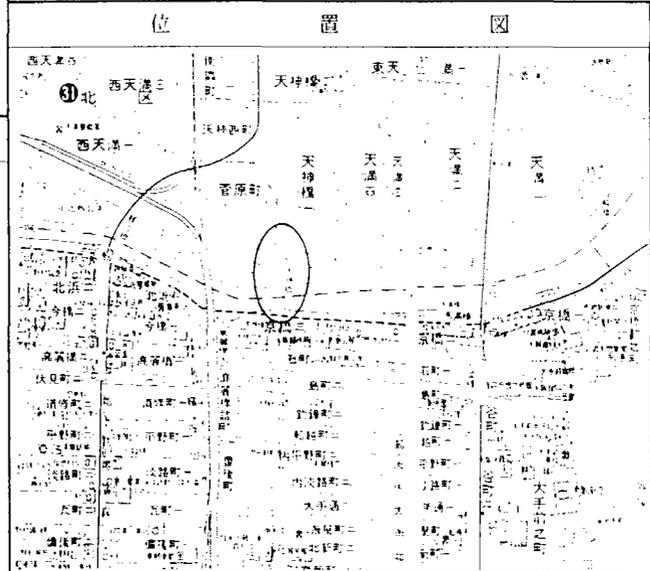


文化財橋梁とする理由

- ・天満橋、天神橋、難波橋は江戸時代以来、大阪の町にとって最も重要で最も親しまれてきており、浪華の三大橋と呼ばれている。
- ・中之島の剣先公園の風景によくマッチし、水都大阪の代表的な景観を形造っている。

改良の履歴

年月	改良の内容



現在の用途

道路橋(市道天神橋天王寺線)

周辺状況

- ・オフィス街
- ・桁下は兩岸、中之島ともに公園となっており、市民の憩いの場である。
- ・桁下を遊覧船が通る。

参考文献

- ・大阪の橋 : 松村博著, 松籟社, (昭和62年)

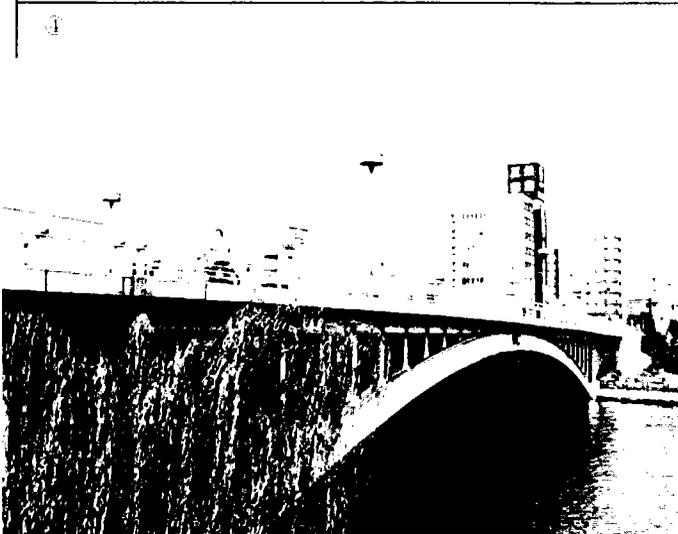
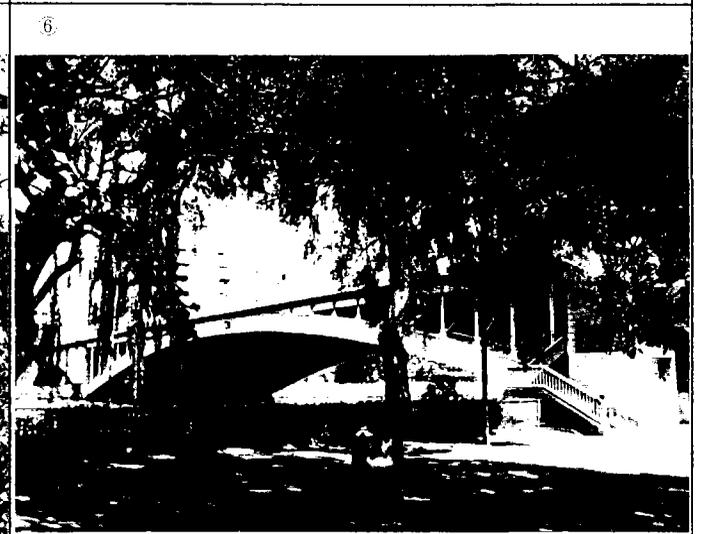
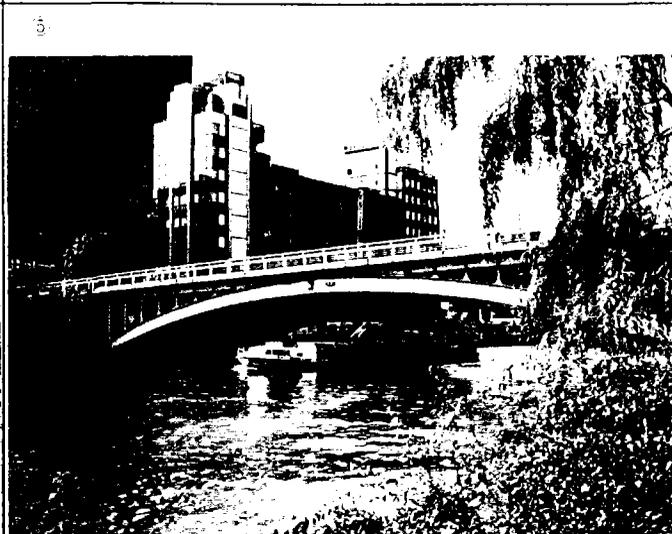
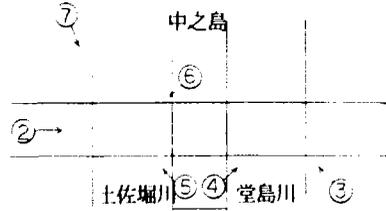
# 文化財的橋梁調査票

ページ 75  
調査者 田中(健技)

整理番号 - 2

橋梁全景写真

凡例



文化財的橋梁調査票

整理番号	- 3
------	-----

⑦



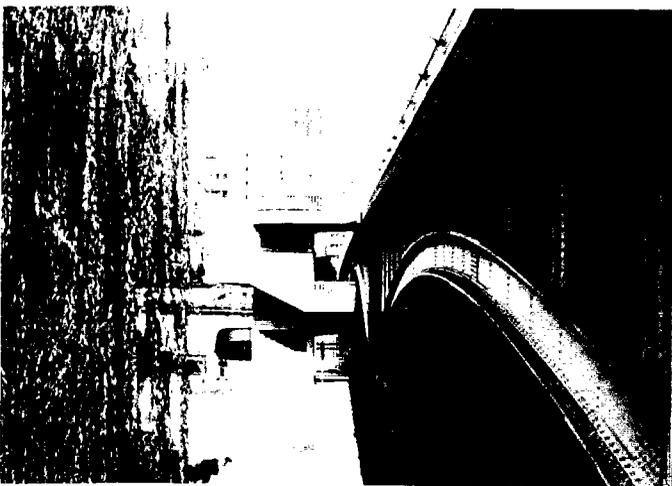
ディテール



橋面から公園へ降りるらせん道路。



塔は橋面から公園へ降りるらせん道路を吊る主塔となっている。



下流側も橋面から公園へ降りる階段が取り付けられている。



# 文化財的橋梁調査票

整理番号 - 1

橋名	難波橋
所在地	北区天満1～東区北浜2
河川名	堂島川
橋梁形式	合成桁及びR/Cアーチ
橋長(最大支間長)	187.2m(21.8m)
竣工年	大正4年(昭和50年改良)
管理者	大阪市 (連絡先)

文化財橋梁とする理由

- ・天満橋、天神橋、難波橋は江戸時代以来、大阪の町にとって最も重要で最も親しまれてきた橋で、浪華の三大橋と呼ばれている。
- ・非常に装飾的な下部工。
- ・市章を組み込んだ高欄。
- ・公園へ降る広い石造りの階段はこの橋が氷上公園の一部を飾るものとして設計された。
- ・親柱の代わりにライオン像が設置されており、このため「ライオン橋」の愛称でも呼ばれる。

改良の履歴

年月	改良の内容
S50	・鋼2ヒンジャー部をアーチ形状をできるだけ変化させない様配慮して合成桁形式とした。 ・高欄も大阪市章の入ったものに復元。
S60	・ライオン像の清掃。 ・照明灯の復元。

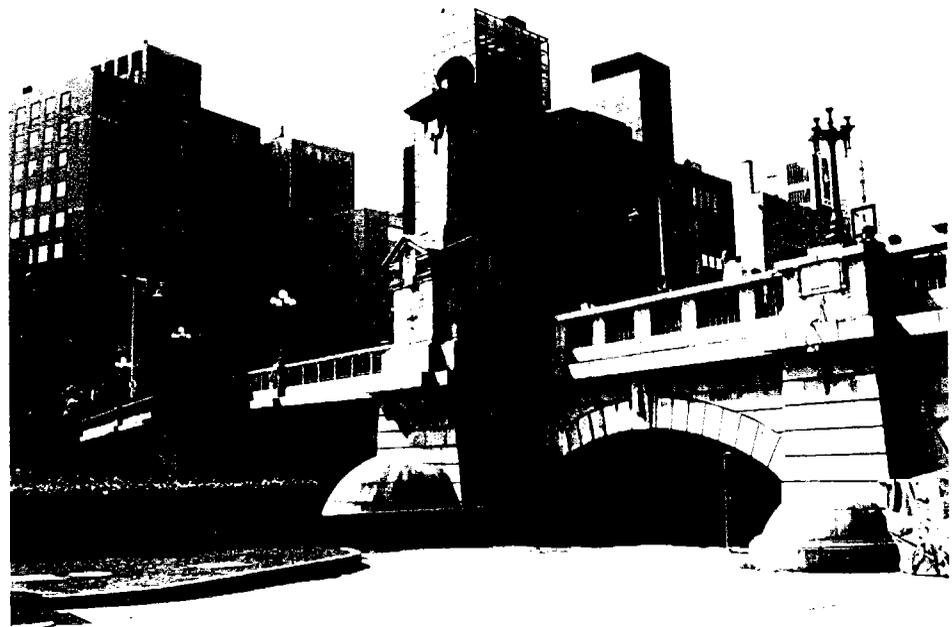
整備パターン

復元型及び保全型

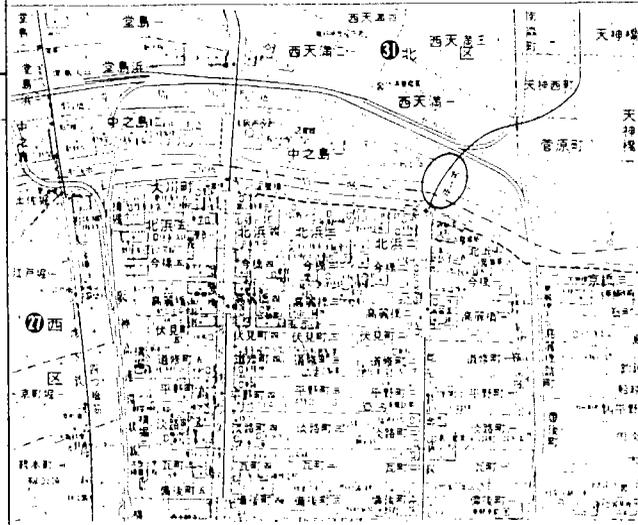
周辺状況

- ・オフィス街。大阪市役所。右岸側は京阪電車及び地下鉄の北浜駅。
- ・中之島公園の中にあり、市民(ビジネスマン)の憩いの場。

橋梁全景 ①



位置図



現在の用途

道路橋(府道恵美須南森町線)

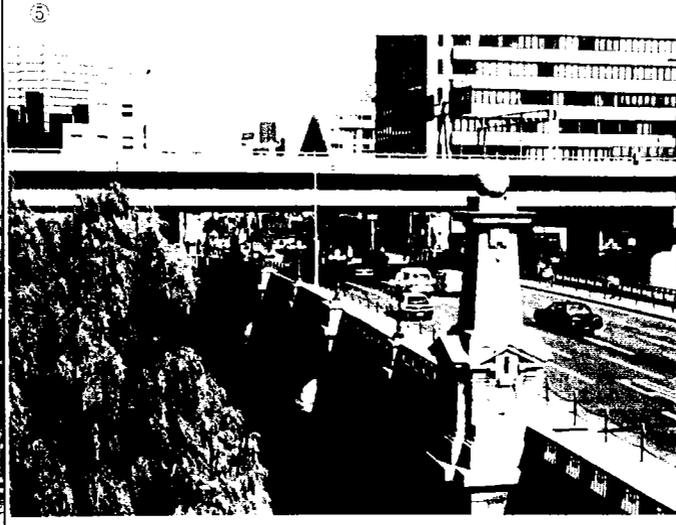
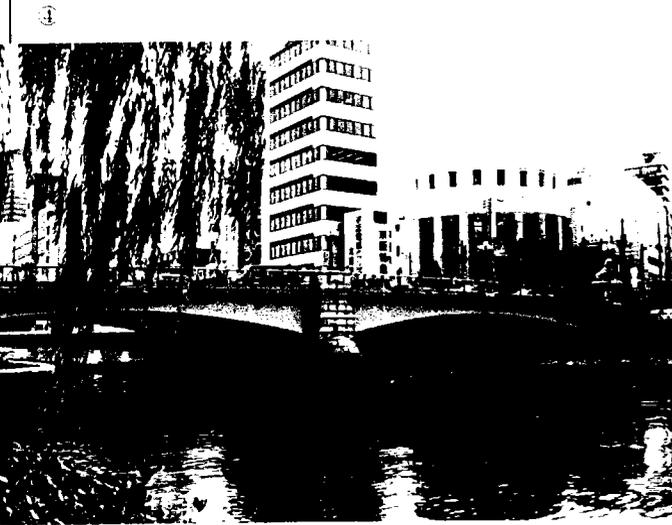
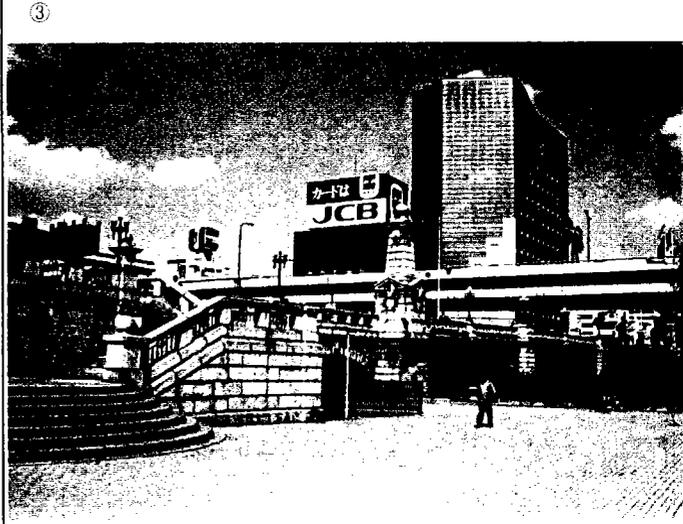
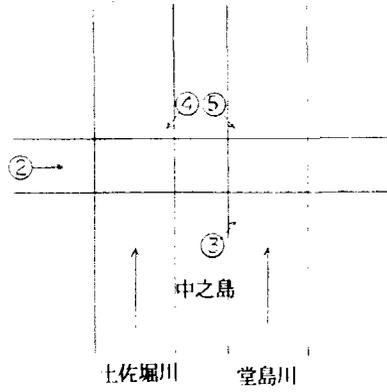
参考文献

- ・「大阪の橋」：松村博著、松籟社 (昭和62年)

整理番号 - 2

橋梁全景写真

凡例



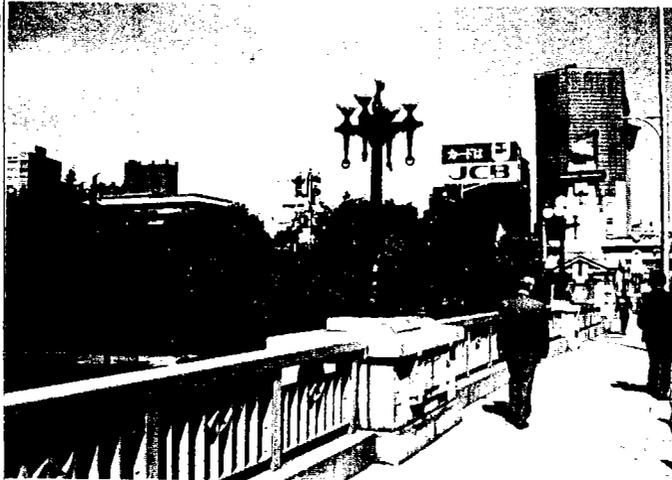
整理番号

- 3

ディテール



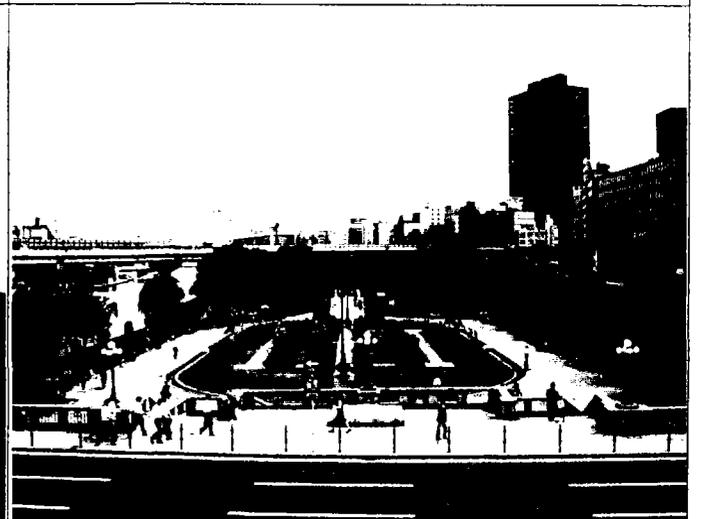
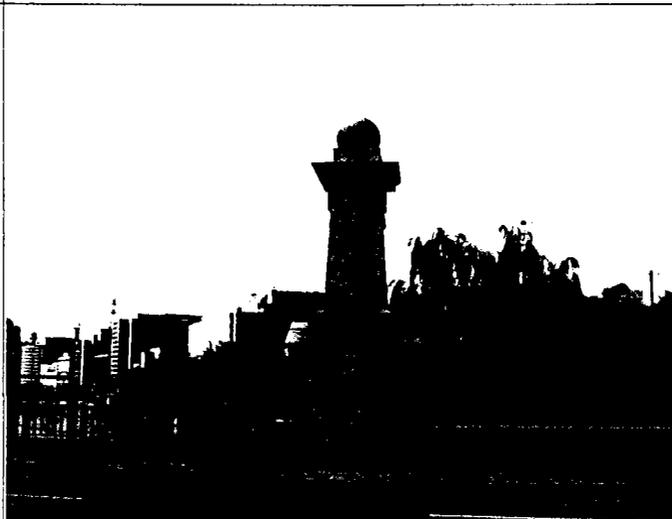
親柱のライオン像。



橋より公園へ降りる事ができる。橋が公園の一部となっている。



市章をデザインした高欄。



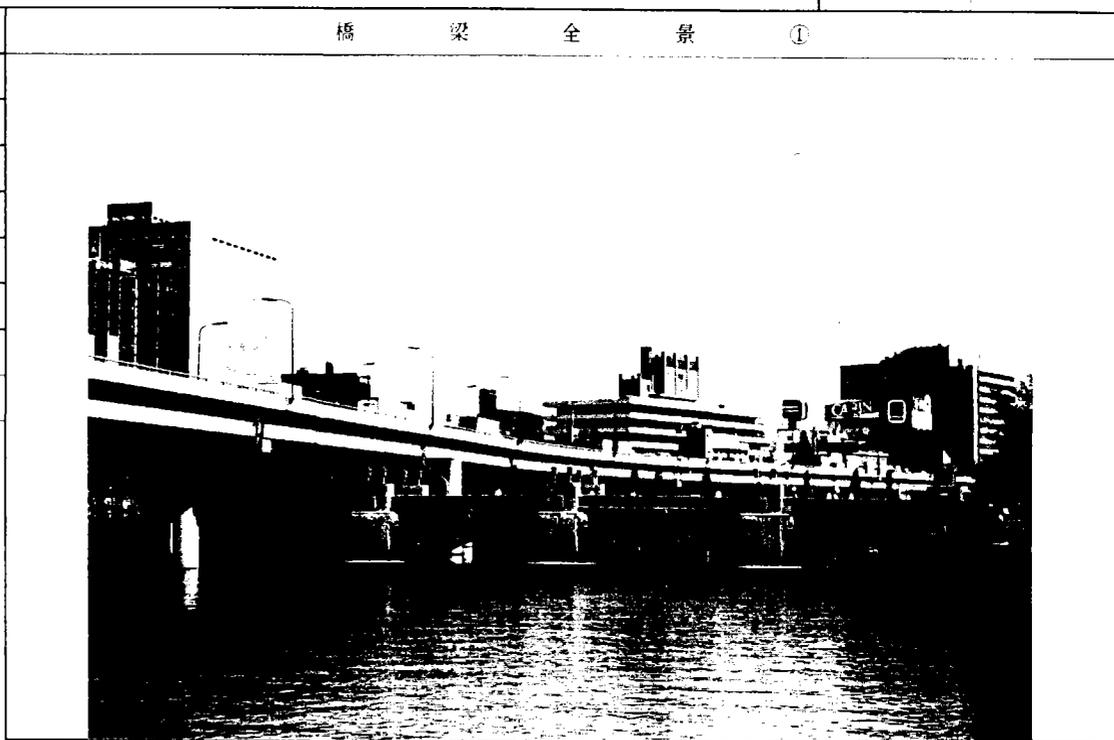
# 文化財的橋梁調査票

ページ 80

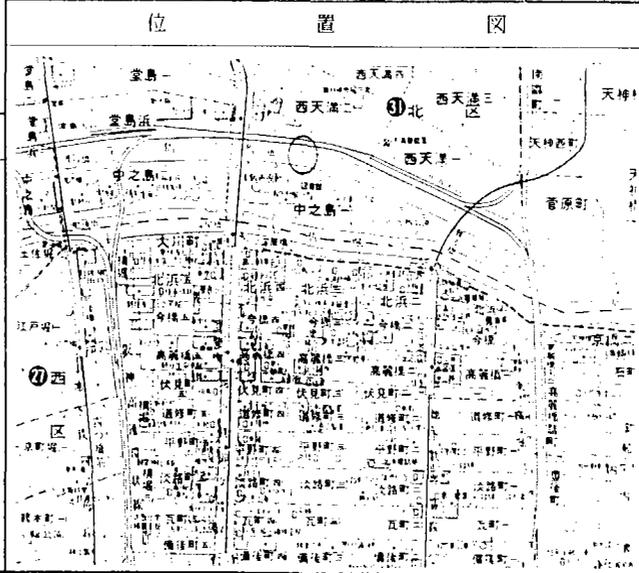
調査者 田中(建技)

整理番号 - 1

橋名	水晶橋(堂島川可動堰)
所在地	大阪市北区西天満2～北区中之島1
河川名	堂島川
橋梁形式	RCアーチ橋
橋長(最大支間長)	81.5m(36.5m)
竣工年	昭和4年
管理者	大阪市 (連絡先)



文化財橋梁とする理由	改良の履歴						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿形のゆえに大阪の人々より愛されている。</li> <li>・本体の大アーチとその上の9つの小アーチの組合せの妙が良い。</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>改良の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S57</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高欄、壁面の清掃。</li> <li>・階段部、橋上の照明器具の補修。</li> <li>・橋面に花崗凝石、花崗石の張ブロック。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>S58</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・橋上にベンチ兼用の植樹槽。</li> <li>・ライトアップ</li> <li>・噴水</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	年月	改良の内容	S57	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高欄、壁面の清掃。</li> <li>・階段部、橋上の照明器具の補修。</li> <li>・橋面に花崗凝石、花崗石の張ブロック。</li> </ul>	S58	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋上にベンチ兼用の植樹槽。</li> <li>・ライトアップ</li> <li>・噴水</li> </ul>
	年月	改良の内容					
S57	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高欄、壁面の清掃。</li> <li>・階段部、橋上の照明器具の補修。</li> <li>・橋面に花崗凝石、花崗石の張ブロック。</li> </ul>						
S58	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋上にベンチ兼用の植樹槽。</li> <li>・ライトアップ</li> <li>・噴水</li> </ul>						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>整備パターン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保全型</td> </tr> </tbody> </table>	整備パターン	保全型				
整備パターン							
保全型							



現在の用途

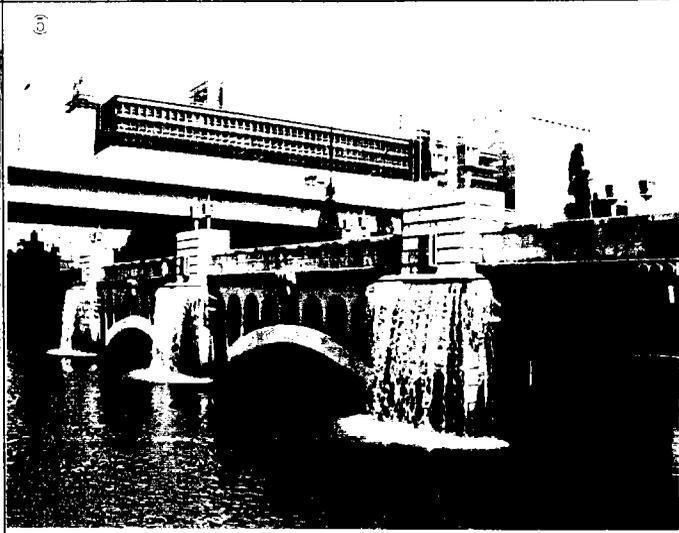
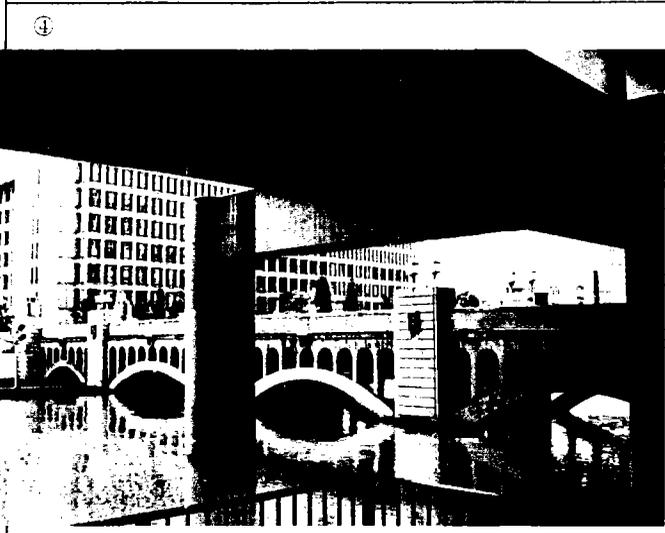
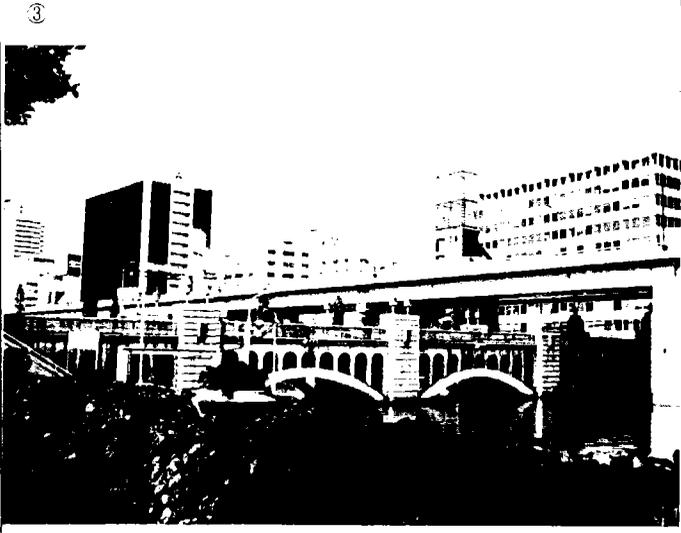
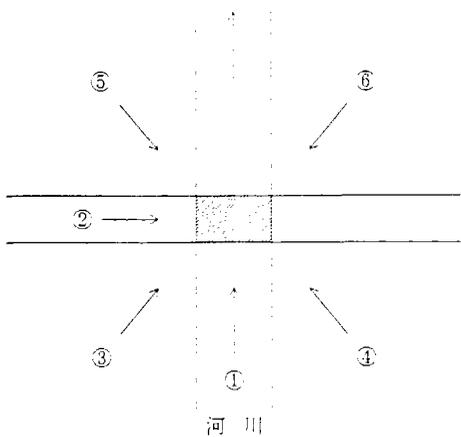
周辺状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィス街、大阪市役所。</li> <li>・中之島公園の中にあり、市民(ビジネスマン)の憩いの場。</li> </ul>

参考文献
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪の橋。：松村博著、松籟社 (昭和62年)</li> </ul>

整理番号 - 2

橋梁全景写真

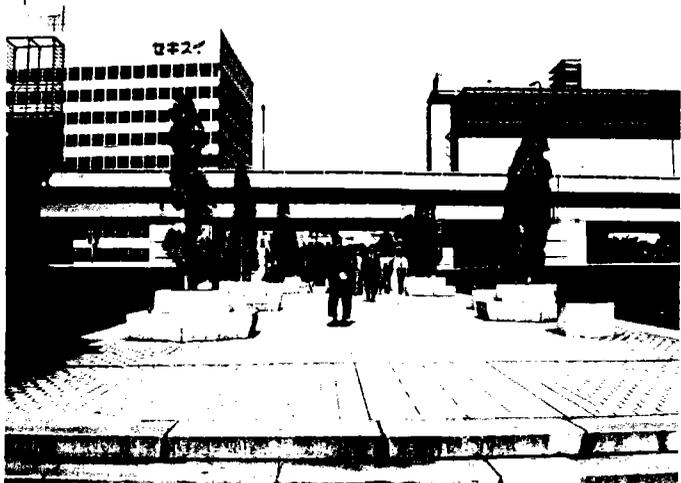
凡例



文化財的橋梁調査票

整理番号	- 3
------	-----

ディテール

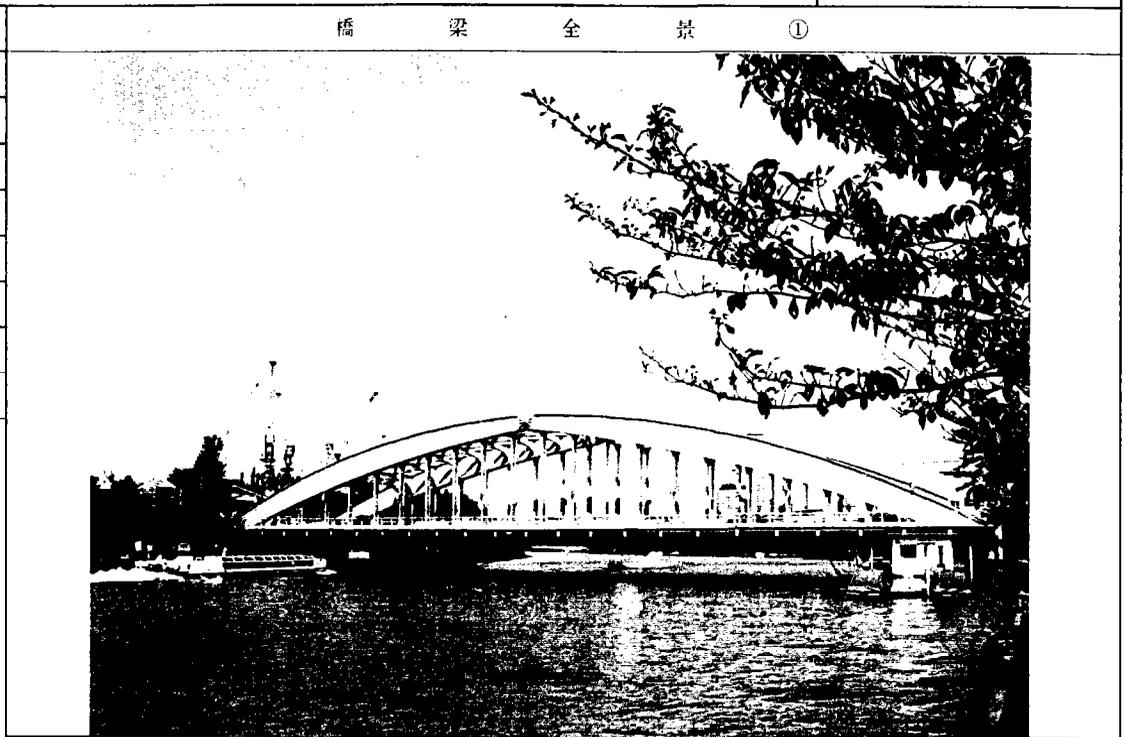


ベンチ兼用の植樹柵が設置されている。

# 文化財的橋梁調査票

整理番号: - 1

橋名	桜宮橋
所在地	大阪市北区天満橋1～豊島区中野町1
河川名	旧淀川(大川)
橋梁形式	3ヒンジ鋼アーチ橋
橋長(最大支間長)	187.8m(104.0m)
竣工年	昭和5年
管理者	建設省 (連絡先)

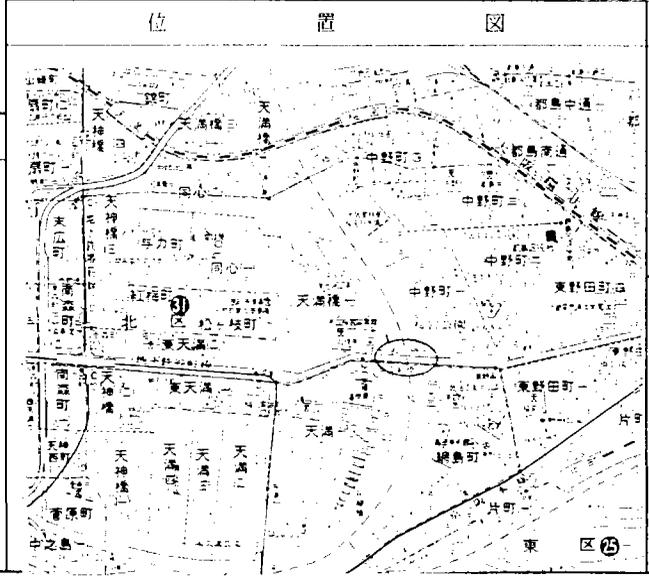


文化財橋梁とする理由

- ・「銀橋」の愛称を持ち、大阪を代表する橋の一つである。
- ・戦前では日本最大のアーチ橋であった。
- ・アーチを支える橋脚部に、橋頭堡ともいべき塔が建てられており、橋面から河岸の公園敷へ降りる階段となっている。

改良の履歴

年月	改良の内容



現在の用途

道路橋(国道1号)

周辺状況

- ・右岸造幣局があり、観光客が訪れる。特に春は花見のために通り抜けが行われる。
- ・両岸が公園となっており、市民の憩いの場となっている。
- ・桁下を遊覧船が通る。

参考文献

- ・「大阪の橋」：松村博著、松籟社。(昭和62年)

# 文化財的橋梁調査票

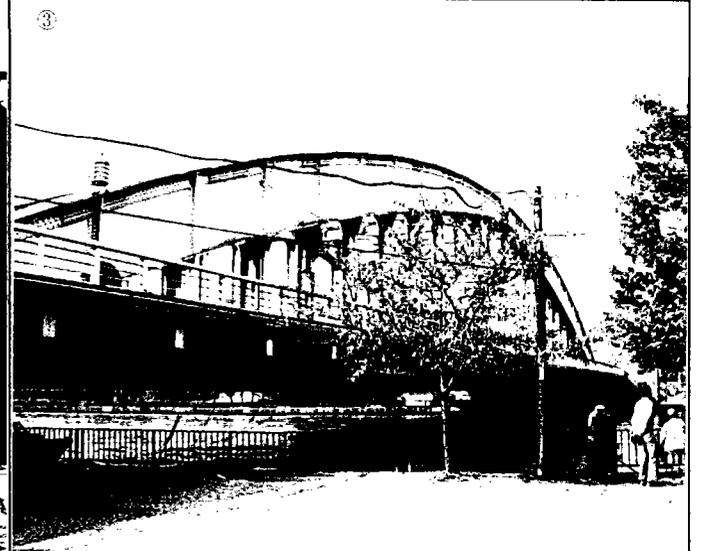
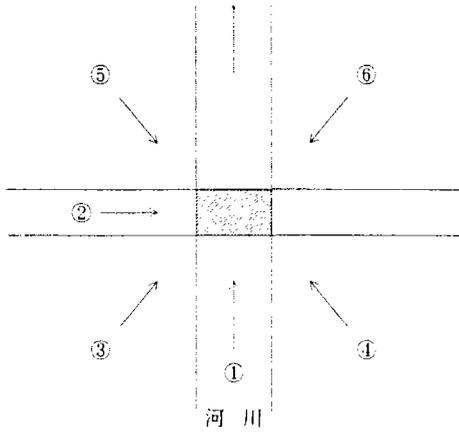
ページ 84

調査者 田中(建技)

整理番号 - 2

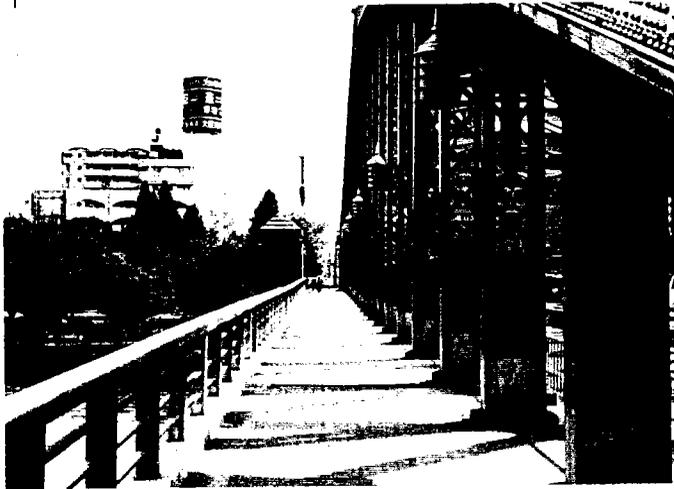
橋梁全景写真

凡例



整理番号	- 3
------	-----

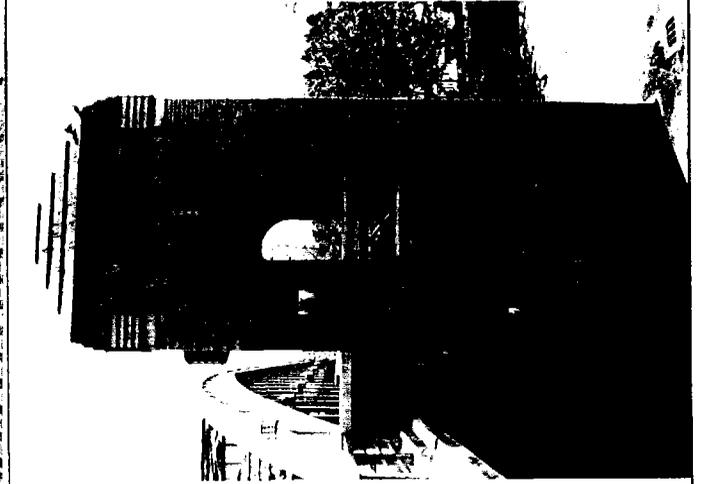
ディテール



歩道部。特に手は入れられていない。



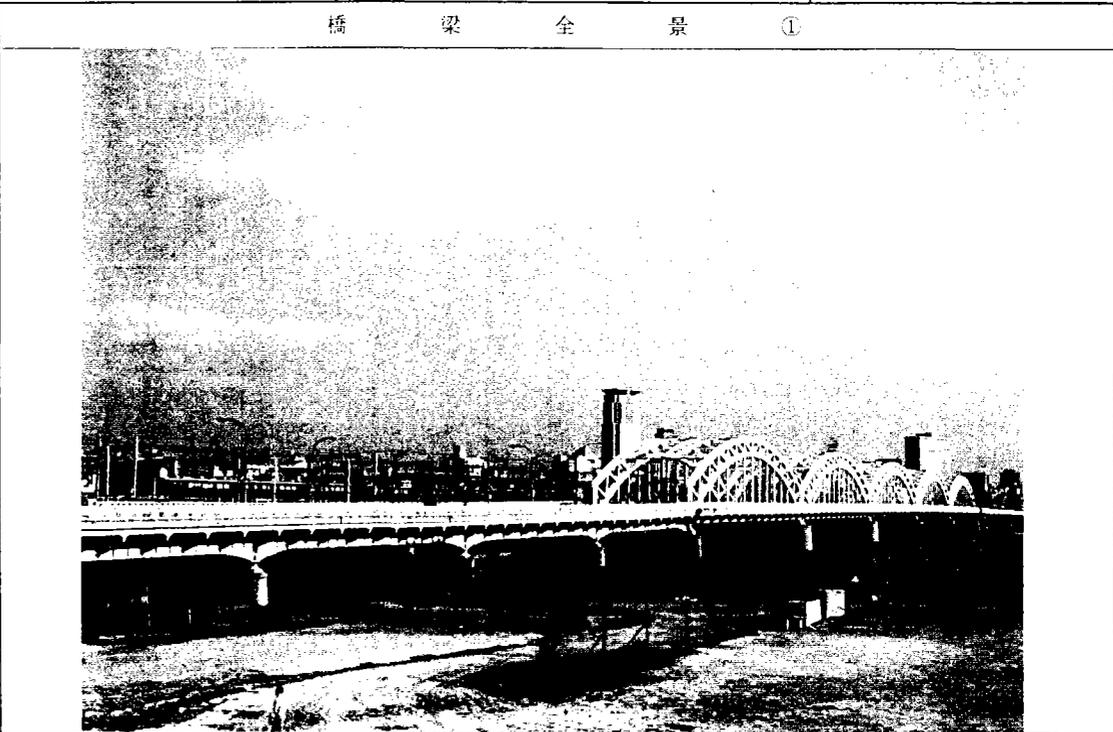
橋詰及び橋台。



橋頭堡ともいべき塔は、橋面から公園敷へ降りる階段となっている。

# 文化財的橋梁調査票

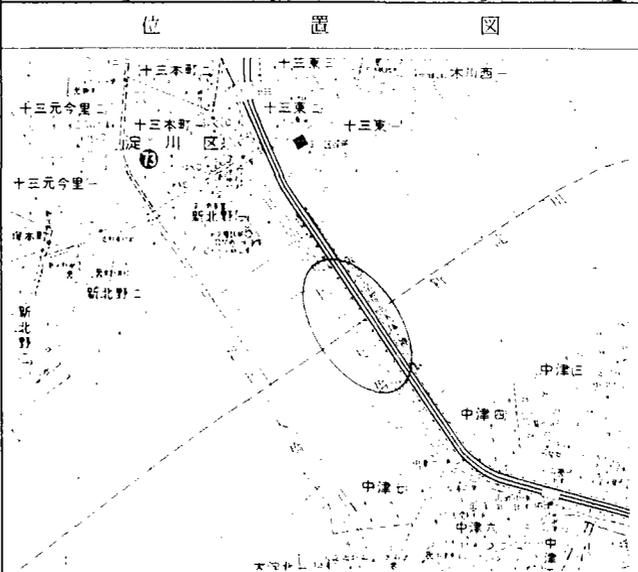
整理番号	-
橋名	十三大橋
所在地	大阪市淀川区新北野1～淀川区中津7
河川名	淀川
橋梁形式	鋼タイドアーチ橋(5連)、ゲルバー式鋼鉄桁
橋長(最大支間長)	681.2m(64.0m)
竣工年	昭和7年
管理者	大阪市 (連絡先 )



文化財橋梁とする理由

- ・重厚なアーチ橋で、淀川に架かる道路橋では最も古い現存橋である。
- ・アーチ部両端の橋門構に装飾。
- ・高欄も橋門構と同じデザイン。

改良の履歴	
年月	改良の内容



現在の用途

道路橋(国道176号)

周辺状況

- ・広々とした河川敷で、阪神電鉄橋と新十三バイパスの橋梁に挟まれている。
- ・河川敷は広場となっており、市民がスポーツ等を楽しんでいる。
- ・前後広々としているため、遠景でも目立つ。

整備パターン

参考文献

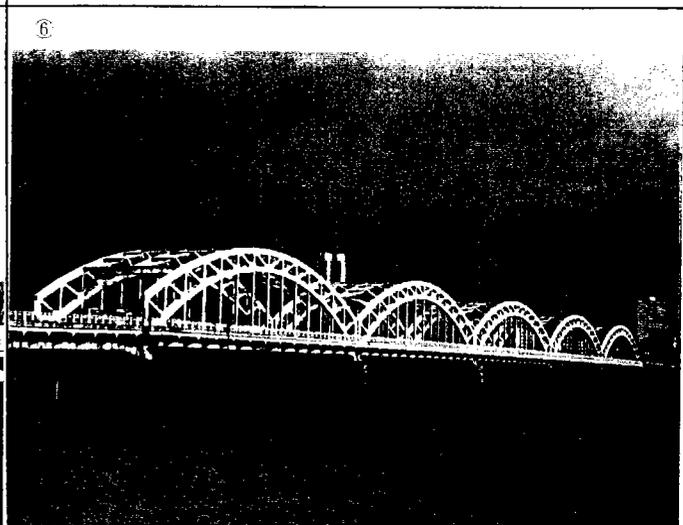
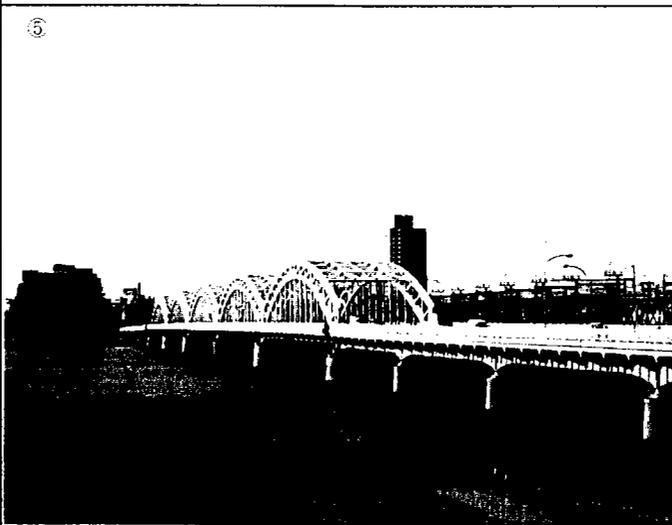
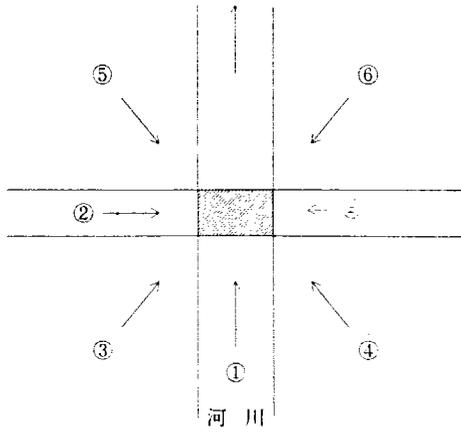
- ・「大阪の橋」：松村博著、松籟社 (昭和62年)

# 文化財的橋梁調査票

整理番号 - 2

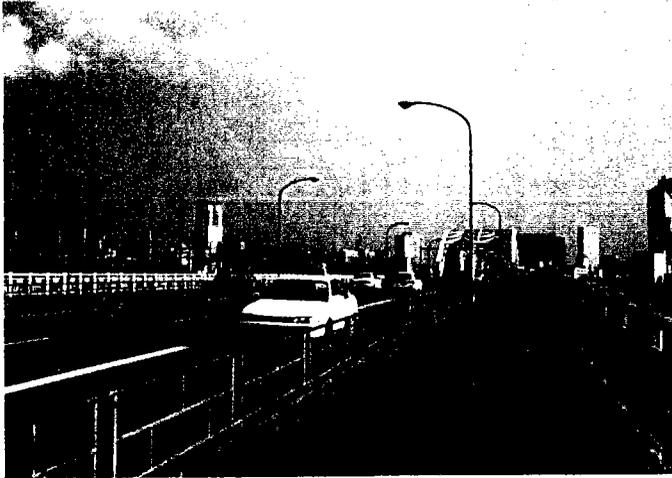
橋梁全景写真

凡例



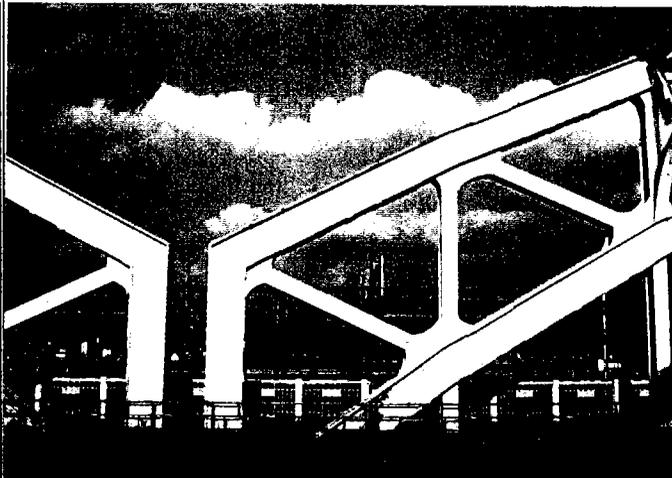
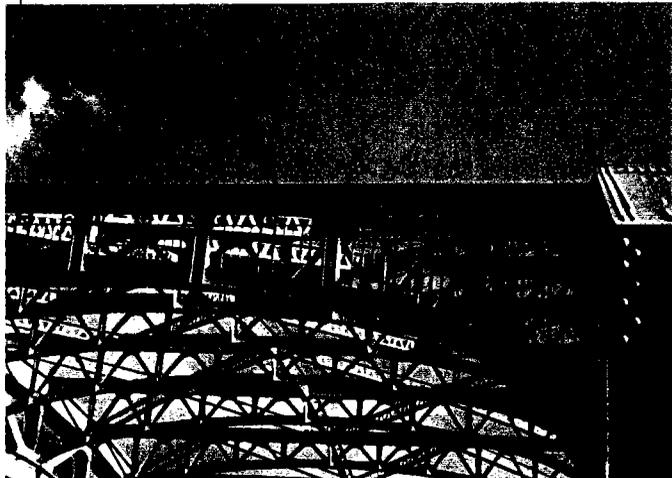
整理番号 - 3

ディテール



高欄のデザインはアーチ部両端の橋門構に取り付けられた装飾と同じ趣旨のもの。

袖高欄には機械の内部構造を表すような模様。大阪の工業発展を象徴。



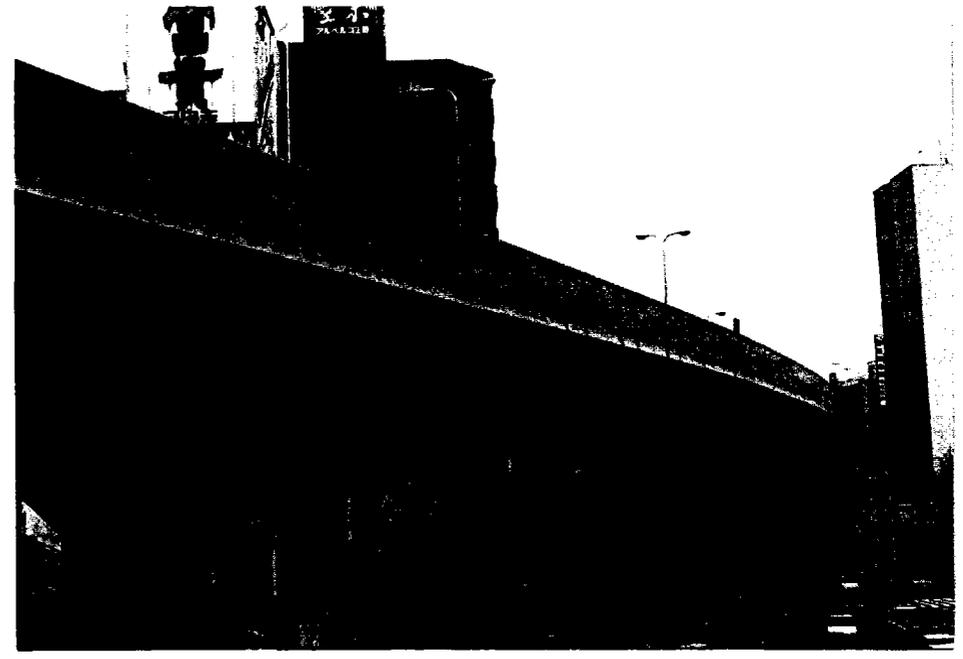
アーチ部両端の橋門構に装飾。

## 第 2 章 都 市 内 高 架 橋

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	- 1		
橋名(路線名)	首都高速1号上野線		
所在地	台東区東上野2丁目~東上野4丁目(上野駅前)		
橋梁形式	鋼3径間連続箱桁橋(2連) (高架橋)・河川橋・他)		
竣工年月	平成2年3月(昭和43年12月)		
施主	首都高速道路公団	概算工事費	3億6千万円
設計業者名	パシフィックコンサルタンツ(株)		
施工業者名	(株)道路エンジニアリング		
修景プロジェクト名	上野駅前高架橋外装工事		

## 橋 梁 全 景



### 修景が行われた理由 特 徴

周辺環境と構造物の特性
<p>(周辺環境特性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上野駅周辺地区整備計画により、駅前のペDESTリアンデッキ整備計画がある。</li> <li>駅前上野駅の営業に伴い、周辺地域の表情が変化する。</li> <li>上野公園内に文化、芸術の施設が多数ある。</li> </ul> <p>(構造物特性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>周辺細街路の景観を大きく遮る構造物。</li> <li>桁下空間が狭く、暗い。</li> <li>平面線形がカーブしている。</li> <li>首都高が、オフィス街と都庁街を分離している。</li> <li>橋脚が太い。</li> <li>首都高の下を横断しているペDESTリアンデッキがある。</li> <li>下部工及び付帯設備の汚れが目立つ。</li> </ul>

設計課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>修景をはかる区間が、上野駅前の一部分であるため、修景をおこなわない空間とのイメージの分断が生じないデザインを図る。</li> <li>ペDESTリアンデッキのデザインとの調和。</li> <li>桁下空間の明るさを確保する。</li> <li>桁下の圧迫感の緩和。</li> <li>下部工及び付帯設備の汚れ対策。</li> <li>上部工、下部工とも統一感、一体感を醸成。</li> <li>排水管のデザイン化。</li> </ul>

上記した周辺環境特性を考慮し構造物特性を改善するため修景工事が行われた。

本修景工事の特徴としてはアルミ鋼板、アルミルーバー及び色彩等を利用し上記した設計課題に対処している所があげられる。

### 修 景 内 容

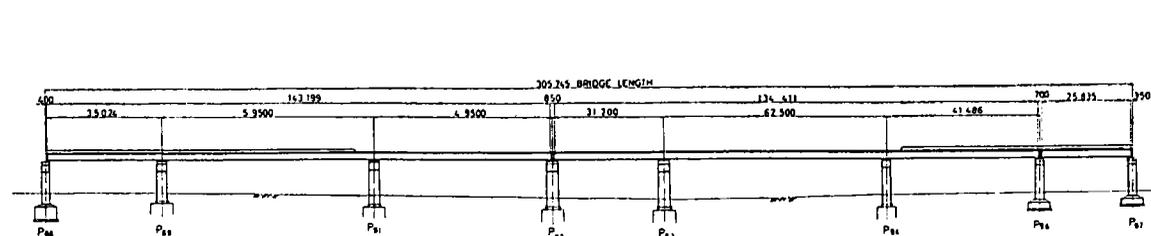
項 目	内 容	写真番号
高欄	・シルキーホワイトのアルミ鋼板を使用し周辺環境にマッチさせる。 ・アルミルーバーと同系色とし全体の統一をはかる。	①
桁側面	・高欄と同じシルキーホワイトを使用し素材をフッ素樹脂鋼板とし高欄との一体をはかる。	②, ③
桁下面外装	・フレッシュクリームで塗装し全体の調和をはかる。	④
鋼箱桁側面	・ローズブルーを使用し桁側面ルーバーの波型をはっきり見せペDESTリアンデッキとの色彩調和をはかる。	⑤, ⑥
鋼箱桁下面及び内側面	・やわらかいイメージのフレッシュクリームを使用し明るさを確保すると同時に圧迫感を緩和する。	⑦, ⑧
橋脚	・シンプルで明るいフレッシュクリームで塗装し上部工との一体感を持たせる。	⑨
橋脚下1m部分	・ロイヤルブルーで塗装し橋脚上部のフレッシュクリームと調和をはかり橋脚をひきしめ汚れが目立たないようにする。	⑩
橋脚排水管	・橋脚上部と同じフレッシュクリームで塗装し橋脚に溶け込ませる。	⑪

# 既存橋梁の修景実態調査票

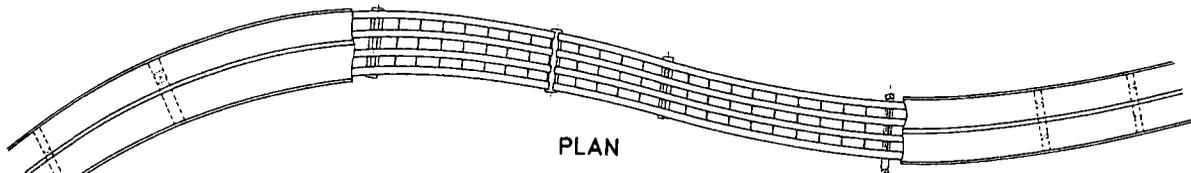
ページ	91
調査者	田谷 光

整理番号	— 2
------	-----

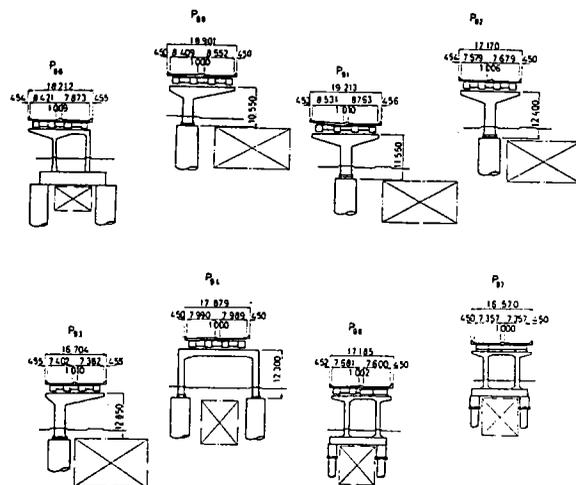
## 全 体 一 般 図



ELEVATION



PLAN



CROSS SECTION

## 位 置 図



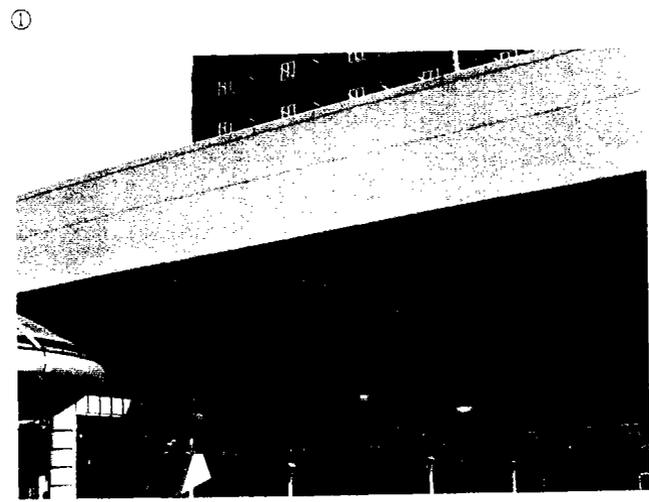
橋梁位置

## 周 辺 状 況

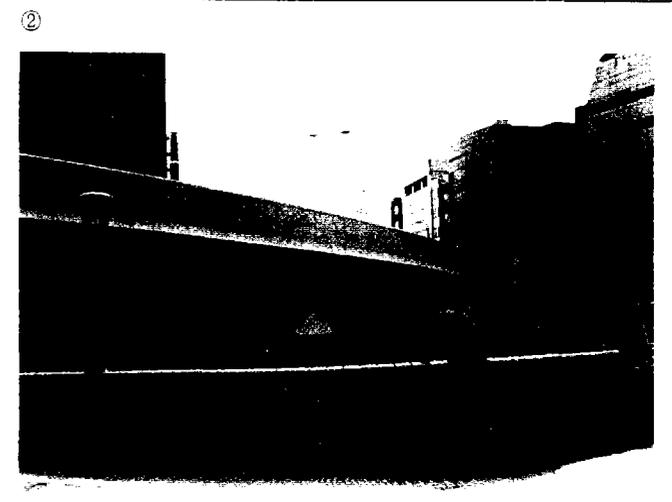
東京の裏文関上野駅前広場に面し加えて国道4号線（昭和通り）と都道浅草線の交差点となっており、何れも都内最大級の交通量を有している幹線道路である。

整理番号 - 3

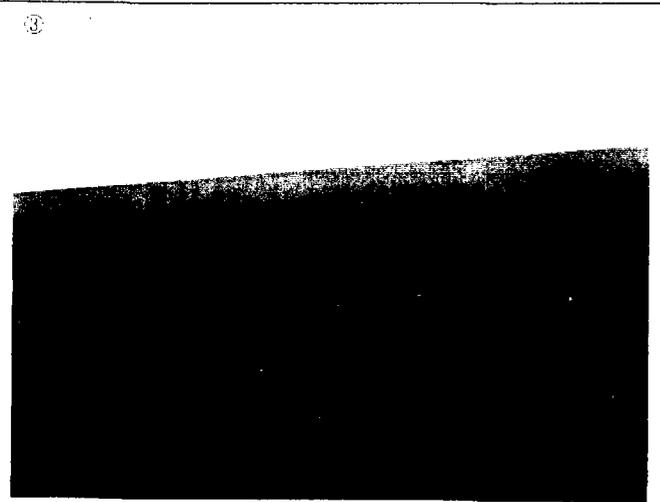
修景前全景



高欄はルーバーの削り出すモチーフ（波）との対比あるいは融合を考慮し全体のバランス（調和感）の創出をはかっている。



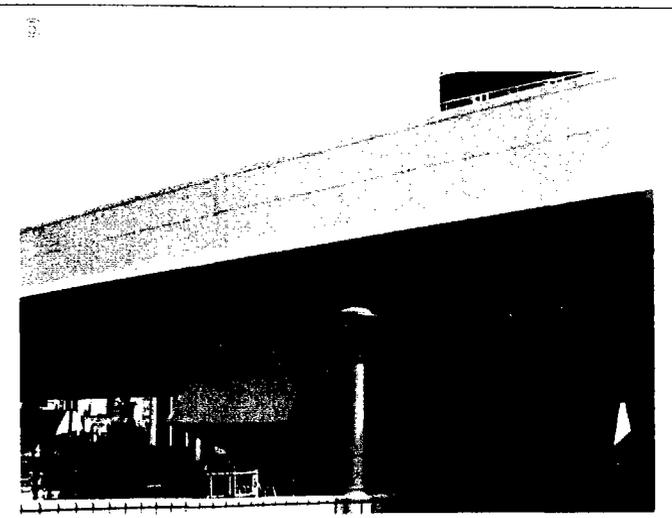
桁側面はペDESTリアンデッキとの一体をはかり新しい上野を表現するためルーバーを橋軸に対し垂直に使用し遠景からの見えを波のイメージとしている。



ルーバーにより排水管を隠す構造としている。

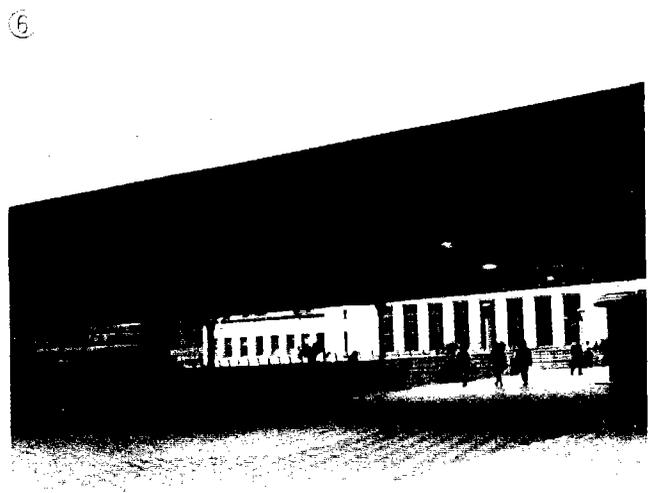


桁下面外装はルーバーを横軸に並べている。鋼箱桁下面は桁下面外装との一体感をはかるため同じ色で塗装している。



鋼箱桁側面はルーバーの波型がより解りやすくする色で塗装している。

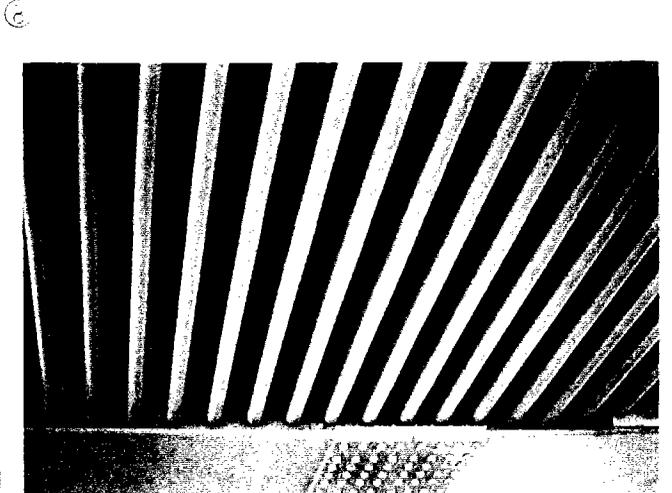
整理番号 - 4



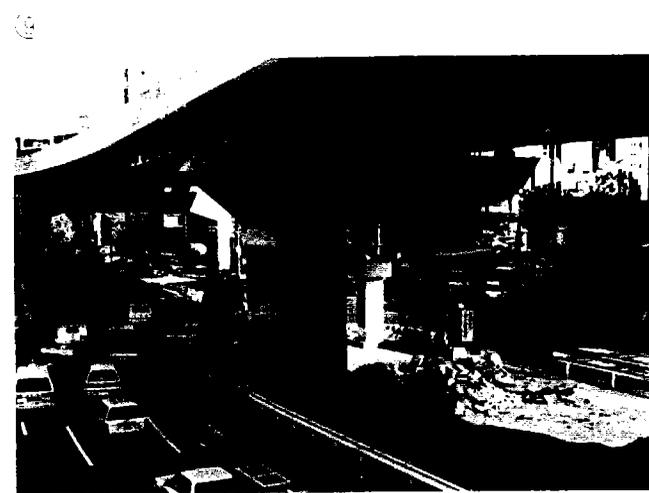
⑥  
 ペDESTリアンデッキ上の桁裏照明はペDESTリアンデッキの照明と合わせ桁裏の明るさを確保している。



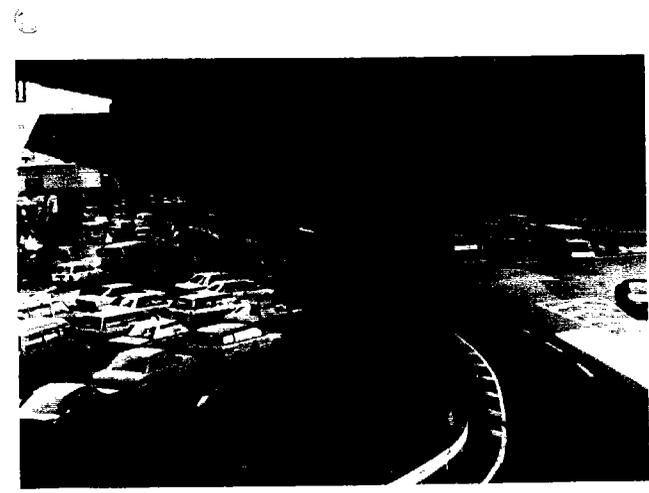
⑦  
 同左



⑧  
 - 鋼箱桁の内側面も桁下面外装との一体感をはかるため同じ色で  
 - 塗装している。



⑨  
 橋脚梁の端部を斜めに形状変更することにより橋脚の圧迫感を軽減している。柱下端1m部分は汚れ対策のため色を変更している。



⑩  
 橋脚排水管は形状を橋脚に合わせて矩形とし橋脚に溶け込ませている。

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	- 1
橋名(路線名)	首都高速1号羽田線 浜松町高架橋
所在地	東京都港区海岸1丁目
橋梁形式	単純合成桁 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">(高架橋・河川橋・他)</span>
竣工年月	昭和62年3月 (昭和37年12)
施主	首都高速道路公団 <span style="margin-left: 50px;">概算工事費</span>
設計業者名	
施工業者名	川田建設(株)
修景プロジェクト名	浜松町附近 外装工事

## 橋 梁 全 景



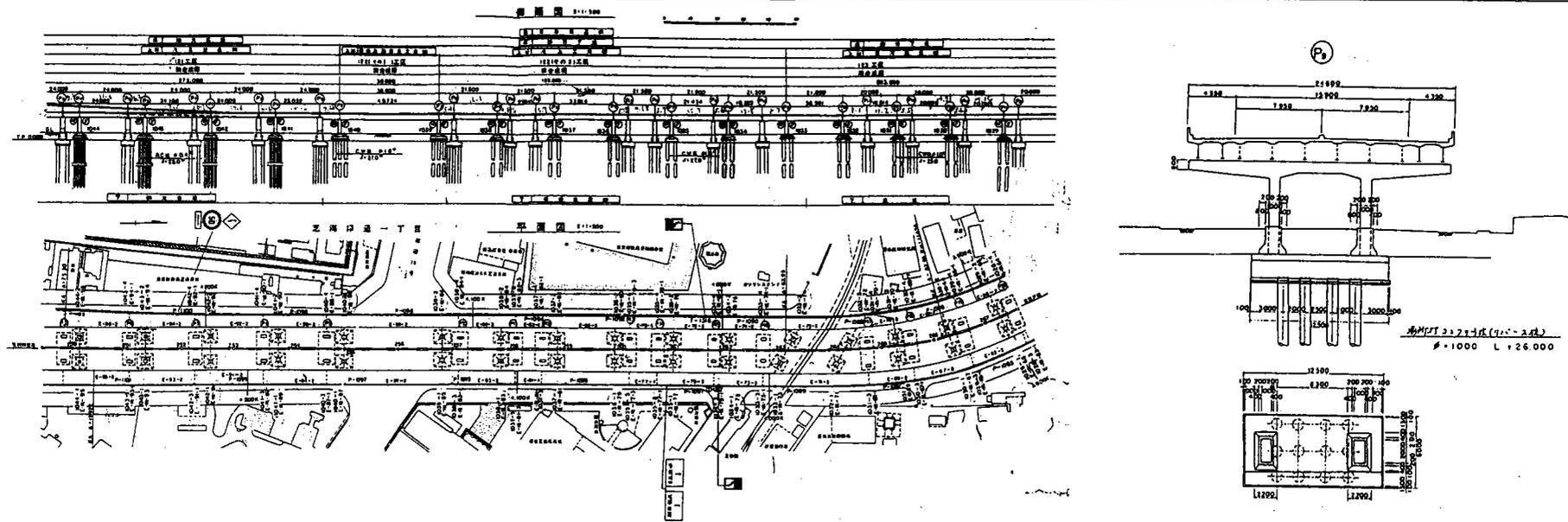
修景が行われた理由	特 徴
<p>・JR、東京モノレール、海上バス、伊豆・小笠原航路など、交通機関の起点でもある浜松町駅周辺は、観光、ビジネスの要所である。</p> <p>本高架橋のある浜松町駅東口は、交通量、人出共にかなりなものとなる。</p> <p>海岸通り上を走る本高架橋も、建設後20年以上が経過し、全体的にかなり汚れた印象があったため“観光・ビジネスの要所”にふさわしい都会的で清潔なイメージに修景する必要があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桁側面を防音壁を兼ねた外装板で覆って、排水管の煩雑さを隠している。</li> <li>・横目地の入った化粧板にブルーのラインを入れる事により桁側面をスレンダーに見せている。</li> <li>・桁裏は、主桁間にエキスパンドメタルを配置し床版下面の煩雑さを隠している。</li> </ul>

修 景 内 容		
項 目	内 容	写 真 番 号
外装板	ラミネート鋼板、グレーの下地にブルーのライン	① ②
桁 裏	化粧版(エキスパンドメタル)	③

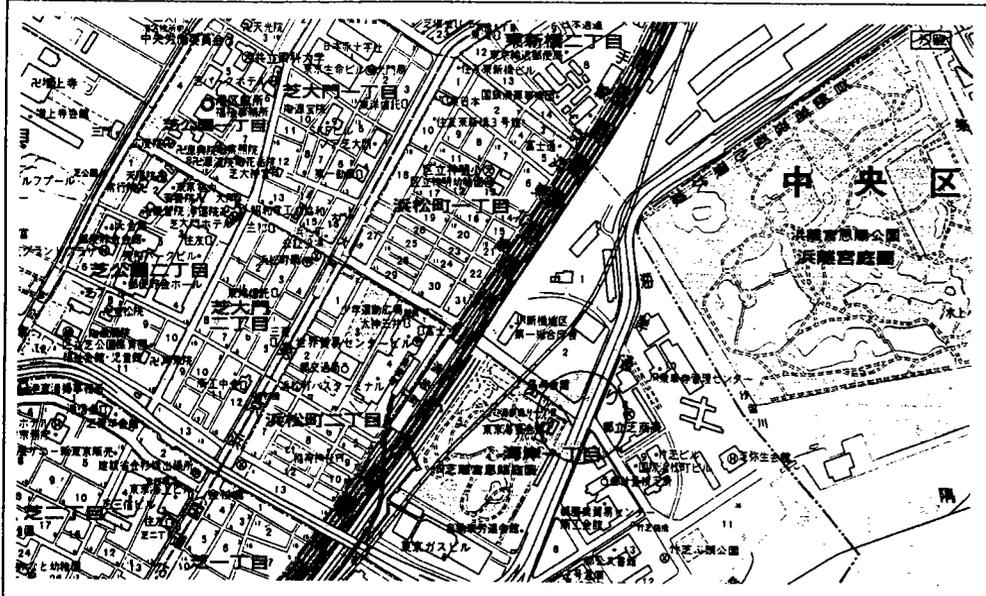
# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 - 2

## 全 体 一 般 図



## 位 置 図



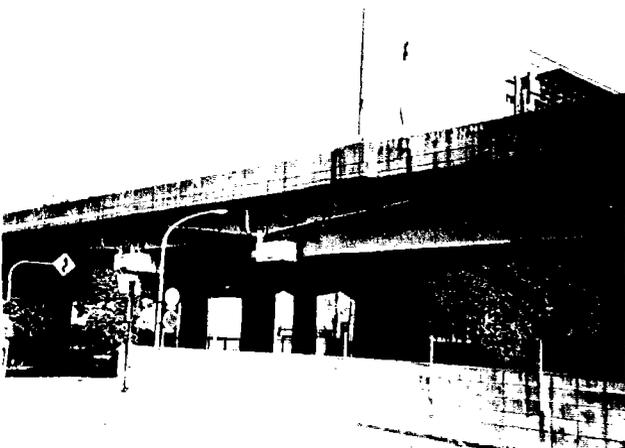
## 周 辺 状 況

- ・ JR浜松町駅周辺は、オフィスビルが立ち並ぶ東京を代表するビジネス街である。
- ・ JR浜松町駅前の旧芝離宮恩賜庭園、東京湾沿の浜離宮恩賜庭園、竹芝桟橋、日の出桟橋が近くにあるため、観光客の人出もかなりある。
- ・ 本高架下に沿って走る海岸通りは、羽田・品川方面から築地・日本橋方面をアクセスする幹線道路で、商用車の交通量は相当なものである。
- ・ 本高架下をJR浜松町駅から竹芝桟橋方面に走る都道19号線の歩道は、巾員がゆったりとしており、ウォーターフロントを感じさせてくれる街づくり（ブロック舗装、植樹、街灯、銘形状の記念碑等）が行なわれている。

既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 - 3

修景前全景 (未修景の隣接工区)



①



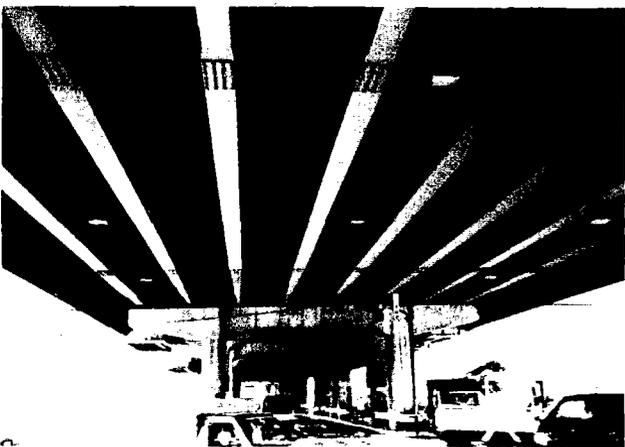
・防音壁を兼ねた外装板 (ラミネート鋼板)

②



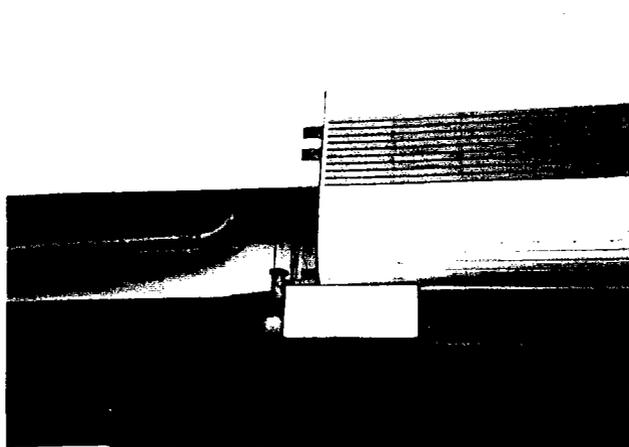
・桁直下からの近景

③



・桁裏の化粧版 (エクスパンドメタル)

④



・未修景の工区との工区境 (汐留側)

⑤



・未修景の工区との工区境 (浜崎橋側)

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	- 1
橋名(路線名)	天現寺ランプ(首都高速2号目黒線)
所在地	東京都港区南麻布4丁目
橋梁形式	連続钣桁 (高架橋・河川橋一他)
竣工年月	平成 年 月竣工 (昭和42年9月供用)
施主	首都高速道路公団 概算工事費
設計業者名	
施工業者名	
修景プロジェクト名	

修景が行われた理由	特 徴
	<p>①防音壁を外装板で覆って、連続性を強調するため側面にブルーのラインを入れた。</p>

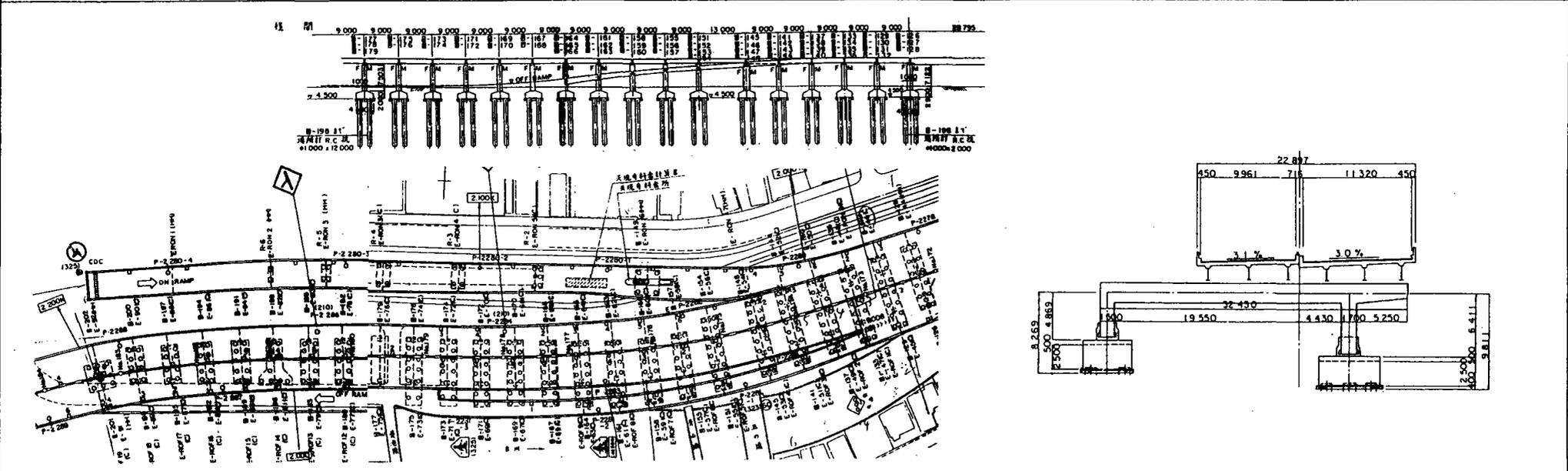


修 景 内 容		
項 目	内 容	写 真 番 号
防音壁	外装板 : ラミネート鋼板 (ライトブルー)	

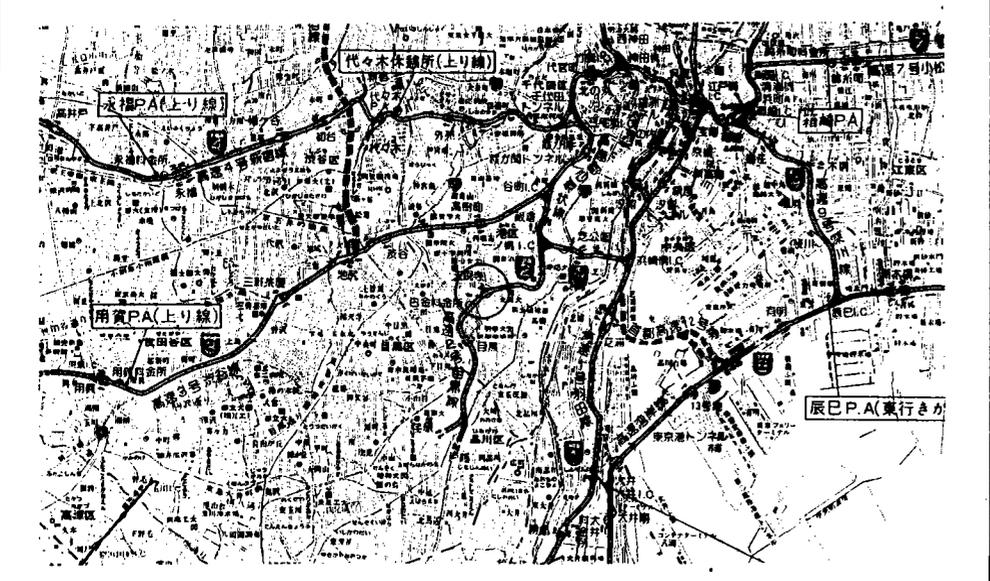
# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 - 2

## 全 体 一 般 図



## 位 置 図



## 周 辺 状 況

・周囲には各国の大使館や大学、病院などがあり、文化的レベルの高い地域である。

既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 - 3

修景前全景

①



壁高欄までの外装板

②



天現寺ランプ近傍にある透明アクリルの防音板

③

④

⑤

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	- 1
橋名(路線名)	一の橋交差点(首都高速2号目黒線)
所在地	東京都港区東麻布3丁目
橋梁形式	連続桁 <span style="float: right;">(高架橋・河川橋(他))</span>
竣工年月	平成 年 月竣工 (昭和42年9月供用)
施主	首都高速道路公団 <span style="float: right;">概算工事費</span>
設計業者名	
施工業者名	
修景プロジェクト名	

修景が行われた理由	特徴
<p>市街地の交通量の多い交差点にあり、人の目に触れることが多い場所である。</p> <p>公園の直上である。</p>	<p>①防音壁を外装板で覆って、連続性を強調するため側面にブルーのラインを入れた。</p> <p>②橋脚が公園の中に立ち、人の目に触れることが多いため、コンクリートに厚膜型樹脂系塗装を施した。</p>

橋 梁 全 景

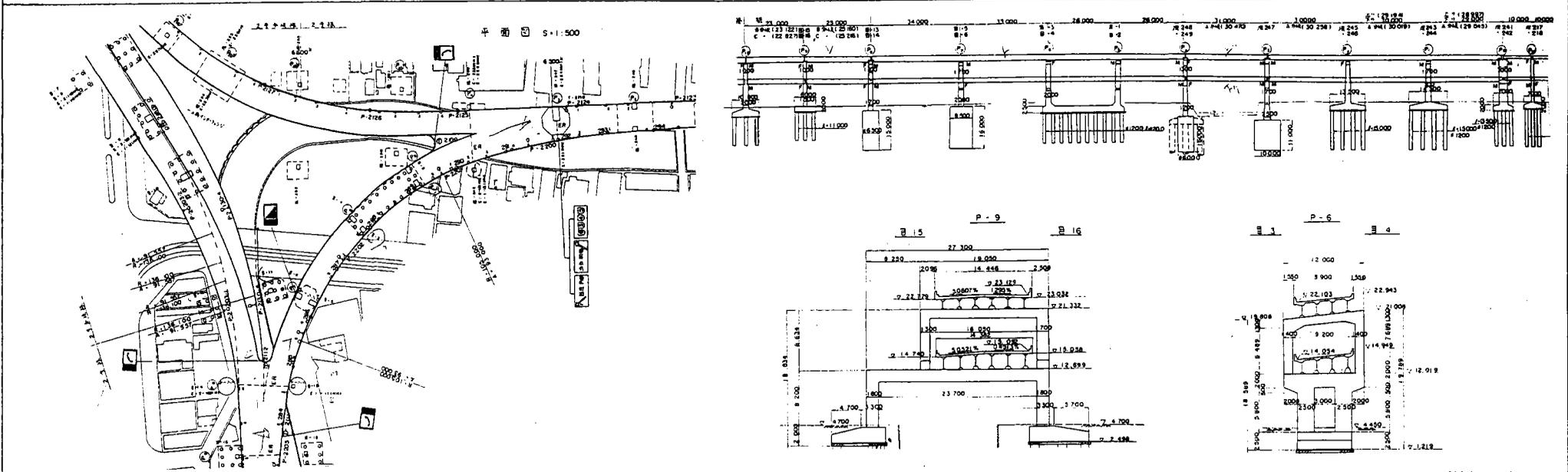


修 景 内 容		
項 目	内 容	写 真 番 号
外装板	ラミネート鋼板 (ライトブルー)	

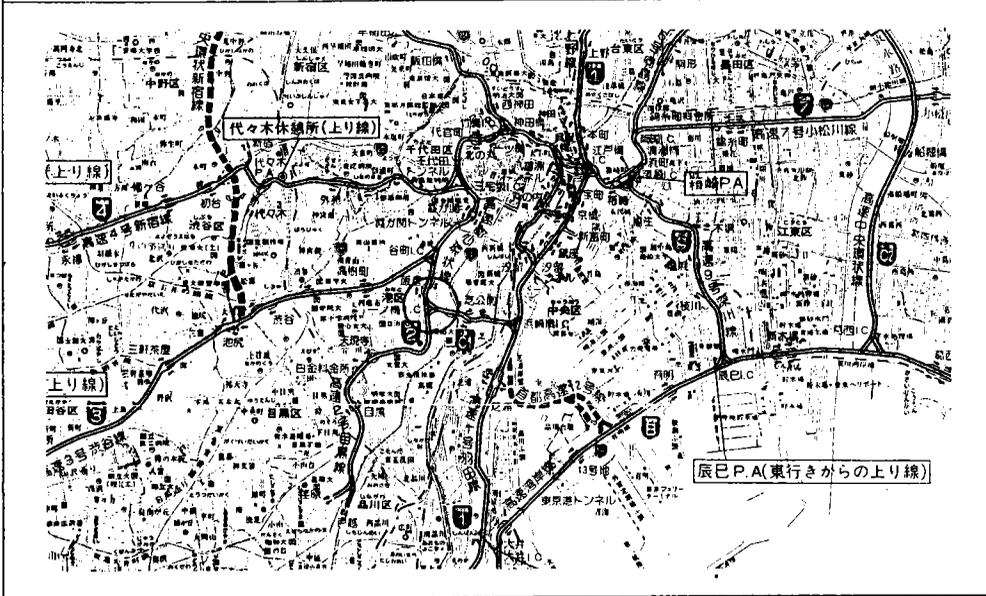
# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 - 2

## 全 体 一 般 図



## 位 置 図

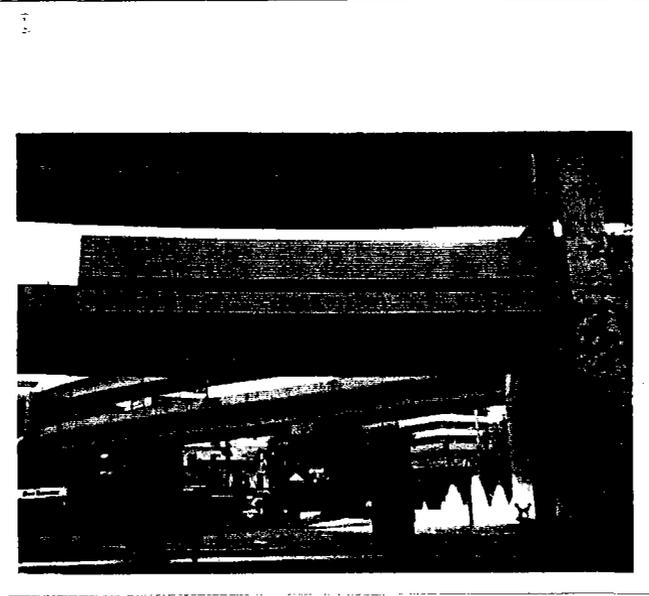


## 周 辺 状 況

- ・環状線と2号線の分岐部で、ランプウェイに囲まれた3角地帯が公園になっている。
- ・周囲はオフィス街である。

整理番号 - 3

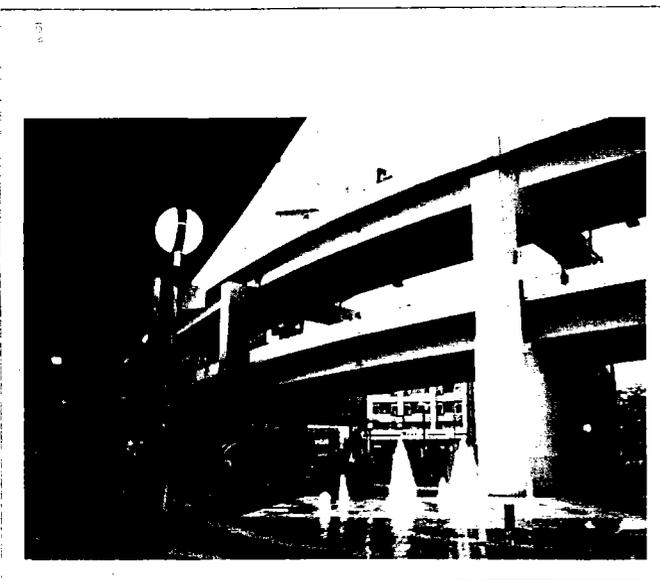
修景前全景



壁高欄までの外装板（排水管がみえる）



コンクリート橋脚に厚膜型樹脂系の塗装



公園としての風景

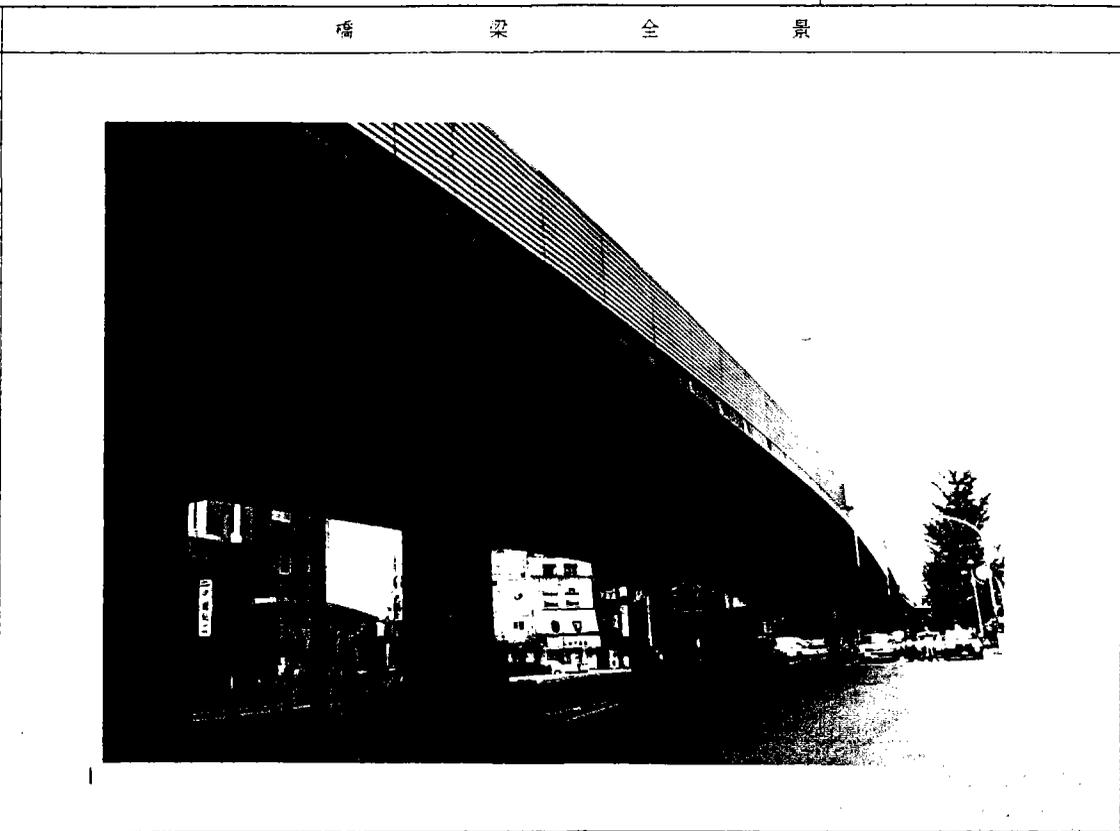
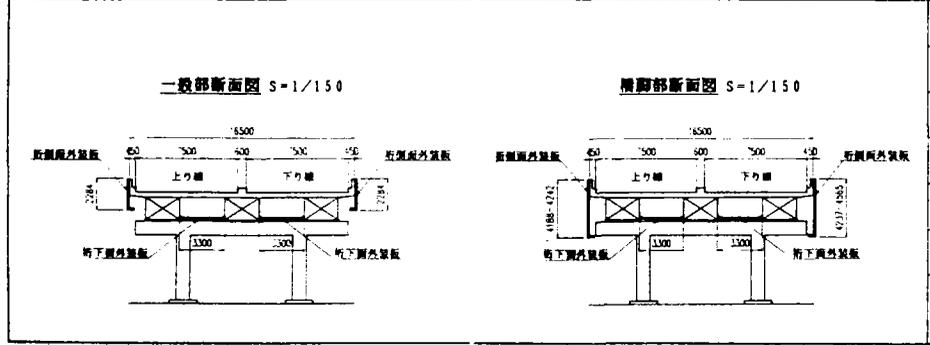


歩行者からみた風景

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	- 1		
橋名(路線名)	六本木6丁目交差点(首都高速3号渋谷線) [テレビ朝日前]		
所在地	東京都港区六本木6丁目		
橋梁形式	3径間連続箱桁 (高架橋・河川橋一他)		
竣工年月	平成2年4月竣工 (昭和46年12月供用)		
施工主	首都高速道路公団	概算工事費	1億3千万円
設計業者名	パンフィックコンサルタンツ株		
施工業者名	深太陽道路		
修景プロジェクト名			

修景が行われた理由	特徴
<p>一般的に汚れがめだち、信号機、標識柱、排水管などが煩雑な外観となっていた。</p> <p>橋脚構造は横梁があり、形状が不揃いである。主構造自体は連続箱桁でスレンダーな構造物である。</p>	<p>①防音壁の外装板に準じた側面化粧板で、高欄から桁側面までを覆うことにより、排水管の煩雑さを解消した。圧迫感を軽減するため、化粧板は桁高までとはせず、排水管を覆うだけとした。橋脚上では横梁側面も化粧板で覆った。</p> <p>②構造の連続性を強調し、スレンダーに見せるため、化粧板にはグリーン(パイペリイ)のラインを入れた</p> <p>③化粧板(ルーバー)を箱桁間に設ける事で、桁下面を一平面化し、電ラン管、横桁等を隠した。</p>

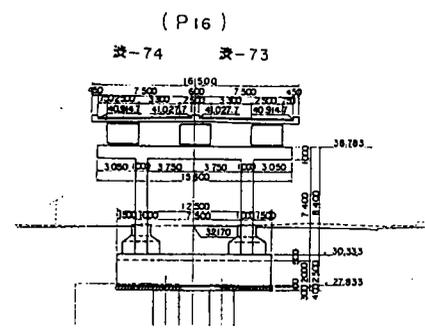
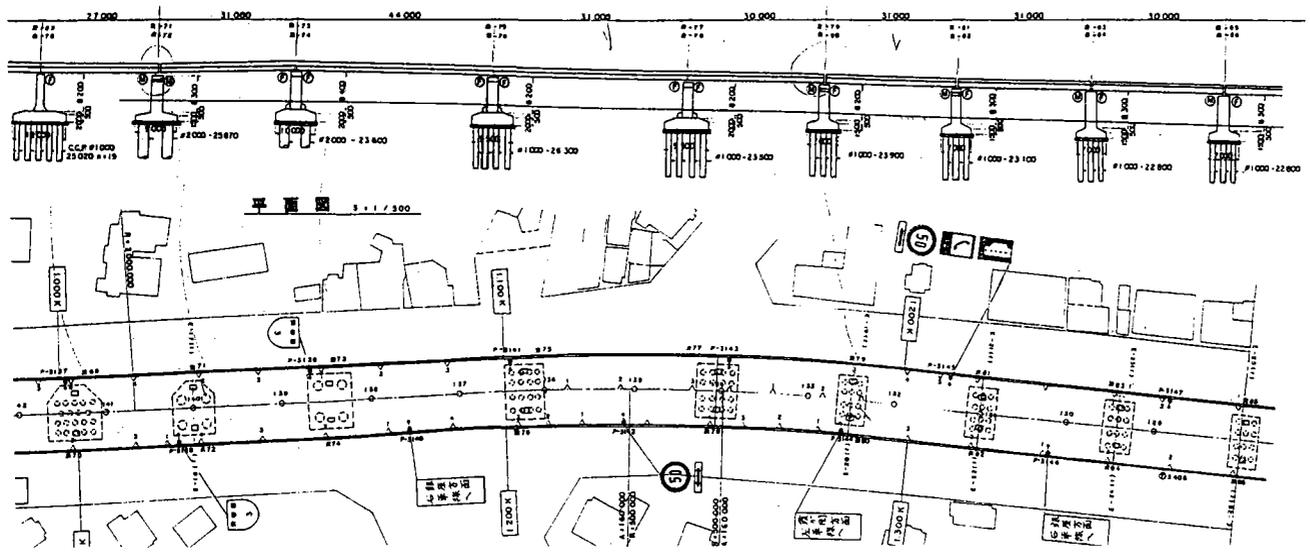


修景内容			写真番号
項目	内容		
外装工事(防音壁)			
外装板	ラミネート鋼板 (ダウングレイ)		
ルーバー	アルミ		

# 既存橋梁の修景実態調査票

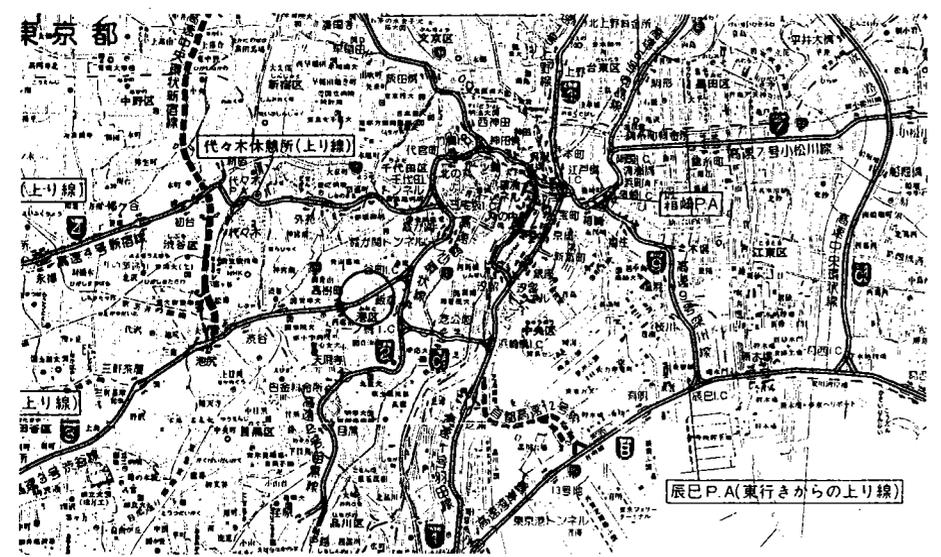
整理番号 - 2

## 全 体 一 般 図



## 位 置 図

## 周 辺 状 況



- ・東京の代表的な商業地域である。
- ・六本木交差点と西麻布交差点との中間地点に位置する。
- ・サインボードやビルボード、様々な色彩で彩られた商業ビルが、混然一体とした景観を創り出している。
- ・テレ朝通りは、昼夜を問わず人通りが多く、特に交差点付近には常に人溜まりができています。

既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 - 3

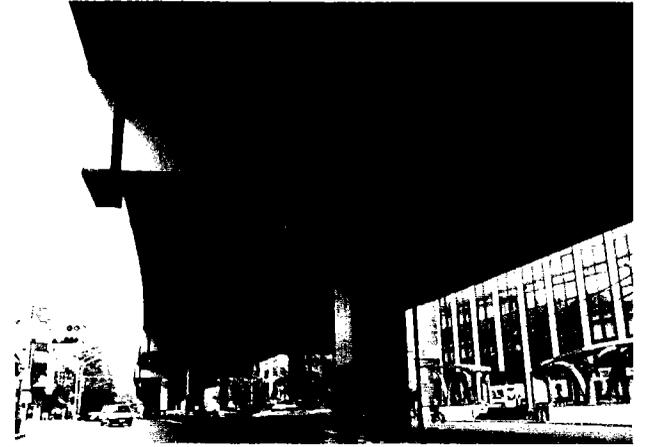
修景前全景

①



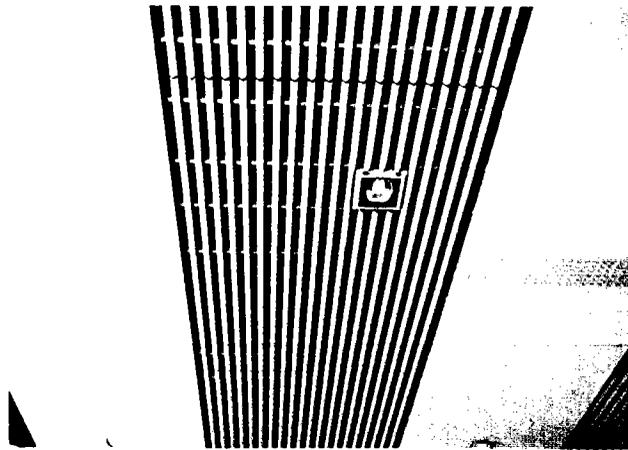
橋脚の横梁面を覆う外装板

②



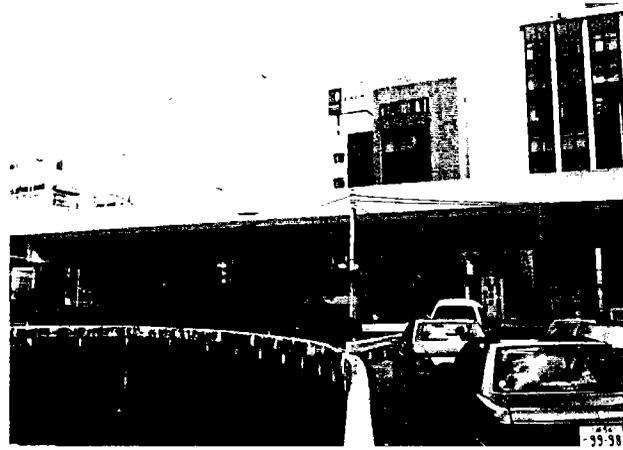
外装板と主桁の間には維持管理用の空間

③



主桁間のルーバー

④



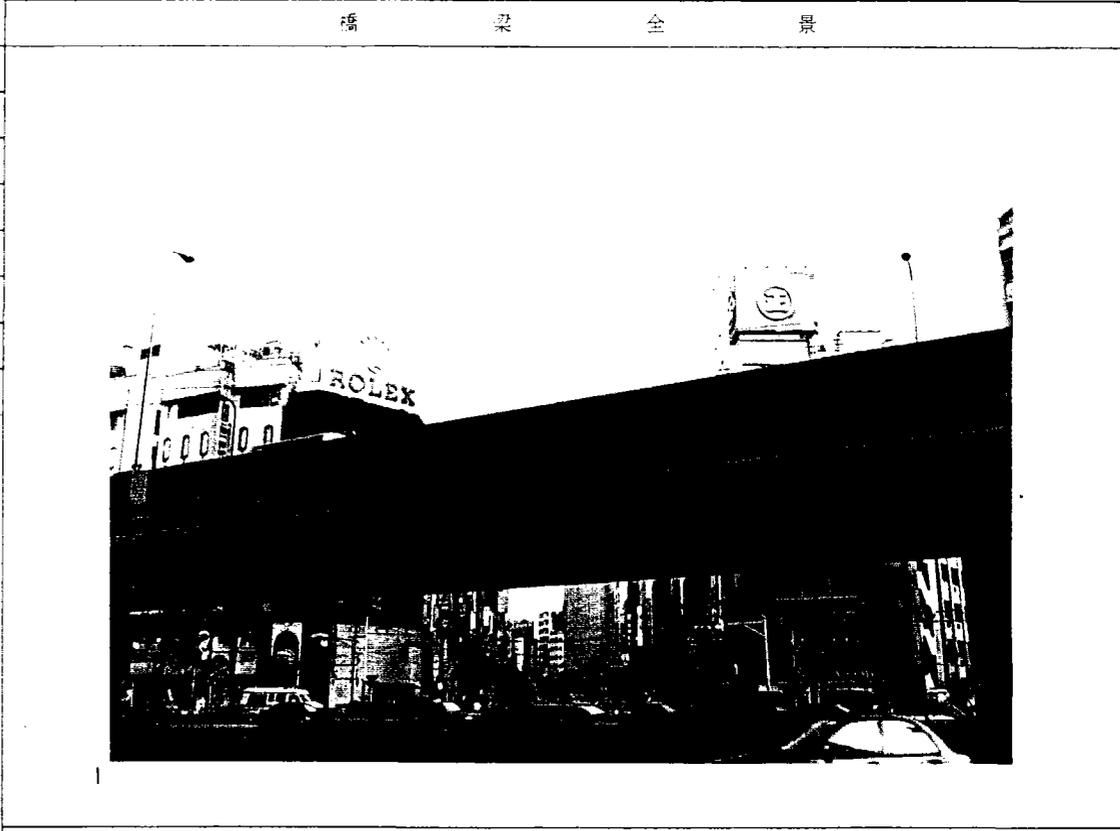
排水装置の横引き管までを覆う外装板

⑤

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	- 1
橋名(路線名)	六本木交差点(首都高速3号渋谷線)
所在地	東京都港区六本木交差点
橋梁形式	3径間連続箱桁 (高架橋・河川橋一他)
竣工年月	平成元年3月竣工 (昭和46年12月供用)
施主	首都高速道路公団 概算工事費 1億2千万円
設計業者名	八千代エンジニアリング社
施工業者名	株太陽道路工事
修景プロジェクト名	

修景が行われた理由	特 徴
<p>全般的に汚れがめだち、信号機、標識柱、排水管などが煩雑な外観となっていた。主構造自体は連続箱桁でスレンダーな構造物である。</p>	<p>①防音壁の外装板に準じた側面化粧板で、高瓶から桁側面までを覆うことにより、排水管の煩雑さを解消した。</p> <p>②構造の連続性を強調し、スレンダーに見せるため、化粧板にはグリーン(ペインバリエイ)のラインを入れた</p> <p>③化粧板(ルーバー)を箱桁間に設ける事で、桁下面を一平面化し、電ラン管、横桁等を隠した。</p> <p>④側面に地名板を設置しランドマークとしての存在感を出した。また HIGH TOUCH TOWN ROPPONGI と欧文で入れることにより、国際的な街のイメージを高めた。</p>

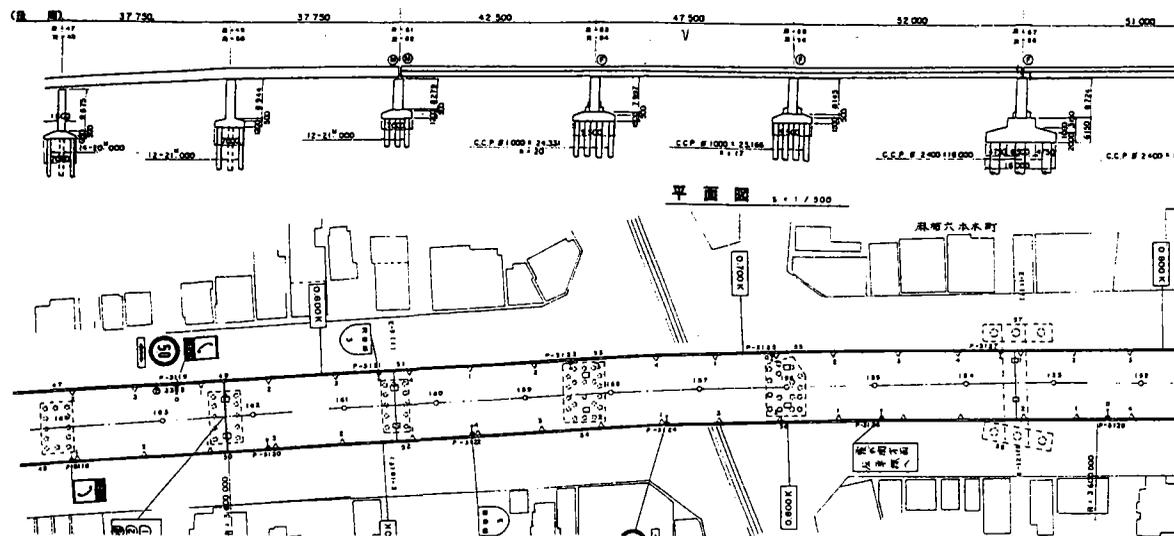


修 景 内 容	
項 目	写 真 番 号
外装工事(防音壁)	
外装板	ラミネート鋼板 (ライトグリーン)
ルーバー	アルミ

# 既存橋梁の修景実態調査票

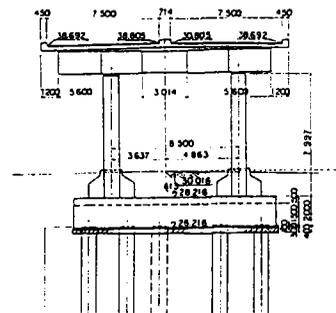
整理番号 - 2

## 全 体 一 般 図



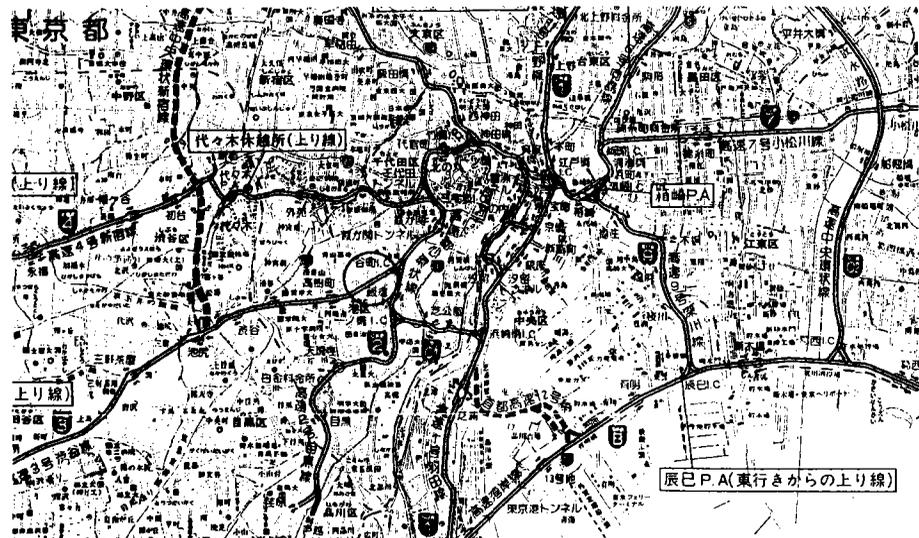
(P 26)

設-54 設-53



## 位 置 図

## 周 辺 状 況



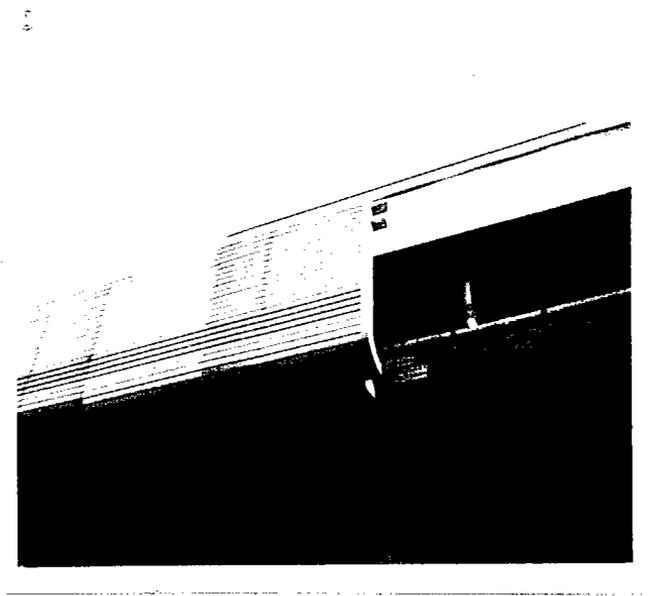
- ・東京の代表的な商業地域である。
- ・昼夜を問わず、ハイセンスでファッションな街である。
- ・サインボードやビルボード、様々な色彩で彩られた商業ビルが、混然一体とした景観を創り出している。
- ・多数の外国人が行き交う地点である。

既存橋梁の修景実態調査票

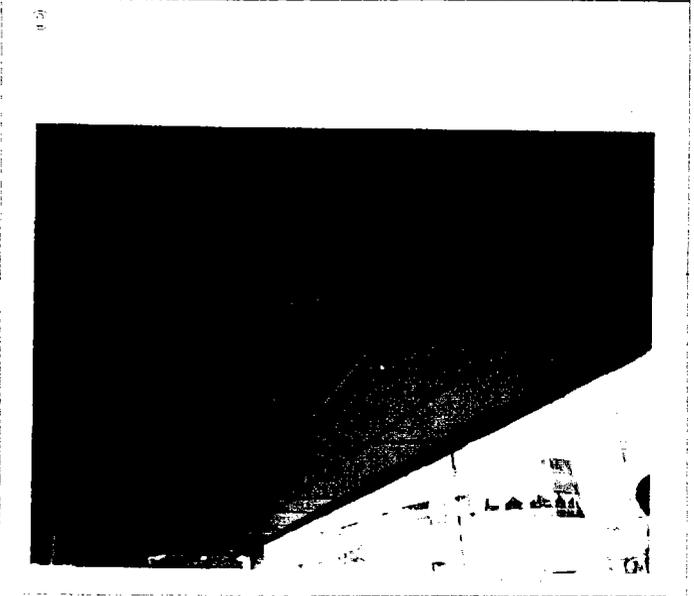
ページ 100  
調査者 亀尾順一郎

整理番号 100

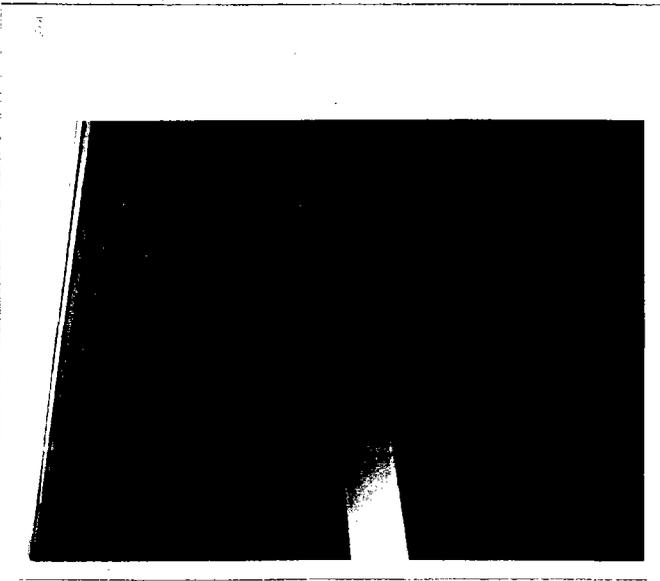
修景前全景



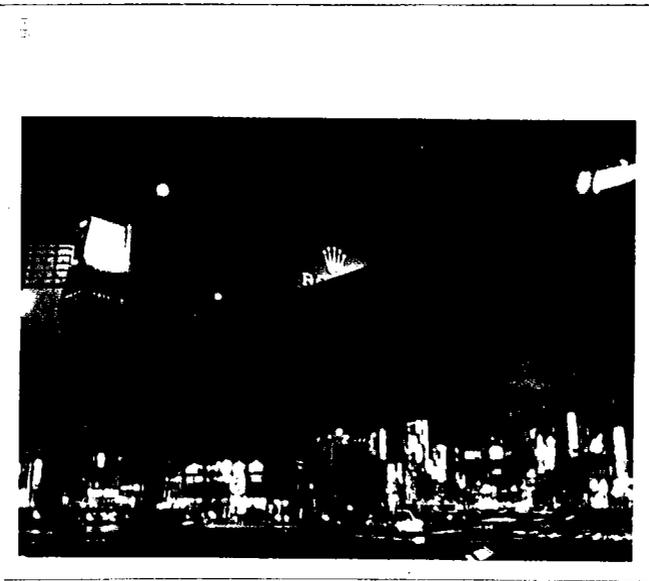
未修景部分との境界 桁側面を全面覆う外装板



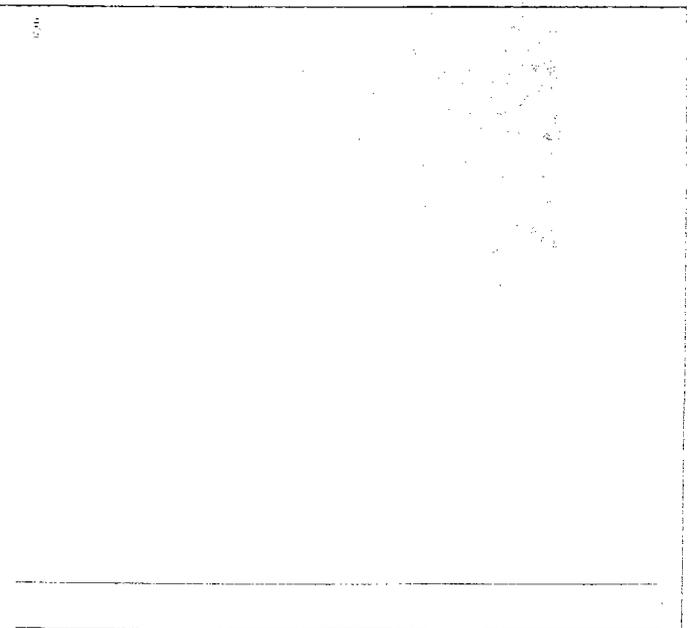
主桁間のルーバー



外装板と主桁の間には維持管理用の空間



六本木交差点の夜景

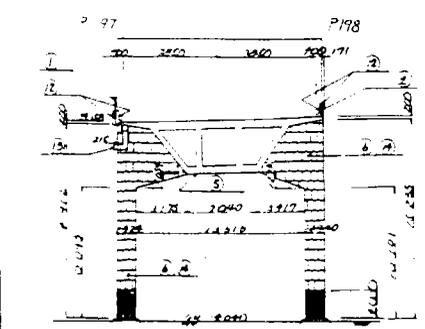
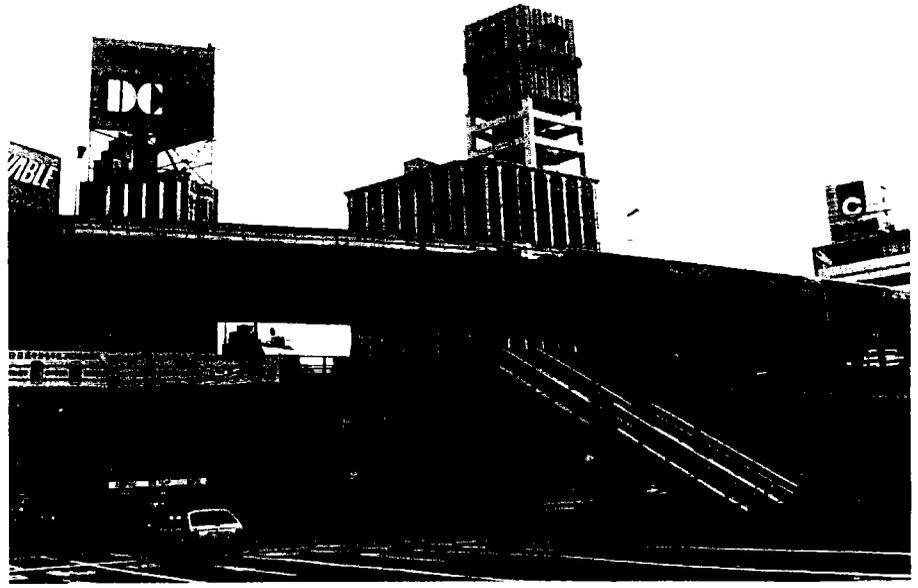


# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 - 1

橋名(路線名)	渋谷駅前高架橋(首都高速3号渋谷線)		
所在地	東京都渋谷区渋谷駅前		
橋梁形式	ディビダークPC連続箱桁 (高架橋・河川橋一造)		
竣工年月	平成2年9月竣工 (昭和39年10月)		
施工主	首都高速道路公団	概算工事費	3億円
設計業者名	パシフィックコンサルタンツ		
施工業者名	トピー栄進建設株, 横河工事株		
修景プロジェクト名			

修景が行われた理由	特徴
<p>桁裏などコンクリートがむき出しで、汚れがめだち、排水管や電気配管などの付帯設備が煩雑な外観となっていた。</p> <p>桁下を歩道橋が横断しており、歩行者への圧迫感があった。</p>	<p>①北側の壁高欄をミラーステンレスの外装板で覆う事により桁の厚さを軽減し、ハイテク都市としてのイメージを創出した。</p> <p>②南側は防音壁を設置し壁高欄への取付部にはカバーを設置した</p> <p>③主桁に光沢のある塗装を施し、歩道橋利用者への圧迫感を緩和した。</p> <p>④橋脚には自然石風の吹き付け塗装をし、目地をつけることにより、石積みの外観とした。</p> <p>⑤夜間、桁下面を照明する事により桁下の暗い雰囲気無くし、アーチ形状を夜の夜景に溶け込ませている。</p>



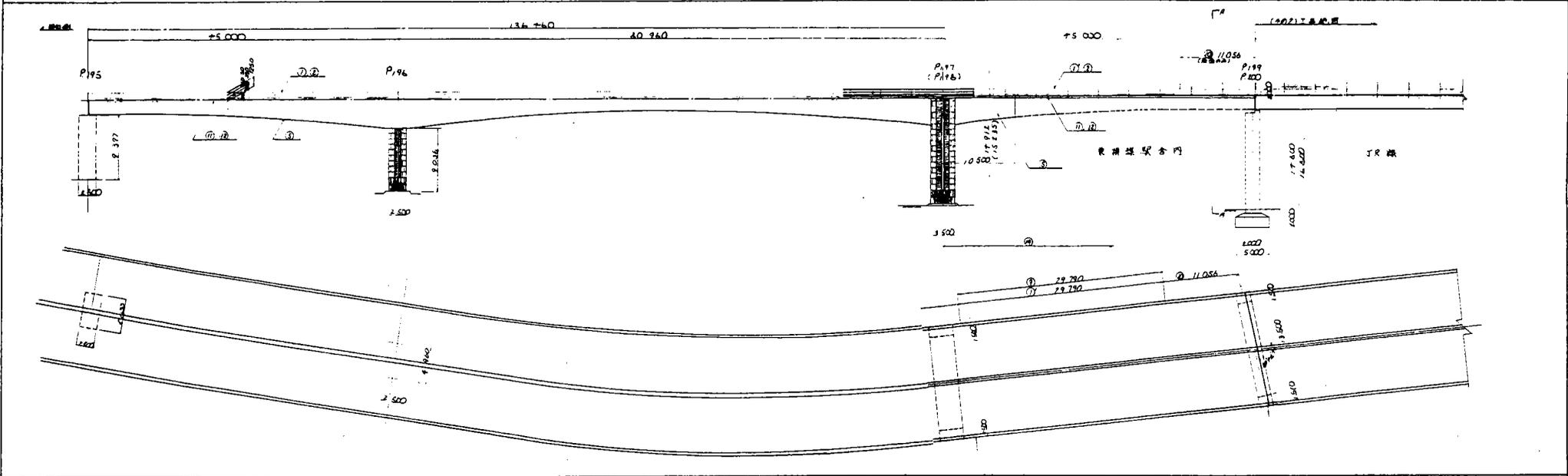
- ① 南面外装板設置工(ミラー鋼板)
- ② 北面外装板設置工(ステンレス板)
- ③ 防音壁設置工(防音壁)
- ④ 塗装工
- ⑤ コンクリート補修工
- ⑥ 取付部工
- ⑦ 鋼骨塗布工(FFラック付)
- ⑧ 歩道コンクリート塗り工
- ⑨ 歩道補修工(A7工)
- ⑩ 歩道止水工
- ⑪ 大印リ補修工
- ⑫ 歩道補修鋼板設置工
- ⑬ 排水管取付工
- ⑭ 歩道照明工(歩道照明)

修景内容		写真番号
項目	内容	
外装板(南面)	ラミネート鋼板 (ページェ)	
外装板(北面)	ミラーステンレス (ブルーのライン)	
塗装	厚膜型ポリウレタン系塗装	
夜間照明		

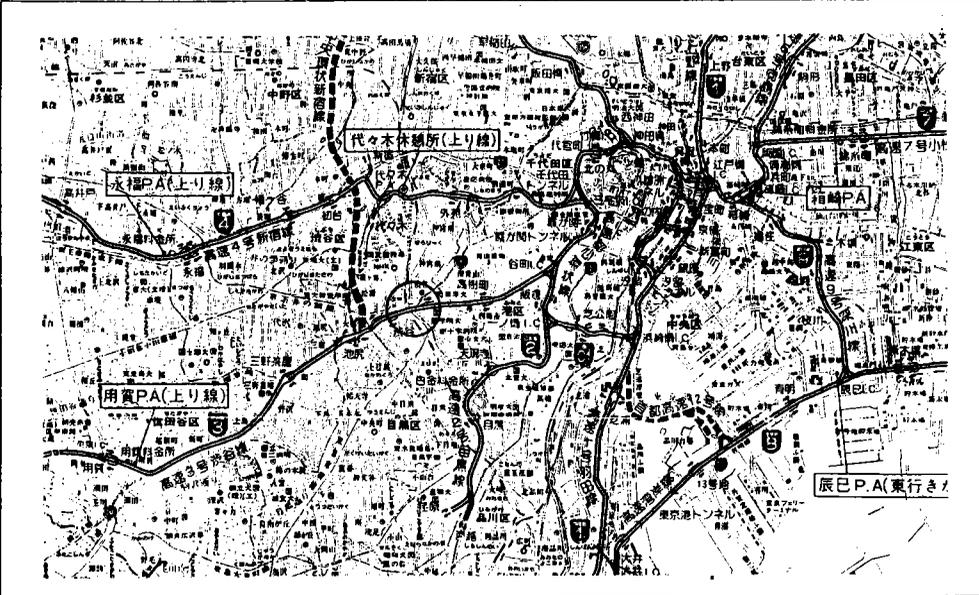
# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 - 2

## 全 体 一 般 図



## 位 置 図



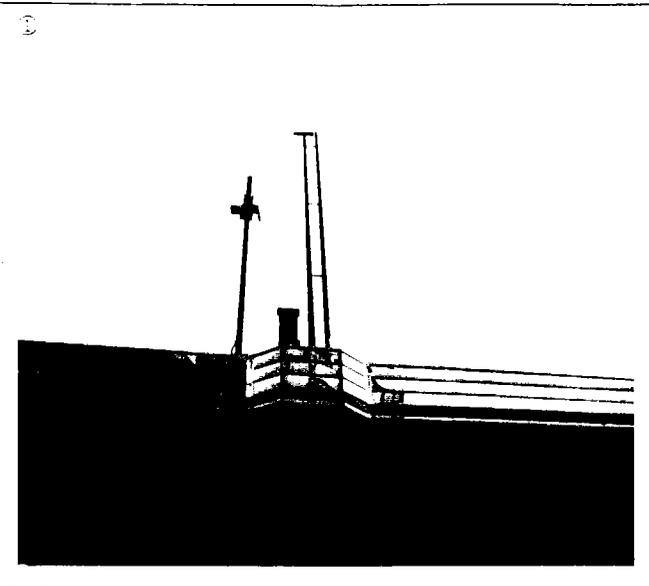
## 周 辺 状 況

- ・渋谷駅はターミナル駅としての機能を持ち、都区内でも有数の乗降客が利用している。
- ・渋谷駅周辺は東京を代表する繁華街である。
- ・首都高の北側は、駅前広場やバスターミナルの空間が広がっており、視野が広い。南側は住宅地域やオフィスビルが近接しており、居住環境に対する配慮が求められた。
- ・高架橋の下を横断する歩道橋があり、歩行者は多い。

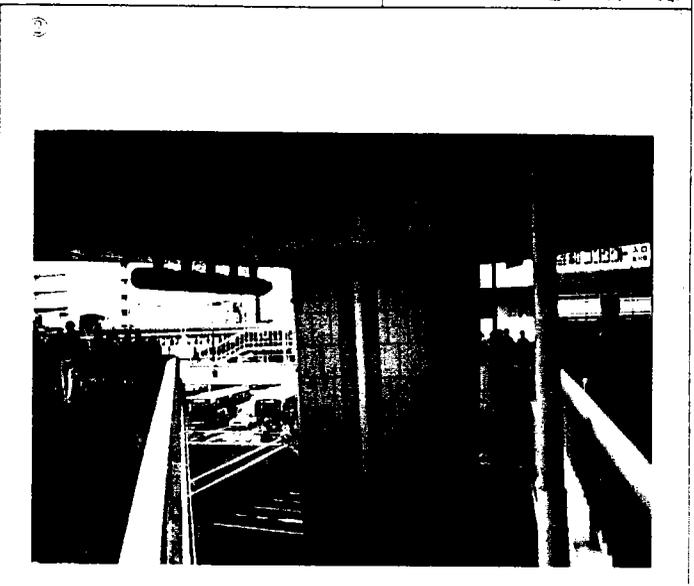
既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 ー 3

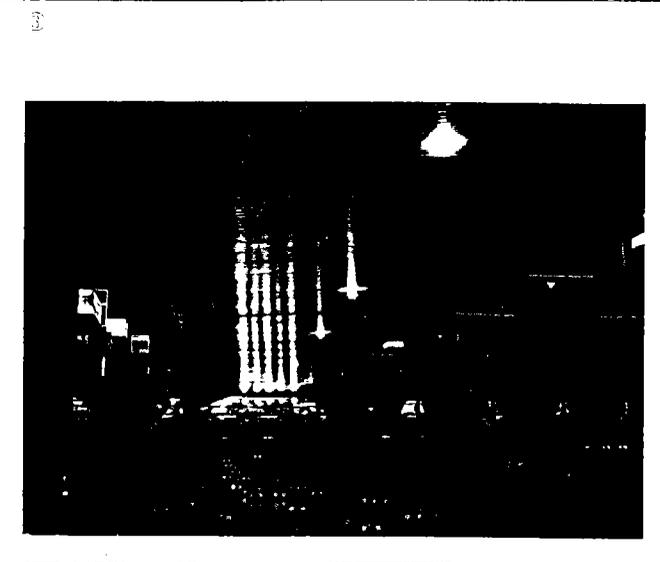
修景前夜景



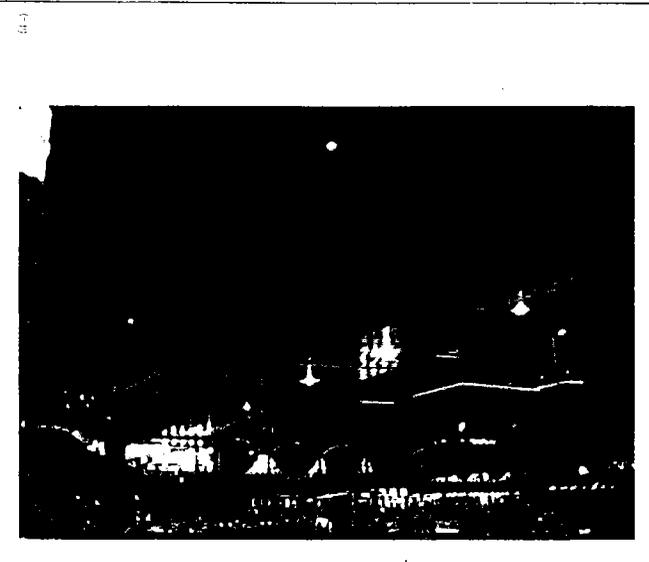
① ミラーステンレスの外装板に反射して写る風景



② 橋脚、主桁のすぐそばを歩行者が通る



③ 塗装をしたコンクリート面がスポットライトを反射



④ 桁下の暗さが解消されている

⑤

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 - 1

橋名(路線名) 首都高速4号線日本橋付近  
所在地 東京都中央区日本橋1丁目  
橋梁形式 連続鋼桁高 (高架橋・河川橋・他)  
竣工年月 平成3年5月  
施主 首都高速道路公団 概算工事費 651,000千円  
設計業者名  
施工業者名  
修景プロジェクト名

修景が行われた理由

- 1 桁下の圧迫感の緩和・明るさの確保
- 2 桁裏の汚れの解消
- 3 鋼橋脚の円柱を生かしたデザイン(川への映り込みなどの演出を考える事により人の視線を水面に向ける)
- 4 橋詰の景観整備に整合させたデザインを考慮する
- 5 高速道路上のドライバーから日本橋の位置が認識できるようにする

⑥橋脚(縦目地) 周辺の伝統的ビルの柱をイメージした縦目地は、橋脚をスレンダーに見せ、かつ豪華に見せる。

⑦道路元標 首都高利用者に日本橋の位置を認識してもらうため、レプリカ(実物の75%)を旧道路元標の設置場所を示した板の真上に設置。支柱の形状はシンプルに、色は本物に近い色の青銅色とする。

特徴

日本橋周辺は道路の起点があり、オフィス街であり、三越等の老舗が並ぶ商業地区であるため、平・休日ともに歩行者、自動車の交通量が多い。

デザインコンセプトとして

- 1 基本的には、周辺環境を含めて「日本橋」と一体感のあるデザインとする。
- 2 歴史、伝統の「日本橋」地域にふさわしい高級感をイメージさせるデザインとする。
- 3 「日本橋」上の重層感を軽減する。
- 4 江戸情緒のある親しみやすさ、暖かさをデザインに生かす。
- 5 水の演出を含め、自然と調和するデザインとする。
- 6 首都高利用者に「日本橋」が認識できるデザイン対象の特徴としては

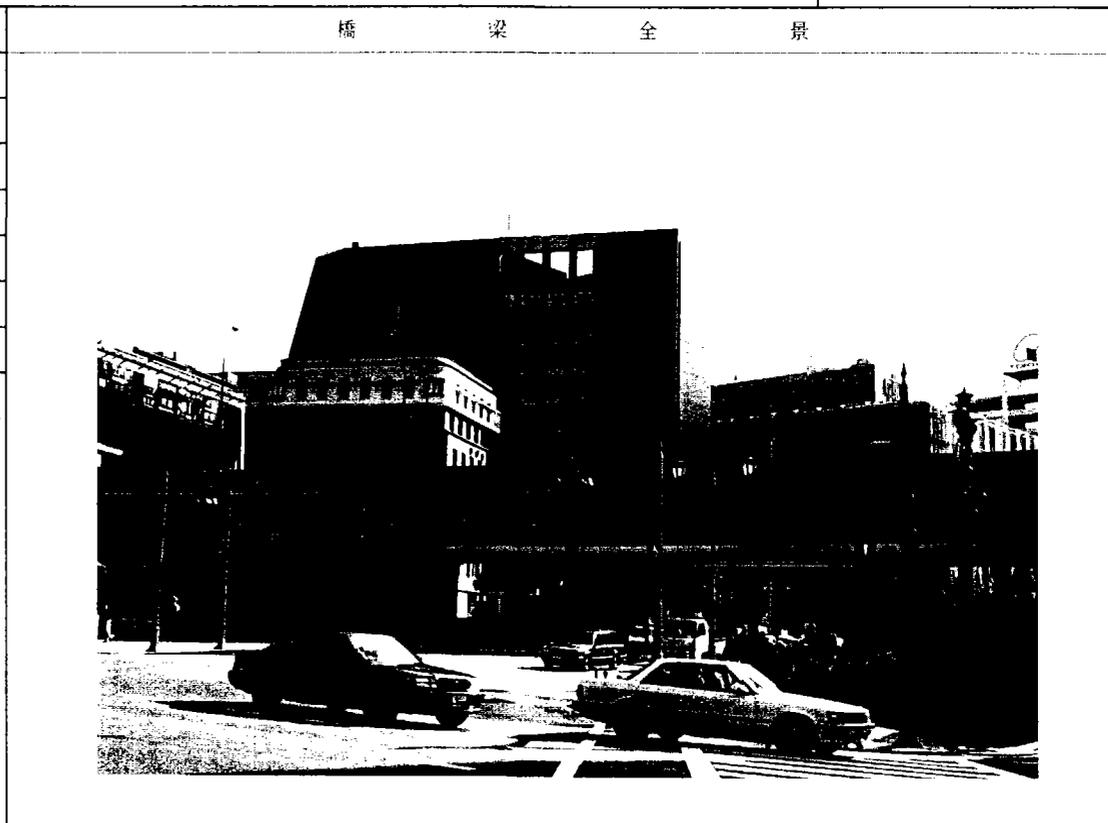
①壁高欄 伝統的イメージを創出するため、自然石風の吹き付け塗装とし、日本橋の素材(花崗岩)とデザイン上の統一性をはかる。

②桁側面 R形状とし、桁をスレンダーに見せ、優美性を表現する。太陽の動きによる影の景観的演出が期待できる。

③桁裏(箱桁間) 川への映り込みを演出するため、水の波紋をモチーフにしたデザインを採用し、自然との調和をはかり、間接照明により桁裏の明るさを確保する。

④桁裏(フランジ下面) 桁側面と一体感をはかるため、フッ素樹脂鋼板でカバーリング。

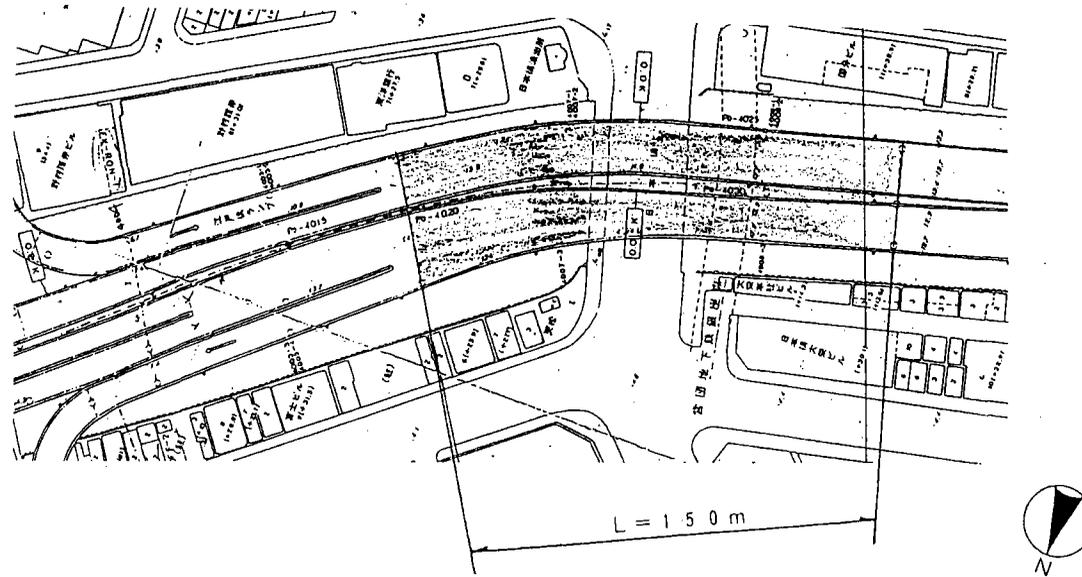
⑤橋脚(照明) 橋脚上部の直接光により、夜の景観的演出をはかり、橋脚をスレンダーに見せる。



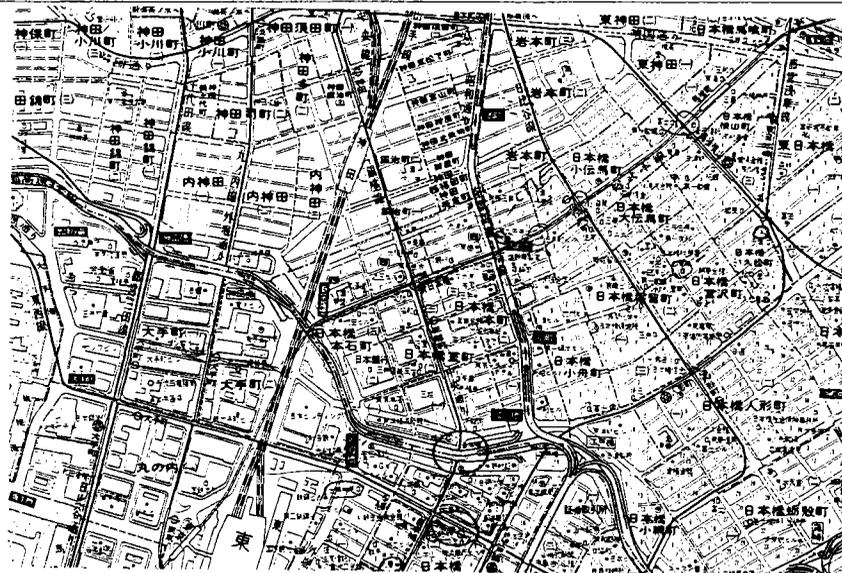
修景内容		写真番号
項目	内容	
箱桁間	すかし版 内側に照明	①
桁化粧版	外桁腹板に化粧版(R形状)、フランジ下面にフッ素樹脂鋼板	②
道路元標	レプリカ(実物の75%)	③
照明	日本橋の歴史的構造物に対してスポット照明	④
橋脚	ライニング、天端部にステンレスの沓かくし	⑤
橋詰広場		⑥⑦
壁高欄	自然石風吹き付け塗装	⑧

# 既存橋梁の修景実態調査票

全 体 一 般 図



位 置 図



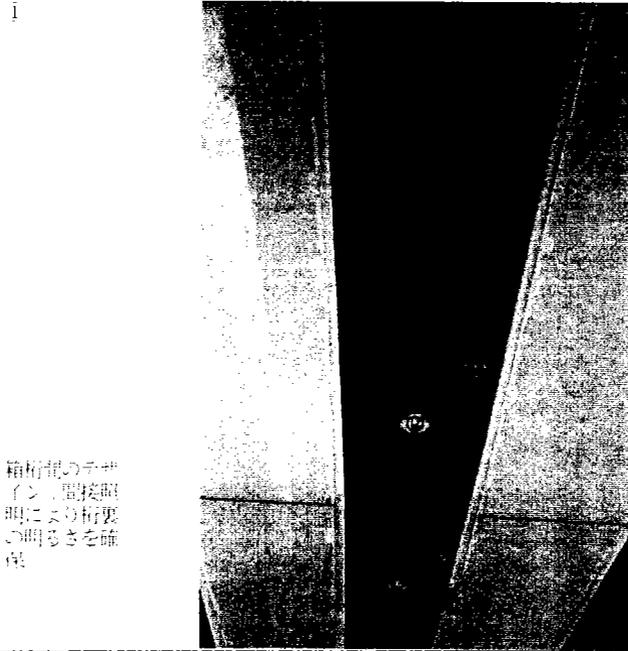
周 辺 状 況

- ・日本全国の道路の起点である。
- ・日本橋は明治44年に架設された、花崗岩製2連アーチ橋である。
- ・周辺には中層ビルが多い。
- ・橋詰周辺以外に緑がない。
- ・銀行や証券会社が多く、金融の街である。
- ・江戸時代からの老舗が多い。
- ・オープンスペースが少ない。
- ・日本橋川の川面は暗く、水が汚れている。

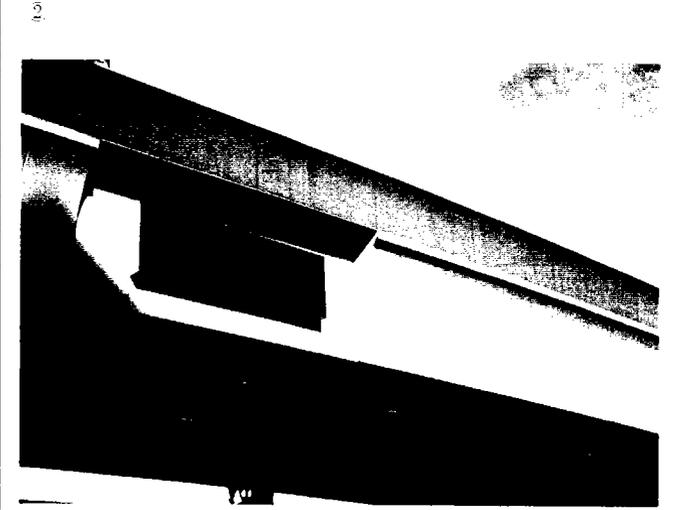
# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 3

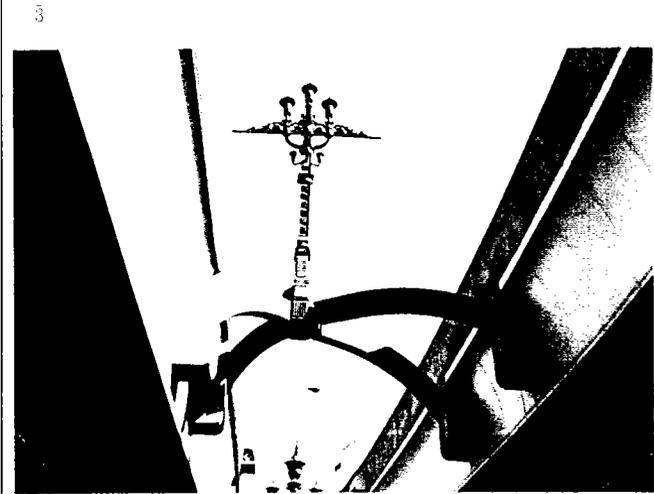
修景前全景



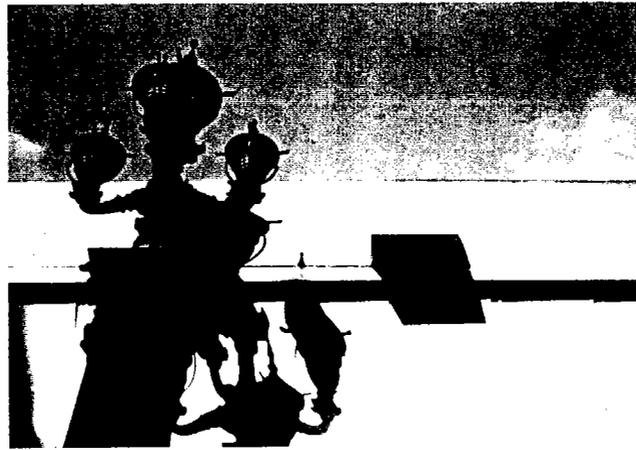
1  
箱桁部のボルト  
による間接照  
明により桁裏  
の明るさを確  
保



2  
壁高欄の垂表及び、箱桁面の様子



3  
道路元標



4  
スポーツ照明用灯具



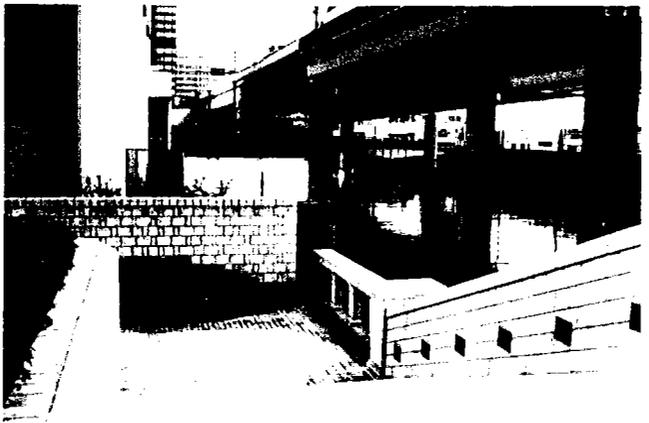
5  
鉄橋柱の様子

既存橋梁の修景実態調査票

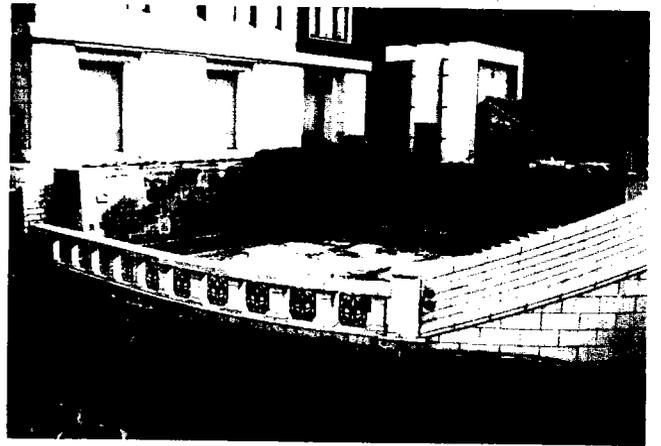
整理番号 4

修景前全景

⑥



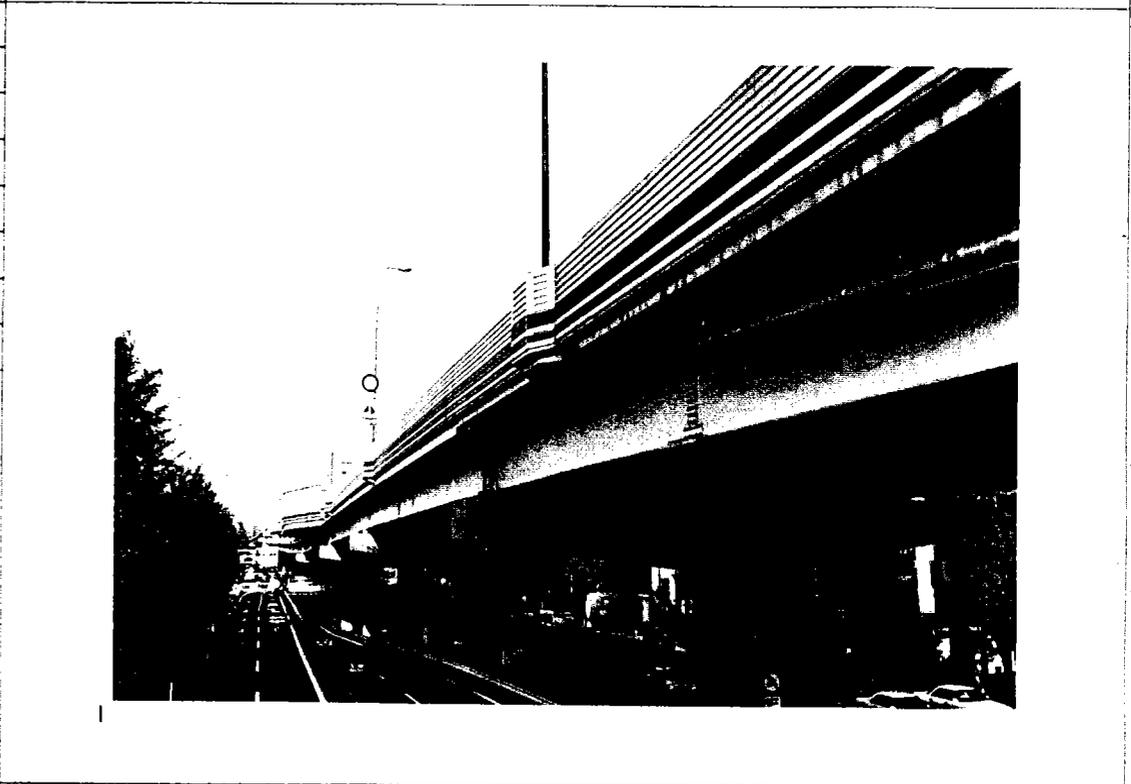
⑦



# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	- 1
橋名(路線名)	初台高架橋(首都高速4号新宿線)
所在地	東京都新宿区西新宿3丁目
橋梁形式	連続鉄桁 <span style="font-size: small;">(高架橋・海抜橋・他)</span>
竣工年月	平成 年 月竣工 <span style="font-size: small;">(昭和48年10月供用)</span>
施主	首都高速道路公団 <span style="margin-left: 50px;">概算工事費</span>
設計業者名	
施工業者名	
修景プロジェクト名	

## 橋 梁 全 景



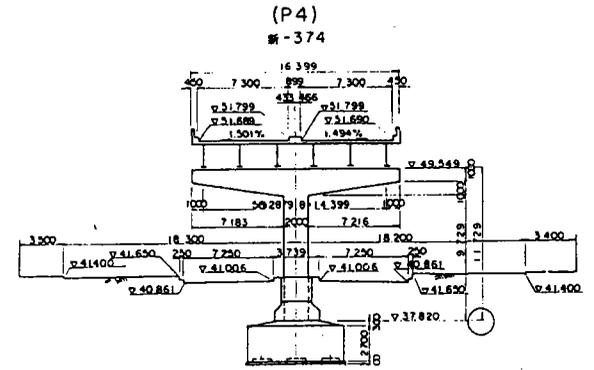
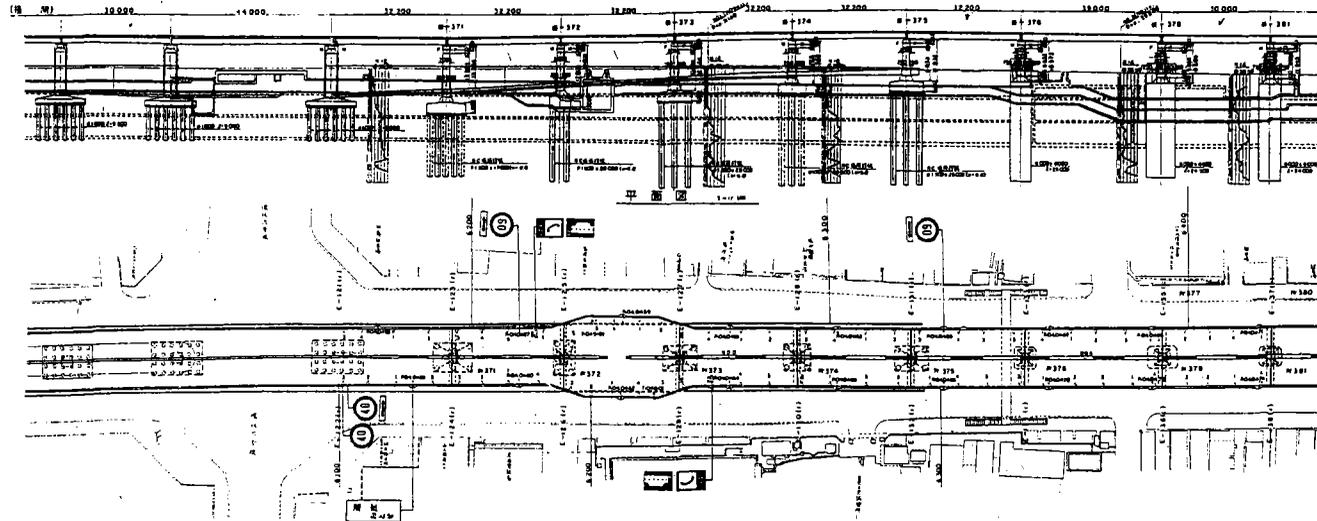
修景が行われた理由	特 徴
国道20号(甲州街道)と環状6号(山手通り)の交差する場所で、交通量が多く人の目に触れる機会が多い。	①防音壁を外装板で覆って、連続性を強調するため側面に焦茶色のラインを入れた。 ②排水管に対する配慮はされていない。

修 景 内 容		
項 目	内 容	写 真 番 号
防音壁		
外装板	ラミネート鉄板 (焦茶色)	

# 既存橋梁の修景実態調査票

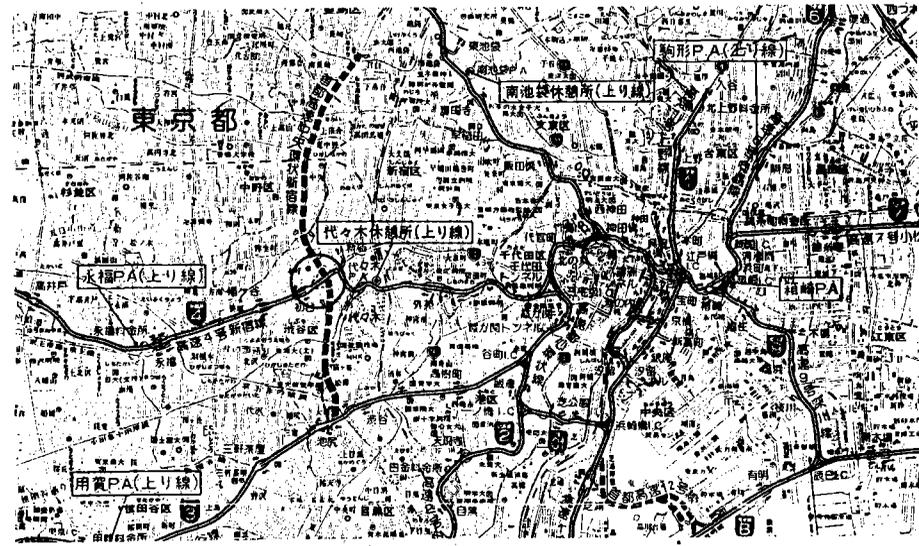
整理番号 - 2

## 全 体 一 般 図



## 位 置 図

## 周 辺 状 況



- ・国道20号上の高架橋
- ・周囲はオフィスビルと住宅地が混在している。

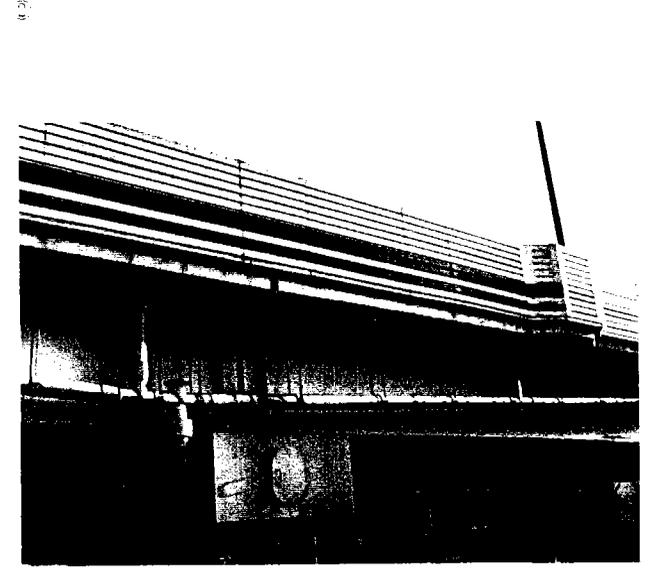
既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 - 3

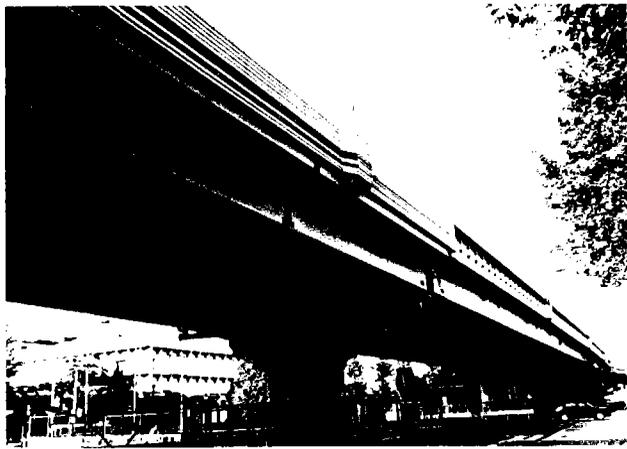
修景前全景



防音壁の開始点



むき出しの排水管（当初は桁間に隠されていた）

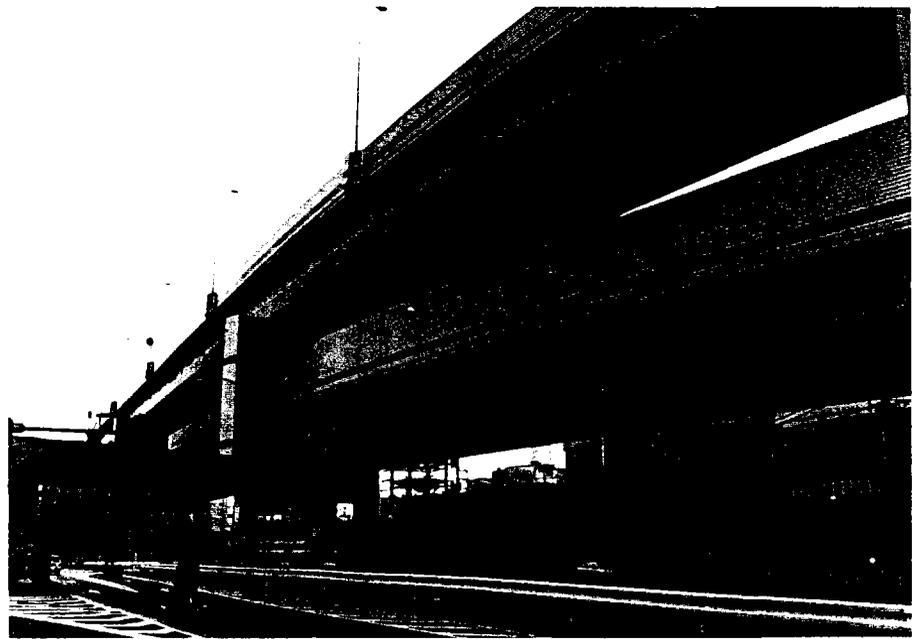


未修景区間との境界

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	- 1
橋名(路線名)	板橋本町高架橋(首都高速5号池袋線)
所在地	東京都板橋区国道17号
橋梁形式	連続桁 <span style="font-size: small;">(高架橋・河川橋・他)</span>
竣工年月	平成 年 月竣工 (昭和51年4月供用)
施主	首都高速道路公団 概算工事費
設計業者名	
施工業者名	ショーボンド建設株
修景プロジェクト名	

## 橋 梁 全 景



修景が行われた理由	特 徴
-----------	-----

<p>首都高速が2層構造になっており下の国道とも合わせて交通量が多い。吸音材をとりつけるに当たり、維持管理上から構造への制約があり、景観への配慮がなされた。</p>	<p>①桁高が低く、桁間での点検補修用空間を確保するために、吸音板は下フランジから90cm程度下げる必要があった。この隙間が側面から見えないう、化粧板で覆った。</p> <p>②桁下面を全面的に覆う事より、桁間の排水管、検査路、添架物を隠した。</p> <p>③防音壁を外装板で覆って、連続性を強調するため、側面にモスグリーンのラインを入れた</p>
--	---

## 修 景 内 容

項 目	内 容	写 真 番 号
外装板	ラミネート鋼板 (モスグリーン)	
裏面吸音板		



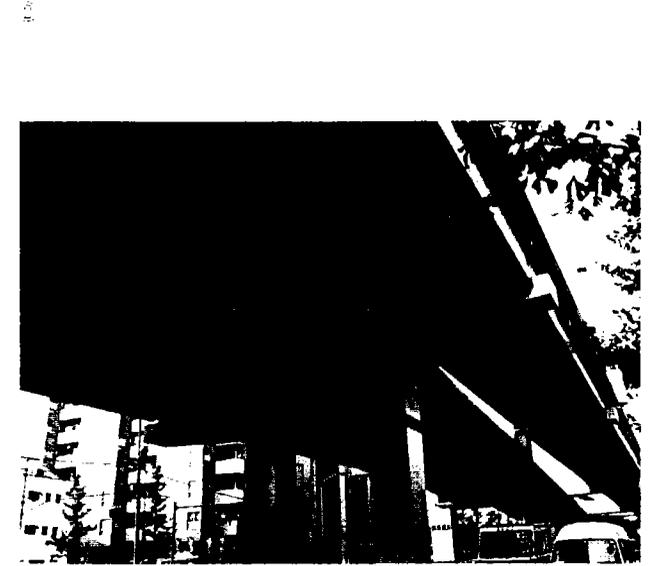
既存橋梁の修景実態調査票

整理番号

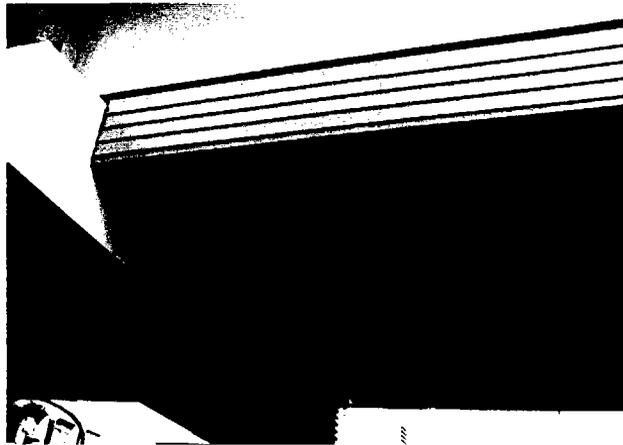
修景前全景



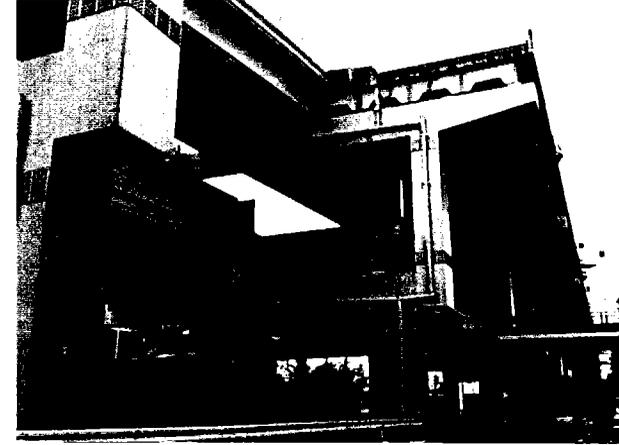
ランプ部分



橋脚とのとりあい



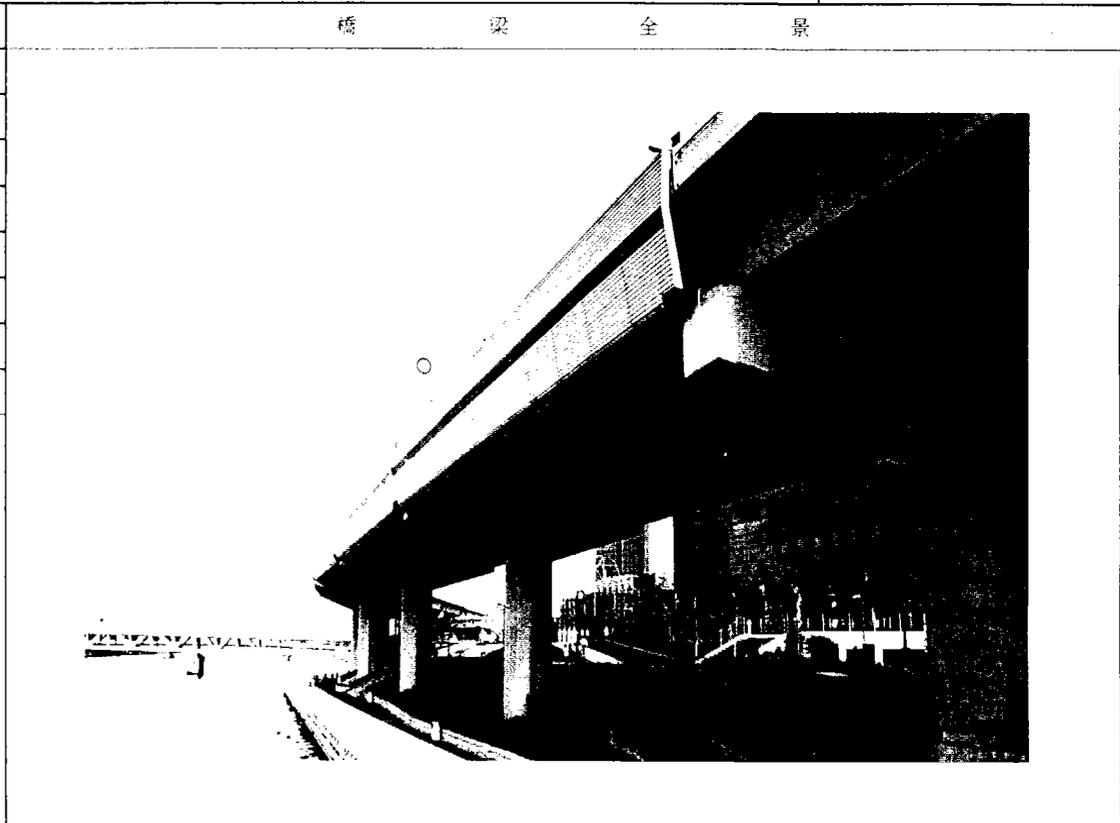
吸音板の近景



他路線との接続部分

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	- 1
橋名(路線名)	首都高速6号向島線吾妻橋付近
所在地	東京都墨田区吾妻橋一丁目
橋梁形式	連続鋼桁橋 (高架橋・河川橋・他)
竣工年月	平成2年10月
施工主	首都高速道路公団
概算工事費	298,000 万円
設計業者名	
施工業者名	
修景プロジェクト名	

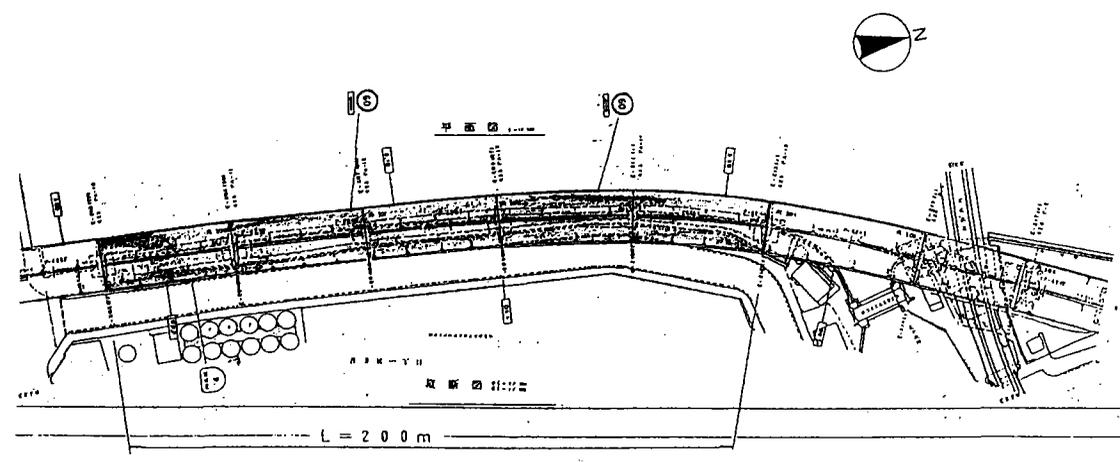


修景が行われた理由	特 徴
① アサヒビール工場跡地の再開発により整備された周辺景観との調和。 ② 緩傾斜堤防構築に伴う高架下のテラス護岸との調和。 ③ 桁裏の煩雑さの解消。 ④ 周辺環境に調和した色彩計画	アサヒビール工場跡地の再開発、吾妻橋の修景、護岸の公園化等、近年急ピッチで開発が施されており、注目されている区域である。 デザインコンセプトとして、 ① 公共空間にふさわしく、落ち着いた、自然景観に調和した周辺を引き立てる配慮をする。 ② 川及び再開発計画等の周辺環境に調和したデザイン ③ 視覚的な解放空間を維持するデザイン。 デザイン対象の特徴として、 ① 桁側面 グレーの外装板により、周囲の景観を引き立たせる。また、アクセントカラーとして、外装板のグレーよりも明度の低いグレーのラインを入れる事により桁全体を落ち着いた雰囲気とする。 ② 桁裏 桁間にシルバーカラーのアルミルーバーを橋軸方向に配置し、シンプルですっきりしたデザインとする。 ③ 橋脚 周囲のゆったりとした水辺の環境に調和するように自然石風の吹き付け塗装とする。橋脚のスマートさを強調するために、鉛直方向にスリットラインを入れる。

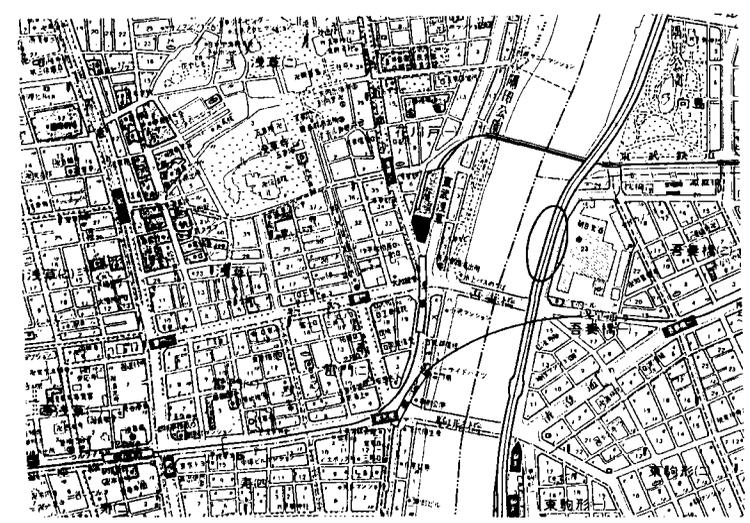
修 景 内 容		
項 目	内 容	写 真 番 号
ルーバー	シルバーカラーのアルミルーバーを橋軸方向に配置。	①②
遮音壁	透明、壁高欄部にも化粧版。	③
排水管	鋼製、塗装、集中部、取付金具に工夫が見られる。	④
橋脚	石崗岩模様の吹き付け塗装、桁下公園化、鉛直方向にスリット。	⑤
桁側面	グレーの外装板	⑥

# 既存橋梁の修景実態調査票

## 全 体 一 般 図



## 位 置 図



## 周 辺 状 況

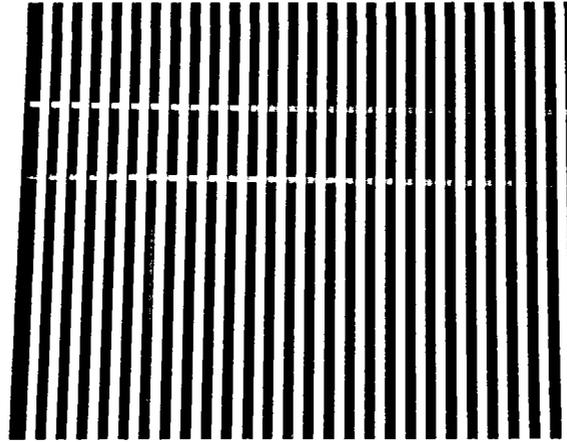
- ・浅草に隣接しており、また、アサヒビール工場跡地の再開発が施されており、モダンな中高層建築物が建ち並ぶ。この地区が新しい墨田区の拠点となることが予想される。また、この再開発により、歩行者の交通量が以前と比べ、著しく増加している。
- ・桁下の護岸周辺は、吾妻橋の修景事業と共に、公園化されている。
- ・周辺の土地利用状況は商業中心の住・商・工の混在地区である。
- ・吾妻橋が上路橋であることから、周囲の解放性が高く、左岸側に連続する高速道路と背後の高層ビルは目にとまりやすい。

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 - 3

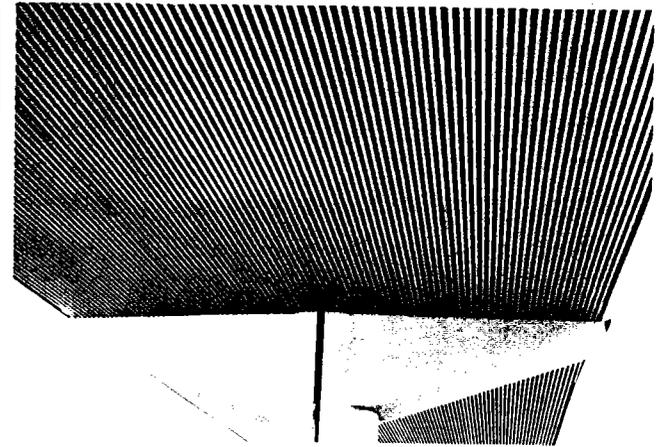
修景前全景

1

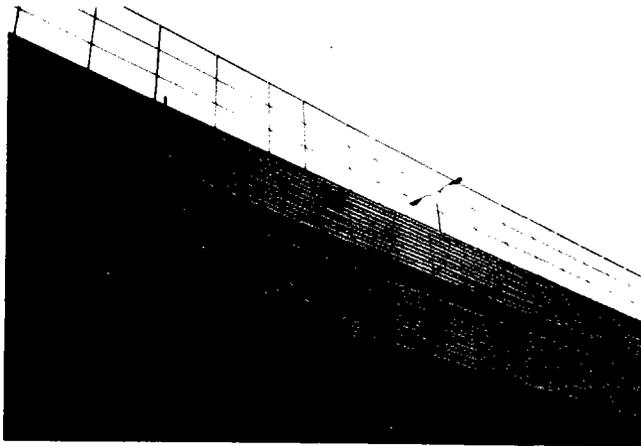


アール・ドゥーバー

2



3

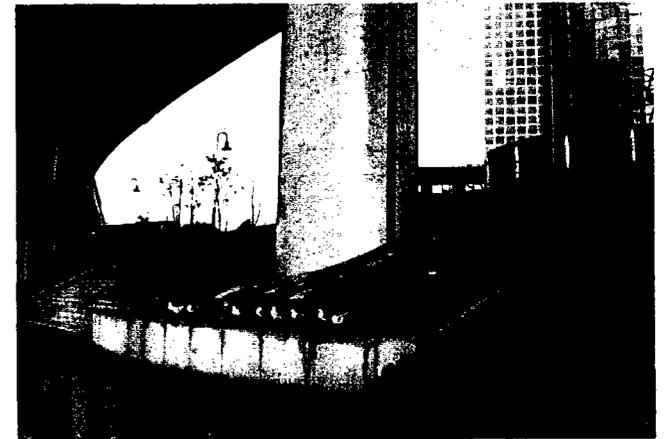


桁割の処理。グレーのラインが印象的。

4



5



桁下の公園化。噴水等も見られる。

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	-	-	-	-	-
橋名(路線名)	辰巳高架橋(首都高速9号深川線)				
所在地	東京都江東区潮見1丁目				
橋梁形式	3径間連続箱桁		(高架橋・河川橋・地)		
竣工年月	平成 年 月竣工	(昭和55年2月共用)			
施主	首都高速道路公団	概算工事費			
設計業者名					
施工業者名					
修景プロジェクト名					

## 橋 梁 全 景



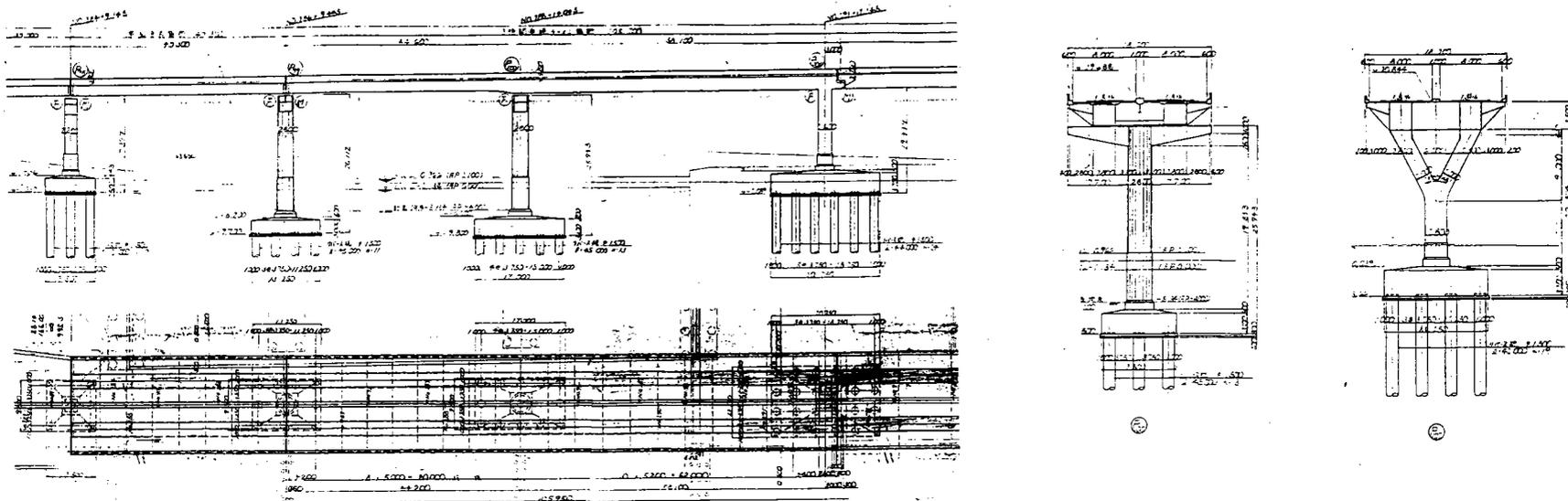
修景が行われた理由	特 徴
	<p>①新設時からY形橋脚や外装板を採用するなど景観上の配慮がなされていた。</p> <p>②塗色の変化する境界を桁の境界とは一致させず、3径間にわたり徐々に変化させている。</p> <p>③桁下で横断している歩道橋を高架橋と同一の塗装色とし、構造物同士の調和を持たせている。また歩道橋の地覆コンクリートにも桁と同色の塗装をして、側面の外観をスマートにみせている。</p>

## 修 景 内 容

項 目	内 容	写 真 番 号
塗装工事(グラデーション), 防音壁		

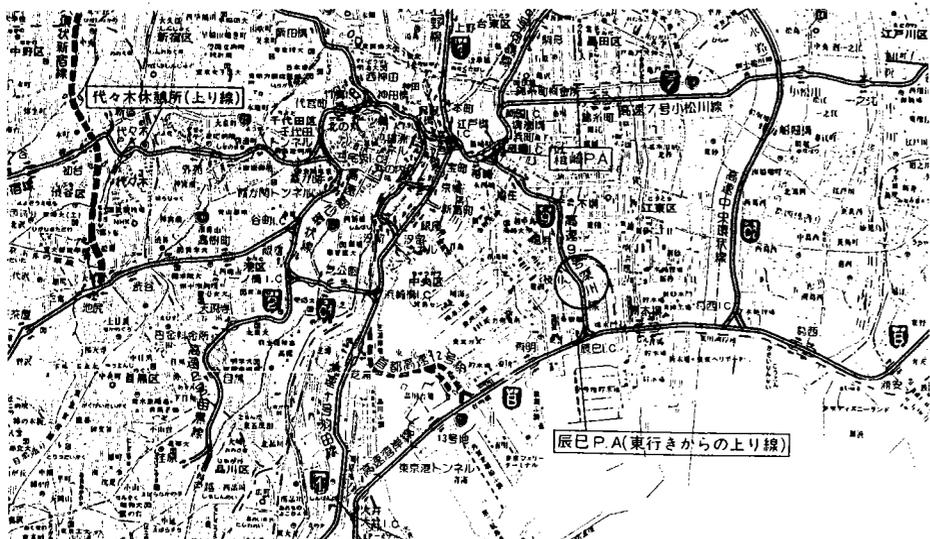
整理番号 - 2

全 体 一 般 図



位 置 図

周 辺 状 況



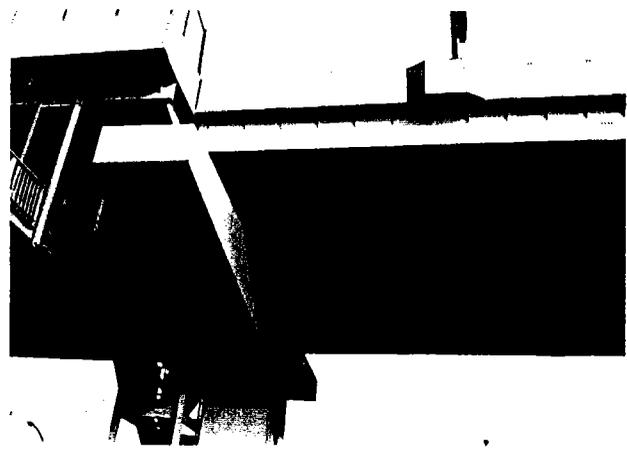
- ・潮見運動公園に隣接している。
- ・周囲は流通業や倉庫が多い。

既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 - 3

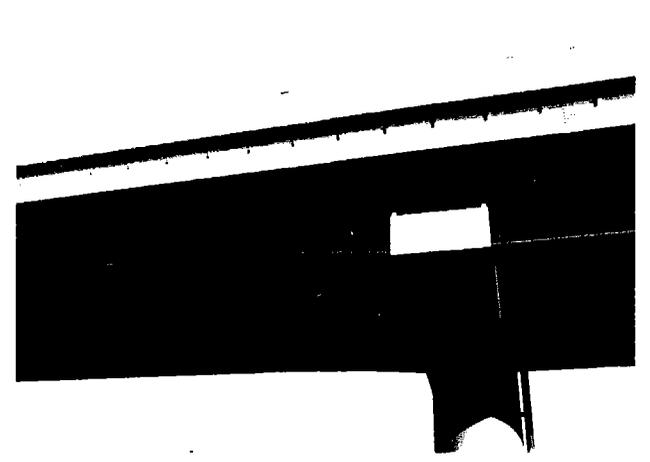
修景前全景

①



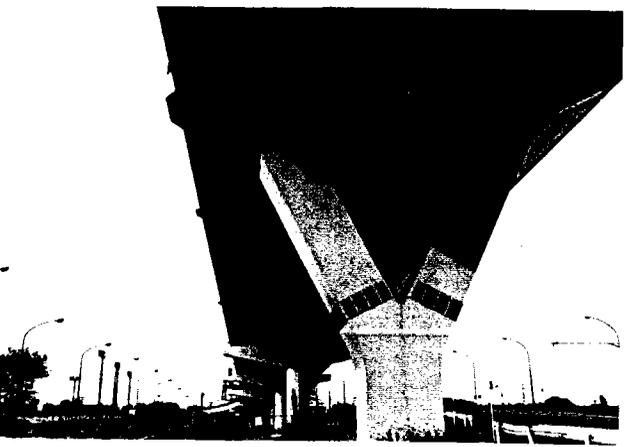
グラデーションの開始点

②



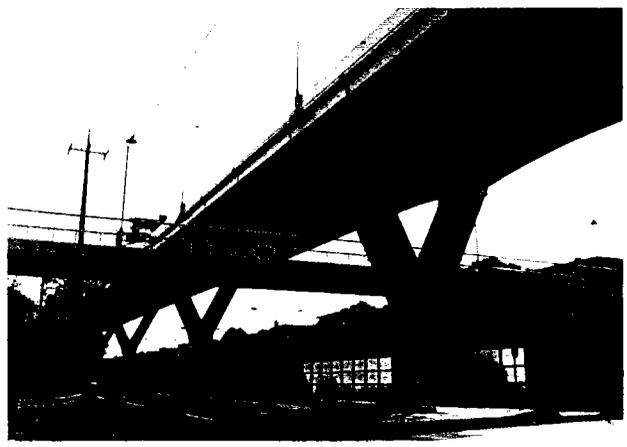
桁高変化点

③

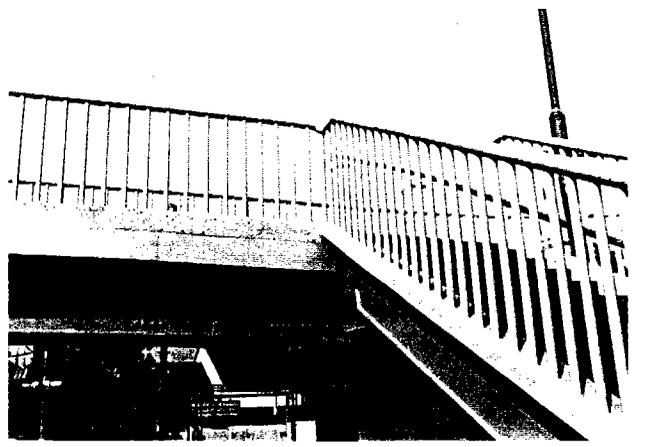


グラデーションの終点

④



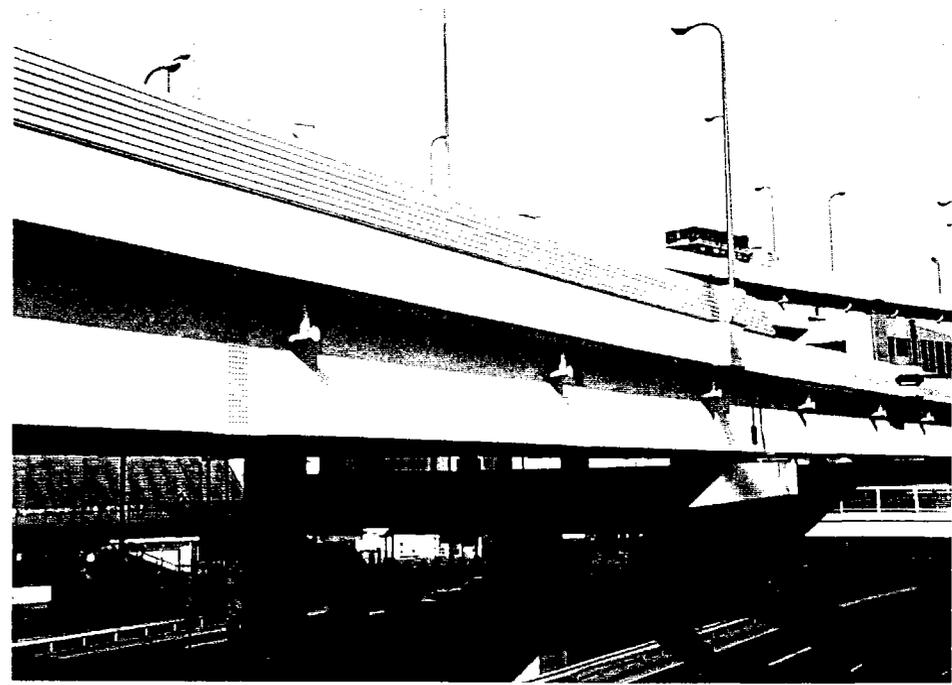
⑤



# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	- 1
橋名(路線名)	首都高速神奈川1号横羽線
所在地	横浜市神奈川区金港町～西区高島 (横浜駅東口)
橋梁形式	連続鉄桁、連続桁桁 他 (高架橋・河川橋・他)
竣工年月	昭和61年3月 (昭和52年7月)
施主	首都高速道路公団 概算工事費
設計業者名	
施工業者名	(株) 道路サービス
修景プロジェクト名	横浜駅東口附近防音壁新設工事

## 橋 梁 全 景



### 修景が行われた理由

・ JR、地下鉄、バス、海上バスなど、網の目のように広がる交通機関の起点でもある横浜駅は神奈川県の玄関口となっている。国道1号線が通る横浜駅東口は、西口ほどの人出はないものの、交通量ではかなりのものとなる。  
横浜駅東口の真っ正面に位置する本橋も、排気ガス等により全体的に薄汚れた印象が出はじめたため“横浜の顔”にふさわしい近代的で清潔なイメージに修景する必要があった。

### 特 徴

- ・ 壁高欄部を、桁と同色にコンクリート塗装することにより、コンクリートの無機質なイメージを解消している。
- ・ 壁高欄部には、ライトグリーンのラインを入れる事により連続性を表現している。
- ・ 防音壁は、横方向のラインを強調し、高さを低く見せ掛けている。

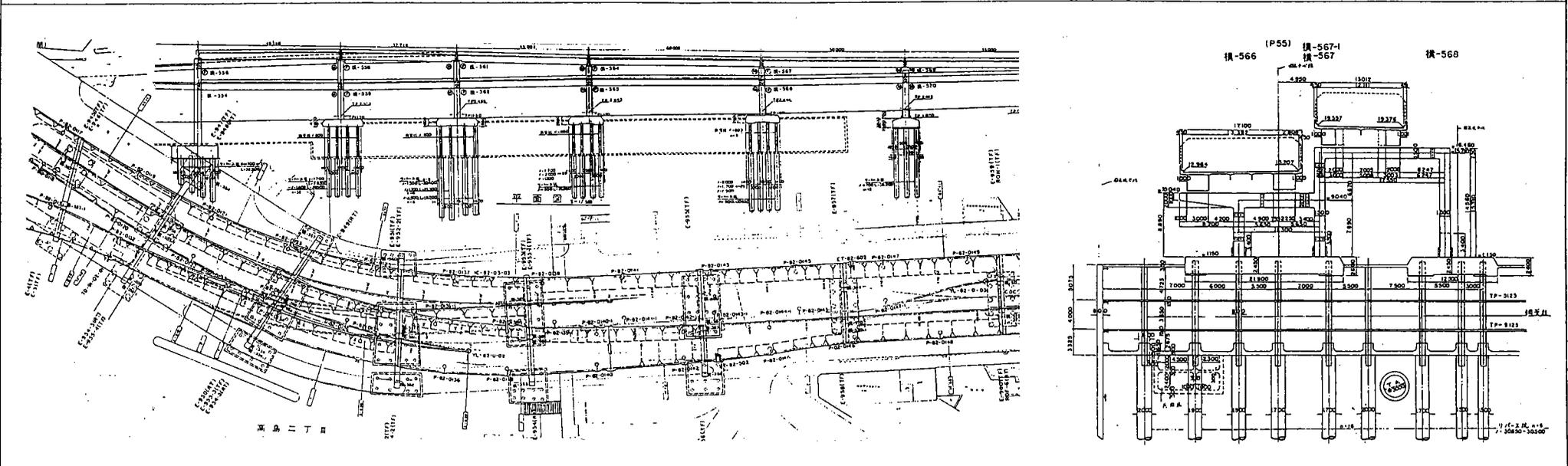
## 修 景 内 容

項 目	内 容	写真番号
壁高欄	コンクリート塗装、ライトグリーンのライン塗装	②③④
防音壁	ラミネート鋼板	③

# 既存橋梁の修景実態調査票

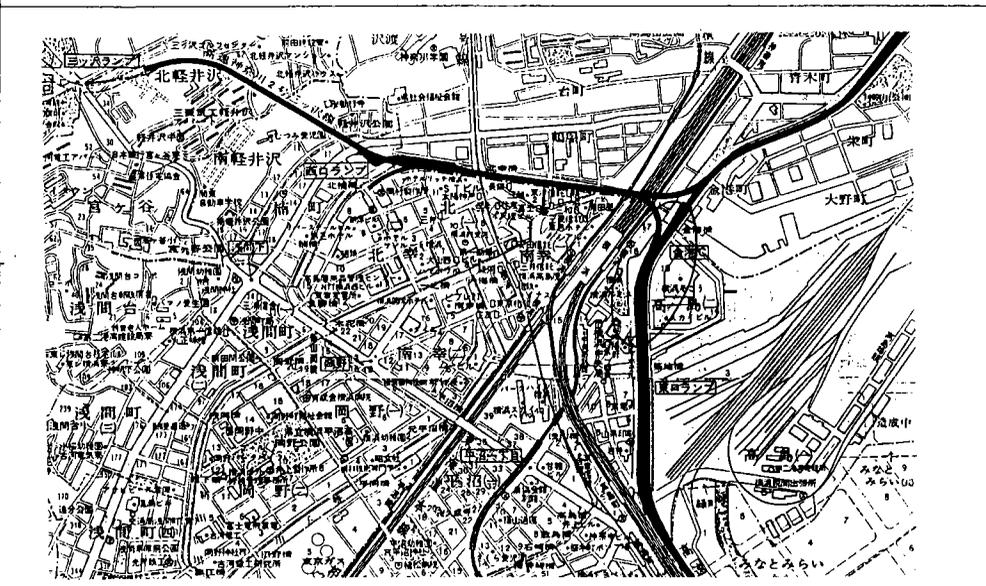
整理番号 - 2

## 全 体 一 般 図



## 位 置 図

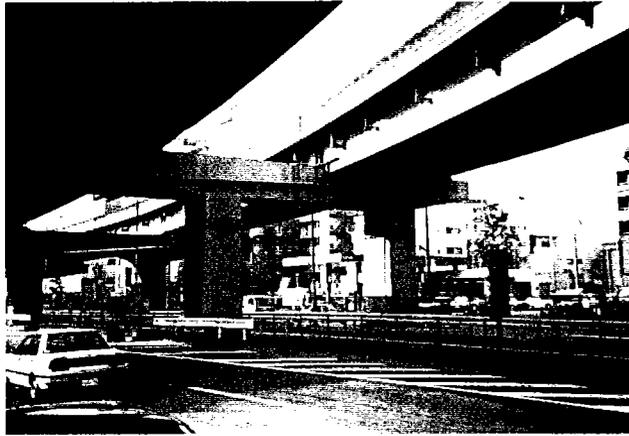
## 周 辺 状 況



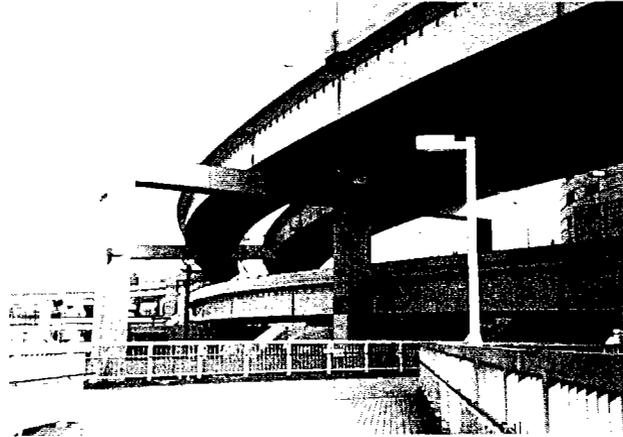
- 神奈川県の大宮口、JR横浜駅東口と世界最大規模を誇るデパート横浜そごうの中間を分断するように本高架橋は位置している。
- 本高架下は、大交通量を誇る国道1号線が通るため、JR横浜駅東口と横浜そごう側を連絡する歩道橋が、本高架下ぎりぎりのところを通過している。そのため、本高架下の昼間の人出はかなり多い。
- 本高架下に沿って走る国道1号線の歩道は、港街横浜を意識した整備（タイル舗装、植樹、街灯、高欄等）が施されているが、ここからの本高架橋による重圧感・威圧感はない。

整理番号 - 3

修景前全景 (未修景の隣接工区)

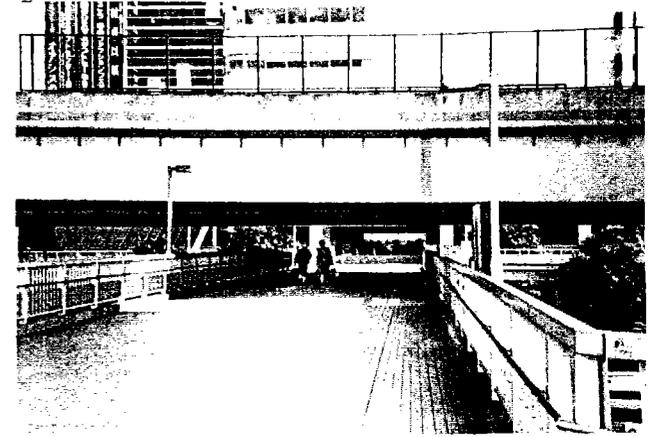


①



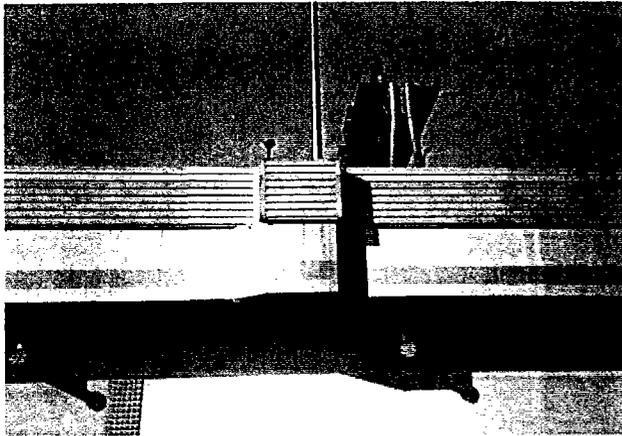
・横浜駅東口の歩道橋からの近景

②



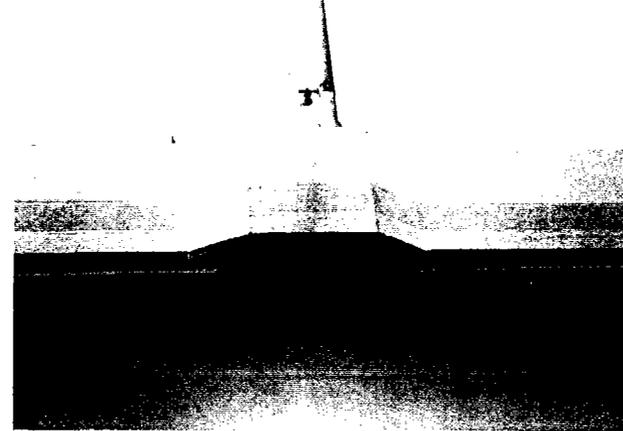
・横浜駅東口の歩道橋から横浜そごうを見て

③



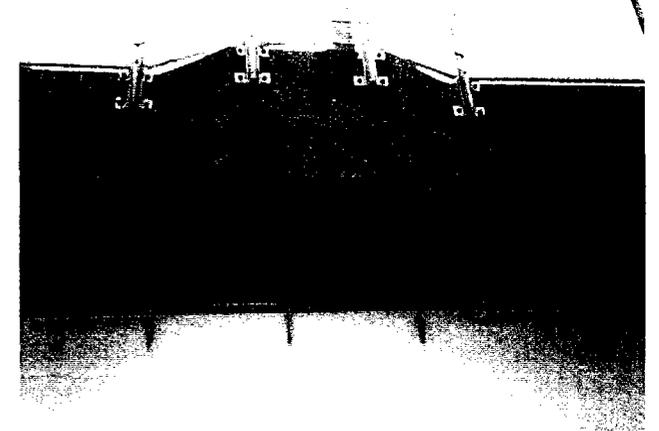
・ラミネート鋼板の防音壁

④



・コンクリート塗装を施した壁高欄

⑤

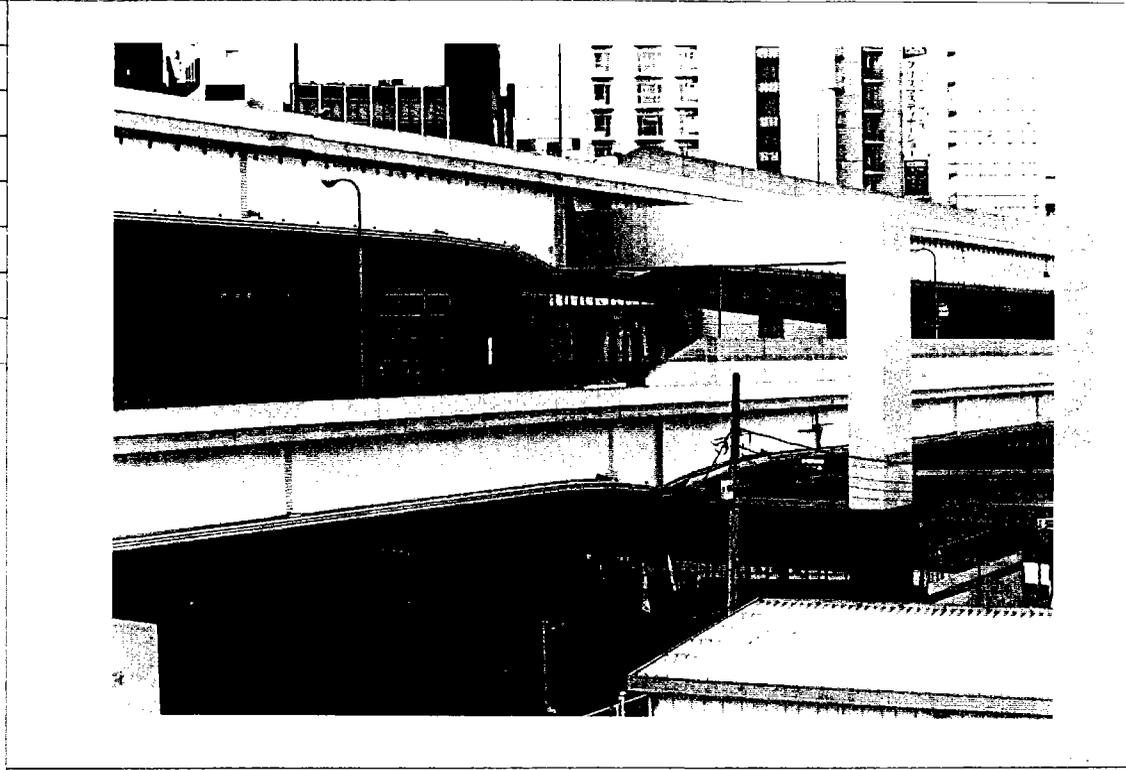


・未修景のT区の壁高欄

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	- 1		
橋名(路線名)	首都高速神奈川2号三ツ沢線		
所在地	横浜市神奈川区鶴屋町 (横浜駅西口)		
橋梁形式	鋼3径間ゲルバー-鈹桁 他 (高架橋・河川橋・他)		
竣工年月	平成3年2月 (昭和46年12月)		
施主	首都高速道路公団	概算工事費	8億円
設計業者名	(株)オリエンタルコンサルタンツ		
施工業者名	ショーボンド建設、トピー栄進建設、道路エンジニアリング		
修景プロジェクト名	金港インターチェンジ付近高架橋外装工事 (その1、2、3)		

## 橋 梁 全 景



修景が行われた理由	特 徴
<p>・JRと各私鉄も乗り入れている横浜駅は、ターミナル駅としての機能を有している。乗降客の数もかなりあり、オフィスビルやデパートが建ちならぶ横浜駅西口は、横浜の顔と言える。</p> <p>本橋周辺も近代的なビルの建設が進み、商店街とオフィス街を分断し、重厚で薄汚れた印象の強かった首都高速も、周辺環境にマッチした明るく近代的なイメージに修景する必要があった。</p>	<p>・桁下面のアルミルーバーは、橋軸方向縦に配置され、桁裏面の煩雑感を解消している。</p> <p>・壁高欄を外装板(ラミネート鋼板)で覆い、コンクリートの無機質なイメージを解消している。</p> <p>・外装板・防音壁共に、ライトグリーンラインを入れ連続性を表現している。</p> <p>・橋脚は、擬石塗装を施し質感のグレードアップを図っている。</p>

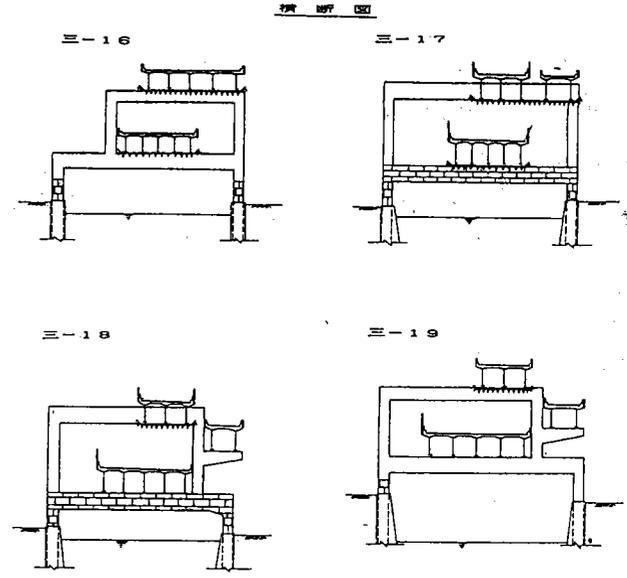
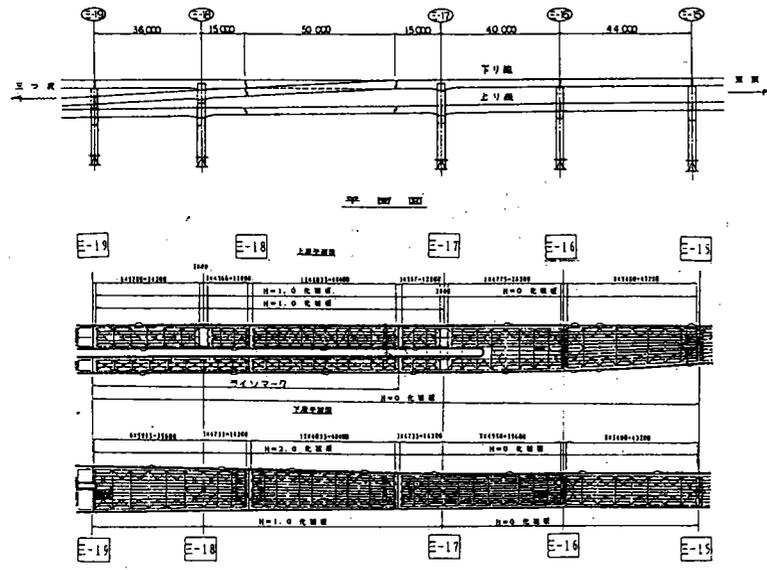
## 修 景 内 容

項 目	内 容	写真番号
桁下面	アルミルーバー	①
壁高欄	外装板(ラミネート鋼板)	④ ⑤
防音壁	ラミネート鋼板	④ ⑤
橋 脚	擬石塗装	② ③
配水管	橋脚と同じ塗装色	③

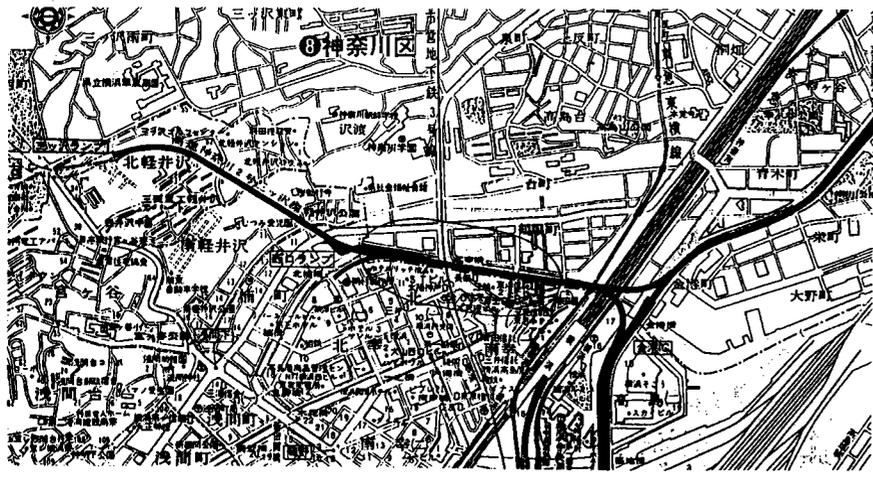
# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 - 2

## 全 体 一 般 図



## 位 置 図



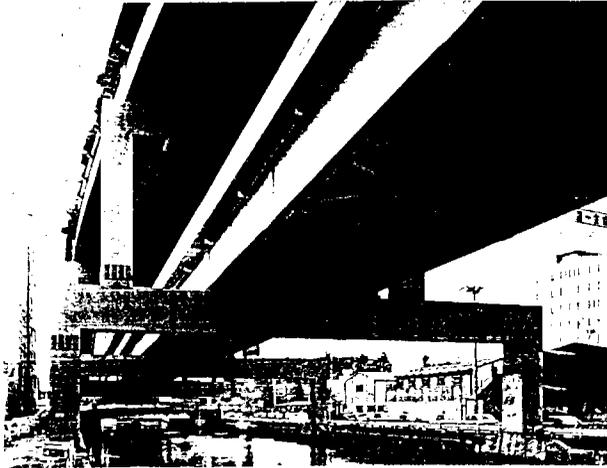
## 周 辺 状 況

- 神奈川県の大磯、JR横浜駅西口ロータリーに面したデパート三越の裏側に位置している。
- 高層のオフィスビルやホテル等が林立し、昼夜を問わずかなり人出の多い場所である。
- 本高架下に沿って流れる新田間川の両岸は、石張りの護岸工・植樹・木目調の高欄等が施されている。

# 既存橋梁の修景実態調査票

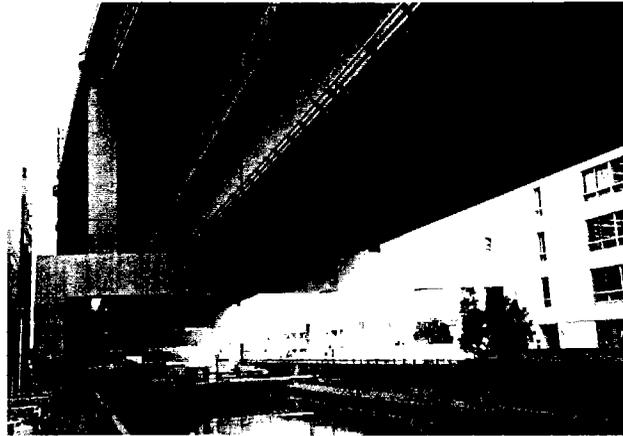
整理番号 - 3

修景前全景



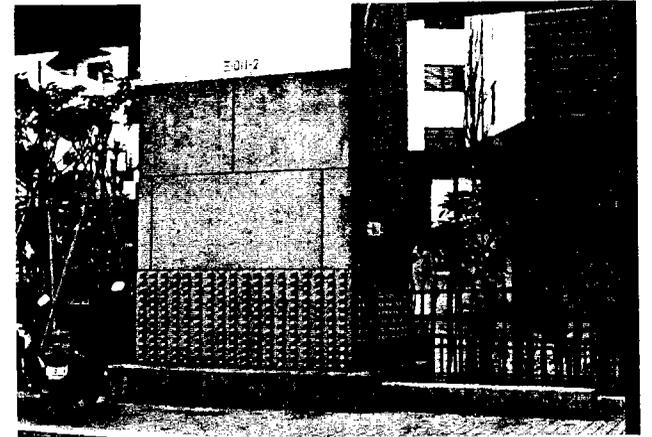
・新田間川の護岸工事も未施工

①



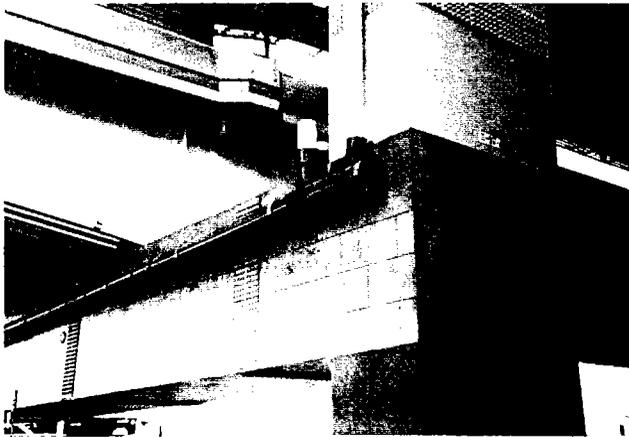
・桁下面にアルミルーバー

②



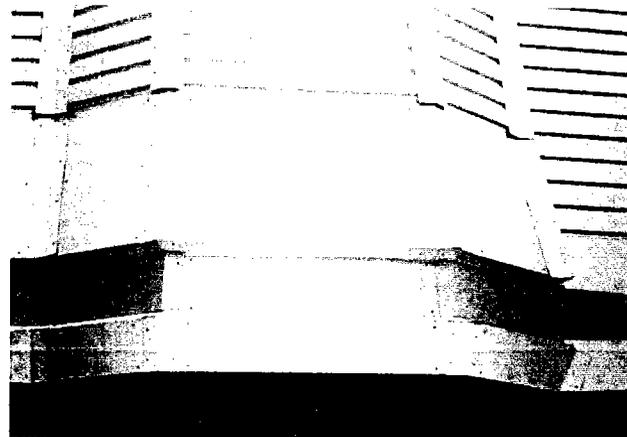
・御影石調の擬石塗装

③



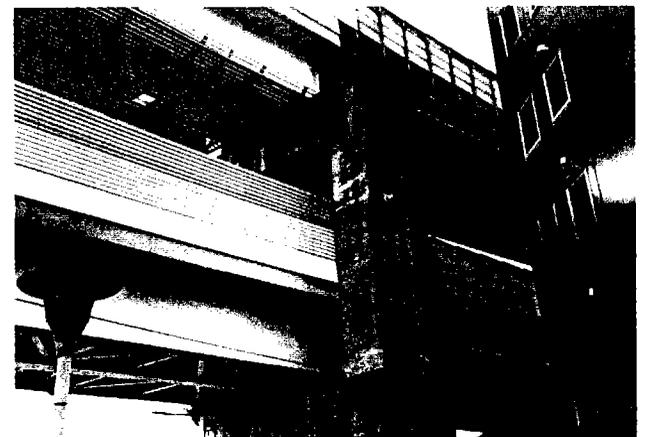
・レンガ調の擬石塗装と塗装した配水管

④



・ラミネート鋼板の外装板

⑤

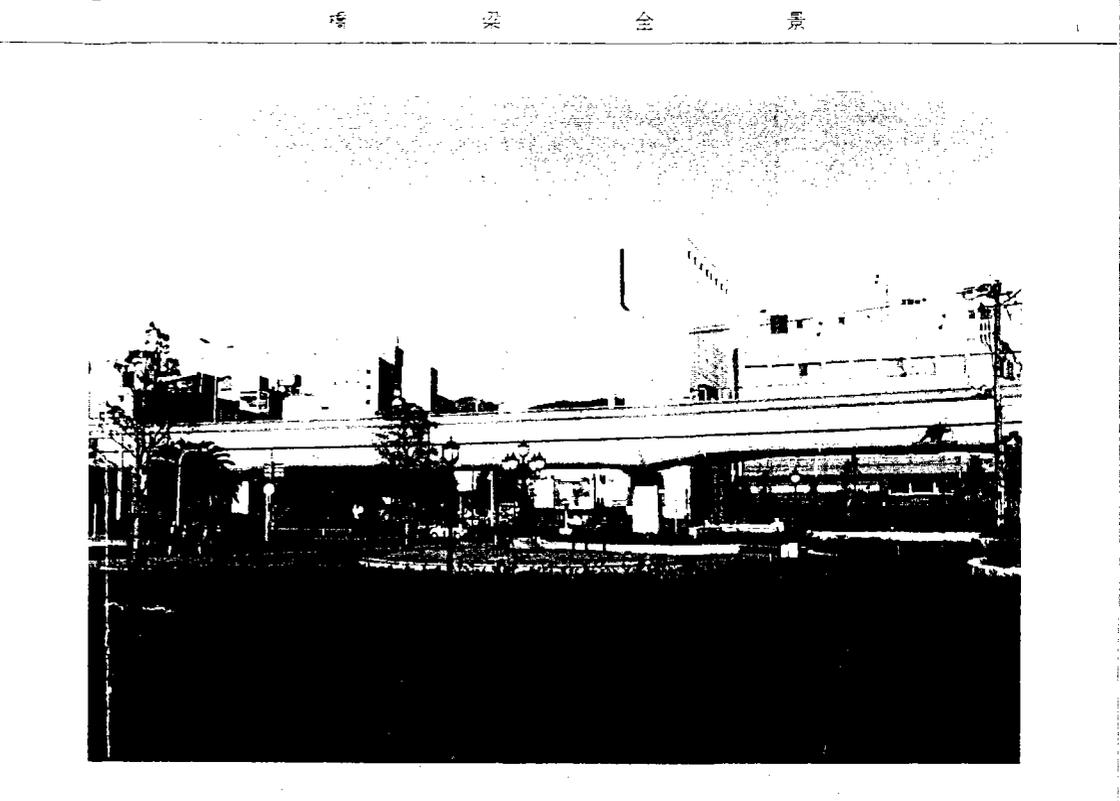


・横線を強調した防音壁

・未修景の工区（PC桁）との工区境

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	-	-	-	-	-
橋名(路線名)	兵庫県道高速神戸西宮線				
所在地	メリケンパーク西入口(中央提交差点)神戸市中央区海岸通3丁目				
橋梁形式	鋼単純合成I桁、鋼3径間連続非合成I桁 (高架橋・河川橋・他)				
竣工年月	昭和63年10月、平成元年9月				
施工主	阪神高速道路公団	概算工事費	¥175,000千円		
設計業者名	阪神高速道路公団				
施工業者名	深井建設(株)				
修景プロジェクト名	側面板設置工事				



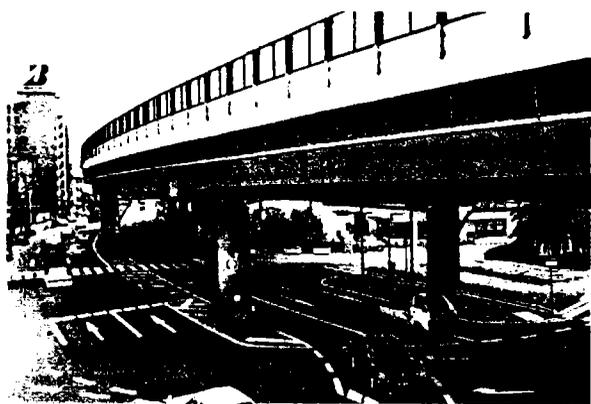
修景が行われた理由	特徴
<p>本橋梁が神戸の海の玄関口に位置するにもかかわらず、橋梁側面が種々の付加物によって複雑な外観を呈していた。そこで、海の玄関口から都心に入る人達に、神戸の洗練されたイメージを印象させるべく、修景工事が行われた。</p>	<p>橋音壁から桁まで、アルミで装飾化して、マリンプルーの横ラインを強調し支柱を隠しているため、すっきりとした景観を演出している。</p>

修景内容		
項目	内容	写真番号
遮音壁	・支柱を内部に収めることにより複雑さを解消している。 ・マリンプルーの横ラインにより水平方向の連続性を強調している。	①
桁カバー	・外桁の側面から下フランジ下面までを覆い、造形的表情を橋全体に与えている。	②③
排水管	・橋軸方向排水管を桁カバー内に収め、複雑さを解消している。	④⑤

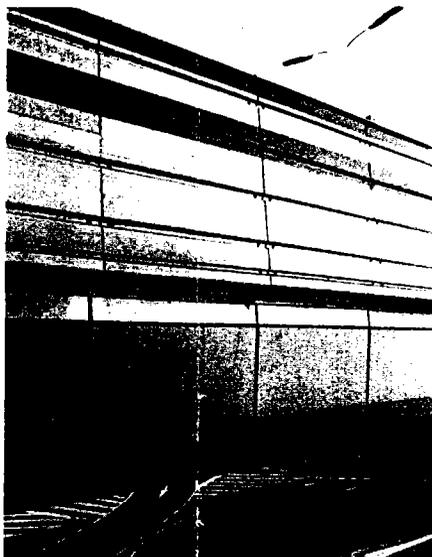
# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号 3

修景前全景



①



アルミ製造音壁は、支柱の両側にパネルをボルト止めしている。

②



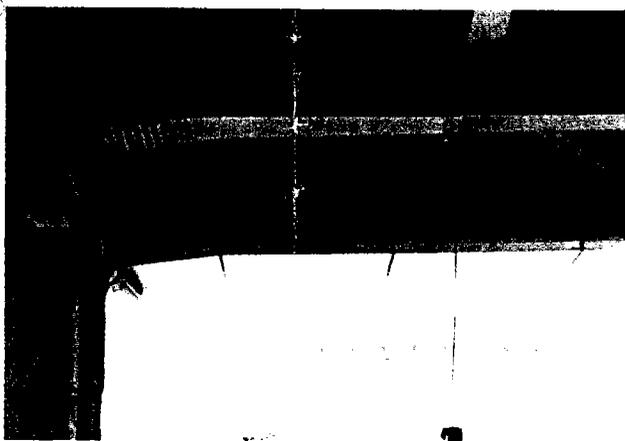
桁カバーは、三次元曲面により側面から下面まで回り込んでいる。

③



桁カバー橋脚部処理

④



橋軸方向排水管は、桁カバー内に配置され、橋脚部で外部に出る。

⑤



排水管取り合い

# 既存橋梁の修景実態調査票

整理番号	- 1
種名(路線名)	兵庫県道高瀬川河川橋
所在地	兵庫県伊丹市高瀬川河川橋
橋梁形式	5区間連続平スパン・引上り橋、3区間連続平スパン・引上り橋 (鋼橋、河川橋、他)
竣工年月	平成元年9月、平成2年9月
施工主	阪神高速道路公社
設計業者名	阪神高速道路公社
施工業者名	東日工事(株)
修景プロジェクト名	側面改設置工事

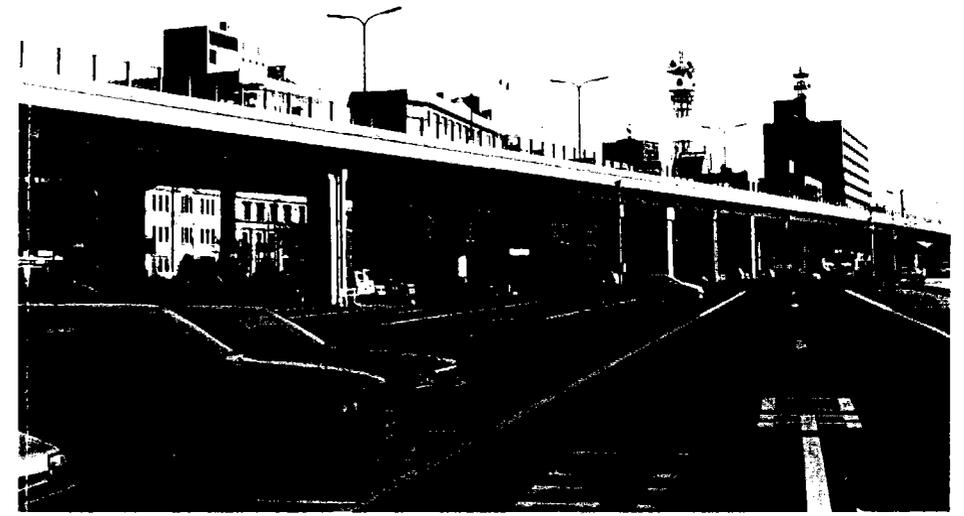
修景が行われた理由

周辺環境が景観整備されるのに伴い、その景観環境に、いまわし、外観にするべく、修景工事が行われた。

特徴

少ない柱間・梁間により、配列美と静かな水平線美を強調している。

## 橋梁全景



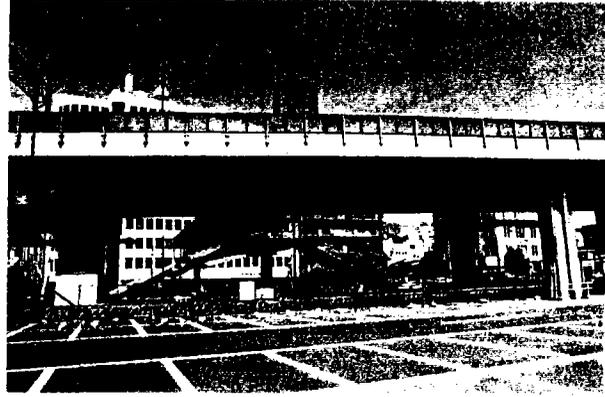
## 修景内容

項目	内容	写真番号
橋身壁	・シンプルな外観のパイプ型フェンスにより、高速道路上からの景観に開放感を与えるとともに、支柱が外観にリズムを与えている。	①
高欄カバ	・床面壁の高欄取り付け部を覆うとともに、明るい白色で高欄側面を浮かびませ、パイプフェンスのストライプにより水平の連続性を強調している。	②

既存橋梁の修景実態調査票

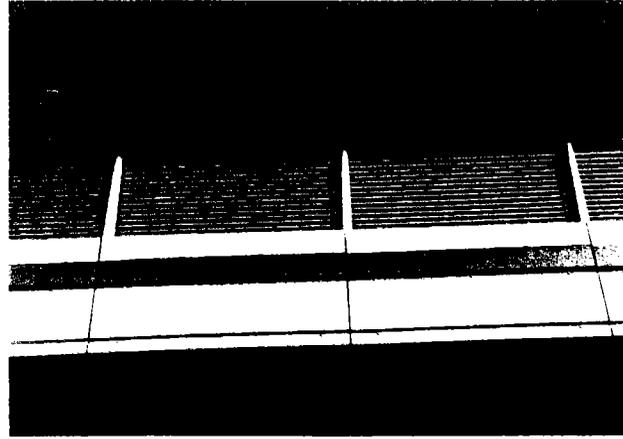
整理番号 1-3

修景前全景



1

2



(a)

1

2

第 3 章 一 般 橋 梁 他

# 既存橋梁の修景実態調査票

ページ : 139  
調査者 津国

整理番号	- 1
橋名(路線名)	第三京浜道路多摩川橋
所在地	世田谷区玉川野毛町～川崎市北見方
橋梁形式	2-3-4 径間連続鉄桁 (高架橋・河川橋・他)
竣工年月	
施主	日本道路公団 概算工事費
設計業者名	
施工業者名	
修景プロジェクト名	



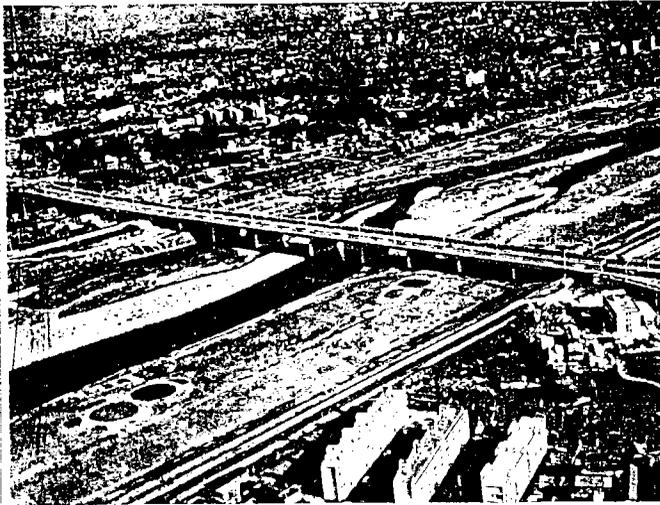
修景が行われた理由	特 徴
<p>河川敷を利用したスホーツ・憩いの場にあって、桁の汚れ・脚の大きさ、汚れによる対策。</p>	<p>公共の広い河川敷を利用した明るく解放的な空間にワンポイント、アクセントを与える。</p> <p>1. 桁の色 … 橋梁を意識させる目立つ色としての赤系。</p> <p>2. 橋脚 … 大きな橋脚をスレンダーに見せる。</p> <p>… 人々の集まることを意識した野鳥のデザインパネルを設置。</p>

修 景 内 容		
項 目	内 容	写 真 番 号
桁塗装	桁及び水道管、排水管の塗装	③
脚塗装	脚の塗装	①
デザインパネル	脚へ野鳥のデザインパネルを設置	④



整理番号 - 3

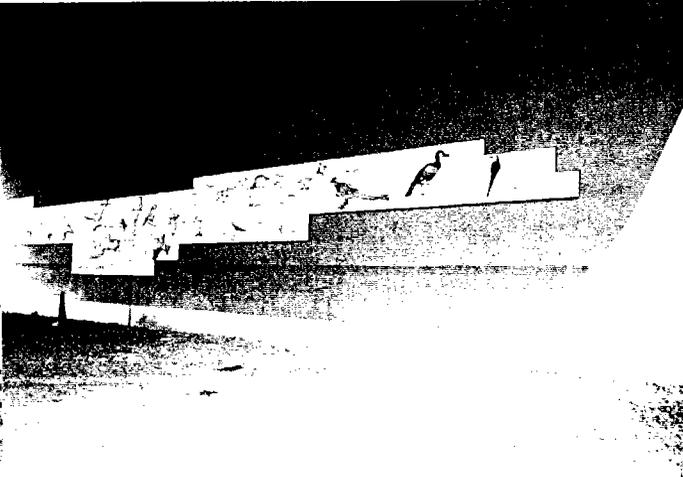
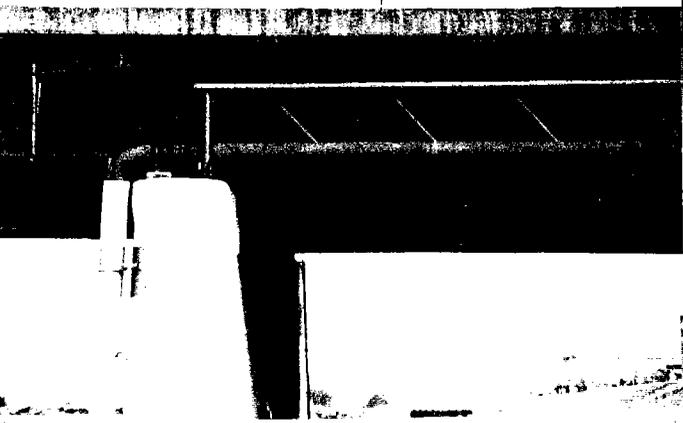
修景前全景



-----

-----

-----



排水管、水道管にも同色の塗装が施してある。

野鳥のデザインパネルの設置。

広い河川敷は、人々のレクリエーションの場になっている。

# 既存橋梁の修景実態調査票

ページ 1/2  
調査者 津国

整理番号	-
橋名(路線名)	川崎駅前東西連絡歩道橋
所在地	川崎区日進町～幸区堀田町
橋梁形式	歩道橋 (高架橋・河川橋・他)
竣工年月	平成3年3月
施主	川崎市 概算工事費 40,000万円
設計業者名	川崎区土木局・東日本旅客鉄道株式会社
施工業者名	東鉄工業株式会社
修景プロジェクト名	

修景が行われた理由	時 式
<p>本連絡歩道橋は、建設以来20数年が経過し、老朽化が進とともに東西駅前広場整備が行われた為。</p>	<p>新しい歩道橋は、多くの利用者の方が快適に通行できることはもとより、その地域に住み、働く人々が心豊かにいきいきとした暮らしが感じられるように「明るさとやわらかさ」をテーマに改修が行われている。</p>

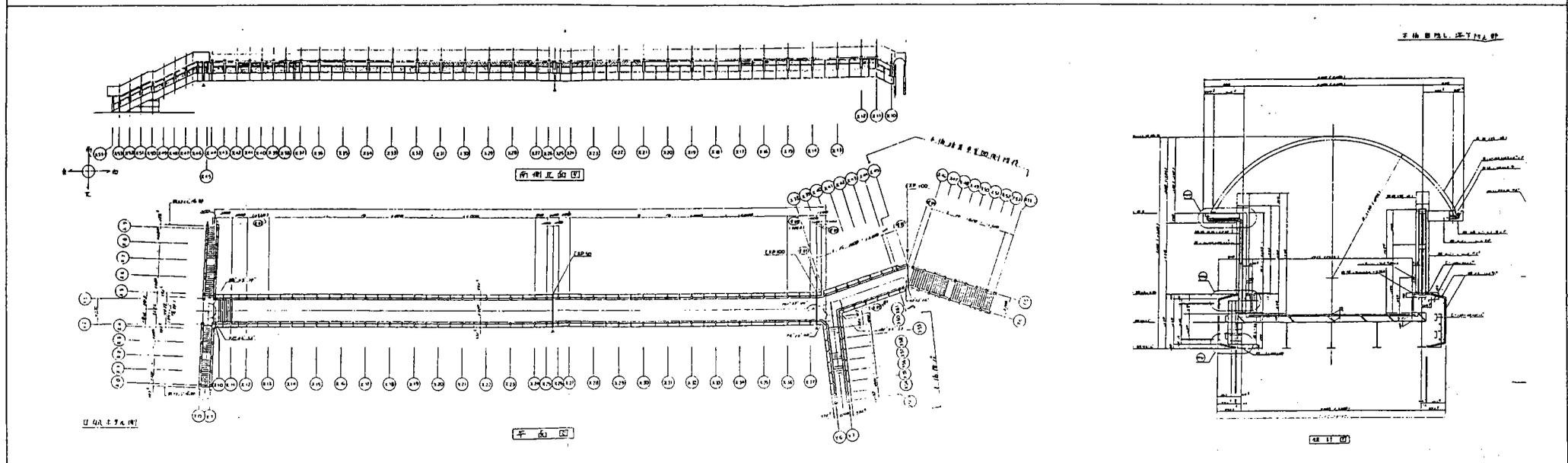


修 景 内 容		
項 目	内 容	写真番号
上屋シェルター	骨組みの取り替え、ポリカーボネート樹脂による屋根	①
歩道	御影質磁器タイル	①
照明・照明柱	アルミカバー	①
桁カバー	アルミ桁カバー	④

# 既存橋梁の修景実態調査票

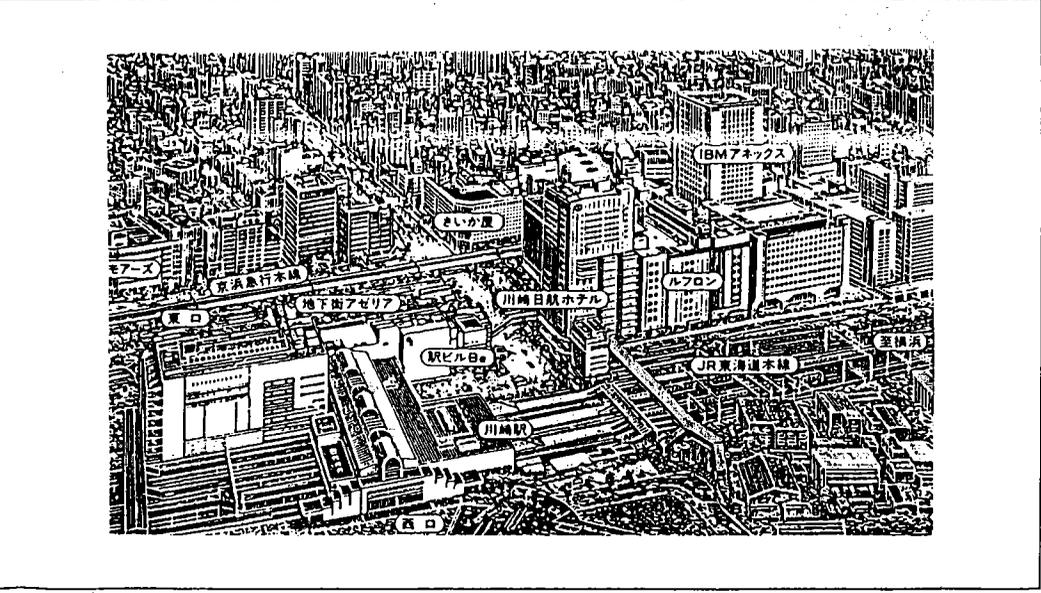
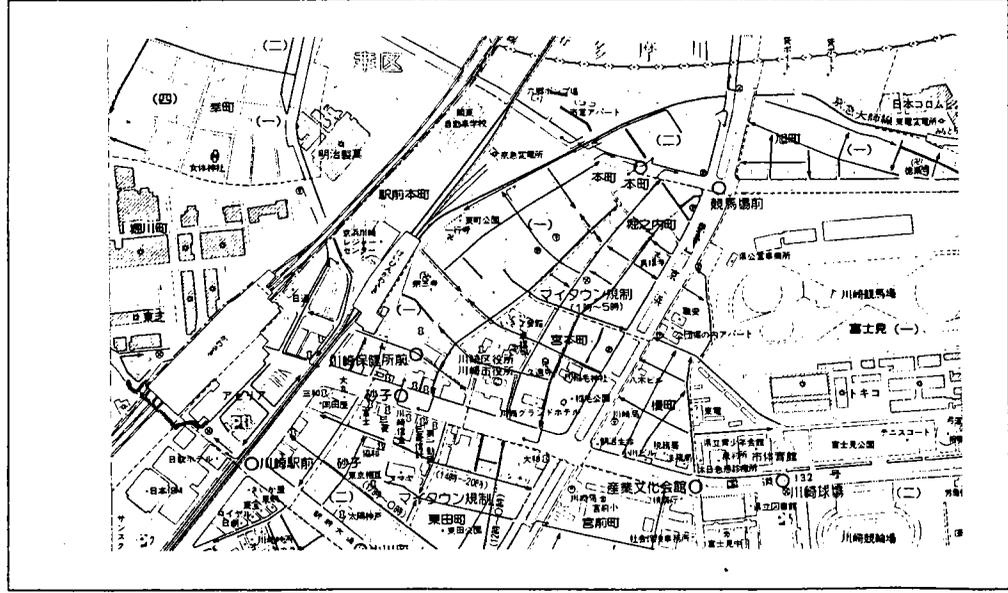
整理番号 - 2

## 全 体 一 般 図



位 置 図

周 辺 状 況

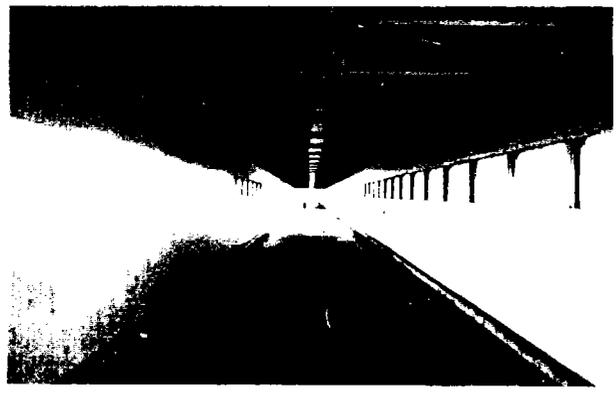


# 既存橋梁の修景実態調査票

ページ 144  
調査者 津国

整理番号 43

修景前全景



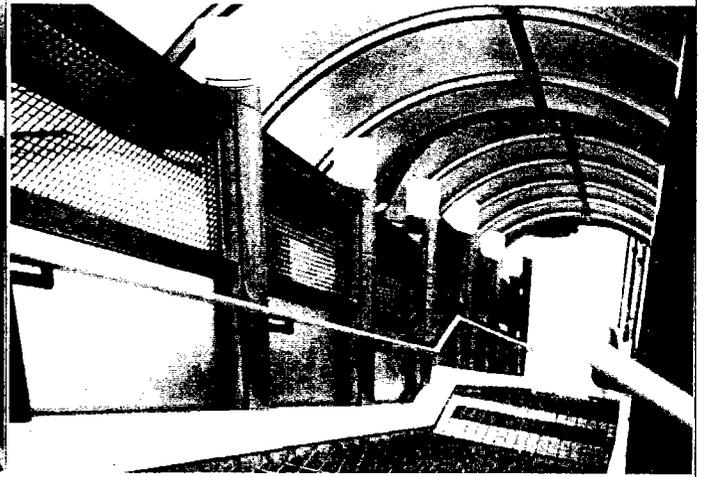
老朽化が進んでいる。

1

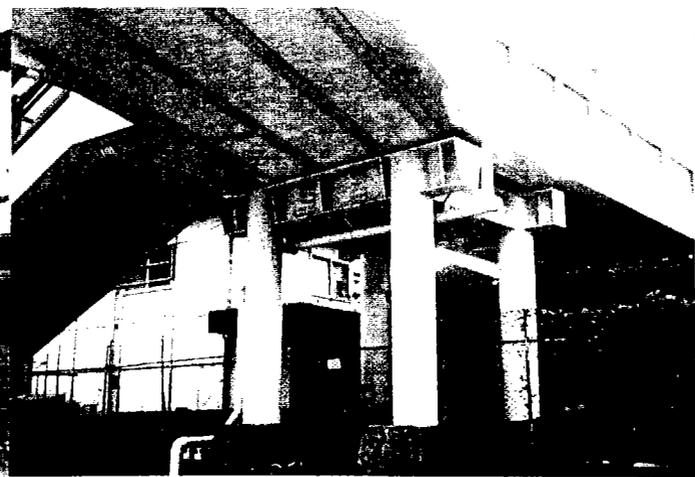
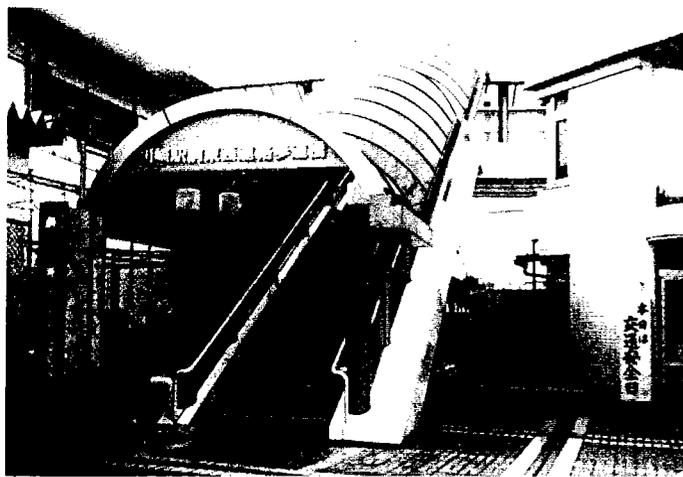


ポリカーボネート樹脂による屋根、御影質磁器タイルによる歩道

2



アルミカバーによる照明柱



桁側面・下面のアルミカバー

